

男女共同参画に関するアンケート

報告書



京都市

平成27年2月

はじめに

本市では、平成23年3月に「第4次男女共同参画計画 きょうと男女共同参画推進プラン」を策定し、「男女が、等しく個人として尊重され、性別によらない多様な生き方が保障されるとともに、あらゆる場において、共に責任を担いつつ個性と能力を発揮することができる社会」の実現に向けた様々な施策を積極的に推進してまいりました。

これまでの計画を通じて、男女共同参画の理念の浸透や男女の平等感の高まりなど、多くの取組で一定の成果を挙げてきておりますが、人々の意識の中には男女の能力や役割に対する固定的な考え方が残っているなど、現在も課題が残されています。

少子高齢化の進行、経済・雇用環境などの急速な変化の中、男女が互いに人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮できる社会を実現することは、ますます重要となっています。

こうした状況を踏まえ、本市では、男女共同参画を一層推進するため、平成28年度に中間年度を迎える現計画の見直しに向け、この度男女共同参画に関する市民の皆様の日常生活の状況等を的確に把握することを目的として、「男女共同参画に関するアンケート」を実施いたしました。

この調査報告書は、本市における今後の施策展開の基礎資料となるものです。関係機関、団体等をはじめ市民の皆様にも広く御活用いただき、男女共同参画社会の実現への一助となれば幸いです。

最後になりましたが、この調査の実施に当たり御協力をいただきました多くの皆様に厚くお礼申し上げます。

目次

第1章 調査概要

1 調査目的	1
2 調査方法	1
3 調査内容	1
4 回収結果	1
5 調査結果報告書の見方	2

第2章 調査結果の概要

第3章 調査結果

1 回答者属性	
(1) 性別	11
(2) 年齢	11
(3) 居住地域	12
(4) 世帯構成	14
(5) 回答者自身の年収	15
(6) 配偶者の就労状況	17
(7) 世帯の収入	18
(8) 子どもの有無	20
(9) 末子の年齢	21
2 男女共同参画に関わる社会の動きについて	
(1) 男女共同参画の推進についての考え方	22
(2) 各分野での平等感	24
(3) 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方について（性別役割分担意識）	37
(4) 子どもに身につけさせたい能力	39
(5) 女性の人権が尊重されていないと思うこと	43
(6) 政策・方針決定における男女平等な参画について	45
(7) 用語の認知度	47
(8) 男女共同参画社会に期待すること	51

3	家庭生活や地域活動について	
(1)	家庭での役割分担	54
(2)	家族の協力が必要なこと	68
(3)	地域活動への参加	71
(4)	自治会や町内会の活動の状況	80
(5)	自治会や町内会以外の活動への参加	85
(6)	男性の家事等への参加に必要なこと	87
(7)	女性の健康と権利について理解し合うために大切なこと	90
(8)	健康診断の受診状況	92
4	職場環境について	
(1)	職業	95
(2)	労働状況	99
(3)	職場での待遇の男女差	103
(4)	セクシュアル・ハラスメントの経験・見聞き	106
(5)	セクシュアル・ハラスメントの内容	107
(6)	セクシュアル・ハラスメントを受けた際の対応	110
(7)	就労意向	113
(8)	希望する働き方	115
(9)	働き方を希望する理由	116
(10)	仕事につくうえで困っていること・気になること	118
(11)	仕事につきたいと思わない理由	120
5	京都市の取組について	
(1)	「ウイングス京都」の利用状況	122
(2)	「ウイングス京都」の事業で充実してほしいもの	124
(3)	京都市の取り組むべき施策	129
6	自由記載意見	133

資料編

■	調査票様式	137
---	-------	-----

第 1 章 調査概要

1 調査目的

本調査は、京都市における男女共同参画に関する市民の意識や日常生活の状況等を把握し、京都市が取り組むべき課題と今後の施策の方向性を明らかにすることを目的として実施したものである。

2 調査方法

- (1) 調査対象者 : 市内在住の満20歳以上の男女3,000人
- (2) 抽出方法 : 住民基本台帳(外国人データ含む)から、行政区別・年齢層別・性別人口割合に応じた無作為抽出(平成26年5月1日現在)
- (3) 調査方法 : 郵送法による調査
- (4) 調査期間 : 平成26年5月30日～6月16日

3 調査内容

- (1) 回答者属性(A～I)
- (2) 男女共同参画に関わる社会の動きについて(問1～問8)
- (3) 家庭生活や地域活動について(問9～問16)
- (4) 職場環境について(問17～問25)
- (5) 京都市の取組について(問26～問28)

4 回収結果

有効回答数(有効回答率) 1,091人(36.4%)
(内 訳) 男性438人, 女性640人, 性別不明13人

性・年齢		有効回答数	性・年齢		有効回答数
男 性	20歳代	30	女 性	20歳代	51
	30歳代	51		30歳代	89
	40歳代	62		40歳代	108
	50歳代	70		50歳代	97
	60歳代	94		60歳代	151
	70歳以上	129		70歳以上	144
	無回答	2		無回答	—
	計	438		計	640

5 調査結果報告書の見方

- (1) 図中のN (Number of case) は、設問に対する回答者数のことである。
- (2) 回答比率 (%) は回答者数 (N) を 100% として算出し、小数点以下第 2 位を四捨五入して表示しており、その結果、内訳の合計が 100.0% にならないことがある。また、複数の回答を求める設問では、回答比率 (%) の合計は 100.0% を超える。
- (3) 回答者属性別の集計においては、各属性の無回答は非表示のため、個々の数値の合計が全体数と一致しない場合がある。
- (4) 図中に次のような表示などがある場合は、複数回答を依頼した質問である。
- ・ MA% (Multiple Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものを全て選択する場合
 - ・ 3LA% (3 Limited Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものを 3 つ以内で選択する場合
- (5) 本調査では、一部、「前回調査 (平成 21 年度)」及び「内閣府調査 (平成 24 年度)」との比較を行っている部分がある。
- ※ 前回調査及び内閣府調査の概要は以下のとおりである。

	前回調査 (平成 21 年度)	内閣府調査 (平成 24 年度)
調査実施機関	京都市	内閣府
調査対象	京都市内居住の 20 歳以上の 男女 3,000 人	全国の 20 歳以上の 日本国籍を有するもの 5,000 人
調査期間	平成 21 年 5 月 29 日～6 月 15 日	平成 24 年 10 月 11 日～10 月 28 日
有効回収数	1,273 票	3,033 票
有効回答率	42.4%	60.7%
調査方法	郵送法	調査員による個別面接聴取法

第 2 章 調査結果の概要

1 男女共同参画に関わる社会の動きについて

問1 男女共同参画推進についての考え方 (P22~23)

- ・ 全体の約8割が賛成，前回より増加

男女共同参画を推進していくことについては、「賛成」が55.5%を占め、「どちらかといえば賛成」(23.5%)と合わせると賛成が79.0%で，男女共に多い。

前回と比較すると、「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計が男性で3.3ポイント，女性で3.1ポイント上昇している。

問2 各分野での平等感 (P24~36)

- ・ 最も男性が優遇されていると感じられているのは「賃金や昇進」
- ・ 「学校教育」では「平等である」が約7割
- ・ 男女の意識の差が大きいのは「家庭生活」「法律や制度」「政治・経済活動への参加」

最も男性が優遇されていると感じられているのは「賃金や昇進」で78.8%である。

「学校教育」は，68.7%（男性71.9%，女性66.4%）が「平等である」と回答している。

いずれの項目も男性優遇と回答するのは女性が男性に比べて多い。また，特に男女の意識の差が大きいのは「家庭生活」(19.7ポイント差)，「法律や制度」(18.8ポイント差)，「政治・経済活動への参加」(13.9ポイント差)である。

前回と比較すると，多くの分野で「平等である」と回答した割合が上昇しているものの，「政治・経済活動への参加」や「法律や制度」では男女とも低下傾向にあり，特に男性では男性優遇と回答した割合が上昇している。

問3 「男は仕事，女は家事・育児」という考え方について（性別役割分担意識）(P37~38)

- ・ 「男は仕事，女は家事・育児」という考え方については，反対が賛成を上回る
- ・ 賛成が男女共に前回より減少

「男は仕事，女は家事・育児」という考え方については，賛成（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）が37.3%，反対（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計）が46.5%となっており，反対が9.2ポイント上回っている。

反対について前回と比較すると，男性が1.7ポイント，女性が2.2ポイント上昇している。

問4 子どもに身につけさせたい能力 (P39~42)

- ・ 男子・女子共に「礼儀作法」が最も多く，次いで「おもいやり」
- ・ 男子で多いのは「実行力」「たくましさ」，女子で多いのは「やさしさ」「家事能力」など

子どもに身につけさせたい能力は「礼儀作法」が最も多く（男子49.2%，女子59.8%），次いで「おもいやり」（男子42.2%，女子56.9%）である。

一方，男子が女子に比べて多いのは「実行力」(18.5ポイント差)「たくましさ」(16.2ポイント差)，女子が男子に比べて多いのは「やさしさ」(26.0ポイント差)「家事能力」(24.4ポイント差)などである。

問5 女性の人権が尊重されていないと思うこと (P43~44)

- ・ 男女共に「痴漢行為や強制わいせつ等の性犯罪」が最も多く、次いで「募集・採用や昇進・昇給における性別による差別的な取扱い」「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」「夫婦や恋人等のパートナー間での暴力（ドメスティック・バイオレンス）」

女性の人権が尊重されていないと思うのは「痴漢行為や強制わいせつ等の性犯罪」が60.0%と最も多く、次いで「募集・採用や昇進・昇給における性別による差別的な取扱い」(52.2%)、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」(50.0%)、「夫婦や恋人等のパートナー間での暴力（ドメスティック・バイオレンス）」(49.9%)となっている。

前回と比較すると、「ストーカー（つきまとい）行為」が男女共に10.4ポイント上昇している。

問6 政策・方針決定における男女平等な参画について (P45~46)

- ・ 「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かちあう」が最も多く、次いで「男女の意見を等しく政策・方針に反映していくことの大切さを広く啓発する」
- ・ 「女性自らが政策・方針を決定する場に参画することに関心や積極性を持つ」が前回より減少

政策・方針を決定する場に男女が平等に参画していくために必要なことは、「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かちあう」が38.3%と最も多く、次いで「男女の意見を等しく政策・方針に反映していくことの大切さを広く啓発する」(33.9%)、「女性自らが政策・方針を決定する場に参画することに関心や積極性を持つ」(33.6%)である。

男性では「男女の意見を等しく政策・方針に反映していくことの大切さを広く啓発する」が39.3%、女性では「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かちあう」が41.3%と最も多い。

前回と比較すると、「女性自らが政策・方針を決定する場に参画することに関心や積極性を持つ」が男性で11.2ポイント、女性で8.1ポイント低下している。

問7 用語の認知度 (P47~50)

- ・ 「京都市男女共同参画推進条例」「真のワーク・ライフ・バランス」の認知度が低い

用語の認知度について、「知らない」が「真のワーク・ライフ・バランス」で67.1%、「京都市男女共同参画推進条例」で57.5%となっており、認知度が低い。

問8 男女共同参画社会に期待すること (P51~53)

- ・ 「家庭生活において男女がともに家事や子育てに参加できる」が最も多く、次いで「男女がそれぞれの役割を果たし合う」
- ・ 男女共に「家庭生活において男女がともに家事や子育てに参加できる」が最も多く、次いで、男性では「男女がそれぞれの役割を果たし合う」、女性では「職場において賃金や待遇面での男女格差がなくなる」

男女共同参画社会に期待することは、男女共に「家庭生活において男女がともに家事や子育てに参加できる」(男性41.3%、女性41.7%)が最も多い。

2 家庭生活や地域活動について

問9 家庭での役割分担 (P54~67)

- ・ 「食事」に関する分野は主に女性が担当している
- ・ 「家庭の管理と運営」に関する分野は「高額な家財道具の購入」「住宅の購入」以外は女性が中心
- ・ 「子どもと介護の必要な高齢者・障害者」に関する分野では、男性が担当する部分は非常に少ない

「食事」に関する分野については、男性では「配偶者」が4~6割台と最も多く、女性では「自分」が7割前後、「自分」以外の全ての項目の回答率は1割以下となっている。

「家庭の管理と運営」に関する分野については、「食料品や日用品の買い物」「そうじ」「洗濯」において、男性では「配偶者」が4~6割台、女性では「自分」が6~7割を占めている。一方、「高額な家財道具の購入」「住宅の購入」では、男性では「自分」が3割台と最も多くなっており、女性では1~2割台にとどまっている。

「子どもと介護の必要な高齢者・障害者」の分野については、いずれも女性が担当する部分が男性に比べて多く、特に「育児」について、男性では「配偶者」が28.3%、女性では「自分」が29.1%と多い。

問10 家族の協力が必要なこと (P68~70)

- ・ 「食事の支度」「そうじ」「高齢者・障害者の実際の介護」が多い

家族の協力が必要なこととしては、「特に必要ない」(31.1%)を除くと、「食事の仕度」が22.8%と最も多く、次いで「そうじ」(20.1%)、「高齢者・障害者の実際の介護」(17.2%)となっている。

前回と比較すると、女性において「食事のあとかたづけ」(4.5ポイント)、「食事の仕度」(3.7ポイント)、「そうじ」(2.7ポイント)で上昇している。

問11 地域活動への参加 (P71~79)

- ・ 自治会・町内会の活動へは5割以上が参加
- ・ P T Aや子ども会の活動は女性の参加が多い
- ・ 不参加の理由は「あまり関心がないから」が最も多い

地域活動への参加として、自治会・町内会の活動では、男女共に「参加したことがある・現在参加している」(男性49.3%、女性57.2%)が最も多い。

P T Aや子ども会の活動では、「参加したことがある・現在参加している」が女性で35.0%と最も多く、男性(18.9%)との差が大きい。

問12 自治会や町内会の活動の状況 (P80~84)

- ・ 「お茶入れや食事の準備などは女性がしている」や「名簿上は男性が会員になっているが実際は女性が活動している」という事例が多い

自治会や町内会の活動の状況として、「お茶入れや食事の準備などは女性がしている」が58.6%と最も多く、次いで「名簿上は男性が会員になっているが実際は女性が活動している」(55.7%)である。

問13 自治会や町内会以外の活動への参加 (P85~86)

- ・ 参加経験は「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」、参加希望は「NPOやボランティアの活動」が最も多い

自治会や町内会以外の活動への参加は、いずれの活動（「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」「NPO（非営利団体）やボランティアの活動」「民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動」）でも「参加したことがある・現在参加している」は減少し、「参加したことがない・今後も参加したくない」が増加している。

問14 男性の家事等への参加に必要なこと (P87~89)

- ・ 「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が最も多く、次いで「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」

男性の家事等への参加に必要なことについては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が39.3%と最も多く、次いで「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」(33.6%)である。

問15 女性の健康と権利について理解し合うために大切なこと (P90~91)

- ・ 「配偶者やパートナーとの話し合い」が最も多い

女性の健康と権利について男女が理解し合うために大切だと思うことは、男女共に「配偶者やパートナーとの話し合い」(男性73.3%、女性80.3%)が最も多い。

問16 健康診断の受診状況 (P92~94)

- ・ 「毎年受診している」が約6割

健康診断の受診状況は、「毎年受診している」が男性で67.6%、女性で57.3%となっている。

3 職場環境について

問17 職業 (P95～98)

- ・ 男性は「正社員・正職員」、女性は「パート・アルバイト・契約社員」、「専業主婦・専業主夫」が最も多い
- ・ 勤務先の所在地は「京都市内」が8割以上

現在の職業については、男性は「正社員・正職員」(30.4%)、女性は「パート・アルバイト・契約社員」、「専業主婦・専業主夫」(共に22.7%)が最も多い。

問18 労働状況 (P99～102)

- ・ 「5日」が最も多く、次いで「6日」となっている
- ・ 男性の約3分の1、女性の約4分の1が週6日以上働いている
- ・ 女性の約4分の1は週4日以下となっている

1週間の平均労働日数は男女共に「5日」(男性52.2%、女性47.9%)が最も多く、次いで「6日」(男性28.5%、女性21.5%)となっている。

「6日」以上の人が男性36.1%、女性26.3%となっている。また、「4日」以下の女性は24.2%となっている。

- ・ 男女共に「40時間以上50時間未満」が最も多い
- ・ 次いで男性では「50時間以上60時間未満」、女性では「20時間以上30時間未満」

1週間の平均労働時間は「40時間以上50時間未満」が26.2%と最も多く、次いで「30時間以上40時間未満」(16.0%)となっている。

1週間の平均労働時間は、男女共に「40時間以上50時間未満」(男性29.9%、女性23.3%)が最も多く、次いで、男性では「50時間以上60時間未満」(19.6%)、女性では「20時間以上30時間未満」(18.2%)となっている。

問19 職場での待遇の男女差 (P103～105)

- ・ 「男女間に不当な差はない」が最も多く、次いで「男性は育児休業・介護休業が取りづらい」

職場での待遇の男女差については、「男女間に不当な差はない」が36.6%と最も多く、次いで「男性は育児休業・介護休業が取りづらい」(24.8%)、「募集・採用時の差別がある」(13.8%)となっている。

問20 セクシュアル・ハラスメントの経験・見聞き及び内容 (P106～109)

- ・ 経験・見聞きをしているのは約4割

セクシュアル・ハラスメントの経験・見聞きについては、「受けたことも見聞きしたこともない」が37.6%と最も多い。「受けたことがある」「見聞きしたことがある」「受けたことも見聞きしたこともある」の合計は40.8%である。

- ・ 内容では、「性的な内容の話（猥談）をする」が最も多く、次いで「不必要に身体を触られた」

セクシュアル・ハラスメントの内容については、「性的な内容の話（猥談）をする」が40.8%と最も多く、次いで「不必要に身体を触られた」（30.2%）となっている。

問21 セクシュアル・ハラスメントを受けた際の対応（P110～112）

- ・ 「泣き寝入りした」が最も多い

セクシュアル・ハラスメントを受けた際の対応については、「泣き寝入りした」が34.5%と最も多く、次いで「抗議して事態が改善した」（20.8%）となっている。

問22 就労意向（P113～114）

- ・ 就労していない人のうち、就労を希望する人は約3割

収入を得る仕事につきたいかについては、「ぜひ、仕事につきたいと思う」は12.4%、「できれば、仕事につきたいと思う」は20.9%となっており、合計すると33.3%である。

問23 希望する働き方及びその働き方を希望する理由（P115～117）

- ・ 男性では「正社員・正職員として働きたい」、女性では「パート・アルバイト・契約社員として働きたい」が最も多い

希望する働き方については、男性では「正社員・正職員として働きたい」が40.5%、女性では「パート・アルバイト・契約社員として働きたい」が50.5%で最も多い。

- ・ 男女共に「生計を維持するため」が最も多く、次いで「家計の足しにするため」

働き方を希望する理由は、男女共に「生計を維持するため」（男性38.1%、女性25.8%）が最も多く、次いで「家計の足しにするため」（男性19.0%、女性24.7%）である。

問24 仕事につくうえで困っていること・気になること（P118～119）

- ・ 「勤務時間や雇用形態が自分の希望と合うかどうか（残業や転勤の有無）」が最も多く、次いで「求人募集での年齢や資格の制限に合うかどうか」
- ・ 前回調査と比較し、「介護や看護の必要な家族がいること」、「保育所や学童保育を利用できるかどうか」が増加

仕事につくうえで困っていること・気になることについては、「勤務時間や雇用形態が自分の希望と合うかどうか」が55.5%、「求人募集での年齢や資格の制限に合うかどうか」が48.9%となっている。

前回調査と比べると、「介護や看護の必要な家族がいること」が3.7ポイント、「保育所や学童保育を利用できるかどうか」が6.0ポイント上昇している。

問25 仕事につきたいと思わない理由（P120～121）

- ・ 「高齢だから」が最も多く、次いで「気力、体力に自信がないから」

仕事につきたいと思わない理由は、「高齢だから」が59.7%と最も多く、次いで「気力、体力に自信がないから」（44.0%）となっている。

4 京都市の取組について

問26 「ウイングス京都」の利用状況 (P122~123)

- ・ 「ウイングス京都」の利用状況は横ばい

「ウイングス京都」の利用状況については、利用経験のある人（「毎週1回以上利用している」「月に1~3回程度利用している」「年に数回利用している」「今まで何回か利用したことがある」の合計）は前回は15.6%、今回は15.3%となっており、横ばいとなっている。

問27 「ウイングス京都」の事業で充実してほしいもの (P124~128)

- ・ 「職業訓練や職業情報の提供などの『就業支援』」が最も多く、次いで「『こころとからだの健康づくり』を進める運動実技やセミナー」

「ウイングス京都」の事業で充実してほしいものは、「職業訓練や職業情報の提供などの『就業支援』」が24.3%と最も多く、男女別にみても同じ傾向となっている。次いで「『こころとからだの健康づくり』を進める運動実技やセミナー」（17.9%）となっている。

問28 京都市の取り組むべき施策 (P129~132)

- ・ 「『子育てや介護を社会的に支援』する施設・サービスを充実する」が最も多く、次いで「『男性の育休取得』、『短時間正社員制度』、『ワーク・ライフ・バランス』などに積極的な企業を顕彰する」

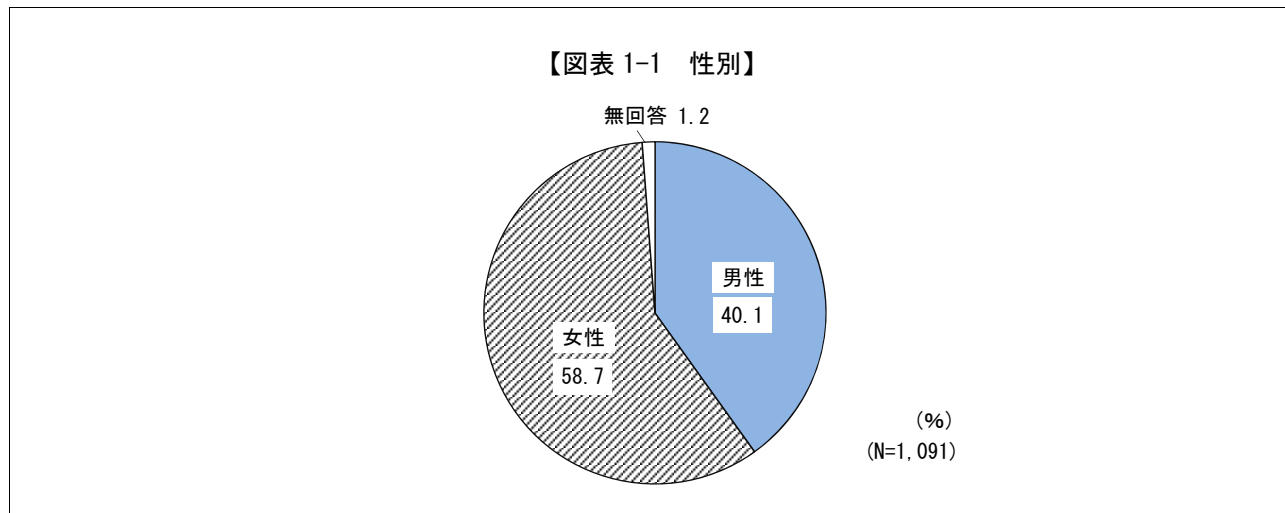
京都市の取り組むべき施策については、「『子育てや介護を社会的に支援』する施設・サービスを充実する」が39.9%と最も多く、次いで「『男性の育休取得』、『短時間正社員制度』、『ワーク・ライフ・バランス』などに積極的な企業を顕彰する」（27.7%）となっている。

第 3 章 調査結果

1 回答者属性

(1) 性別

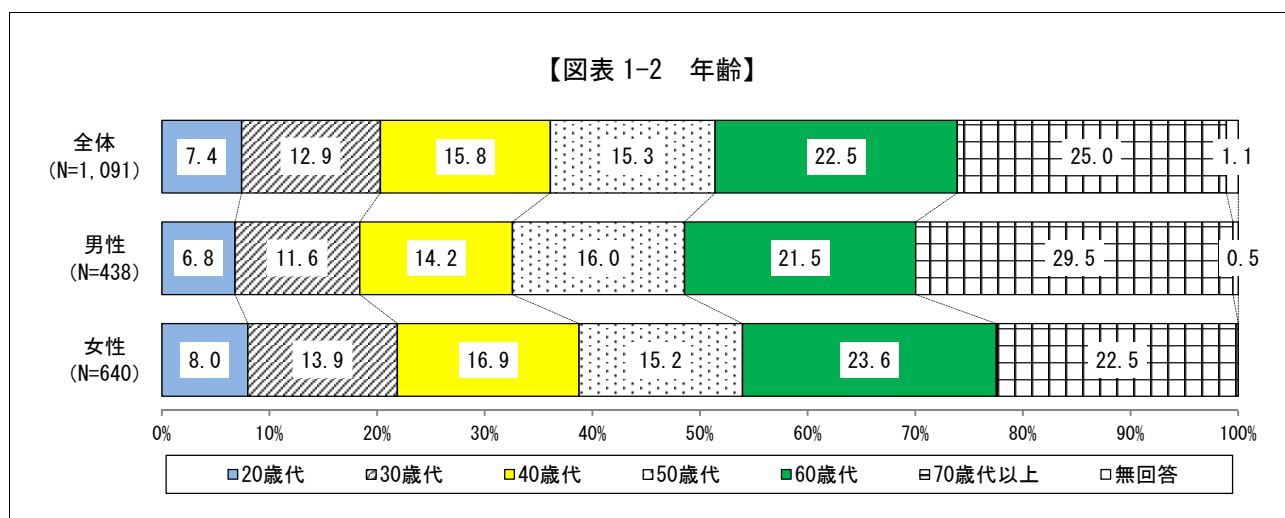
A あなたの性別はどちらですか。



性別をみると、「男性」が40.1%、「女性」が58.7%となっている。

(2) 年齢

B あなたの年齢（満年齢）はいくつですか。【1つに〇】

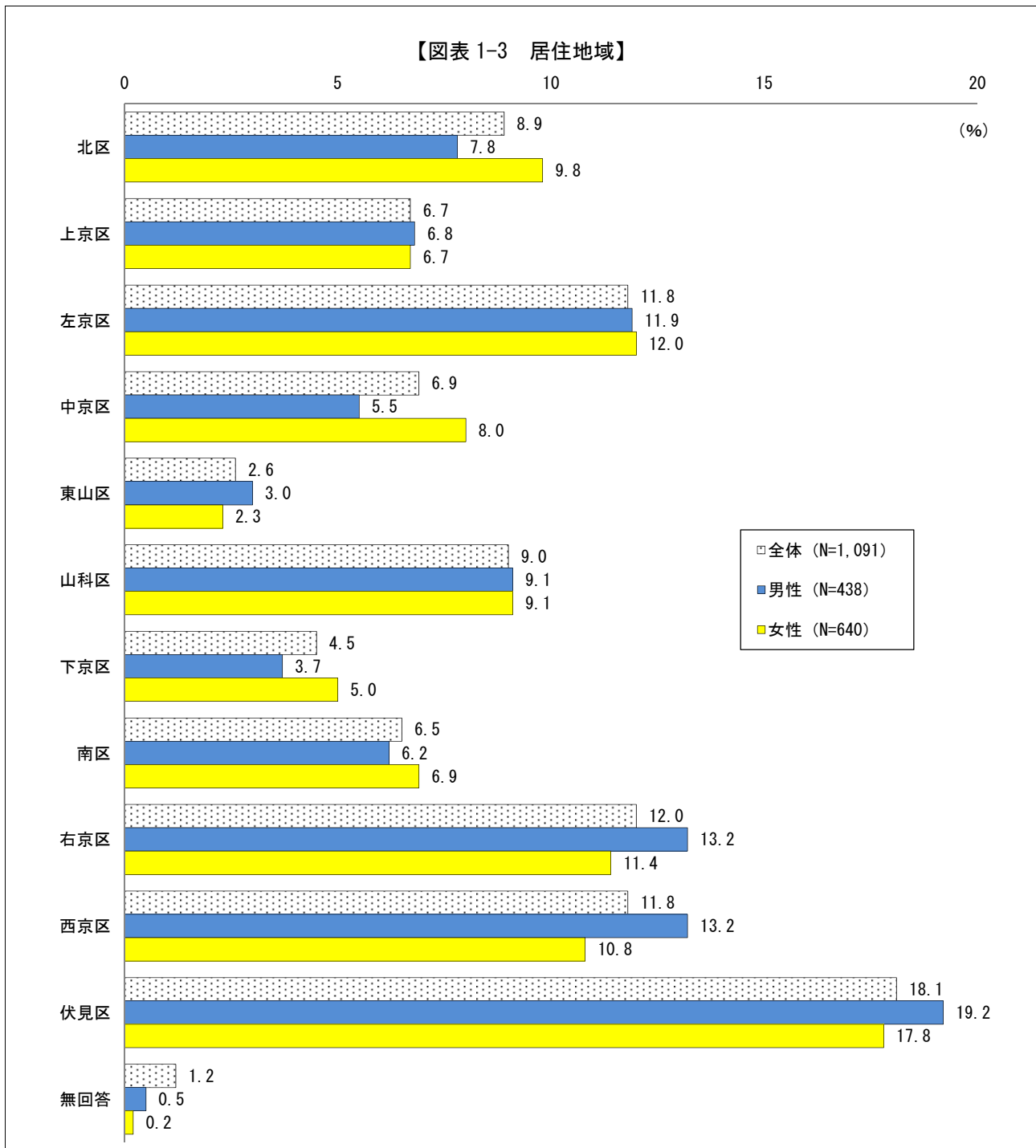


年齢をみると、「70歳代以上」が25.0%と最も多く、次いで「60歳代」(22.5%)となっている。

性別で年齢をみると、男性では「70歳代以上」が29.5%、女性では「60歳代」が23.6%と、最も多くなっている。

(3) 居住地域

C あなたのお住まいの地域（行政区）はどちらですか。【1つに〇】



居住地域をみると、「伏見区」が18.1%と最も多く、次いで「右京区」(12.0%)、「左京区」「西京区」(いずれも11.8%)となっている。

性別で居住地域をみると、全体とほぼ同様の分布状況となっているが、「伏見区」「右京区」「西京区」では男性の方が多く、「北区」「中京区」では女性の方が多くなっている。

【図表 1-3-1 性別・年齢別 居住地域】

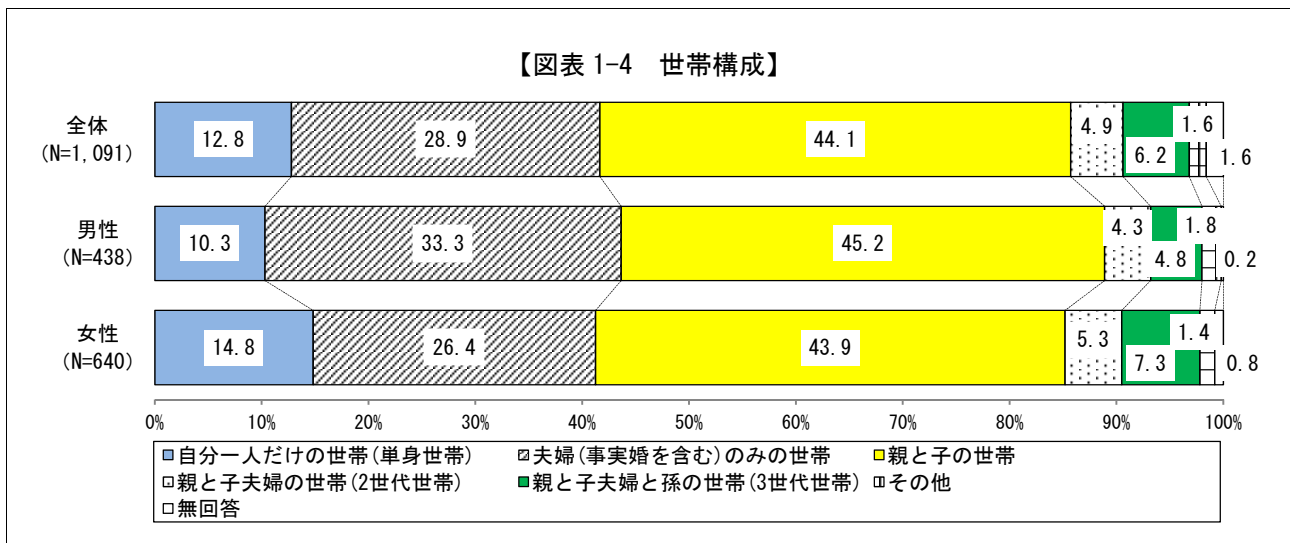
	北 区	上 京 区	左 京 区	中 京 区	東 山 区	山 科 区	下 京 区	南 区
男性全体 (N=438)	7.8%	6.8%	11.9%	5.5%	3.0%	9.1%	3.7%	6.2%
20歳代 (N=30)	0.0%	6.7%	20.0%	3.3%	3.3%	3.3%	10.0%	6.7%
30歳代 (N=51)	5.9%	7.8%	5.9%	3.9%	3.9%	11.8%	5.9%	5.9%
40歳代 (N=62)	9.7%	4.8%	12.9%	8.1%	0.0%	8.1%	1.6%	8.1%
50歳代 (N=70)	11.4%	7.1%	14.3%	4.3%	2.9%	7.1%	5.7%	4.3%
60歳代 (N=94)	5.3%	6.4%	10.6%	8.5%	2.1%	8.5%	3.2%	7.4%
70歳代以上 (N=129)	9.3%	7.0%	11.6%	3.9%	4.7%	11.6%	1.6%	5.4%
女性全体 (N=640)	9.8%	6.7%	12.0%	8.0%	2.3%	9.1%	5.0%	6.9%
20歳代 (N=51)	7.8%	7.8%	9.8%	7.8%	2.0%	9.8%	5.9%	9.8%
30歳代 (N=89)	5.6%	9.0%	11.2%	7.9%	1.1%	7.9%	5.6%	7.9%
40歳代 (N=108)	11.1%	5.6%	15.7%	6.5%	1.9%	7.4%	6.5%	6.5%
50歳代 (N=97)	11.3%	5.2%	9.3%	9.3%	1.0%	9.3%	3.1%	4.1%
60歳代 (N=151)	10.6%	6.6%	11.3%	9.9%	1.3%	9.9%	4.0%	7.9%
70歳代以上 (N=144)	10.4%	6.9%	13.2%	6.3%	5.6%	9.7%	5.6%	6.3%

	右 京 区	西 京 区	伏 見 区	無 回 答
男性全体 (N=438)	13.2%	13.2%	19.2%	0.5%
20歳代 (N=30)	10.0%	10.0%	26.7%	0.0%
30歳代 (N=51)	11.8%	19.6%	17.6%	0.0%
40歳代 (N=62)	14.5%	9.7%	21.0%	1.6%
50歳代 (N=70)	12.9%	12.9%	17.1%	0.0%
60歳代 (N=94)	11.7%	13.8%	22.3%	0.0%
70歳代以上 (N=129)	15.5%	13.2%	16.3%	0.0%
女性全体 (N=640)	11.4%	10.8%	17.8%	0.2%
20歳代 (N=51)	7.8%	15.7%	15.7%	0.0%
30歳代 (N=89)	14.6%	9.0%	20.2%	0.0%
40歳代 (N=108)	13.9%	8.3%	16.7%	0.0%
50歳代 (N=97)	12.4%	14.4%	19.6%	1.0%
60歳代 (N=151)	9.3%	10.6%	18.5%	0.0%
70歳代以上 (N=144)	10.4%	9.7%	16.0%	0.0%

性別・年齢別で居住地域をみても、男女共に概ね全ての年齢層で「伏見区」が最も多くなっている。

(4) 世帯構成

D あなたの世帯構成は、次のうちどれにあたりますか。【1つに○】



世帯構成をみると、「親と子の世帯」が44.1%と最も多く、次いで「夫婦（事実婚を含む）のみの世帯」（28.9%）、「自分一人だけの世帯（単身世帯）」（12.8%）となっている。

性別でみた世帯構成は、「夫婦（事実婚を含む）のみの世帯」が男性で多く、「自分一人だけの世帯（単身世帯）」が女性で多くなっている。

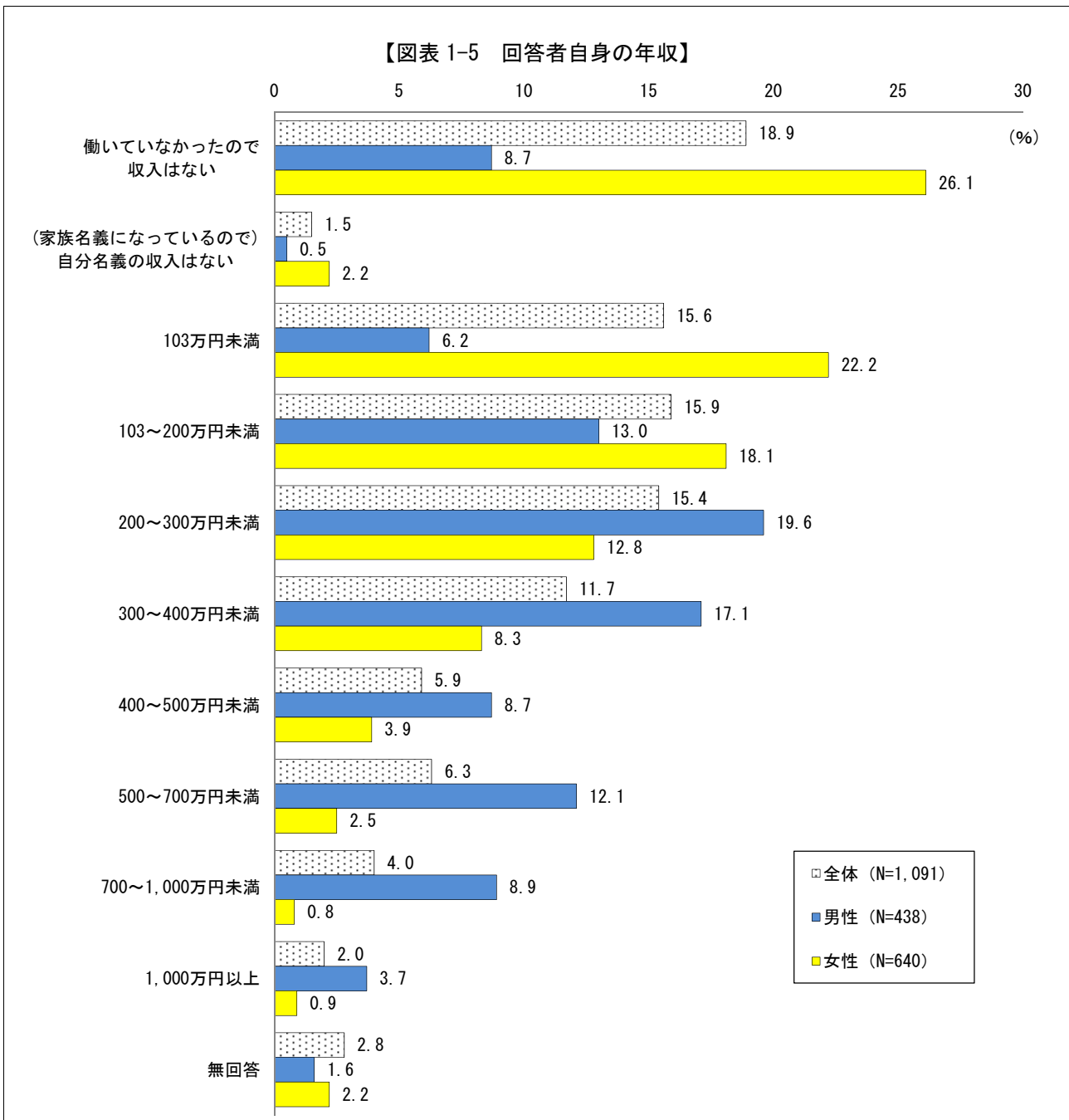
【図表 1-4-1 性別・年齢別 世帯構成】

	自分一人だけの世帯(単身世帯)	夫婦(事実婚を含む)のみの世帯	親と子の世帯	(親と子夫婦の世帯)	親と子夫婦と孫の世帯(3世代世帯)	その他	無回答
男性全体 (N=438)	10.3%	33.3%	45.2%	4.3%	4.8%	1.8%	0.2%
20歳代 (N=30)	26.7%	10.0%	43.3%	0.0%	13.3%	6.7%	0.0%
30歳代 (N=51)	11.8%	13.7%	66.7%	3.9%	3.9%	0.0%	0.0%
40歳代 (N=62)	6.5%	12.9%	67.7%	8.1%	3.2%	1.6%	0.0%
50歳代 (N=70)	7.1%	30.0%	50.0%	4.3%	4.3%	4.3%	0.0%
60歳代 (N=94)	9.6%	44.7%	38.3%	3.2%	3.2%	1.1%	0.0%
70歳代以上 (N=129)	10.1%	50.4%	28.7%	4.7%	5.4%	0.8%	0.0%
女性全体 (N=640)	14.8%	26.4%	43.9%	5.3%	7.3%	1.4%	0.8%
20歳代 (N=51)	23.5%	15.7%	45.1%	5.9%	5.9%	3.9%	0.0%
30歳代 (N=89)	10.1%	19.1%	65.2%	1.1%	3.4%	1.1%	0.0%
40歳代 (N=108)	7.4%	16.7%	58.3%	6.5%	9.3%	0.0%	1.9%
50歳代 (N=97)	7.2%	24.7%	58.8%	5.2%	4.1%	0.0%	0.0%
60歳代 (N=151)	10.6%	37.7%	31.8%	6.6%	9.3%	2.6%	1.3%
70歳代以上 (N=144)	29.9%	31.3%	22.2%	5.6%	9.0%	1.4%	0.7%

性別・年齢別で世帯構成をみると、男性では「親と子の世帯」が40歳代で67.7%、30歳代で66.7%、「夫婦（事実婚を含む）のみの世帯」が70歳代以上で50.4%、60歳代で44.7%と多くなっている。一方、女性では「親と子の世帯」が30歳代で65.2%、50歳代で58.8%、40歳代で58.3%、「自分一人だけの世帯（単身世帯）」が70歳代以上で29.9%と多い。

(5) 回答者自身の年収

E あなたの昨年1年間の収入(税込み)は、おおよそいくらでしたか。【1つに〇】



回答者自身の収入をみると、「働いていなかったため収入はない」が18.9%と最も多く、次いで「103～200万円未満」(15.9%)、「103万円未満」(15.6%)、「200～300万円未満」(15.4%)となっている。

性別でみた回答者自身の収入では、女性は男性に比べ、「働いていなかったため収入はない」や「(家族名義になっているので) 自分名義の収入はない」「103万円未満」「103～200万円未満」と回答する割合が高くなっている。一方、「200～300万円未満」以上の所得階層では、いずれも男性の方が女性に比べて割合が高い。

【図表 1-5-1 性別・年齢別 回答者自身の年収】

	の働 でい 収て 入い はな なか った	名て(家 義のる族 収のの名 入で)義 は(に ない自 な分	1 0 3 万 円 未 満	2 1 0 0 0 3 万 万 円 万 未 未 満 満	3 2 0 0 0 0 万 万 円 円 未 未 満 満	4 3 0 0 0 0 万 万 円 円 未 未 満 満	5 4 0 0 0 0 万 万 円 円 未 未 満 満	7 5 0 0 0 0 万 万 円 円 未 未 満 満	0 7 万 0 円 0 未 1 満 , 0 0 円 以	上 1 , 0 0 万 円 以	無 回 答
男性全体 (N=438)	8.7%	0.5%	6.2%	13.0%	19.6%	17.1%	8.7%	12.1%	8.9%	3.7%	1.6%
20歳代 (N=30)	26.7%	3.3%	6.7%	6.7%	26.7%	20.0%	6.7%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%
30歳代 (N=51)	5.9%	0.0%	9.8%	5.9%	9.8%	15.7%	17.6%	25.5%	5.9%	3.9%	0.0%
40歳代 (N=62)	6.5%	0.0%	6.5%	3.2%	9.7%	17.7%	9.7%	19.4%	19.4%	8.1%	0.0%
50歳代 (N=70)	2.9%	0.0%	0.0%	5.7%	8.6%	20.0%	10.0%	15.7%	25.7%	11.4%	0.0%
60歳代 (N=94)	3.2%	0.0%	7.4%	17.0%	26.6%	21.3%	9.6%	9.6%	4.3%	1.1%	0.0%
70歳代以上 (N=129)	14.0%	0.8%	7.0%	23.3%	27.9%	12.4%	3.9%	5.4%	0.8%	0.0%	4.7%
女性全体 (N=640)	26.1%	2.2%	22.2%	18.1%	12.8%	8.3%	3.9%	2.5%	0.8%	0.9%	2.2%
20歳代 (N=51)	15.7%	2.0%	21.6%	19.6%	23.5%	15.7%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30歳代 (N=89)	25.8%	0.0%	14.6%	10.1%	22.5%	11.2%	9.0%	4.5%	0.0%	2.2%	0.0%
40歳代 (N=108)	22.2%	0.9%	27.8%	18.5%	12.0%	2.8%	5.6%	5.6%	1.9%	1.9%	0.9%
50歳代 (N=97)	18.6%	2.1%	33.0%	18.6%	10.3%	7.2%	3.1%	4.1%	2.1%	1.0%	0.0%
60歳代 (N=151)	30.5%	3.3%	22.5%	19.9%	7.3%	9.9%	4.0%	0.0%	0.0%	0.7%	2.0%
70歳代以上 (N=144)	33.3%	3.5%	15.3%	20.1%	11.1%	6.9%	0.7%	1.4%	0.7%	0.0%	6.9%

性別・年齢別で回答者自身の収入をみると、男性では「200～300 万円未満」が 70 歳代以上 (27.9%)、20 歳代 (26.7%)、60 歳代 (26.6%) で多くなっている。一方、女性では「103 万円未満」や「働いていなかったため収入はない」において、概ね全ての年齢層で男性より割合が高くなっている。

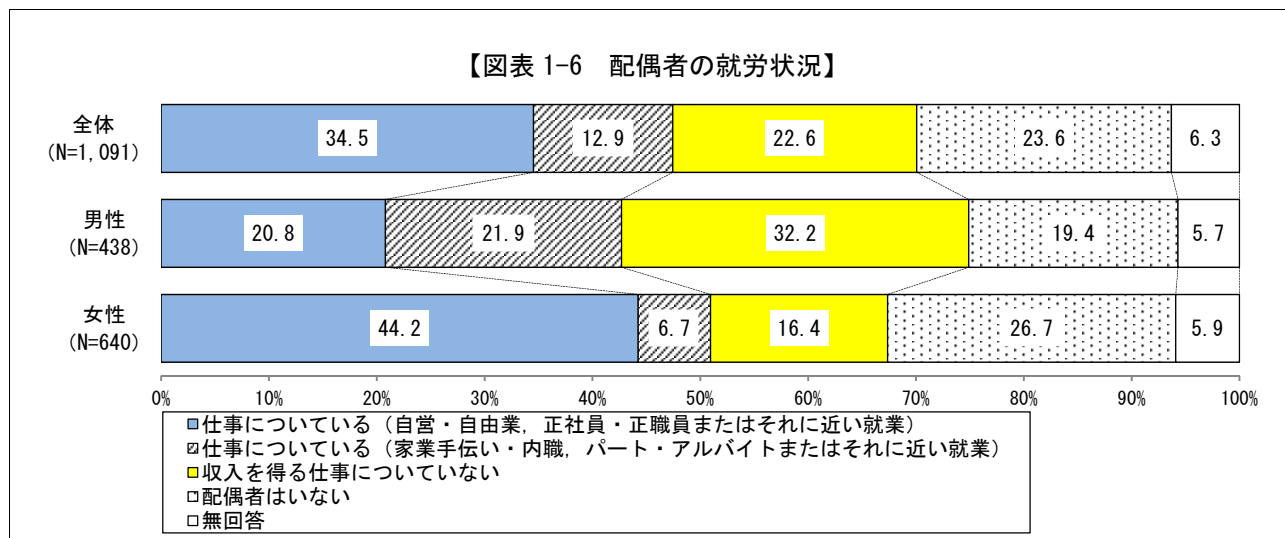
【図表 1-5-2 性別・職業別 回答者自身の年収】

	の働 でい 収て 入い はな なか った	名て(家 義のる族 収のの名 入で)義 は(に ない自 な分	1 0 3 万 円 未 満	2 1 0 0 0 3 万 万 円 万 未 未 満 満	3 2 0 0 0 0 万 万 円 円 未 未 満 満	4 3 0 0 0 0 万 万 円 円 未 未 満 満	5 4 0 0 0 0 万 万 円 円 未 未 満 満	7 5 0 0 0 0 万 万 円 円 未 未 満 満	0 7 万 0 円 0 未 1 満 , 0 0 円 以	上 1 , 0 0 万 円 以	無 回 答
男性全体 (N=438)	8.7%	0.5%	6.2%	13.0%	19.6%	17.1%	8.7%	12.1%	8.9%	3.7%	1.6%
自営・自由業 (N=70)	0.0%	0.0%	12.9%	12.9%	14.3%	25.7%	10.0%	8.6%	7.1%	5.7%	2.9%
家族従事者 (N=0)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
正規従業員 (N=166)	1.2%	0.0%	1.8%	2.4%	9.0%	17.5%	13.9%	26.5%	20.5%	7.2%	0.0%
非正規従業員 (N=54)	0.0%	0.0%	13.0%	29.6%	29.6%	24.1%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他有職 (N=1)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無職・学生 (N=129)	24.8%	0.8%	5.4%	18.6%	31.8%	10.1%	3.9%	1.6%	0.0%	0.0%	3.1%
女性全体 (N=640)	26.1%	2.2%	22.2%	18.1%	12.8%	8.3%	3.9%	2.5%	0.8%	0.9%	2.2%
自営・自由業 (N=31)	3.2%	9.7%	19.4%	25.8%	6.5%	9.7%	9.7%	3.2%	0.0%	12.9%	0.0%
家族従事者 (N=31)	6.5%	19.4%	38.7%	9.7%	12.9%	3.2%	6.5%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%
正規従業員 (N=108)	0.9%	0.0%	4.6%	11.1%	25.9%	27.8%	13.9%	10.2%	3.7%	1.9%	0.0%
非正規従業員 (N=159)	5.7%	0.0%	42.1%	32.1%	14.5%	4.4%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
その他有職 (N=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
無職・学生 (N=279)	50.5%	1.8%	15.4%	14.0%	8.2%	4.3%	1.4%	1.1%	0.0%	0.0%	3.2%

性別・職業別で回答者自身の収入をみると、「正規従業員」での 500 万円以上の割合が、男性 (54.2%) に比べて女性 (15.8%) が低くなっている。また、「非正規従業員」での 200 万円未満の割合は、男性 (42.6%) に比べて女性 (79.9%) が高い。

(6) 配偶者の就労状況

F あなたの配偶者（夫または妻、あるいはそれに相当する人を含む。）は、収入を得る仕事についていますか。【1つに○】



配偶者の就労状況をみると、「仕事についている（自営業，正社員等）」が34.5%と最も多く、次いで「配偶者はいない」（23.6%）、「収入を得る仕事についていない」（22.6%）となっている。

性別で配偶者の就労状況をみると、男性では「収入を得る仕事についていない」が32.2%，女性では「仕事についている（自営業，正社員等）」が44.2%と、最も多い。

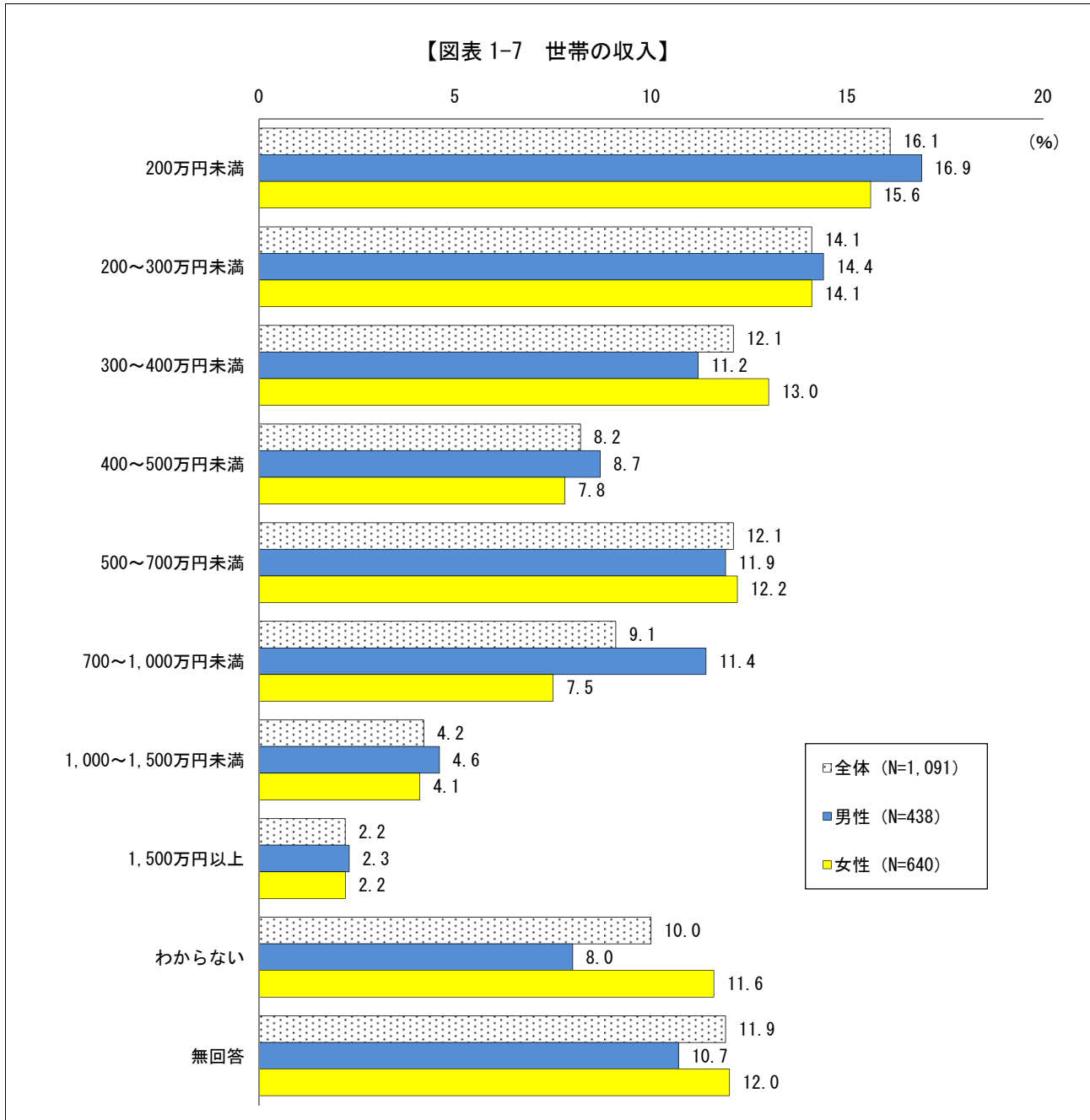
【図表 1-6-1 性別・年齢別 配偶者の就労状況】

	仕事についている (自営業・自由業、正社員・正職員またはそれに近い就業)	仕事についている (家業手伝い・内職、パート・アルバイトまたはそれに近い就業)	収入を得る仕事についていない	配偶者はいない	無回答
男性全体 (N=438)	20.8%	21.9%	32.2%	19.4%	5.7%
20歳代 (N=30)	10.0%	10.0%	3.3%	70.0%	6.7%
30歳代 (N=51)	27.5%	21.6%	17.6%	33.3%	0.0%
40歳代 (N=62)	27.4%	29.0%	11.3%	29.0%	3.2%
50歳代 (N=70)	27.1%	27.1%	31.4%	12.9%	1.4%
60歳代 (N=94)	18.1%	39.4%	31.9%	7.4%	3.2%
70歳代以上 (N=129)	16.3%	5.4%	55.8%	10.1%	12.4%
女性全体 (N=640)	44.2%	6.7%	16.4%	26.7%	5.9%
20歳代 (N=51)	25.5%	7.8%	2.0%	62.7%	2.0%
30歳代 (N=89)	66.3%	2.2%	0.0%	25.8%	5.6%
40歳代 (N=108)	75.0%	0.9%	0.0%	19.4%	4.6%
50歳代 (N=97)	62.9%	9.3%	9.3%	15.5%	3.1%
60歳代 (N=151)	33.8%	13.2%	29.8%	19.2%	4.0%
70歳代以上 (N=144)	12.5%	4.9%	34.7%	35.4%	12.5%

性別・年齢別で配偶者の就労状況をみると、男性では「仕事についている（パート・アルバイト等）」が60歳代で39.4%と多くなっている。一方、女性では「仕事についている（自営業，正社員等）」が40歳代で75.0%，30歳代で66.3%，50歳代で62.9%と多い。

(7) 世帯の収入

G あなたが生計を共にしている世帯の昨年1年間の総収入（税込み）は、おおよそいくらでしたか。【1つに〇】



世帯の収入をみると、「200万円未満」が16.1%と最も多く、次いで「200～300万円未満」(14.1%)、「300～400万円未満」,「500～700万円未満」(共に12.1%)となっている。

性別で世帯の収入をみると、男女共に「200万円未満」(男性16.9%, 女性15.6%)が最も多くなっている。

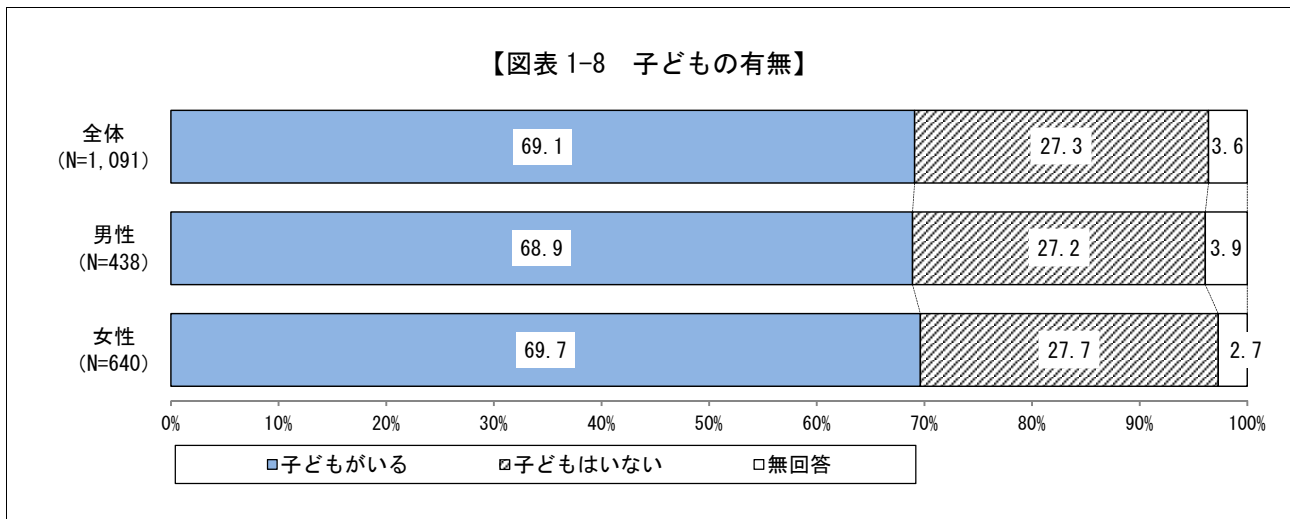
【図表 1-7-1 性別・年齢別 世帯の収入】

	2 0 0 万円 未満	3 2 0 0 万円 未満	4 3 0 0 万円 未満	5 4 0 0 万円 未満	7 5 0 0 万円 未満	1 7 0 0 万円 未満	1 1 5 0 0 万円 未満	1 5 0 0 万円 以上	わ か ら な い	無 回 答
男性全体 (N=438)	16.9%	14.4%	11.2%	8.7%	11.9%	11.4%	4.6%	2.3%	8.0%	10.7%
20歳代 (N=30)	6.7%	10.0%	13.3%	10.0%	6.7%	10.0%	3.3%	0.0%	33.3%	6.7%
30歳代 (N=51)	19.6%	7.8%	9.8%	9.8%	15.7%	11.8%	7.8%	0.0%	15.7%	2.0%
40歳代 (N=62)	14.5%	3.2%	6.5%	6.5%	16.1%	16.1%	4.8%	4.8%	21.0%	6.5%
50歳代 (N=70)	7.1%	7.1%	10.0%	7.1%	22.9%	24.3%	7.1%	7.1%	1.4%	5.7%
60歳代 (N=94)	22.3%	14.9%	13.8%	11.7%	10.6%	9.6%	5.3%	2.1%	0.0%	9.6%
70歳代以上 (N=129)	20.9%	27.1%	12.4%	7.8%	4.7%	3.9%	0.8%	0.0%	2.3%	20.2%
女性全体 (N=640)	15.6%	14.1%	13.0%	7.8%	12.2%	7.5%	4.1%	2.2%	11.6%	12.0%
20歳代 (N=51)	7.8%	5.9%	11.8%	5.9%	17.6%	3.9%	7.8%	2.0%	35.3%	2.0%
30歳代 (N=89)	9.0%	11.2%	15.7%	12.4%	19.1%	10.1%	3.4%	3.4%	11.2%	4.5%
40歳代 (N=108)	6.5%	9.3%	15.7%	8.3%	14.8%	15.7%	8.3%	3.7%	11.1%	6.5%
50歳代 (N=97)	15.5%	11.3%	10.3%	10.3%	15.5%	12.4%	6.2%	4.1%	7.2%	7.2%
60歳代 (N=151)	19.9%	21.9%	15.2%	7.9%	10.6%	4.0%	1.3%	0.0%	8.6%	10.6%
70歳代以上 (N=144)	25.0%	16.0%	9.0%	3.5%	3.5%	1.4%	1.4%	1.4%	9.7%	29.2%

性別・年齢別で世帯の収入をみると、300万円未満の割合が、男性では70歳代以上で48.0%、60歳代で37.2%と高くなっており、女性では60歳代で41.8%、70歳代以上で41.0%と高い。一方、500万円以上の割合は、男性では50歳代で61.4%、40歳代で41.8%と高くなっており、女性では40歳代で42.5%、50歳代で38.2%と高い。

(8) 子どもの有無

H あなたには、お子さん（同居していないお子さんを含む。）がいますか。



子どもの有無をみると、「子どもがいる」が 69.1%となっており、性別でみた場合でも、男女の差異はさほどみられない。

【図表 1-8-1 性別・年齢別 子どもの有無】

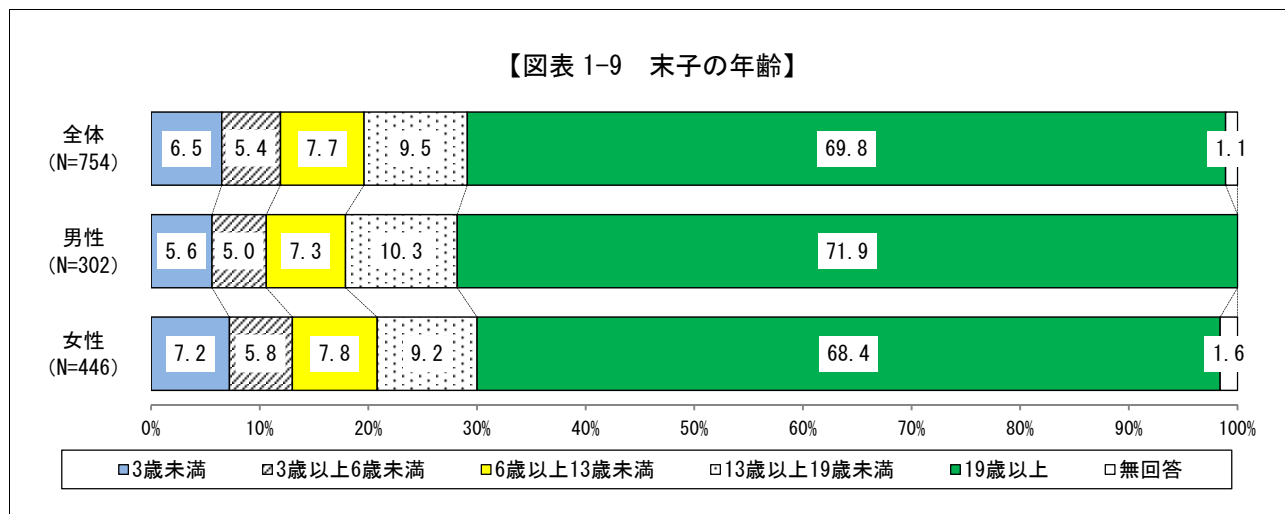
	子どもがいる (%)	子どもはいない (%)	無回答 (%)
男性全体 (N=438)	68.9%	27.2%	3.9%
20歳代 (N=30)	3.3%	93.3%	3.3%
30歳代 (N=51)	49.0%	51.0%	0.0%
40歳代 (N=62)	59.7%	37.1%	3.2%
50歳代 (N=70)	75.7%	24.3%	0.0%
60歳代 (N=94)	86.2%	10.6%	3.2%
70歳代以上 (N=129)	80.6%	11.6%	7.8%
女性全体 (N=640)	69.7%	27.7%	2.7%
20歳代 (N=51)	9.8%	90.2%	0.0%
30歳代 (N=89)	53.9%	44.9%	1.1%
40歳代 (N=108)	69.4%	29.6%	0.9%
50歳代 (N=97)	74.2%	25.8%	0.0%
60歳代 (N=151)	85.4%	13.2%	1.3%
70歳代以上 (N=144)	81.3%	9.7%	9.0%

性別・年齢別で子どもの有無をみると、「子どもがいる」という割合は、男女共に 60 歳以上で 8 割以上、50 歳代で 7 割以上となっており、20 歳代では 1 割未満となっている。

(9) 末子の年齢

《次のIは、お子さんがいる方(HでIと回答した方)におたずねします。》

I あなたの一番下のお子さん(同居していないお子さんを含む。)は、現在、おいくつですか。
【1つに〇】



子どもがいる人の末子の年齢をみると、「19歳以上」が69.8%と最も多く、性別でみた場合でも、男性が71.9%、女性が68.4%で、大きな差異はみられない。

【図表 1-9-1 性別・年齢別 末子の年齢】

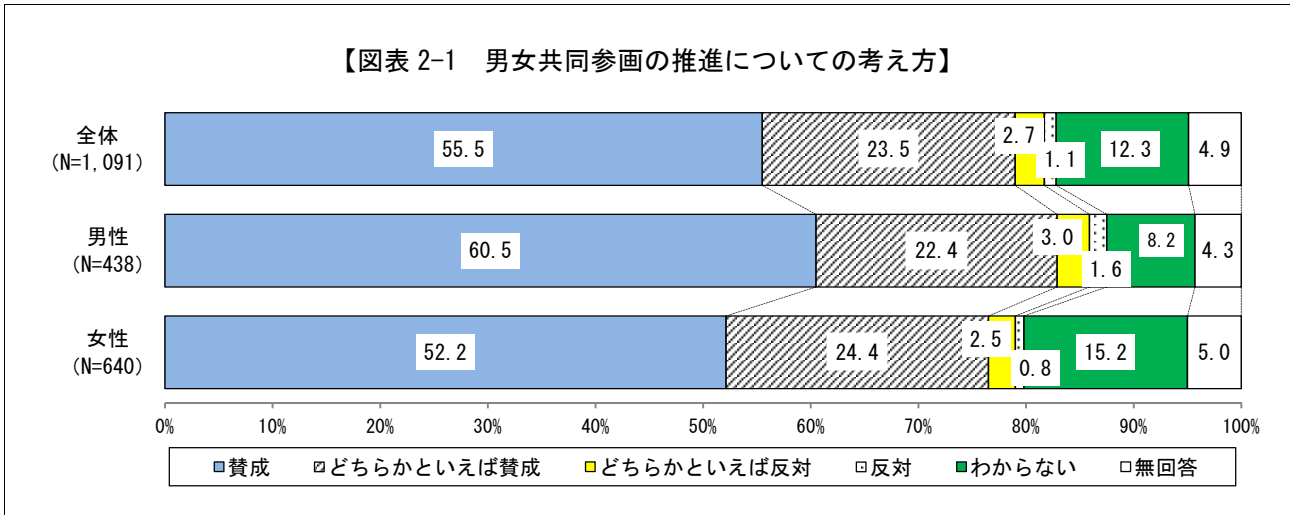
	3歳未満	3歳以上6歳未満	6歳以上13歳未満	13歳以上19歳未満	19歳以上	無回答
男性全体 (N=302)	5.6%	5.0%	7.3%	10.3%	71.9%	0.0%
20歳代 (N=1)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30歳代 (N=25)	44.0%	32.0%	20.0%	4.0%	0.0%	0.0%
40歳代 (N=37)	10.8%	13.5%	35.1%	35.1%	5.4%	0.0%
50歳代 (N=53)	1.9%	1.9%	1.9%	26.4%	67.9%	0.0%
60歳代 (N=81)	0.0%	0.0%	1.2%	1.2%	97.5%	0.0%
70歳代以上 (N=104)	1.0%	0.0%	1.9%	1.9%	95.2%	0.0%
女性全体 (N=446)	7.2%	5.8%	7.8%	9.2%	68.4%	1.6%
20歳代 (N=5)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30歳代 (N=48)	41.7%	35.4%	20.8%	2.1%	0.0%	0.0%
40歳代 (N=75)	9.3%	12.0%	30.7%	36.0%	10.7%	1.3%
50歳代 (N=72)	0.0%	0.0%	2.8%	13.9%	83.3%	0.0%
60歳代 (N=129)	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	97.7%	1.6%
70歳代以上 (N=117)	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	94.9%	3.4%

性別・年齢別で末子の年齢をみると、男女共に「3歳未満」が30歳代で多くなっており、「6歳以上13歳未満」「13歳以上19歳未満」が40歳代が多い。

2 男女共同参画に関わる社会の動きについて

(1) 男女共同参画の推進についての考え方

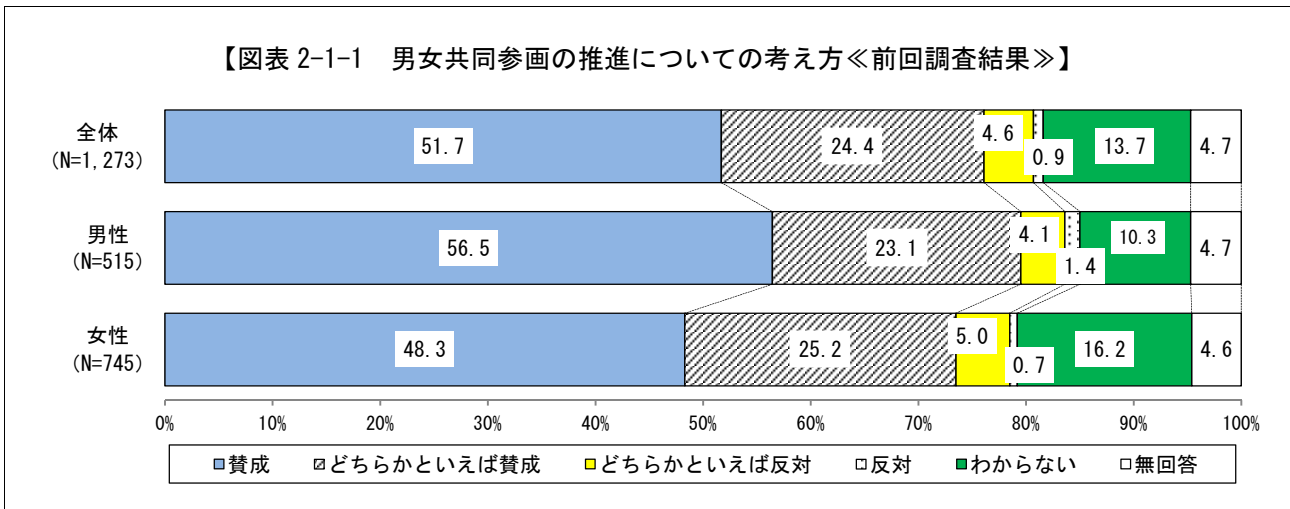
問1 あなたは、男女共同参画を推進していくことに賛成ですか、反対ですか。【1つに〇】



- ・ 全体の約8割が賛成で、前回より増加

男女共同参画推進についての考え方をみると、「賛成」が 55.5%と最も多く、「どちらかといえば賛成」(23.5%) との合計が 79.0%となっている。

性別でみると、「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計は男性(82.9%)が女性(76.6%)に比べて多くなっている。



男女共同参画推進についての考え方について、前回調査(平成21年度)との比較では、「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計は、男性で3.3ポイント、女性で3.1ポイント上昇している。

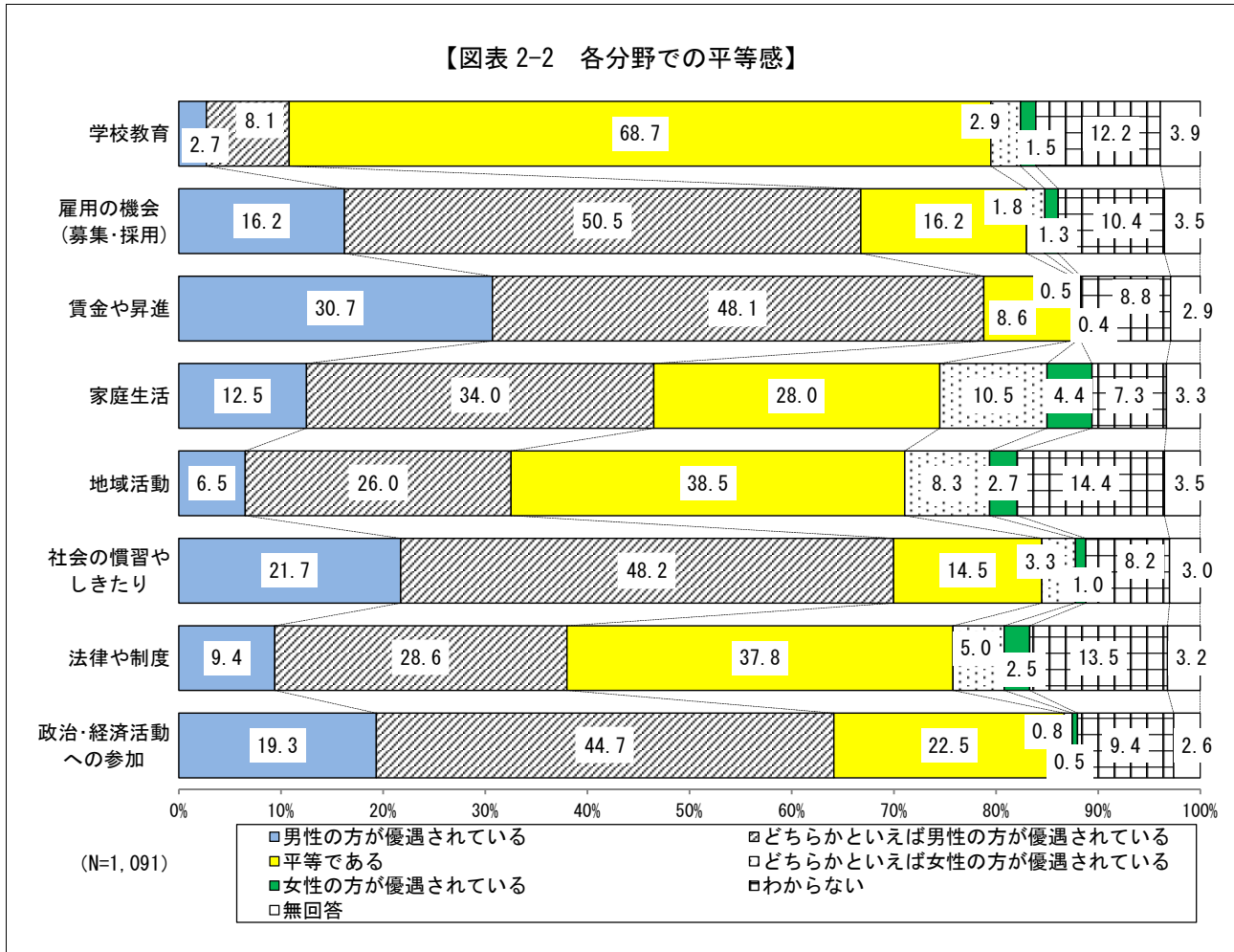
【図表 2-1-2 性別・年齢別 男女共同参画の推進についての考え方】

	賛成	賛成 どちらか といえ ば	反対 どちらか といえ ば	反対	わからない	無回答
男性全体 (N=438)	60.5%	22.4%	3.0%	1.6%	8.2%	4.3%
20歳代 (N=30)	53.3%	23.3%	0.0%	6.7%	16.7%	0.0%
30歳代 (N=51)	60.8%	17.6%	2.0%	2.0%	11.8%	5.9%
40歳代 (N=62)	46.8%	24.2%	6.5%	0.0%	14.5%	8.1%
50歳代 (N=70)	57.1%	22.9%	5.7%	2.9%	7.1%	4.3%
60歳代 (N=94)	58.5%	27.7%	3.2%	0.0%	7.4%	3.2%
70歳代以上 (N=129)	71.3%	19.4%	0.8%	1.6%	3.1%	3.9%
女性全体 (N=640)	52.2%	24.4%	2.5%	0.8%	15.2%	5.0%
20歳代 (N=51)	52.9%	23.5%	5.9%	0.0%	15.7%	2.0%
30歳代 (N=89)	50.6%	30.3%	2.2%	1.1%	13.5%	2.2%
40歳代 (N=108)	51.9%	23.1%	4.6%	1.9%	15.7%	2.8%
50歳代 (N=97)	54.6%	23.7%	0.0%	1.0%	15.5%	5.2%
60歳代 (N=151)	53.6%	24.5%	1.3%	0.0%	13.9%	6.6%
70歳代以上 (N=144)	50.0%	22.2%	2.8%	0.7%	16.7%	7.6%

性別・年齢別で男女共同参画推進についての考え方をみると、男性は全ての年齢層で「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計が7割を超え、特に50歳代や60歳代では8割以上、70歳代以上では9割以上となっている。女性も同様に全ての年齢層で「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計が7割を超えており、特に30歳代では8割以上となっている。

(2) 各分野での平等感

問2 あなたは、次のそれぞれの分野について、男女は平等になっていると思いますか。
【それぞれ1つに○】



- ・ 最も男性が優遇されていると感じられているのは「賃金や昇進」
- ・ 「学校教育」では「平等である」が約7割
- ・ 男女の意識の差が大きいのは「家庭生活」「法律や制度」「政治・経済活動への参加」
- ・ 前回調査と比べると多くの分野で平等感が上昇するも、「法律や制度」「政治・経済活動への参加」については、平等感が低下

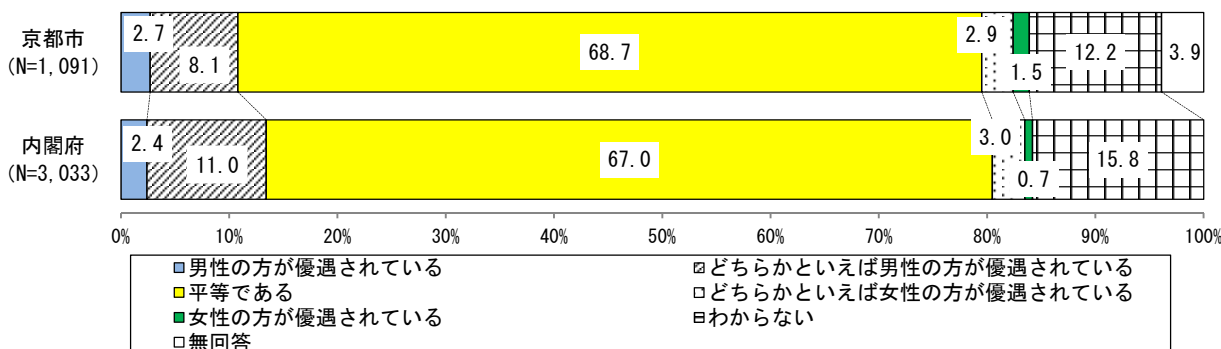
「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は、「賃金や昇進」で78.8%と最も多く、次いで「社会の慣習やしきたり」(69.9%)、「雇用の機会(募集・採用)」(66.7%)、「政治・経済活動への参加」(64.0%)となっている。

【図表 2-2-1 性別・調査年度別 各分野での平等感「学校教育」】

		い男性の方が優遇されている	のどちらがら優か遇とさいれえばい男性	平等である	のどちらがら優か遇とさいれえばい女性	い女性の方が優遇されている	わからない	無回答
<今回> ・全体：N=1,091 ・男性：N=438 ・女性：N=640 <前回> ・全体：N=1,273 ・男性：N=515 ・女性：N=745								
全体	今回	2.7%	8.1%	68.7%	2.9%	1.5%	12.2%	3.9%
	前回	2.0%	9.8%	68.1%	3.5%	0.5%	12.4%	3.5%
男性	今回	2.5%	6.4%	71.9%	4.6%	2.3%	8.9%	3.4%
	前回	2.3%	8.5%	70.7%	5.0%	0.8%	9.5%	3.1%
女性	今回	2.8%	9.2%	66.4%	1.9%	0.9%	14.4%	4.4%
	前回	1.6%	10.9%	66.7%	2.4%	0.4%	14.5%	3.5%

「学校教育」の平等感について、性別で見ると、「平等である」が女性（66.4%）に比べて男性（71.9%）の方が5.5ポイント高い。また、前回調査（平成21年度）との比較では、大きな差異はみられない。

【図表 2-2-2 調査実施機関別 各分野での平等感「学校教育」】



「学校教育」の平等感について、内閣府調査（平成24年度）と比較しても、「平等である」がいずれも7割弱となっており、大きな差異はみられない。

【図表 2-2-3 性別・年齢別 各分野での平等感「学校教育」】

	優男 遇性 さの れ方 が い る	優男 ど 遇性 さの ら か と い え ば	平 等 で あ る	優女 ど 遇性 さの ら か と い え ば	優女 遇性 さの れ 方 が い る	わ か ら な い	無 回 答
男性全体 (N=438)	2.5%	6.4%	71.9%	4.6%	2.3%	8.9%	3.4%
20歳代 (N=30)	0.0%	6.7%	70.0%	6.7%	6.7%	10.0%	0.0%
30歳代 (N=51)	2.0%	3.9%	68.6%	5.9%	3.9%	11.8%	3.9%
40歳代 (N=62)	0.0%	6.5%	72.6%	6.5%	3.2%	9.7%	1.6%
50歳代 (N=70)	1.4%	1.4%	78.6%	2.9%	4.3%	8.6%	2.9%
60歳代 (N=94)	2.1%	10.6%	70.2%	5.3%	0.0%	8.5%	3.2%
70歳代以上 (N=129)	4.7%	7.0%	71.3%	3.1%	0.8%	7.8%	5.4%
女性全体 (N=640)	2.8%	9.2%	66.4%	1.9%	0.9%	14.4%	4.4%
20歳代 (N=51)	0.0%	9.8%	78.4%	0.0%	0.0%	9.8%	2.0%
30歳代 (N=89)	1.1%	7.9%	69.7%	5.6%	0.0%	14.6%	1.1%
40歳代 (N=108)	1.9%	8.3%	71.3%	0.9%	0.0%	15.7%	1.9%
50歳代 (N=97)	4.1%	4.1%	70.1%	1.0%	1.0%	16.5%	3.1%
60歳代 (N=151)	3.3%	15.2%	61.6%	2.0%	2.6%	12.6%	2.6%
70歳代以上 (N=144)	4.2%	7.6%	59.0%	1.4%	0.7%	15.3%	11.8%

「学校教育」の平等感について、性別・年齢別でみると、男女共に全ての年齢層で半数以上が「平等である」と回答しており、特に男性では50歳代(78.6%)、女性では20歳代(78.4%)で多くなっている。

【図表 2-2-4 性別・調査年度別 各分野での平等感「雇用の機会(募集・採用)」】

		い男 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	のど ち ら か が ら 優 か 遇 と さ い れ え ば い 男 性	平 等 で あ る	のど ち ら か が ら 優 か 遇 と さ い れ え ば い 女 性	い女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	わ か ら な い	無 回 答
<今回> ・全体：N=1,091 ・男性：N=438 ・女性：N=640 <前回> ・全体：N=1,273 ・男性：N=515 ・女性：N=745								
全体	今回	16.2%	50.5%	16.2%	1.8%	1.3%	10.4%	3.5%
	前回	19.4%	51.6%	13.7%	2.3%	0.5%	8.8%	3.7%
男性	今回	14.8%	50.2%	19.4%	2.1%	2.7%	7.3%	3.4%
	前回	15.1%	53.2%	17.7%	3.5%	1.0%	5.8%	3.7%
女性	今回	17.5%	50.5%	14.1%	1.6%	0.3%	12.7%	3.4%
	前回	22.3%	50.7%	11.0%	1.5%	0.3%	10.9%	3.4%

「雇用の機会(募集・採用)」の平等感について、性別でみると、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計が男性(65.0%)、女性(68.0%)とも6割以上となっている。

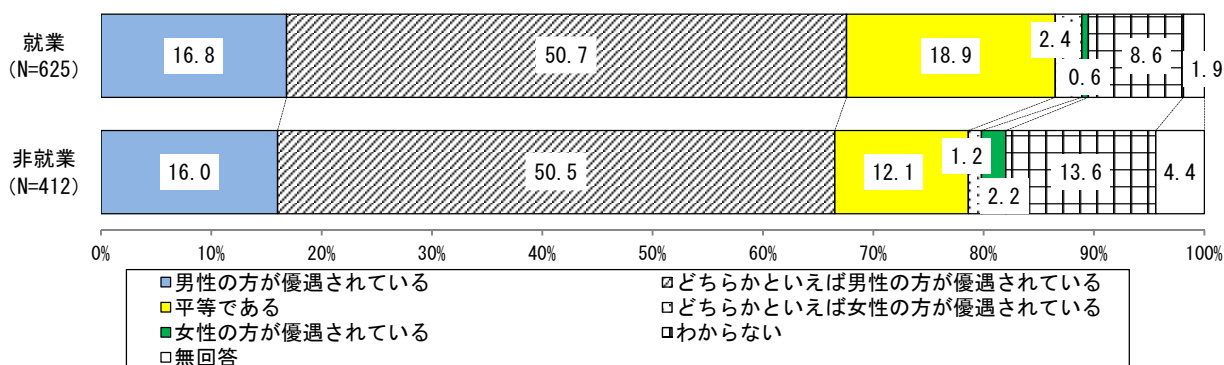
前回調査(平成21年度)との比較では、女性で「男性の方が優遇されている」が4.8ポイント低下している。

【図表 2-2-5 性別・年齢別 各分野での平等感「雇用の機会(募集・採用)」】

	優男 遇性 さの れ方 てが いる	優男ど 遇性ち さのら れ方か てがと い え ば	平 等 で あ る	優女ど 遇性ち さのら れ方か てがと い え ば	優女 遇性 さの れ方 てが いる	わ か ら な い	無 回 答
男性全体 (N=438)	14.8%	50.2%	19.4%	2.1%	2.7%	7.3%	3.4%
20歳代 (N=30)	16.7%	20.0%	26.7%	10.0%	6.7%	16.7%	3.3%
30歳代 (N=51)	11.8%	52.9%	19.6%	0.0%	3.9%	11.8%	0.0%
40歳代 (N=62)	12.9%	40.3%	25.8%	3.2%	6.5%	11.3%	0.0%
50歳代 (N=70)	12.9%	61.4%	24.3%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%
60歳代 (N=94)	18.1%	52.1%	19.1%	2.1%	2.1%	2.1%	4.3%
70歳代以上 (N=129)	15.5%	53.5%	11.6%	1.6%	1.6%	8.5%	7.8%
女性全体 (N=640)	17.5%	50.5%	14.1%	1.6%	0.3%	12.7%	3.4%
20歳代 (N=51)	19.6%	49.0%	11.8%	3.9%	0.0%	11.8%	3.9%
30歳代 (N=89)	16.9%	48.3%	20.2%	0.0%	0.0%	13.5%	1.1%
40歳代 (N=108)	14.8%	50.9%	18.5%	0.0%	0.0%	14.8%	0.9%
50歳代 (N=97)	18.6%	56.7%	12.4%	3.1%	0.0%	8.2%	1.0%
60歳代 (N=151)	19.2%	53.0%	10.6%	2.0%	0.0%	13.2%	2.0%
70歳代以上 (N=144)	16.7%	45.1%	12.5%	1.4%	1.4%	13.2%	9.7%

「雇用の機会(募集・採用)」の平等感について、性別・年齢別でみると、男女共に男性の20歳代を除く全ての年齢層で「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計が半数以上となっている。

【図表 2-2-6 就業・非就業別 各分野での平等感「雇用の機会(募集・採用)」】



「雇用の機会(募集・採用)」の平等感について、就業・非就業別でみると、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計が「就業」(67.5%)、「非就業」(66.5%) いずれも6割以上となっている。

【図表 2-2-7 性別・調査年度別 各分野での平等感「賃金や昇進」】

		い男 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	のど ち ら か が ら 優 か と い え ば い 男 性	平 等 で あ る	のど ち ら か が ら 優 か と い え ば い 女 性	い女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	わ か ら な い	無 回 答
<今回> ・全体：N=1,091 ・男性：N=438 ・女性：N=640 <前回> ・全体：N=1,273 ・男性：N=515 ・女性：N=745								
全 体	今回	30.7%	48.1%	8.6%	0.5%	0.4%	8.8%	2.9%
	前回	32.5%	48.2%	8.4%	0.5%	0.1%	6.8%	3.5%
男 性	今回	28.3%	49.3%	12.6%	0.7%	0.5%	6.6%	2.1%
	前回	24.7%	54.2%	12.6%	1.0%	0.2%	4.1%	3.3%
女 性	今回	32.7%	47.3%	5.8%	0.3%	0.3%	10.3%	3.3%
	前回	38.1%	44.0%	5.6%	0.3%	0.0%	8.6%	3.4%

「賃金や昇進」の平等感について、性別で見ると、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計が男性（77.6%）に比べて女性（80.0%）の方が2.4ポイント高い。

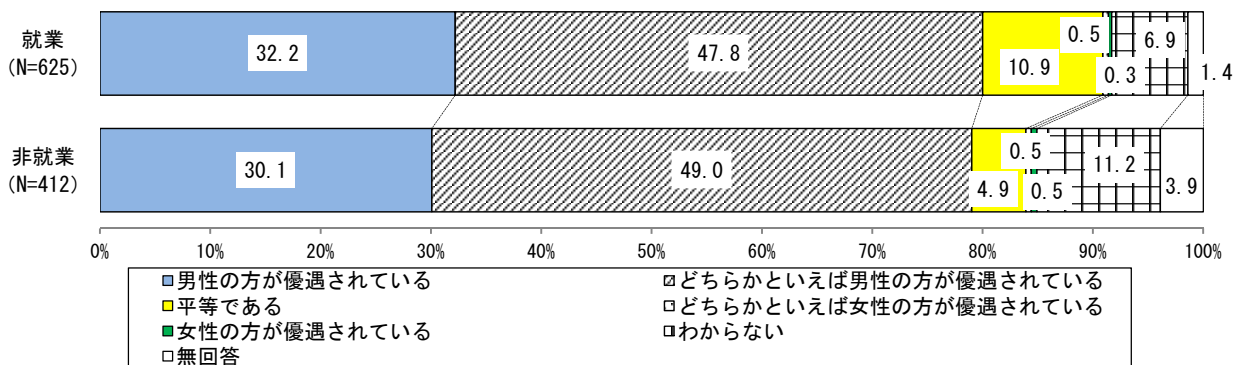
前回調査（平成21年度）との比較では、「男性の方が優遇されている」が男性で3.6ポイント上昇し、女性で5.4ポイント低下している。

【図表 2-2-8 性別・年齢別 各分野での平等感「賃金や昇進」】

	優男 遇性 の 方 が い る	優男ど ち か が と い え ば	平 等 で あ る	優女ど ち か が と い え ば	優女 遇性 の 方 が い る	わ か ら な い	無 回 答
男性全体 (N=438)	28.3%	49.3%	12.6%	0.7%	0.5%	6.6%	2.1%
20歳代 (N=30)	16.7%	43.3%	26.7%	0.0%	0.0%	13.3%	0.0%
30歳代 (N=51)	15.7%	58.8%	15.7%	0.0%	0.0%	9.8%	0.0%
40歳代 (N=62)	24.2%	40.3%	19.4%	1.6%	3.2%	11.3%	0.0%
50歳代 (N=70)	27.1%	48.6%	18.6%	1.4%	0.0%	4.3%	0.0%
60歳代 (N=94)	37.2%	46.8%	7.4%	0.0%	0.0%	5.3%	3.2%
70歳代以上 (N=129)	32.6%	53.5%	5.4%	0.0%	0.0%	3.9%	4.7%
女性全体 (N=640)	32.7%	47.3%	5.8%	0.3%	0.3%	10.3%	3.3%
20歳代 (N=51)	33.3%	41.2%	7.8%	2.0%	0.0%	13.7%	2.0%
30歳代 (N=89)	33.7%	48.3%	6.7%	0.0%	0.0%	10.1%	1.1%
40歳代 (N=108)	35.2%	45.4%	7.4%	0.0%	0.0%	11.1%	0.9%
50歳代 (N=97)	37.1%	48.5%	5.2%	0.0%	0.0%	8.2%	1.0%
60歳代 (N=151)	38.4%	47.7%	4.0%	0.7%	0.0%	7.3%	2.0%
70歳代以上 (N=144)	20.8%	49.3%	5.6%	0.0%	1.4%	13.2%	9.7%

「賃金や昇進」の平等感について、性別・年齢別で見ると、男女共に全ての年齢層で「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計が60%以上となっている。一方、「女性の方が優遇されている」との回答は、男性の40歳代（3.2%）、女性の70歳代以上（1.4%）以外は0%となっている。

【図表 2-2-9 就業・非就業別 各分野での平等感「賃金や昇進」】



「賃金や昇進」の平等感について、就業・非就業別でみると、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計が「就業」(80.0%)、「非就業」(79.1%)とも約8割となっている。

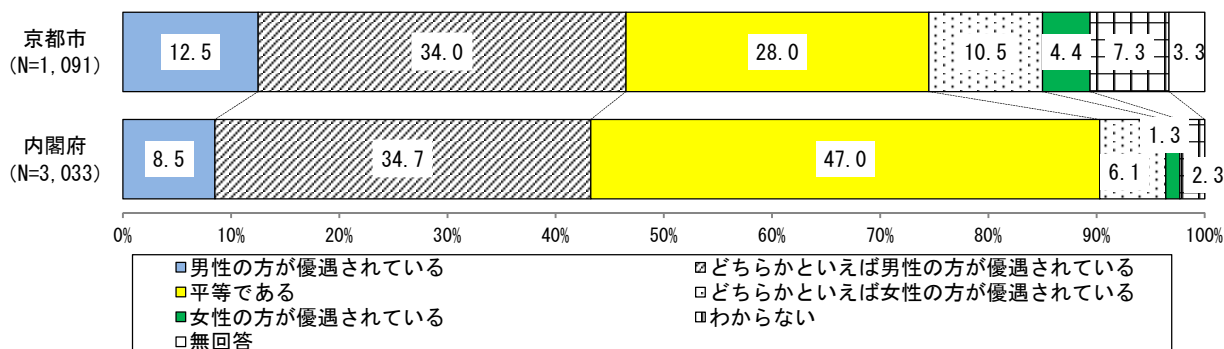
【図表 2-2-10 性別・調査年度別 各分野での平等感「家庭生活」】

		い男 る性 の方 が 優 遇 さ れ て	のど 方 が ら 優 か 遇 と さ い れ え ば い 男 性	平 等 で あ る	のど 方 が ら 優 か 遇 と さ い れ え ば い 女 性	い女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	わ か ら な い	無 回 答
<今回> ・全体：N=1,091 ・男性：N=438 ・女性：N=640 <前回> ・全体：N=1,273 ・男性：N=515 ・女性：N=745								
全体	今回	12.5%	34.0%	28.0%	10.5%	4.4%	7.3%	3.3%
	前回	13.2%	37.9%	26.7%	8.5%	3.1%	7.1%	3.5%
男性	今回	5.3%	29.5%	34.0%	14.6%	7.3%	6.6%	2.7%
	前回	7.4%	32.0%	36.9%	10.5%	3.9%	6.0%	3.3%
女性	今回	17.3%	37.2%	23.9%	7.7%	2.3%	8.0%	3.6%
	前回	17.3%	42.1%	19.9%	7.0%	2.7%	7.7%	3.4%

「家庭生活」の平等感について、性別でみると、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計が男性(34.8%)に比べて女性(54.5%)の方が19.7ポイント高い。

前回調査(平成21年度)との比較では、「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計が男性で7.5ポイント上昇している。

【図表 2-2-11 調査実施機関別 各分野での平等感「家庭生活」】



「家庭生活」の平等感について、内閣府調査（平成 24 年度）と比較すると、「平等である」が京都市調査（28.0%）に比べて内閣府調査（47.0%）の方が 19.0 ポイント高くなっている。

【図表 2-2-12 性別・年齢別 各分野での平等感「家庭生活」】

	優男 遇性 さの れ方 てが いる	優男ど 遇性ち さのら れ方か てがと いる え ば	平 等 で あ る	優女ど 遇性ち さのら れ方か てがと いる え ば	優女 遇性 さの れ方 てが いる	わ か ら な い	無 回 答
男性全体 (N=438)	5.3%	29.5%	34.0%	14.6%	7.3%	6.6%	2.7%
20歳代 (N=30)	0.0%	13.3%	36.7%	13.3%	16.7%	13.3%	6.7%
30歳代 (N=51)	5.9%	23.5%	33.3%	19.6%	5.9%	9.8%	2.0%
40歳代 (N=62)	0.0%	29.0%	35.5%	16.1%	12.9%	6.5%	0.0%
50歳代 (N=70)	10.0%	27.1%	41.4%	8.6%	5.7%	7.1%	0.0%
60歳代 (N=94)	5.3%	33.0%	42.6%	8.5%	5.3%	2.1%	3.2%
70歳代以上 (N=129)	6.2%	34.9%	22.5%	20.2%	5.4%	6.2%	4.7%
女性全体 (N=640)	17.3%	37.2%	23.9%	7.7%	2.3%	8.0%	3.6%
20歳代 (N=51)	11.8%	31.4%	27.5%	11.8%	5.9%	9.8%	2.0%
30歳代 (N=89)	15.7%	37.1%	19.1%	10.1%	0.0%	16.9%	1.1%
40歳代 (N=108)	16.7%	42.6%	26.9%	7.4%	0.9%	3.7%	1.9%
50歳代 (N=97)	24.7%	37.1%	24.7%	1.0%	2.1%	7.2%	3.1%
60歳代 (N=151)	19.2%	39.7%	22.5%	7.9%	2.0%	7.3%	1.3%
70歳代以上 (N=144)	13.9%	32.6%	24.3%	9.0%	4.2%	6.3%	9.7%

「家庭生活」の平等感について、性別・年齢別でみると、男性では「平等である」が70歳代以上を除く全ての年齢層で最も多くなっている。一方、女性では全ての年齢層で「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計が4割以上となっており、男女間での意識の違いがみられる。

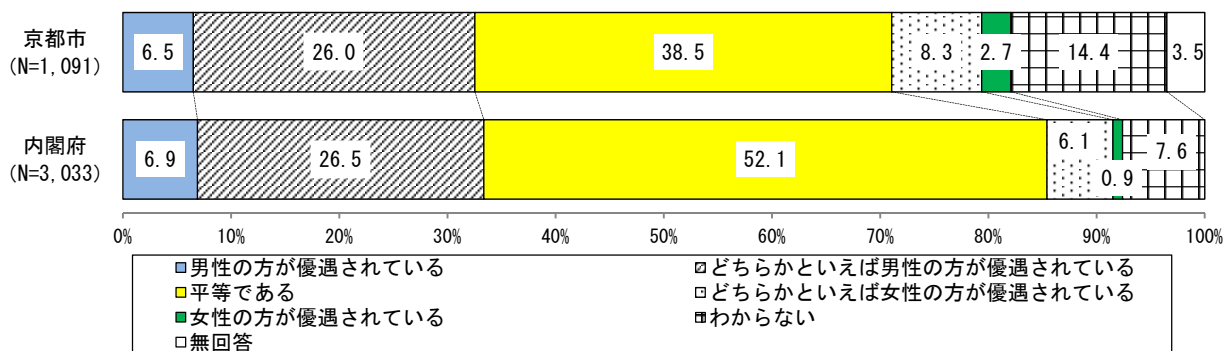
【図表 2-2-13 性別・調査年度別 各分野での平等感「地域活動」】

		い男 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	のど ち ら か が ら い え ば 男 性	平 等 で あ る	のど ち ら か が ら い え ば 女 性	い女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	わ か ら な い	無 回 答
<今回> ・全体：N=1,091 ・男性：N=438 ・女性：N=640								
<前回> ・全体：N=1,273 ・男性：N=515 ・女性：N=745								
全 体	今回	6.5%	26.0%	38.5%	8.3%	2.7%	14.4%	3.5%
	前回	7.9%	26.7%	38.3%	6.8%	2.0%	14.6%	3.6%
男 性	今回	3.2%	21.5%	46.8%	11.4%	4.8%	10.0%	2.3%
	前回	4.5%	22.9%	46.6%	9.1%	2.7%	11.7%	2.5%
女 性	今回	8.6%	29.2%	33.0%	6.1%	1.4%	17.5%	4.2%
	前回	10.2%	29.8%	32.6%	5.1%	1.5%	16.8%	4.0%

「地域活動」の平等感について、性別で見ると、「平等である」が男性（46.8%）に比べて女性（33.0%）が13.8ポイント低い。

前回調査（平成21年度）との比較では、「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計が男性で4.4ポイント上昇している。

【図表 2-2-14 調査実施機関別 各分野での平等感「地域活動」】



「地域活動」の平等感について、内閣府調査（平成24年度）と比較すると、「平等である」が京都市調査（38.5%）に比べて内閣府調査（52.1%）の方が13.6ポイント高くなっている。

【図表 2-2-15 性別・年齢別 各分野での平等感「地域活動」】

	優男 遇性 さの れ方 てが いる	優男ど 遇性ち さのら れ方か てがと い え ば	平 等 で あ る	優女ど 遇性ち さのら れ方か てがと い え ば	優女 遇性 さの れ方 てが いる	わ か ら な い	無 回 答
男性全体 (N=438)	3.2%	21.5%	46.8%	11.4%	4.8%	10.0%	2.3%
20歳代 (N=30)	0.0%	6.7%	46.7%	10.0%	13.3%	23.3%	0.0%
30歳代 (N=51)	2.0%	17.6%	47.1%	13.7%	3.9%	13.7%	2.0%
40歳代 (N=62)	0.0%	21.0%	41.9%	14.5%	12.9%	9.7%	0.0%
50歳代 (N=70)	2.9%	20.0%	51.4%	11.4%	2.9%	11.4%	0.0%
60歳代 (N=94)	5.3%	26.6%	47.9%	9.6%	3.2%	5.3%	2.1%
70歳代以上 (N=129)	4.7%	24.0%	46.5%	10.9%	1.6%	7.8%	4.7%
女性全体 (N=640)	8.6%	29.2%	33.0%	6.1%	1.4%	17.5%	4.2%
30歳代 (N=51)	3.9%	19.6%	29.4%	11.8%	2.0%	29.4%	3.9%
30歳代 (N=89)	7.9%	27.0%	30.3%	7.9%	1.1%	24.7%	1.1%
40歳代 (N=108)	9.3%	27.8%	36.1%	5.6%	2.8%	17.6%	0.9%
50歳代 (N=97)	12.4%	32.0%	23.7%	3.1%	1.0%	21.6%	6.2%
60歳代 (N=151)	8.6%	34.4%	35.8%	7.3%	0.0%	11.9%	2.0%
70歳代以上 (N=144)	7.6%	27.8%	36.8%	4.2%	2.1%	11.8%	9.7%

「地域活動」の平等感について、性別・年齢別でみると、「平等である」が、男性では全ての年齢層で最も多くなっている。一方、女性で「平等である」と回答した人は全ての年齢層で2～3割台となっており、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計が50歳代(44.4%)、60歳代(43.0%)で多い。

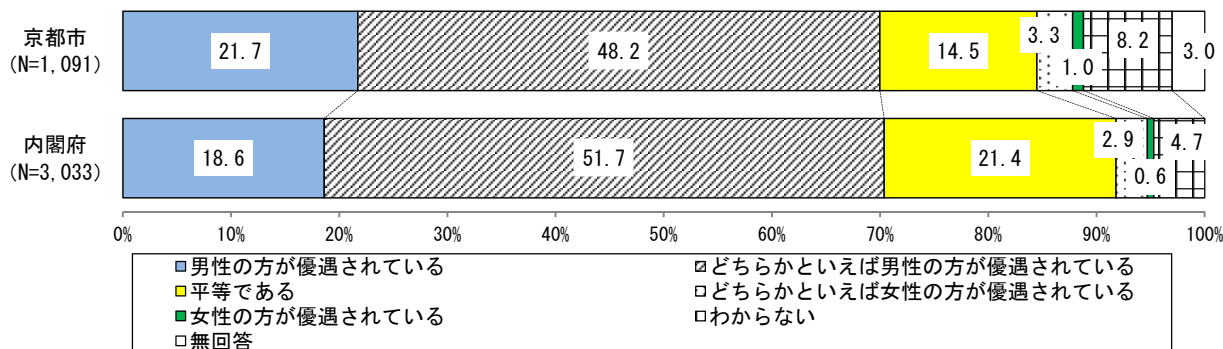
【図表 2-2-16 性別・調査年度別 各分野での平等感「社会の慣習やしきたり」】

		い男 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	のど 方 ち が ら 優 か 遇 と さ い れ え ば い 男 性	平 等 で あ る	のど 方 ち が ら 優 か 遇 と さ い れ え ば い 女 性	い女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	わ か ら な い	無 回 答
全体	今回	21.7%	48.2%	14.5%	3.3%	1.0%	8.2%	3.0%
	前回	23.5%	48.4%	13.0%	3.3%	0.8%	7.0%	4.1%
男性	今回	18.5%	46.3%	19.6%	5.7%	1.8%	6.4%	1.6%
	前回	19.6%	48.5%	17.5%	4.1%	1.4%	5.2%	3.7%
女性	今回	23.6%	49.8%	10.9%	1.6%	0.5%	9.7%	3.9%
	前回	26.3%	48.9%	9.5%	2.7%	0.4%	8.2%	4.0%

「社会の慣習やしきたり」の平等感について、性別でみると、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計が男性(64.8%)に比べて女性(73.4%)の方が8.6ポイント高い。

前回調査(平成21年度)との比較では、男女共に「男性の方が優遇されている」がやや低下し、「平等である」がやや上昇している。

【図表 2-2-17 調査実施機関別 各分野での平等感「社会の慣習やしきたり」】



「社会の慣習やしきたり」の平等感について、内閣府調査（平成 24 年度）と比較すると、「平等である」が京都市調査（14.5%）に比べて内閣府調査（21.4%）の方が 6.9 ポイント高くなっている。

【図表 2-2-18 性別・年齢別 各分野での平等感「社会の慣習やしきたり」】

	優男 遇性 さの れ方 てが いる	優男 ど 遇性 さの れ方 か てが い る え ば	平 等 で あ る	優女 ど 遇性 さの れ方 か てが い る え ば	優女 遇性 さの れ方 てが い る	わ か ら な い	無 回 答
男性全体 (N=438)	18.5%	46.3%	19.6%	5.7%	1.8%	6.4%	1.6%
20歳代 (N=30)	16.7%	36.7%	23.3%	3.3%	3.3%	16.7%	0.0%
30歳代 (N=51)	17.6%	35.3%	19.6%	7.8%	7.8%	11.8%	0.0%
40歳代 (N=62)	21.0%	37.1%	21.0%	6.5%	3.2%	11.3%	0.0%
50歳代 (N=70)	21.4%	45.7%	20.0%	10.0%	0.0%	1.4%	1.4%
60歳代 (N=94)	18.1%	56.4%	19.1%	3.2%	1.1%	2.1%	0.0%
70歳代以上 (N=129)	16.3%	50.4%	18.6%	4.7%	0.0%	5.4%	4.7%
女性全体 (N=640)	23.6%	49.8%	10.9%	1.6%	0.5%	9.7%	3.9%
20歳代 (N=51)	9.8%	45.1%	19.6%	5.9%	0.0%	17.6%	2.0%
30歳代 (N=89)	22.5%	53.9%	4.5%	3.4%	0.0%	13.5%	2.2%
40歳代 (N=108)	30.6%	52.8%	9.3%	0.9%	0.0%	4.6%	1.9%
50歳代 (N=97)	22.7%	57.7%	5.2%	0.0%	0.0%	11.3%	3.1%
60歳代 (N=151)	27.8%	52.3%	7.3%	0.7%	0.7%	9.3%	2.0%
70歳代以上 (N=144)	20.1%	38.9%	20.8%	1.4%	1.4%	7.6%	9.7%

「社会の慣習やしきたり」の平等感について、性別・年齢別でみると、男女共に全ての年齢層で「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計が半数以上となっている。

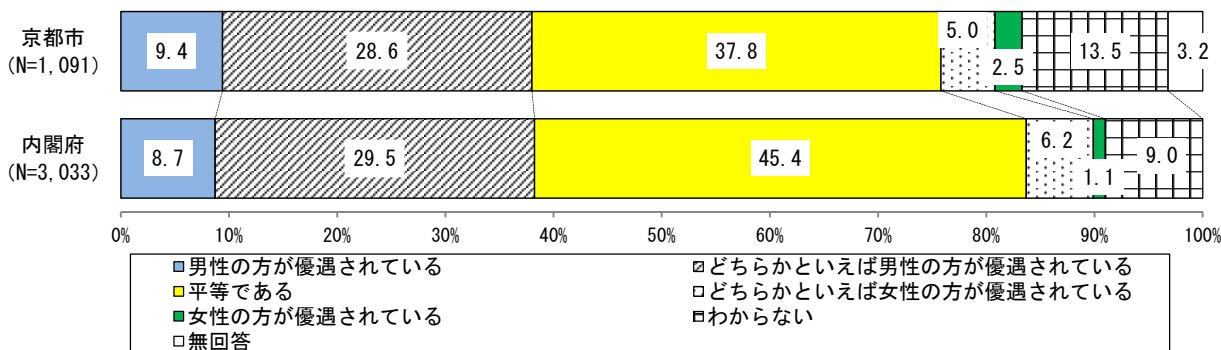
【図表 2-2-19 性別・調査年度別 各分野での平等感「法律や制度」】

		い男 る性 の方 が優 遇さ れて	のど ちら か が 優 か 遇 と さ い え ば い 男 性	平 等 で あ る	のど ちら か が 優 か 遇 と さ い え ば い 女 性	い女 性の の方 が優 遇さ れて	わ か ら な い	無 回 答
<今回> ・全体：N=1,091 ・男性：N=438 ・女性：N=640								
<前回> ・全体：N=1,273 ・男性：N=515 ・女性：N=745								
全体	今回	9.4%	28.6%	37.8%	5.0%	2.5%	13.5%	3.2%
	前回	9.2%	29.1%	40.4%	4.5%	1.3%	11.9%	3.7%
男性	今回	5.7%	21.2%	50.5%	6.4%	4.6%	9.6%	2.1%
	前回	5.2%	21.4%	52.6%	7.0%	2.1%	8.5%	3.1%
女性	今回	11.9%	33.8%	29.1%	4.2%	0.9%	16.4%	3.8%
	前回	11.9%	34.6%	32.1%	2.7%	0.7%	14.2%	3.8%

「法律や制度」の平等感について、性別で見ると、男性では「平等である」が 50.5%、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 33.8%と、それぞれ最も多くなっている。

前回調査（平成 21 年度）との比較では、「女性の方が優遇されている」が男性で 2.5 ポイント上昇している。

【図表 2-2-20 調査実施機関別 各分野での平等感「法律や制度」】



「法律や制度」の平等感について、内閣府調査（平成 24 年度）と比較すると、「平等である」が京都市調査（37.8%）に比べて内閣府調査（45.4%）の方が 7.6 ポイント高くなっている。

【図表 2-2-21 性別・年齢別 各分野での平等感「法律や制度」】

	優男 遇性 さの れ方 てが いる	優男ど 遇性ち さのら れ方か てがと いる え ば	平 等 で あ る	優女ど 遇性ち さのら れ方か てがと いる え ば	優女 遇性 さの れ方 てが いる	わ か ら な い	無 回 答
男性全体 (N=438)	5.7%	21.2%	50.5%	6.4%	4.6%	9.6%	2.1%
20歳代 (N=30)	3.3%	16.7%	30.0%	13.3%	16.7%	20.0%	0.0%
30歳代 (N=51)	5.9%	11.8%	41.2%	11.8%	7.8%	19.6%	2.0%
40歳代 (N=62)	3.2%	21.0%	43.5%	8.1%	11.3%	11.3%	1.6%
50歳代 (N=70)	7.1%	25.7%	45.7%	11.4%	4.3%	2.9%	2.9%
60歳代 (N=94)	10.6%	22.3%	56.4%	2.1%	1.1%	6.4%	1.1%
70歳代以上 (N=129)	3.1%	22.5%	60.5%	2.3%	0.0%	8.5%	3.1%
女性全体 (N=640)	11.9%	33.8%	29.1%	4.2%	0.9%	16.4%	3.8%
20歳代 (N=51)	3.9%	21.6%	35.3%	11.8%	0.0%	23.5%	3.9%
30歳代 (N=89)	10.1%	34.8%	25.8%	4.5%	2.2%	20.2%	2.2%
40歳代 (N=108)	13.9%	37.0%	28.7%	4.6%	0.9%	14.8%	0.0%
50歳代 (N=97)	16.5%	33.0%	26.8%	6.2%	0.0%	14.4%	3.1%
60歳代 (N=151)	13.9%	35.1%	31.1%	2.0%	0.7%	15.2%	2.0%
70歳代以上 (N=144)	9.0%	34.0%	28.5%	2.1%	1.4%	15.3%	9.7%

「法律や制度」の平等感について、性別・年齢別で見ると、男性では全ての年齢層で「平等である」が最も多くなっている。一方、女性では30歳代以上の全ての年齢層で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も多い。

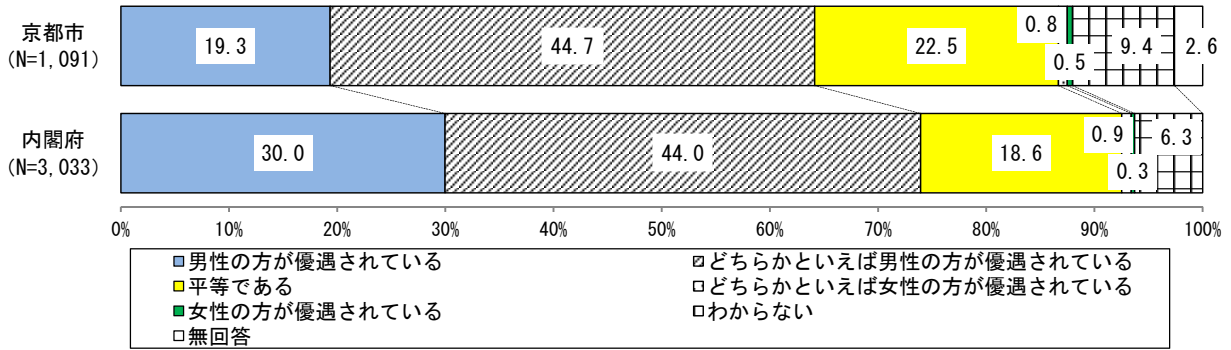
【図表 2-2-22 性別・調査年度別 各分野での平等感「政治・経済活動への参加」】

		い男 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	のど ち ら か が ら 優 か 遇 と さ い れ え て ば い 男 性	平 等 で あ る	のど ち ら か が ら 優 か 遇 と さ い れ え て ば い 女 性	い女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	わ か ら な い	無 回 答
<今回> ・全体：N=1,091 ・男性：N=438 ・女性：N=640 <前回> ・全体：N=1,273 ・男性：N=515 ・女性：N=745								
全 体	今回	19.3%	44.7%	22.5%	0.8%	0.5%	9.4%	2.6%
	前回	19.2%	44.1%	24.7%	0.9%	0.2%	7.8%	3.2%
男 性	今回	13.5%	42.5%	33.8%	1.1%	0.9%	6.2%	2.1%
	前回	12.6%	40.6%	37.1%	1.4%	0.2%	5.6%	2.5%
女 性	今回	23.3%	46.6%	14.7%	0.6%	0.3%	11.7%	2.8%
	前回	23.5%	47.0%	16.2%	0.5%	0.1%	9.3%	3.4%

「政治・経済活動への参加」の平等感について、性別で見ると、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計が男性（56.0%）に比べて女性（69.9%）の方が13.9ポイント高い。

前回調査（平成21年度）との比較では、「平等である」が男性で3.3ポイント、女性で1.5ポイント低下している。

【図表 2-2-23 調査実施機関別 各分野での平等感「政治・経済活動への参加」】



「政治・経済活動への参加」の平等感について、内閣府調査（平成 24 年度）と比較すると、京都市調査の方が「男性の方が優遇されている」が 10.7 ポイント低く、「平等である」が 3.9 ポイント高くなっている。

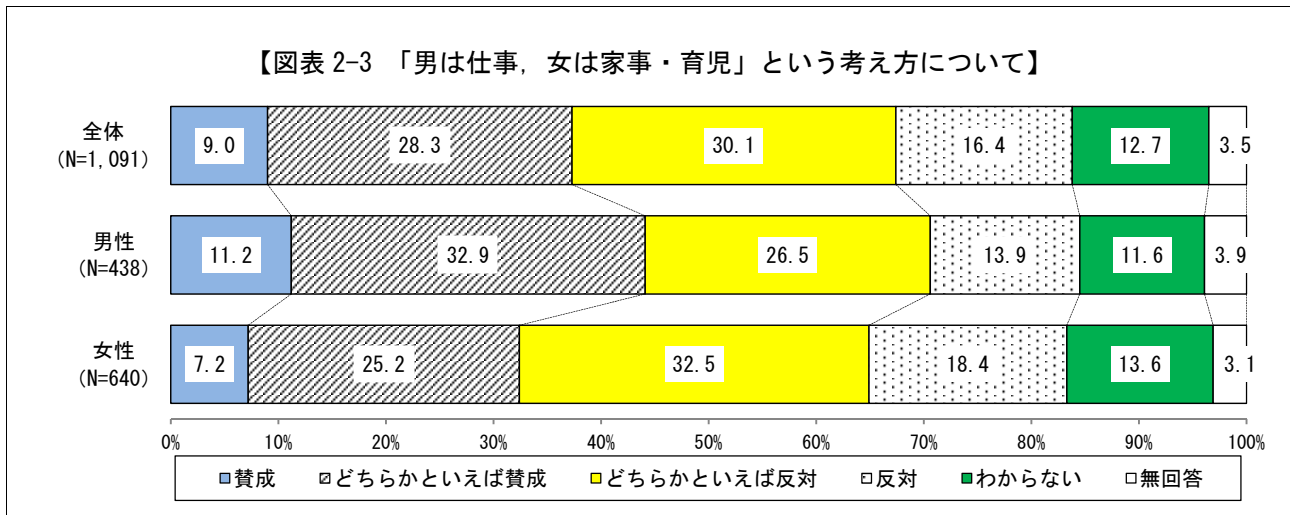
【図表 2-2-24 性別・年齢別 各分野での平等感「政治・経済活動への参加」】

	優遇性 の 方 が い る	優 男 ど 遇 性 の ら か い え ば	平 等 で あ る	優 女 ど 遇 性 の ら か い え ば	優 女 遇 性 の ら か い え ば	わ か ら な い	無 回 答
男性全体 (N=438)	13.5%	42.5%	33.8%	1.1%	0.9%	6.2%	2.1%
20歳代 (N=30)	16.7%	40.0%	30.0%	3.3%	3.3%	6.7%	0.0%
30歳代 (N=51)	15.7%	41.2%	31.4%	0.0%	2.0%	9.8%	0.0%
40歳代 (N=62)	12.9%	27.4%	45.2%	0.0%	1.6%	11.3%	1.6%
50歳代 (N=70)	7.1%	48.6%	35.7%	1.4%	1.4%	4.3%	1.4%
60歳代 (N=94)	17.0%	45.7%	33.0%	0.0%	0.0%	3.2%	1.1%
70歳代以上 (N=129)	13.2%	45.7%	28.7%	2.3%	0.0%	5.4%	4.7%
女性全体 (N=640)	23.3%	46.6%	14.7%	0.6%	0.3%	11.7%	2.8%
20歳代 (N=51)	5.9%	51.0%	23.5%	2.0%	0.0%	15.7%	2.0%
30歳代 (N=89)	24.7%	52.8%	9.0%	0.0%	0.0%	12.4%	1.1%
40歳代 (N=108)	30.6%	40.7%	16.7%	0.0%	0.0%	11.1%	0.9%
50歳代 (N=97)	23.7%	49.5%	10.3%	0.0%	0.0%	14.4%	2.1%
60歳代 (N=151)	29.8%	41.7%	17.2%	1.3%	0.0%	9.3%	0.7%
70歳代以上 (N=144)	16.0%	48.6%	13.9%	0.7%	1.4%	11.1%	8.3%

「政治・経済活動への参加」の平等感について、性別・年齢別でみると、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計が、男性の 40 歳代を除いて男女の各年齢層において半数以上となっている。

(3) 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方について（性別役割分担意識）

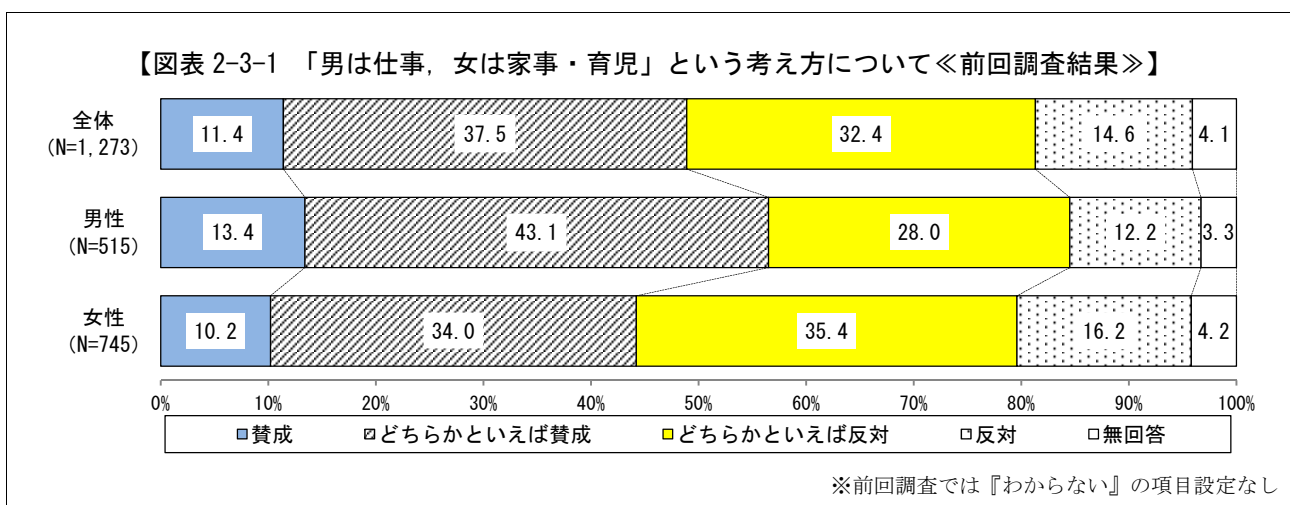
問3 あなたは、「男は仕事、女は家事・育児」という考え方についてどう思いますか。
【1つに○】



- ・ 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方については、反対が賛成を上回る
- ・ 賛成が男女共に前回より減少

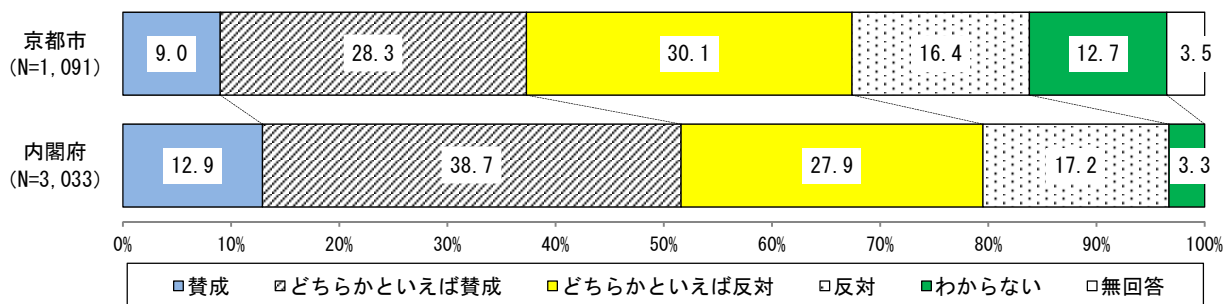
「男は仕事、女は家事・育児」という考え方をみると、賛成（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）が 37.3%，反対（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計）が 46.5%と、反対が9.2ポイント上回っている。

性別で見ると、賛成（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）が女性（32.4%）に比べて男性（44.1%）の方が 11.7ポイント高く、反対（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計）は男性（40.4%）に比べて女性（50.9%）の方が 10.5ポイント高い。



「男は仕事、女は家事・育児」という考え方について、前回調査（平成21年度）と比較すると、賛成（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）が男性で 12.4ポイント、女性で 11.8ポイント低下している。

【図表 2-3-2 調査実施機関別 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方について】



「男は仕事、女は家事・育児」という考え方について、内閣府調査（平成 24 年度）と比較すると、賛成（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）が、内閣府調査（51.6%）に比べて京都市調査（37.3%）の方が 14.3 ポイント低くなっている。

【図表 2-3-3 性別・年齢別 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方について】

	賛成	い ど え ち ば ら 賛 か 成 と	い ど え ち ば ら 反 か 対 と	反 対	わ か ら な い	無 回 答
男性全体 (N=438)	11.2%	32.9%	26.5%	13.9%	11.6%	3.9%
20歳代 (N=30)	6.7%	20.0%	20.0%	30.0%	23.3%	0.0%
30歳代 (N=51)	5.9%	27.5%	25.5%	19.6%	19.6%	2.0%
40歳代 (N=62)	11.3%	27.4%	29.0%	19.4%	11.3%	1.6%
50歳代 (N=70)	8.6%	32.9%	35.7%	8.6%	10.0%	4.3%
60歳代 (N=94)	10.6%	33.0%	24.5%	16.0%	11.7%	4.3%
70歳代以上 (N=129)	16.3%	41.1%	24.0%	7.0%	6.2%	5.4%
女性全体 (N=640)	7.2%	25.2%	32.5%	18.4%	13.6%	3.1%
20歳代 (N=51)	11.8%	23.5%	29.4%	19.6%	11.8%	3.9%
30歳代 (N=89)	3.4%	24.7%	29.2%	22.5%	16.9%	3.4%
40歳代 (N=108)	5.6%	16.7%	40.7%	14.8%	20.4%	1.9%
50歳代 (N=97)	4.1%	20.6%	30.9%	28.9%	14.4%	1.0%
60歳代 (N=151)	7.3%	24.5%	33.8%	20.5%	11.3%	2.6%
70歳代以上 (N=144)	11.1%	36.1%	29.2%	9.0%	9.0%	5.6%

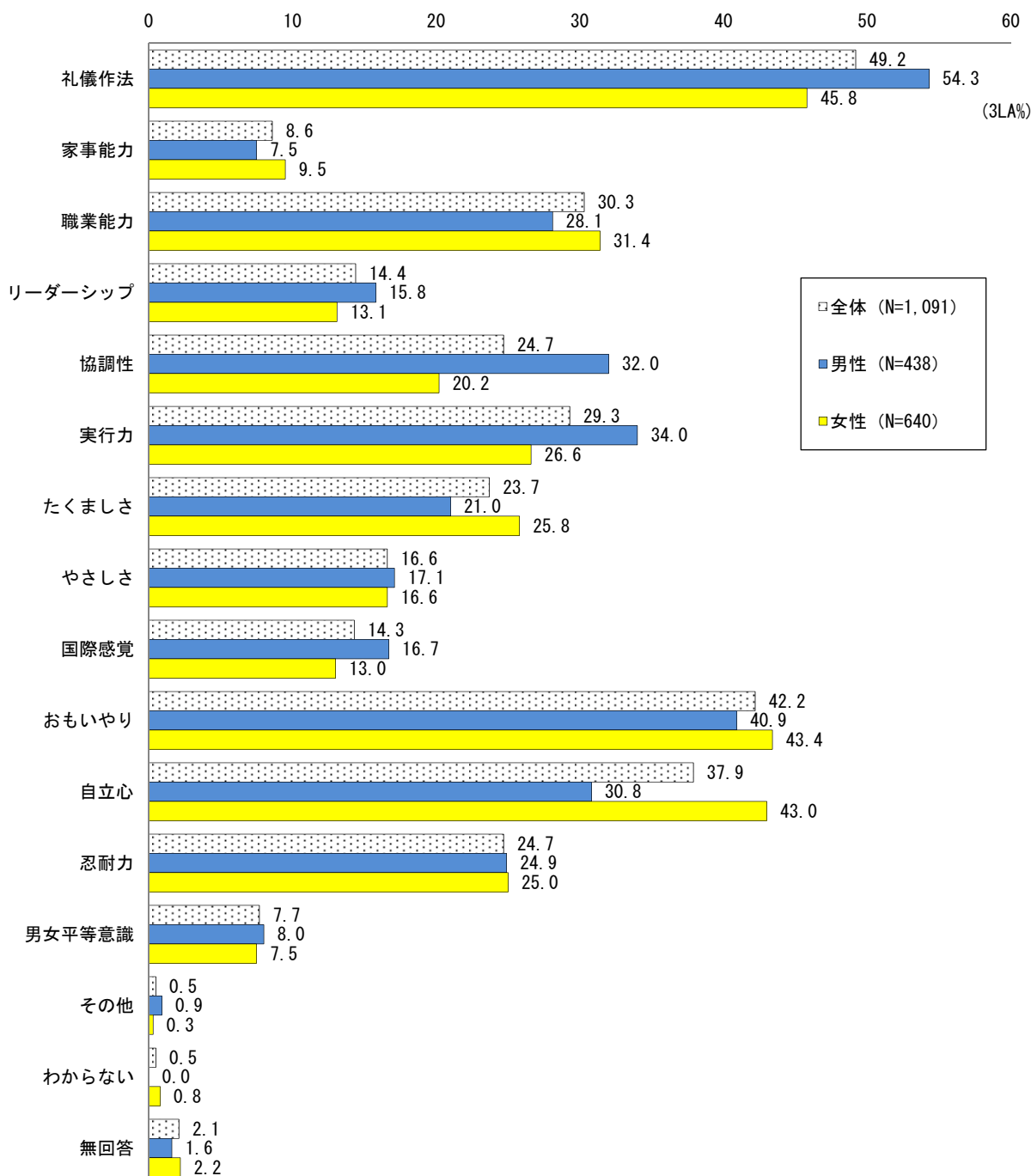
性別・年齢別で「男は仕事、女は家事・育児」という考え方をみると、男性では 20～50 歳代では反対（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計）が賛成（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）を上回っているものの、60 歳以上では賛成が反対を上回っている。一方、女性では 70 歳代以上を除く各年齢層において反対が賛成を上回っている。

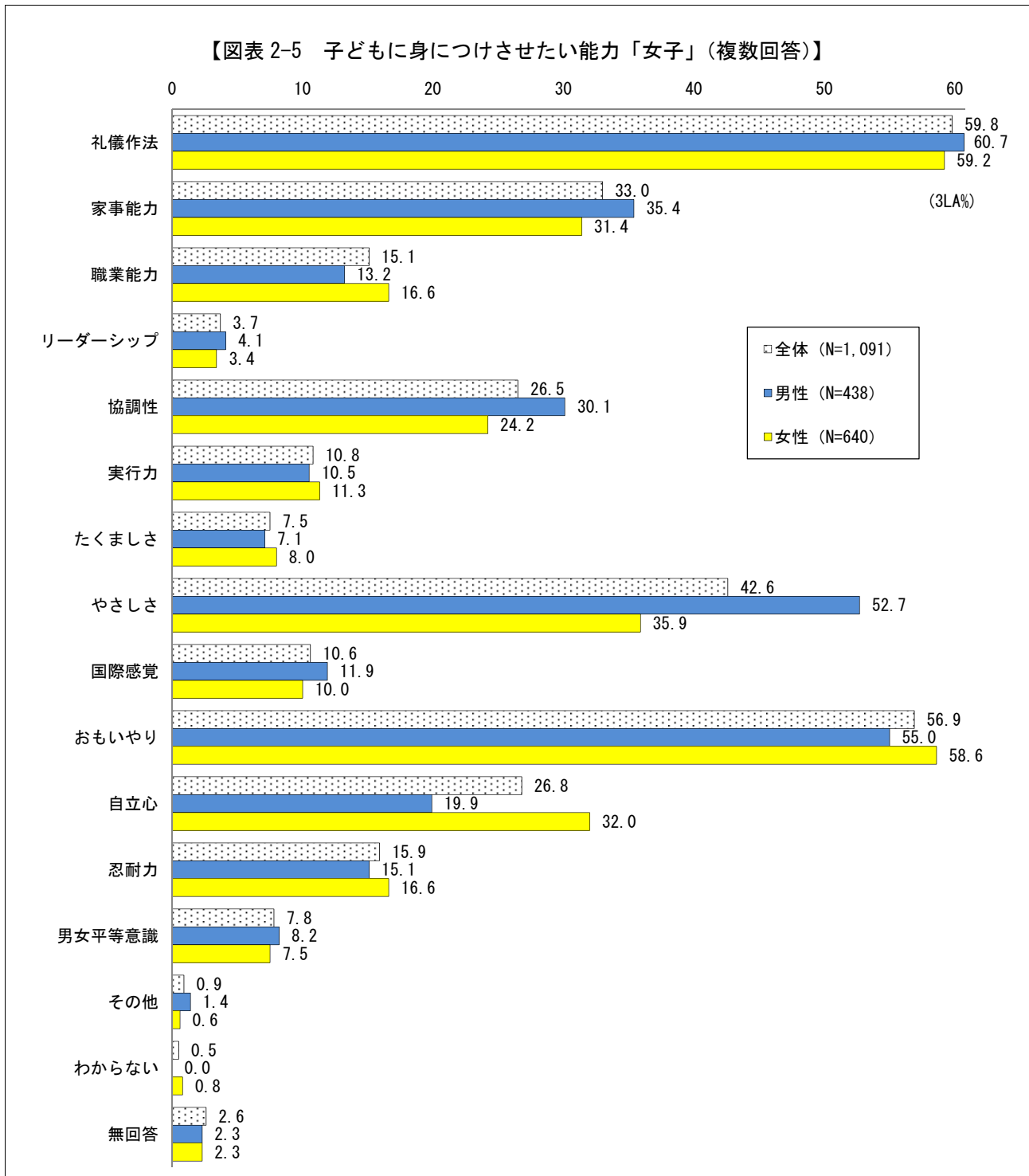
(4) 子どもに身につけさせたい能力

問4 あなたは、子どもにどのような能力を身につけさせたいと思いますか。「男子」、「女子」それぞれの場合について、あてはまる番号に○をつけてください。子どもがいない方も、一般的な考えをお答えください。【それぞれ3つまでに○】

(*ここでいう「子ども」は、18歳未満を対象としています。)

【図表 2-4 子どもに身につけさせたい能力「男子」(複数回答)】



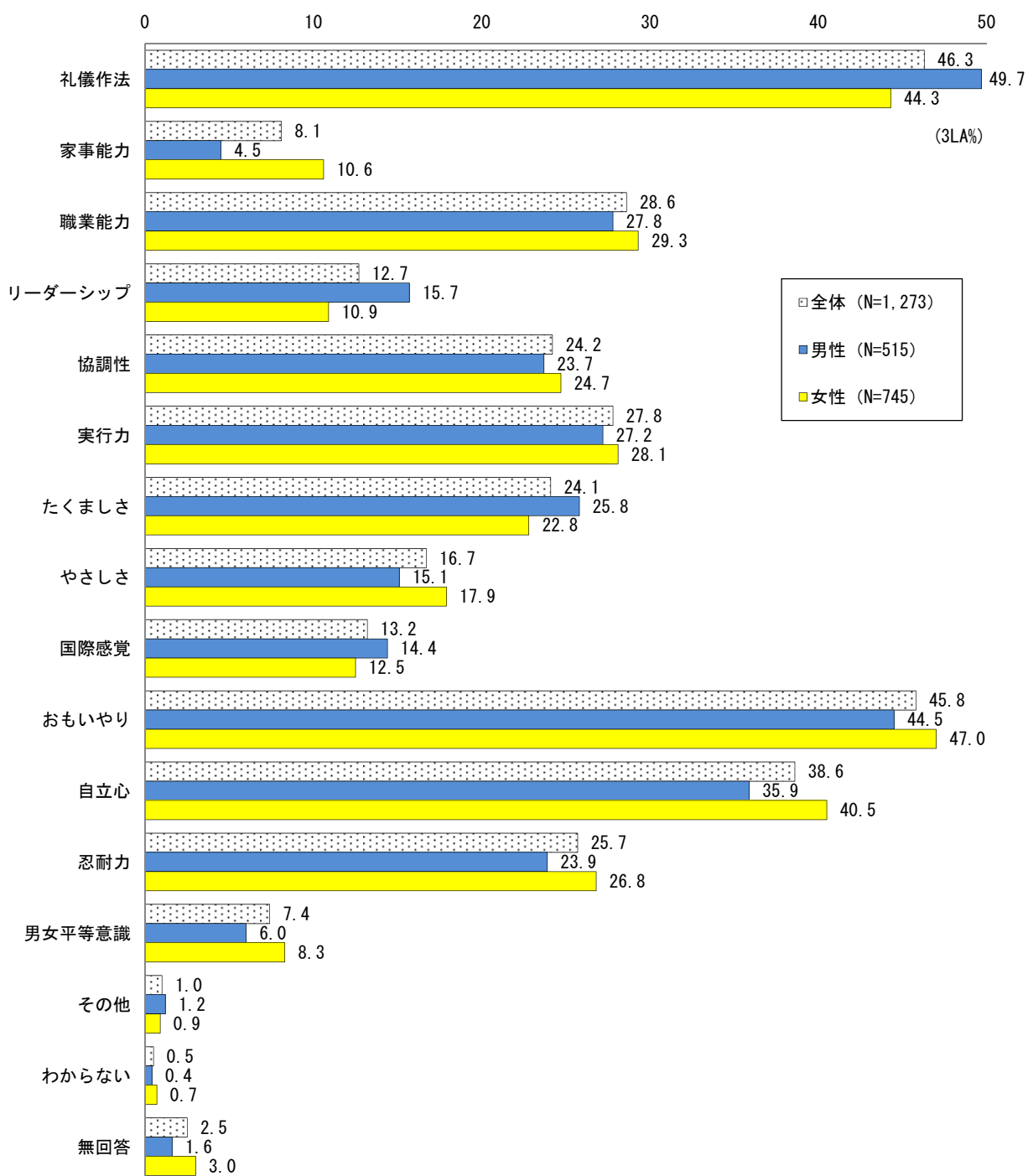


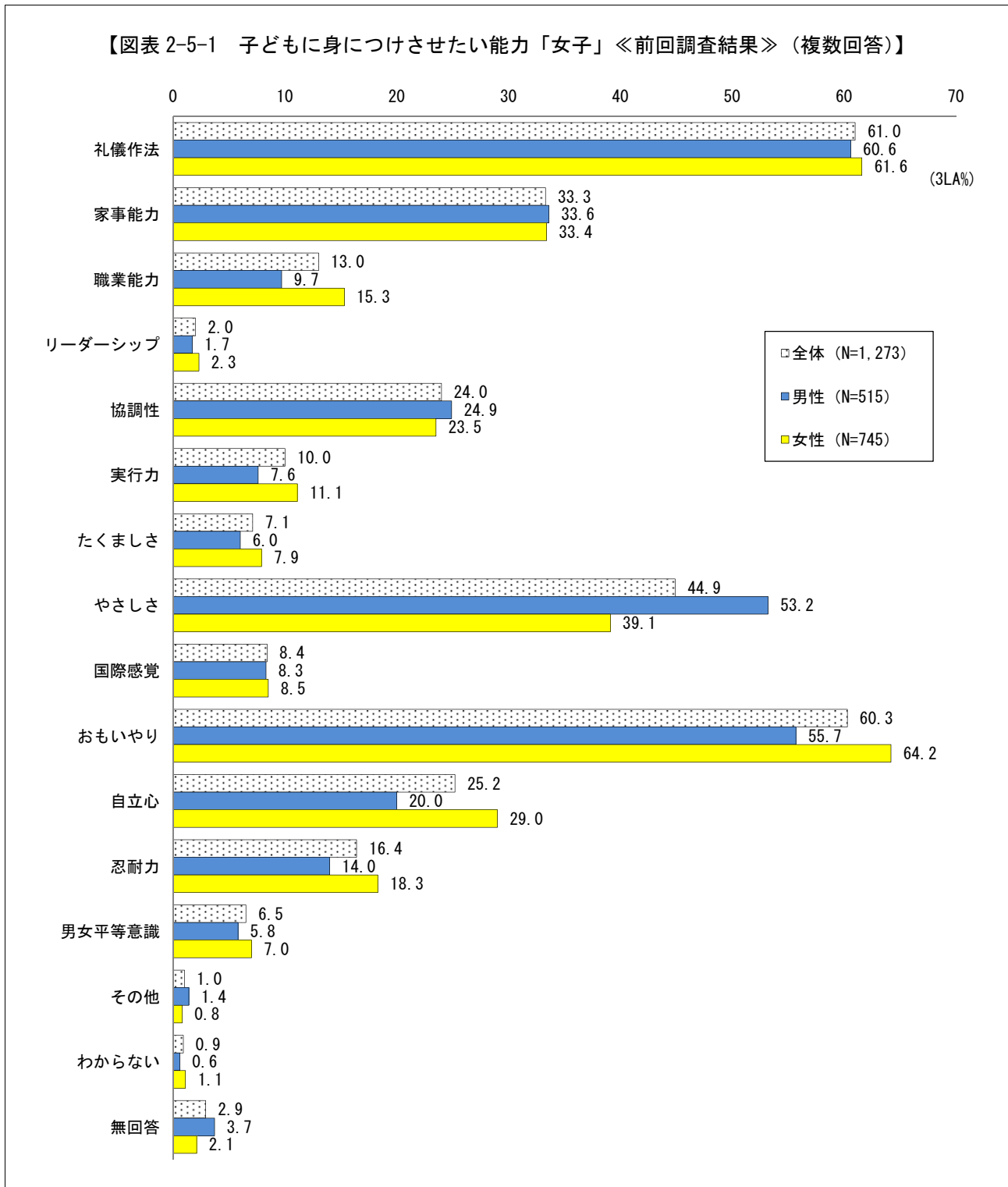
- ・ 男子・女子共に「礼儀作法」が最も多く、次いで「おもいやり」
- ・ 男子で多いのは「実行力」「たくましさ」、女子で多いのは「やさしさ」「家事能力」など

子どもに身につけさせたい能力をみると、男子・女子共に「礼儀作法」が最も多く、次いで「おもいやり」となっている。また、男子と女子で大きな差が出ている項目としては、「実行力」(18.5ポイント差)、「たくましさ」(16.2ポイント差)、「職業能力」(15.2ポイント差)では男子が女子に比べて多く、「やさしさ」(26.0ポイント差)、「家事能力」(24.4ポイント差)では女子が男子に比べて多くなっている。

性別で子どもに身につけさせたい能力をみると、男性では「礼儀作法」(男子 54.3%, 女子 60.7%) が最も多く、次いで「おもいやり」(男子 40.9%, 女子 55.0%) となっている。女性でも「礼儀作法」(男子 45.8%, 女子 59.2%) が最も多く、次いで「おもいやり」(男子 43.4%, 女子 58.6%) となっている。

【図表 2-4-1 子どもに身につけさせたい能力「男子」◀前回調査結果▶(複数回答)】

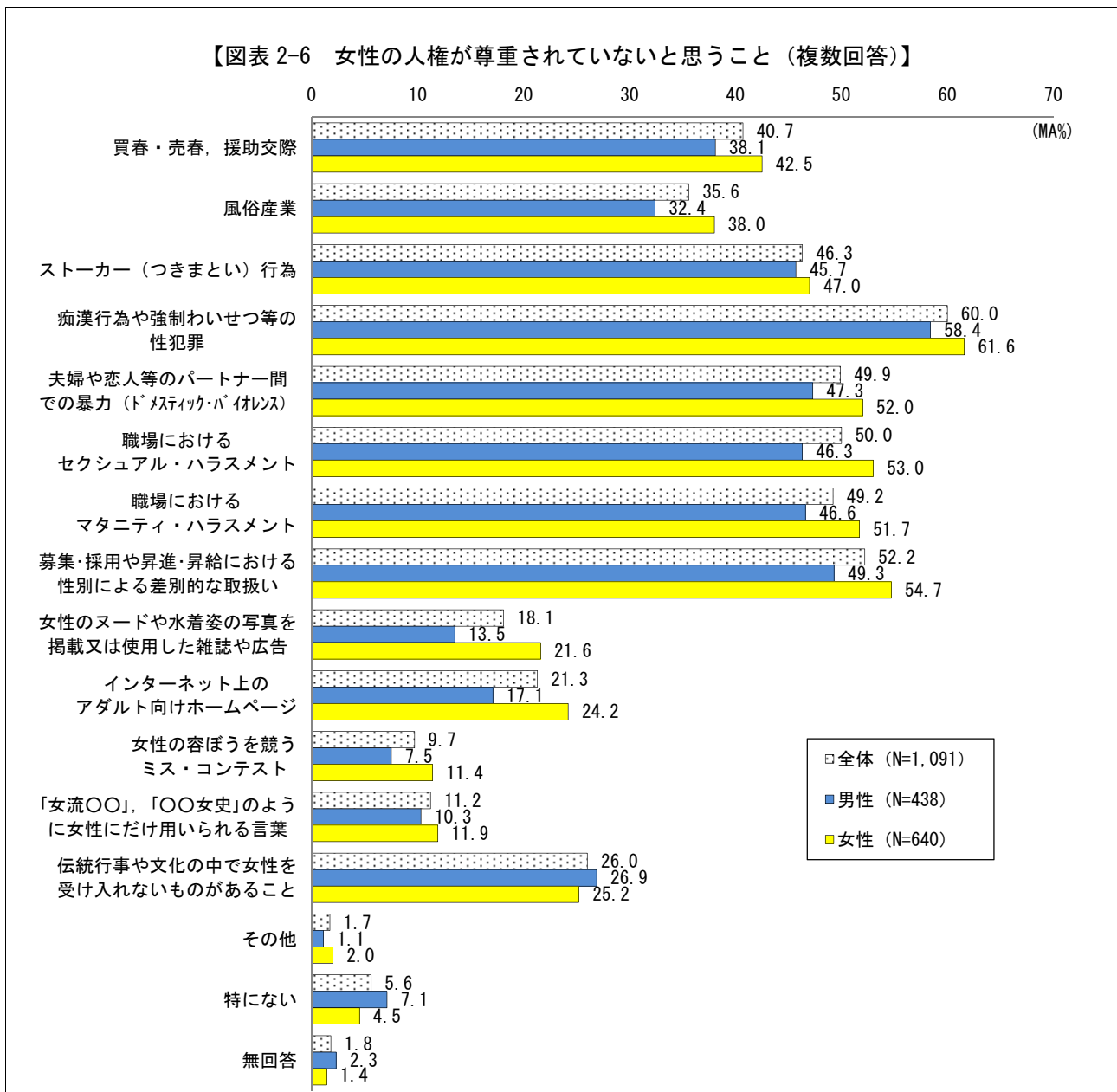




子どもに身につけさせたい能力について、前回調査（平成 21 年度）との比較では、男子では「礼儀作法」が、女子では「協調性」や「国際感覚」「職業能力」が増加している。

(5) 女性の人権が尊重されていないと思うこと

問5 次のうち、あなたが「女性の人権が尊重されていない」ことだと思うものはどれですか。
【あてはまるものすべてに○】

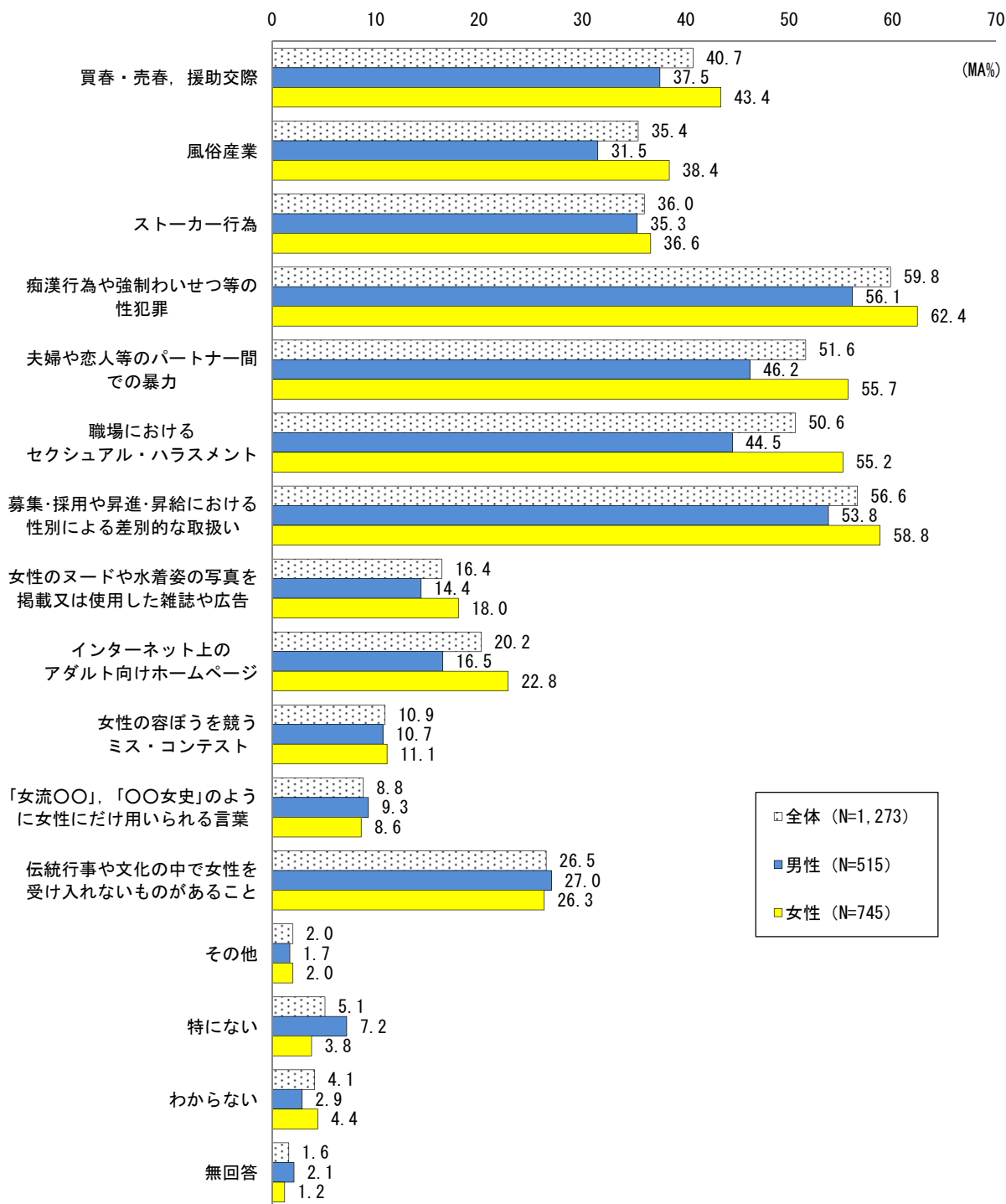


- ・ 男女共に「痴漢行為や強制わいせつ等の性犯罪」が最も多く、次いで「募集・採用や昇進・昇給における性別による差別的な取扱い」「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」「夫婦や恋人等のパートナー間での暴力（ドメスティック・バイオレンス）」

女性の人権が尊重されていないと思うことをみると、「痴漢行為や強制わいせつ等の性犯罪」が60.0%と最も多く、次いで「募集・採用や昇進・昇給における性別による差別的な取扱い」（52.2%）、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」（50.0%）、「夫婦や恋人等のパートナー間での暴力（ドメスティック・バイオレンス）」（49.9%）となっている。

性別でみると、概ねいずれの項目においても男性に比べて女性の方が高くなっている。

【図表 2-6-1 女性の人権が尊重されていないと思うこと《前回調査結果》（複数回答）】



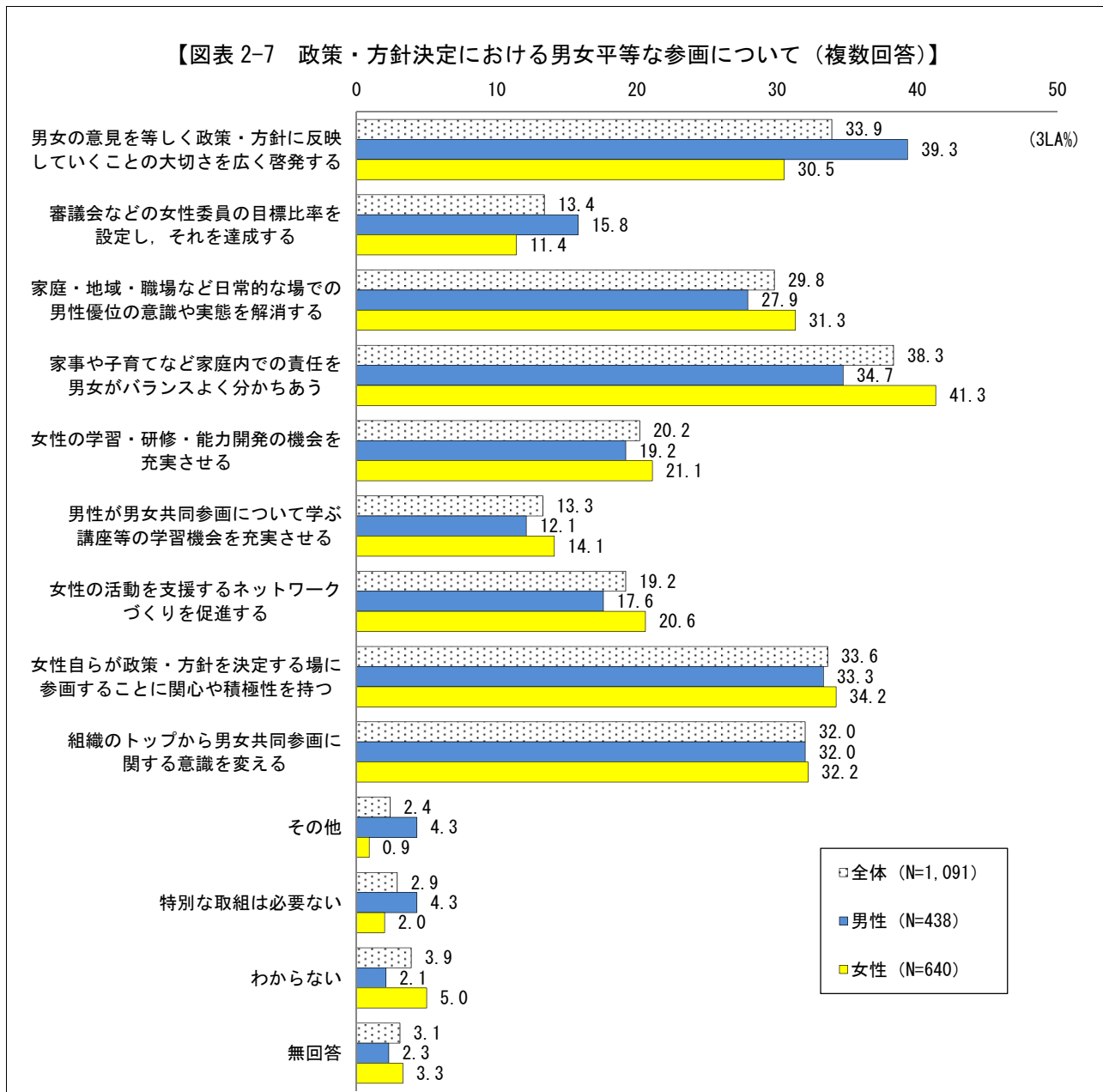
※前回調査では『職場におけるマタニティ・ハラスメント』の項目設定なし

女性の人権が尊重されていないと思うことについて、前回調査（平成 21 年度）との比較では、「ストーカー（つきまとい）行為」が男女共に 10.4 ポイント上昇している。

(6) 政策・方針決定における男女平等な参画について

問6 議員や審議会委員などに占める女性の割合は、全国的に、依然として低いのが現状です。あなたは、今後、こうした政策・方針を決定する場に男女が平等に参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。【3つまでに○】

【図表 2-7 政策・方針決定における男女平等な参画について（複数回答）】

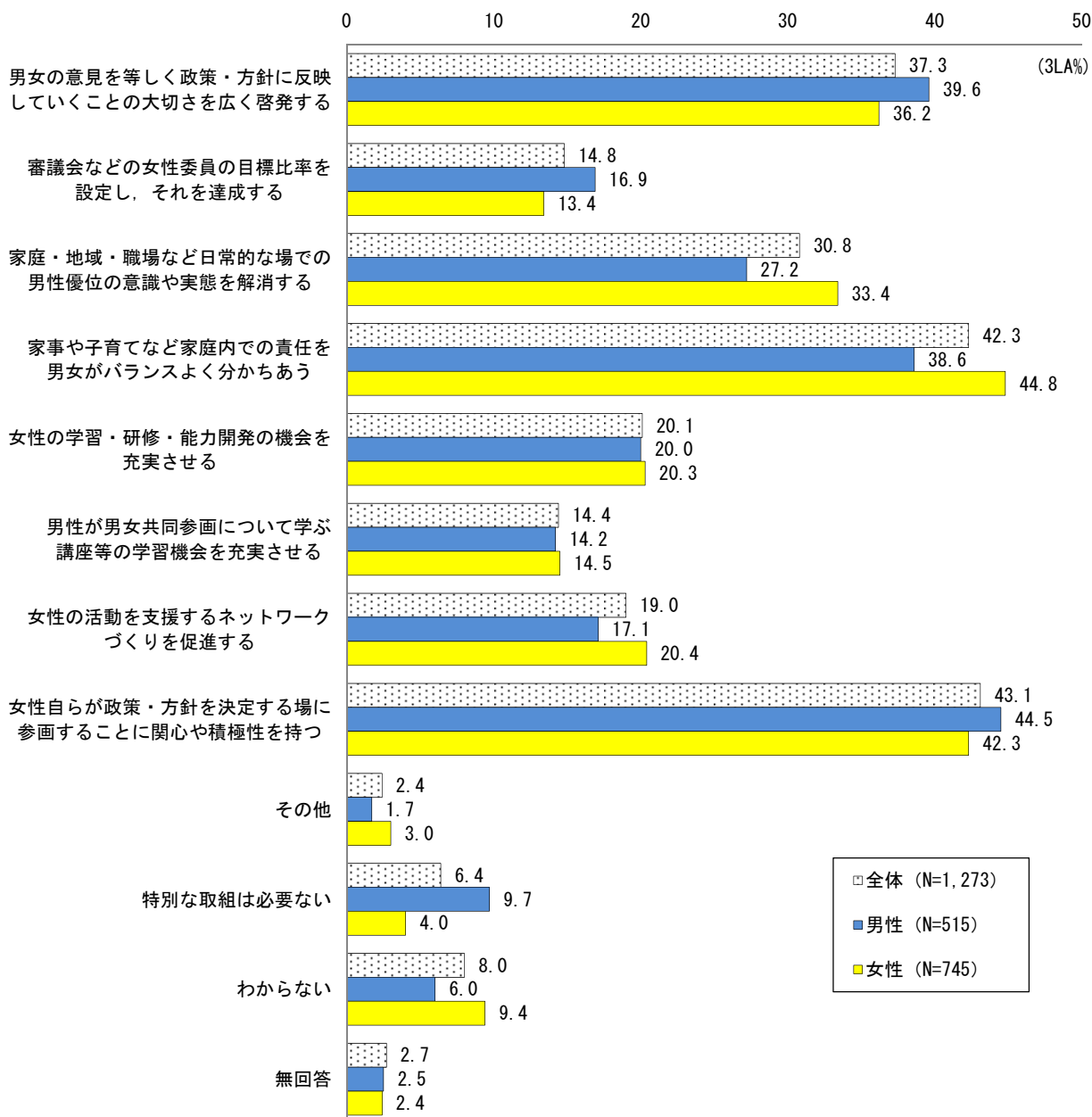


- ・ 「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かちあう」が最も多く、次いで「男女の意見を等しく政策・方針に反映していくことの大切さを広く啓発する」
- ・ 「女性自らが政策・方針を決定する場に参画することに関心や積極性を持つ」が前回より減少

政策・方針決定における男女平等な参画についてみると、「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かちあう」が 38.3%と最も多く、次いで「男女の意見を等しく政策・方針に反映していくことの大切さを広く啓発する」(33.9%)、「女性自らが政策・方針を決定する場に参画することに関心や積極性を持つ」(33.6%) となっている。

性別でみると，男性では「男女の意見を等しく政策・方針に反映していくことの大切さを広く啓発する」が 39.3%，女性では「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かちあう」が 41.3%と，それぞれ最も多くなっている。

【図表 2-7-1 政策・方針決定における男女平等な参画について《前回調査結果》（複数回答）】

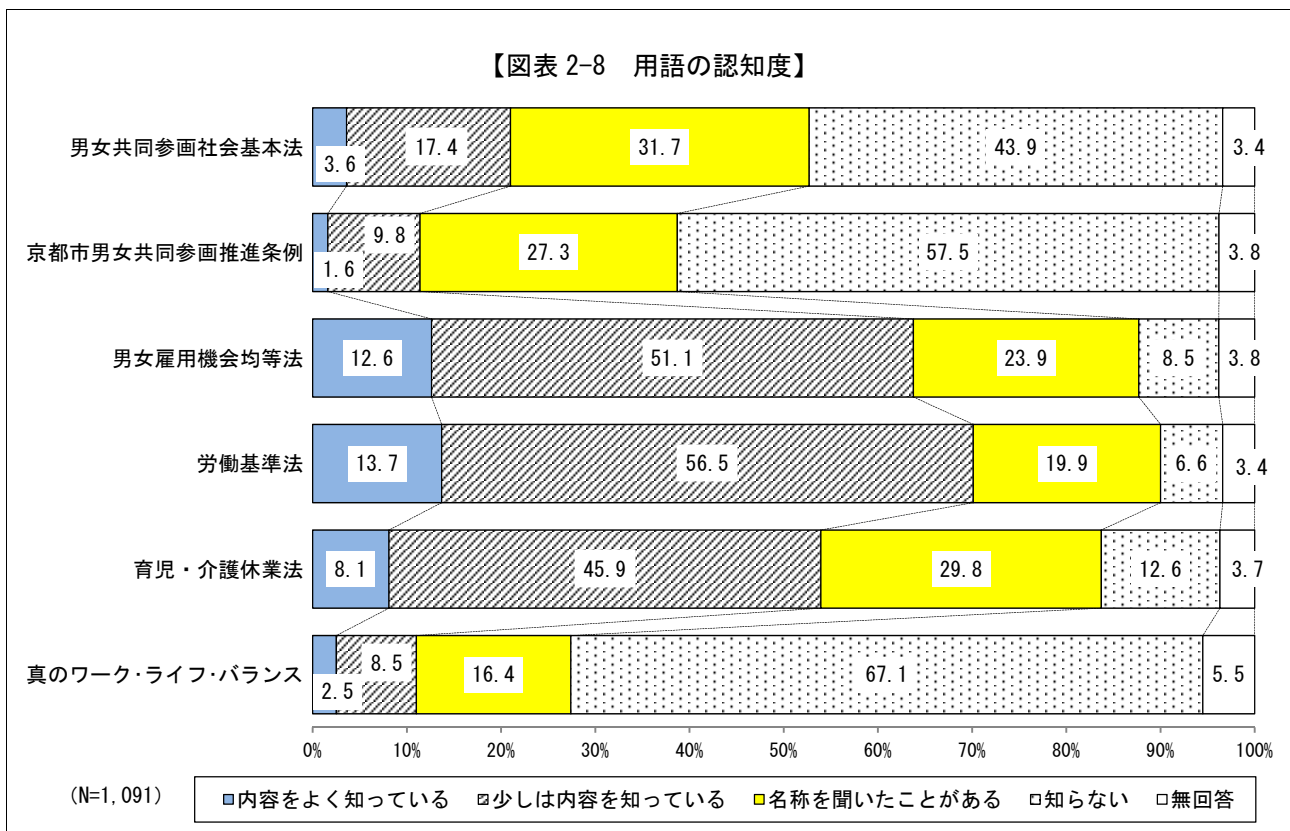


※前回調査では『組織のトップから男女共同参画に関する意識を変える』の項目設定なし

政策・方針決定における男女平等な参画について，前回調査（平成 21 年度）との比較では，「女性自らが政策・方針を決定する場に参画することに関心や積極性を持つ」が男性で 11.2 ポイント，女性で 8.1 ポイント低下している。

(7) 用語の認知度

問7 あなたは、次の名称や言葉について御存知ですか。【それぞれ1つに○】



・ 「京都市男女共同参画推進条例」「真のワーク・ライフ・バランス」の認知度が低い

男女共同参画に関連する名称や言葉の認知度をみると、「内容をよく知っている」と「少しは内容を知っている」の合計が「労働基準法」で70.2%と最も多く、次いで「男女雇用機会均等法」(63.7%)、「育児・介護休業法」(54.0%)となっている。一方、「知らない」が「真のワーク・ライフ・バランス」(67.1%)、「京都市男女共同参画推進条例」(57.5%)で多い。

【図表 2-8-1 性別・調査年度別 用語の認知度「男女共同参画社会基本法」】

<今回> ・全体：N=1,091 ・男性：N=438 ・女性：N=640 <前回> ・全体：N=1,273 ・男性：N=515 ・女性：N=745		内容をよく知っている	少しは内容を知っている	名称を聞いたことがある	知らない	無回答
全体	今回	3.6%	17.4%	31.7%	43.9%	3.4%
	前回	1.7%	14.0%	27.1%	52.0%	5.2%
男性	今回	5.3%	22.1%	32.2%	38.6%	1.8%
	前回	2.5%	14.8%	27.8%	49.9%	5.0%
女性	今回	2.5%	14.1%	31.6%	47.7%	4.2%
	前回	1.2%	13.7%	26.7%	53.7%	4.7%

「男女共同参画社会基本法」の認知度について、性別で見ると、「知らない」が男性(38.6%)に比べて女性(47.7%)の方が9.1ポイント高い。

前回調査(平成21年度)との比較では、「内容をよく知っている」と「少しは内容を知っている」の合計が、男性で10.1ポイント、女性で1.7ポイント上昇しており、「知らない」と回答した人は男性で11.3ポイント、女性で6.0ポイント低下している。

【図表 2-8-2 性別・調査年度別 用語の認知度「京都市男女共同参画推進条例」】

<今回> ・全体：N=1,091 ・男性：N=438 ・女性：N=640 <前回> ・全体：N=1,273 ・男性：N=515 ・女性：N=745		内容をよく知っている	少しは内容を知っている	名称を聞いたことがある	知らない	無回答
全体	今回	1.6%	9.8%	27.3%	57.5%	3.8%
	前回	1.2%	7.7%	20.7%	64.2%	6.3%
男性	今回	1.8%	12.1%	27.9%	55.5%	2.7%
	前回	1.4%	8.5%	17.3%	66.6%	6.2%
女性	今回	1.4%	8.3%	26.9%	59.1%	4.4%
	前回	1.1%	7.2%	23.0%	62.8%	5.9%

「京都市男女共同参画推進条例」の認知度について、性別で見ると、「知らない」が男性(55.5%)、女性(59.1%)とも半数以上となっている。

前回調査(平成21年度)との比較では、「名称を聞いたことがある」が男性で10.6ポイント、女性で3.9ポイント上昇しており、「知らない」と回答した人は、男性で11.1ポイント、女性で3.7ポイント低下している。

【図表 2-8-3 性別・調査年度別 用語の認知度「男女雇用機会均等法」】

<今回> ・全体：N=1,091 ・男性：N=438 ・女性：N=640 <前回> ・全体：N=1,273 ・男性：N=515 ・女性：N=745		内容をよく知っている	少しは内容を知っている	名称を聞いたことがある	知らない	無回答
	前回	11.8%	50.4%	25.4%	7.5%	4.9%
男性	今回	15.1%	52.1%	23.1%	6.4%	3.4%
	前回	14.4%	48.0%	24.7%	7.8%	5.2%
女性	今回	11.1%	50.8%	24.7%	9.8%	3.6%
	前回	10.2%	52.2%	26.2%	7.2%	4.2%

「男女雇用機会均等法」の認知度について、性別で見ると、「内容をよく知っている」と「少しは内容を知っている」の合計が、男性（67.2%）、女性（61.9%）とも6割以上となっている。

前回調査（平成 21 年度）との比較では、「内容をよく知っている」と「少しは内容を知っている」の合計が、男性で 4.8 ポイント上昇している。

【図表 2-8-4 性別・調査年度別 用語の認知度「労働基準法」】

<今回> ・全体：N=1,091 ・男性：N=438 ・女性：N=640 <前回> ・全体：N=1,273 ・男性：N=515 ・女性：N=745		内容をよく知っている	少しは内容を知っている	名称を聞いたことがある	知らない	無回答
	前回	13.5%	54.6%	21.9%	5.3%	4.7%
男性	今回	16.9%	56.6%	17.6%	5.5%	3.4%
	前回	17.5%	52.2%	19.8%	5.8%	4.7%
女性	今回	11.6%	56.6%	21.6%	7.2%	3.1%
	前回	10.9%	56.4%	23.5%	5.0%	4.3%

「労働基準法」の認知度について、性別で見ると、「内容をよく知っている」と「少しは内容を知っている」の合計が男性で 73.5%、女性で 68.2%となっている。

前回調査（平成 21 年度）との比較では、「内容をよく知っている」と「少しは内容を知っている」の合計が、男性で 3.8 ポイント、女性で 0.9 ポイント上昇している。

【図表 2-8-5 性別・調査年度別 用語の認知度「育児・介護休業法」】

<今回> ・全体：N=1,091 ・男性：N=438 ・女性：N=640 <前回> ・全体：N=1,273 ・男性：N=515 ・女性：N=745		内容をよく知っている	少しは内容を知っている	名称を聞いたことがある	知らない	無回答
全体	今回	8.1%	45.9%	29.8%	12.6%	3.7%
	前回	9.8%	47.1%	27.2%	10.8%	5.0%
男性	今回	7.5%	44.3%	32.0%	13.2%	3.0%
	前回	10.3%	42.1%	28.9%	13.4%	5.2%
女性	今回	8.4%	47.2%	28.6%	11.9%	3.9%
	前回	9.7%	50.7%	26.2%	9.3%	4.2%

「育児・介護休業法」の認知度について、性別で見ると、「内容をよく知っている」と「少しは内容を知っている」の合計が、男性（51.8%）、女性（55.6%）共に半数以上となっている。

前回調査（平成 21 年度）との比較では、「内容をよく知っている」と「少しは内容を知っている」の合計が、男性で 0.6 ポイント、女性で 4.8 ポイント低下している。

【図表 2-8-6 性別・調査年度別 用語の認知度「真のワーク・ライフ・バランス」】

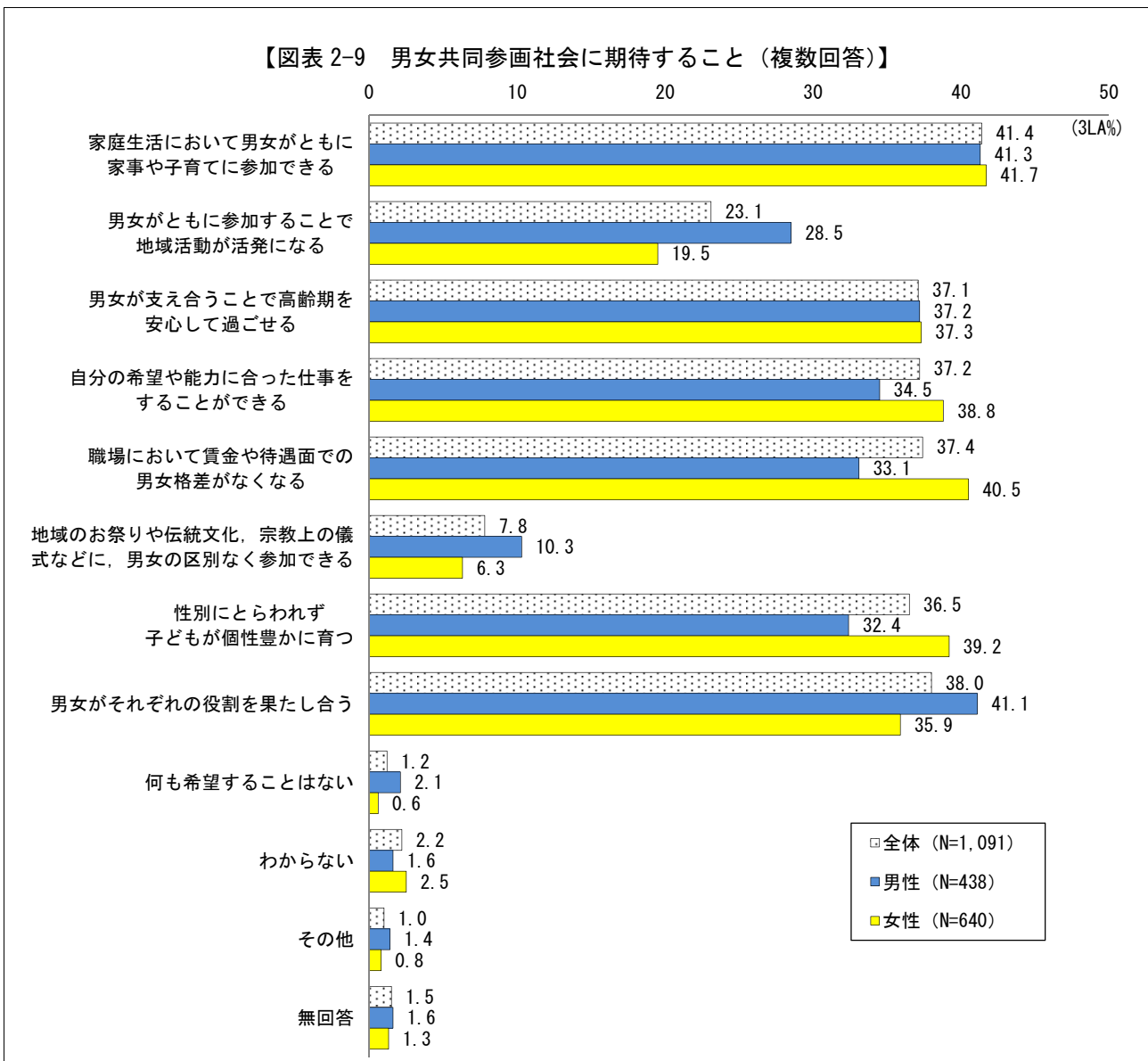
<今回> ・全体：N=1,091 ・男性：N=438 ・女性：N=640 <前回> ・全体：N=1,273 ・男性：N=515 ・女性：N=745		内容をよく知っている	少しは内容を知っている	名称を聞いたことがある	知らない	無回答
全体	今回	2.5%	8.5%	16.4%	67.1%	5.5%
	前回	—	—	—	—	—
男性	今回	2.3%	11.0%	17.8%	64.8%	4.1%
	前回	—	—	—	—	—
女性	今回	2.7%	6.7%	15.3%	69.1%	6.3%
	前回	—	—	—	—	—

※前回調査では項目設定なし

「真のワーク・ライフ・バランス」の認知度について、性別で見ると、「知らない」が男性（64.8%）、女性（69.1%）共に 6 割以上となっている。

(8) 男女共同参画社会に期待すること

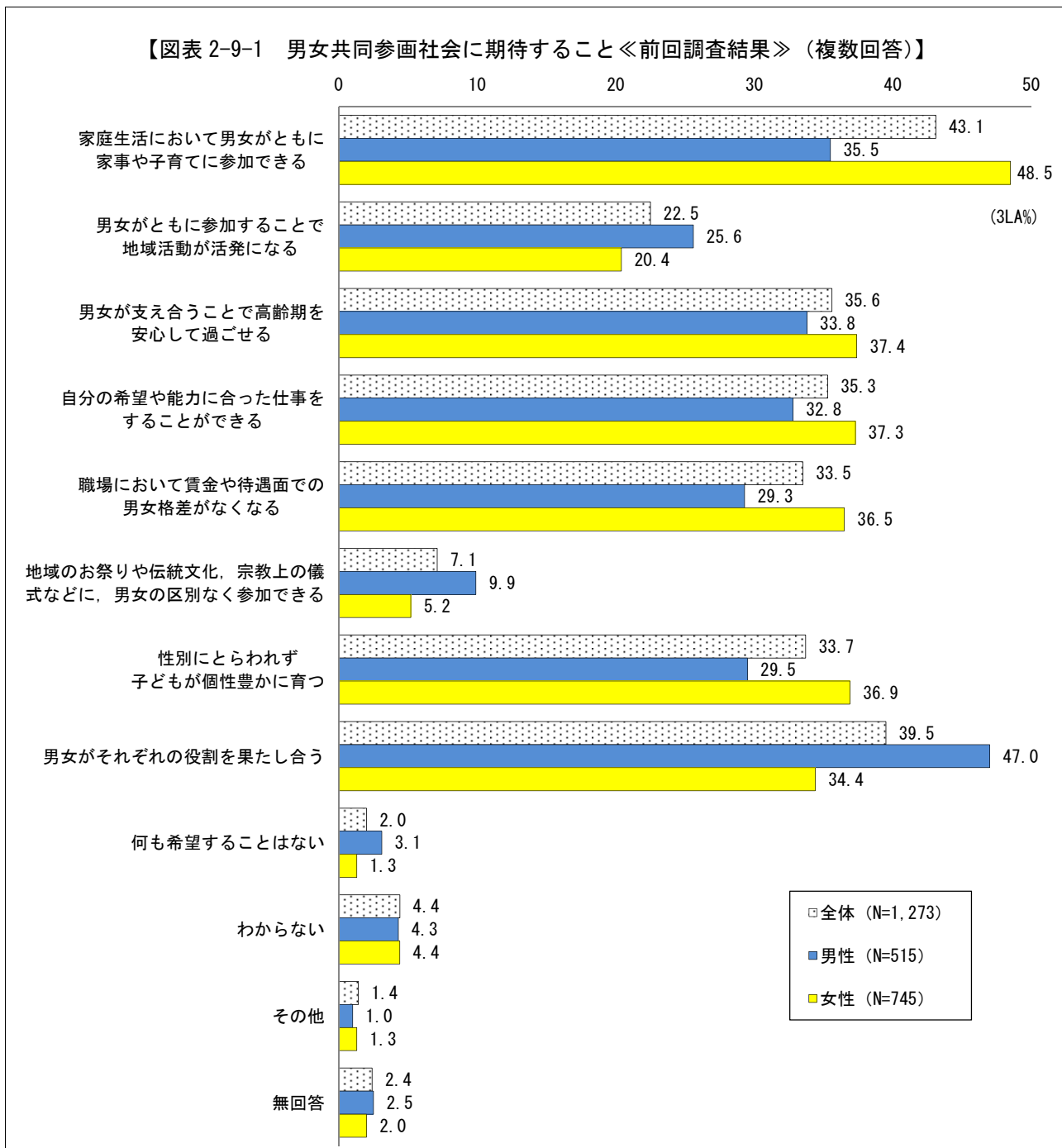
問8 あなたが「男女共同参画社会」に期待することは何ですか。【3つまでに○】



- ・ 「家庭生活において男女がともに家事や子育てに参加できる」が最も多く、次いで「男女がそれぞれの役割を果たし合う」
- ・ 男女共に「家庭生活において男女がともに家事や子育てに参加できる」が最も多く、次いで、男性では「男女がそれぞれの役割を果たし合う」、女性では「職場において賃金や待遇面での男女格差がなくなる」

「男女共同参画社会」に期待することをみると、「家庭生活において男女がともに家事や子育てに参加できる」が41.4%と最も多く、次いで「男女がそれぞれの役割を果たし合う」(38.0%)、「職場において賃金や待遇面での男女格差がなくなる」(37.4%)、「自分の希望や能力に合った仕事ができる」(37.2%)、「男女が支え合うことで高齢期を安心して過ごせる」(37.1%)となっている。

性別でみると、男女共に「家庭生活において男女がともに家事や子育てに参加できる」（男性 41.3%，女性 41.7%）が最も多く、次いで、男性では「男女がそれぞれの役割を果たし合う」（41.1%），女性では「職場において賃金や待遇面での男女格差がなくなる」（40.5%）となっている。



男女共同参画社会に期待することについて、前回調査（平成 21 年度）との比較では、「家庭生活において男女がともに家事や子育てに参加できる」が男性で 5.8 ポイント上昇し、女性で 6.8 ポイント低下している。また、「男女がそれぞれの役割を果たし合う」が男性で 5.9 ポイント低下している。

【図表 2-9-2 性別・年齢別 男女共同参画社会に期待すること（複数回答）】

	子育てに 参加でき る	家庭生 活にお いて子 育	男女が ともに 地域に 参加す る	男女が 支え合 うこと で	男女の 年齢を えんじ て	自分の 希望や 能力に 合った 仕事	職場に おいて 賃金や 待遇	文化祭 など、 宗教的 行事に 参加	地域お おのり 祭りや 伝統的 行事	性別に よって 個性に 合わせた 子育て	男女が それぞれ の役割
男性全体 (N=438)	41.3%	28.5%	37.2%	34.5%	33.1%	10.3%	32.4%	41.1%			
20歳代 (N=30)	43.3%	13.3%	16.7%	33.3%	30.0%	3.3%	50.0%	16.7%			
30歳代 (N=51)	60.8%	21.6%	25.5%	49.0%	27.5%	2.0%	35.3%	31.4%			
40歳代 (N=62)	35.5%	27.4%	30.6%	37.1%	27.4%	12.9%	30.6%	35.5%			
50歳代 (N=70)	40.0%	28.6%	34.3%	28.6%	37.1%	2.9%	38.6%	48.6%			
60歳代 (N=94)	35.1%	30.9%	40.4%	40.4%	38.3%	7.4%	28.7%	47.9%			
70歳代以上 (N=129)	41.1%	34.1%	48.1%	25.6%	32.6%	19.4%	27.9%	44.2%			
女性全体 (N=640)	41.7%	19.5%	37.3%	38.8%	40.5%	6.3%	39.2%	35.9%			
20歳代 (N=51)	58.8%	11.8%	25.5%	47.1%	52.9%	2.0%	31.4%	23.5%			
30歳代 (N=89)	48.3%	23.6%	27.0%	41.6%	46.1%	3.4%	44.9%	25.8%			
40歳代 (N=108)	43.5%	21.3%	27.8%	35.2%	40.7%	3.7%	37.0%	37.0%			
50歳代 (N=97)	36.1%	11.3%	35.1%	47.4%	44.3%	6.2%	41.2%	30.9%			
60歳代 (N=151)	35.8%	15.2%	43.7%	41.1%	43.0%	4.6%	41.1%	35.1%			
70歳代以上 (N=144)	40.3%	28.5%	50.0%	28.5%	27.1%	13.2%	36.8%	50.0%			

	何もし ない希 望する こと	わか らない	そ の 他	無 回 答
男性全体 (N=438)	2.1%	1.6%	1.4%	1.6%
20歳代 (N=30)	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%
30歳代 (N=51)	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%
40歳代 (N=62)	0.0%	3.2%	4.8%	1.6%
50歳代 (N=70)	1.4%	1.4%	0.0%	0.0%
60歳代 (N=94)	0.0%	2.1%	2.1%	3.2%
70歳代以上 (N=129)	0.8%	1.6%	0.8%	2.3%
女性全体 (N=640)	0.6%	2.5%	0.8%	1.3%
20歳代 (N=51)	2.0%	0.0%	0.0%	2.0%
30歳代 (N=89)	2.2%	1.1%	0.0%	1.1%
40歳代 (N=108)	0.0%	3.7%	0.9%	1.9%
50歳代 (N=97)	0.0%	2.1%	2.1%	0.0%
60歳代 (N=151)	0.7%	2.0%	1.3%	1.3%
70歳代以上 (N=144)	0.0%	4.2%	0.0%	1.4%

性別・年齢別で男女共同参画社会に期待することをみると、男性の20歳代では「性別にとらわれず子どもが個性豊かに育つ」、30歳代では「家庭生活において男女がともに家事や子育てに参加できる」、40歳代では「自分の希望や能力に合った仕事をする事ができる」、50～60歳代では「男女がそれぞれの役割を果たし合う」、70歳代以上では「男女が支え合うことで高齢期を安心して過ごせる」がそれぞれ最も多くなっている。

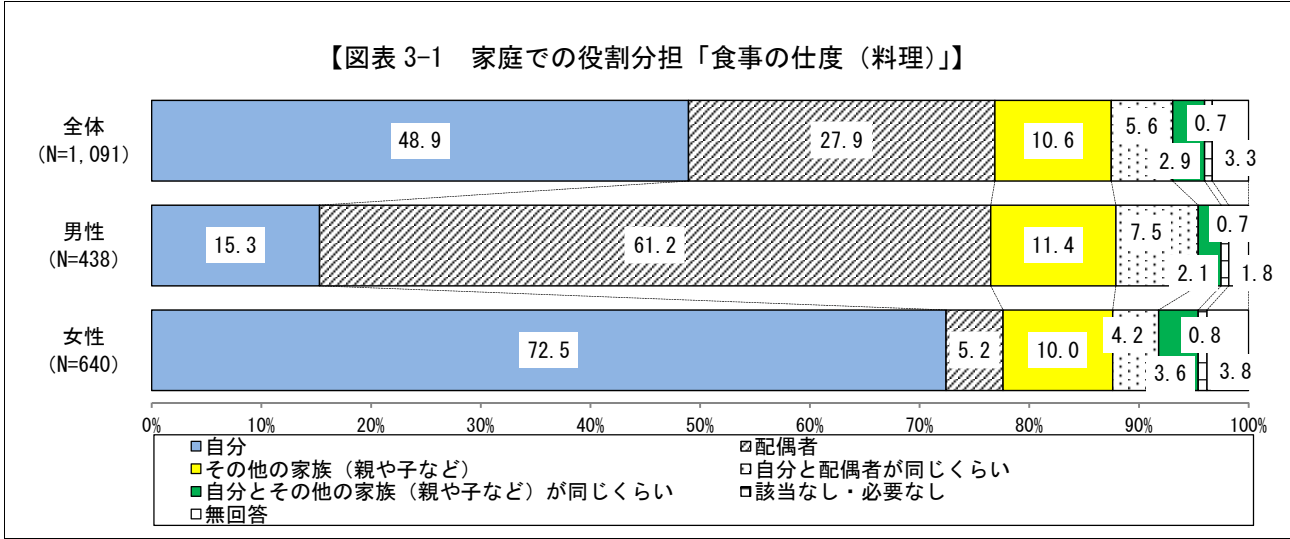
一方、女性の20～40歳代では「家庭生活において男女がともに家事や子育てに参加できる」、50歳代では「自分の希望や能力に合った仕事をする事ができる」、60歳以上では「男女が支え合うことで高齢期を安心して過ごせる」がそれぞれ最も多い。また、70歳代以上を除く全ての年齢層においては、女性の方が「職場において賃金や待遇面での男女格差がなくなる」で男性に比べて多くなっている。

3 家庭生活や地域活動について

(1) 家庭での役割分担

ア 食事

問9 あなたのご家庭では、次のことからは主にどなたが担当・決定されていますか。
【それぞれ1つに○】



・ 「食事」に関する分野は主に女性が担当している

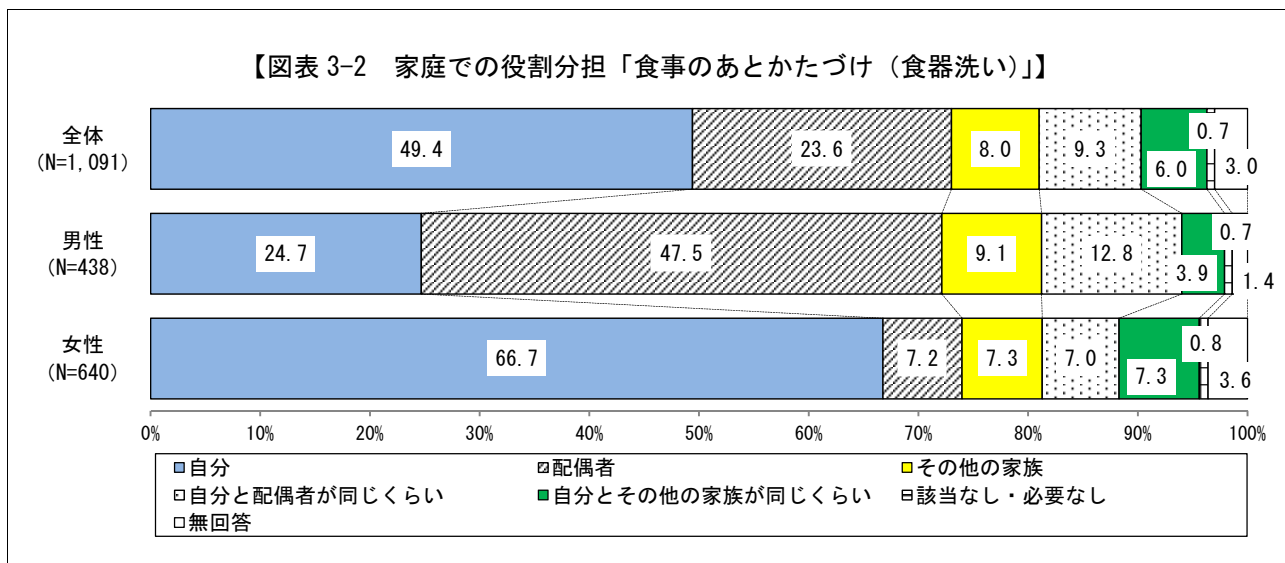
食事に関する分野での「食事の仕度（料理）」の役割分担をみると、男性では「配偶者」が61.2%、女性では「自分」が72.5%と最も多くなっている。特に女性では「自分」以外の全ての項目の回答率は1割以下となっている。

【図表 3-1-1 性別・調査年度別 家庭での役割分担「食事の仕度（料理）」】

		自分	配偶者	その他の家族	自分と配偶者が同じくらい	自分とその他の家族が同じくらい	該当なし・必要なし	無回答
＜今回＞								
・ 全体：N=1,091								
・ 男性：N=438								
・ 女性：N=640								
＜前回＞								
・ 全体：N=1,273								
・ 男性：N=515								
・ 女性：N=745								
全体	今回	48.9%	27.9%	10.6%	5.6%	2.9%	0.7%	3.3%
	前回	50.5%	27.2%	9.9%	4.9%	3.1%	1.8%	2.6%
男性	今回	15.3%	61.2%	11.4%	7.5%	2.1%	0.7%	1.8%
	前回	16.5%	60.6%	10.5%	6.2%	2.7%	1.7%	1.7%
女性	今回	72.5%	5.2%	10.0%	4.2%	3.6%	0.8%	3.8%
	前回	74.1%	4.4%	9.5%	4.0%	3.4%	1.9%	2.7%

食事に関する分野での「食事の仕度（料理）」の役割分担について、前回調査（平成21年度）と比較しても、さほど大きな差異はみられない。

【図表 3-2 家庭での役割分担「食事のあとかたづけ（食器洗い）」】



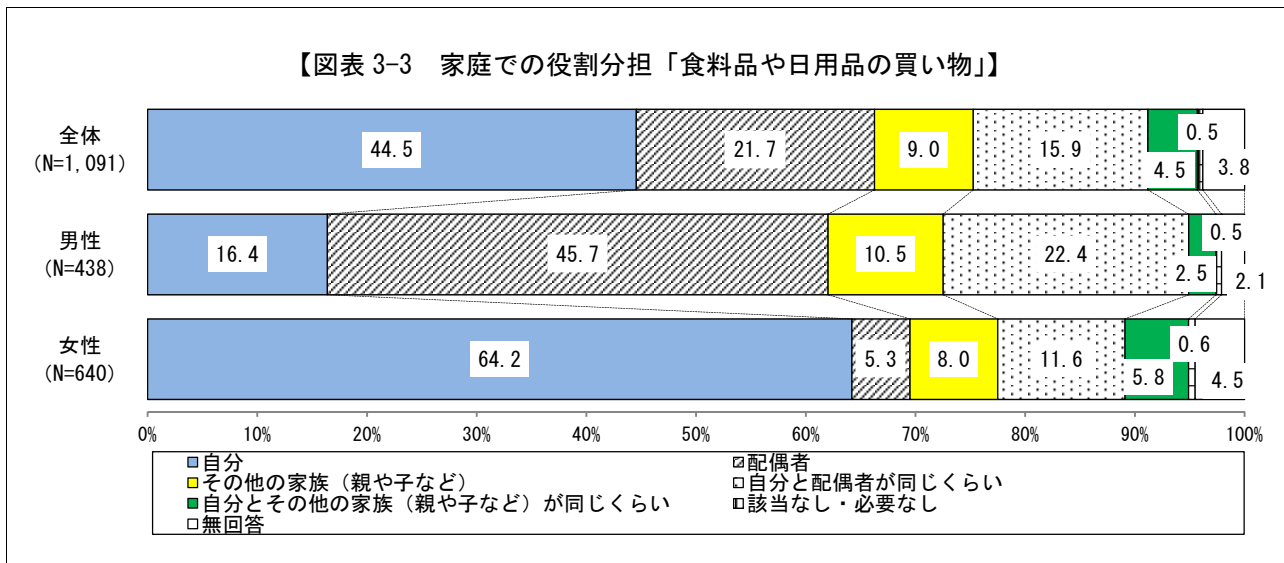
食事に関する分野での「食事のあとかたづけ（食器洗い）」の役割分担をみると、男性では「配偶者」が47.5%、女性では「自分」が66.7%と最も多くなっている。

【図表 3-2-1 性別・調査年度別 家庭での役割分担「食事のあとかたづけ（食器洗い）」】

		自分	配偶者	その他の家族	自分と配偶者が同じくらい	自分とその他の家族が同じくらい	該当なし・必要なし	無回答
<今回> ・全体：N=1,091 ・男性：N=438 ・女性：N=640								
<前回> ・全体：N=1,273 ・男性：N=515 ・女性：N=745								
全体	今回	49.4%	23.6%	8.0%	9.3%	6.0%	0.7%	3.0%
	前回	49.2%	23.3%	9.2%	8.9%	5.2%	1.5%	2.8%
男性	今回	24.7%	47.5%	9.1%	12.8%	3.9%	0.7%	1.4%
	前回	21.4%	47.2%	10.9%	13.4%	4.1%	1.2%	1.9%
女性	今回	66.7%	7.2%	7.3%	7.0%	7.3%	0.8%	3.6%
	前回	68.5%	7.0%	8.2%	5.9%	5.9%	1.7%	2.8%

食事に関する分野での「食事のあとかたづけ（食器洗い）」の役割分担について、前回調査（平成21年度）との比較では、「自分」が男性では3.3ポイント上昇し、女性では1.8ポイント低下している。また、女性では「自分と配偶者が同じくらい」が1.1ポイント、「自分とその他の家族が同じくらい」が1.4ポイント上昇している。

イ 家庭の管理と運営



- ・ 「家庭の管理と運営」に関する分野は「高額な家財道具の購入」「住宅の購入」以外は女性が中心

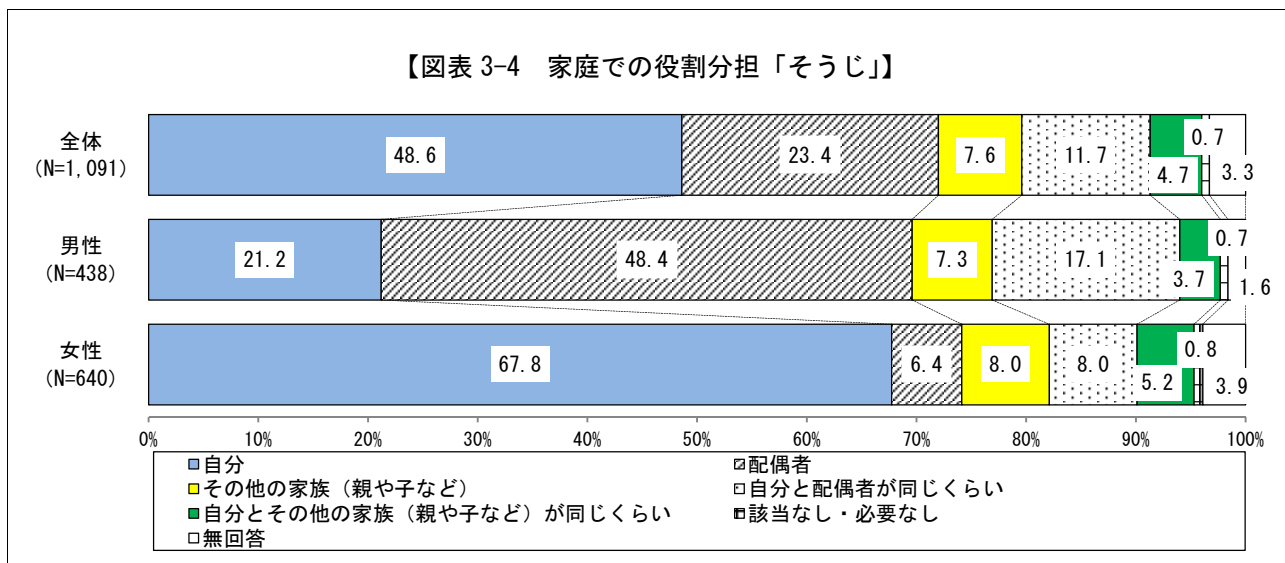
家庭の管理と運営に関する分野での「食料品や日用品の買い物」の役割分担をみると、男性では「配偶者」が45.7%、女性では「自分」が64.2%と最も多くなっている。

【図表 3-3-1 性別・調査年度別 家庭での役割分担「食料品や日用品の買い物」】

		自分	配偶者	その他の家族	自分と配偶者が同じくらい	自分とその他の家族が同じくらい	該当なし・必要なし	無回答
<今回> ・全体：N=1,091 ・男性：N=438 ・女性：N=640								
<前回> ・全体：N=1,273 ・男性：N=515 ・女性：N=745								
全体	今回	44.5%	21.7%	9.0%	15.9%	4.5%	0.5%	3.8%
	前回	46.3%	22.4%	8.9%	12.4%	5.6%	1.1%	3.3%
男性	今回	16.4%	45.7%	10.5%	22.4%	2.5%	0.5%	2.1%
	前回	19.0%	47.8%	9.1%	16.9%	3.5%	0.8%	2.9%
女性	今回	64.2%	5.3%	8.0%	11.6%	5.8%	0.6%	4.5%
	前回	65.2%	5.1%	8.7%	9.5%	7.0%	1.3%	3.1%

家庭の管理と運営に関する分野での「食料品や日用品の買い物」の役割分担について、前回調査（平成21年度）との比較では、「自分と配偶者が同じくらい」が男性で5.5ポイント、女性で2.1ポイント上昇している。

【図表 3-4 家庭での役割分担「そうじ」】

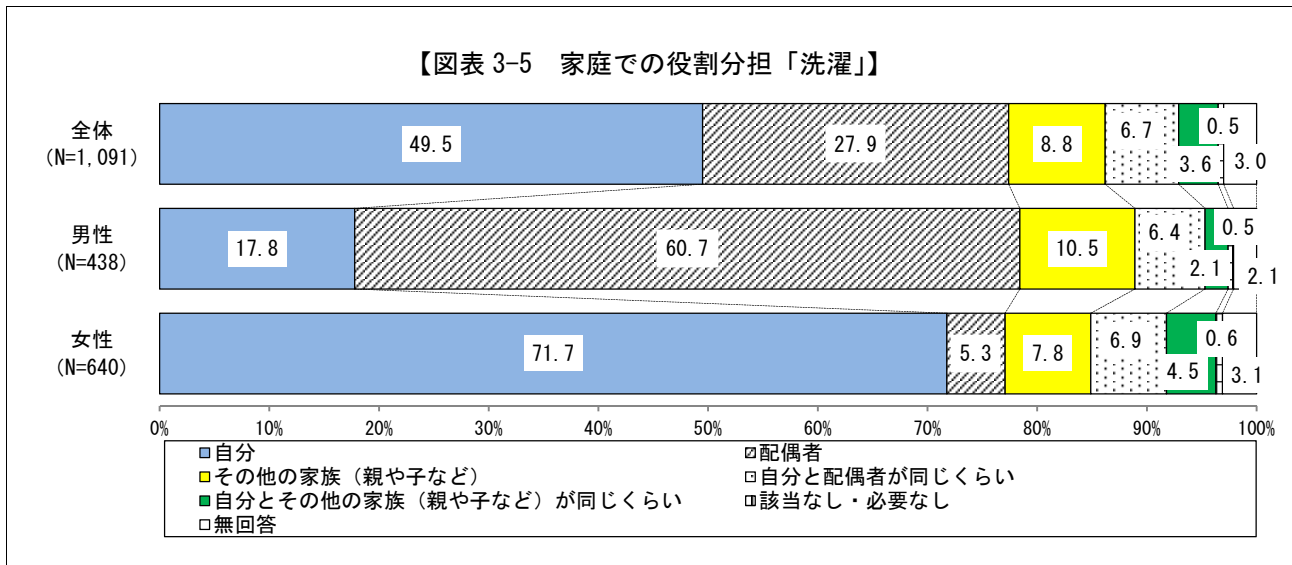


家庭の管理と運営に関する分野での「そうじ」の役割分担をみると、男性では「配偶者」が48.4%、女性では「自分」が67.8%と最も多くなっており、特に女性では「自分」以外の全ての項目の回答率は1割未満となっている。

【図表 3-4-1 性別・調査年度別 家庭での役割分担「そうじ」】

		自分	配偶者	その他の家族	自分と配偶者が同じくらい	自分とその他の家族が同じくらい	該当なし・必要なし	無回答
		<今回> ・全体：N=1,091 ・男性：N=438 ・女性：N=640 <前回> ・全体：N=1,273 ・男性：N=515 ・女性：N=745						
全体	今回	48.6%	23.4%	7.6%	11.7%	4.7%	0.7%	3.3%
	前回	48.5%	22.3%	8.0%	11.3%	5.5%	0.9%	3.5%
男性	今回	21.2%	48.4%	7.3%	17.1%	3.7%	0.7%	1.6%
	前回	21.7%	46.6%	9.1%	15.3%	3.5%	0.6%	3.1%
女性	今回	67.8%	6.4%	8.0%	8.0%	5.2%	0.8%	3.9%
	前回	67.1%	5.8%	7.2%	8.6%	7.0%	1.1%	3.2%

家庭の管理と運営に関する分野での「そうじ」の役割分担について、前回調査（平成21年度）と比較しても、さほど大きな差異はみられない。



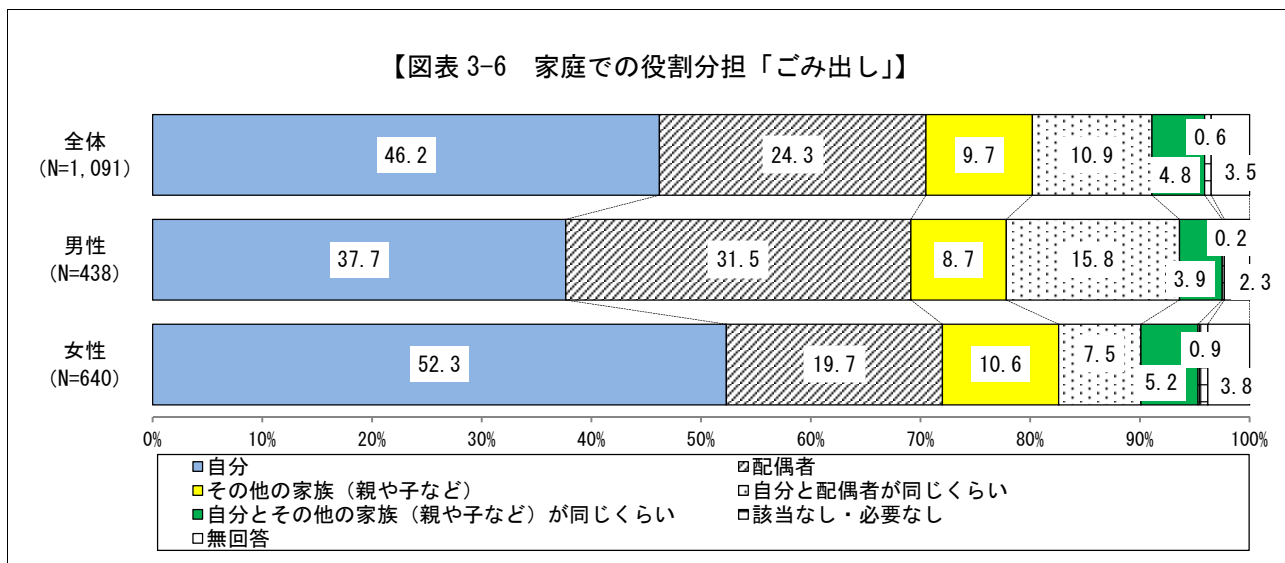
家庭の管理と運営に関する分野での「洗濯」の役割分担をみると、男性では「配偶者」が60.7%、女性では「自分」が71.7%と最も多くなっている。

【図表 3-5-1 性別・調査年度別 家庭での役割分担「洗濯」】

		自分	配偶者	その他の家族	自分と配偶者が同じくらい	自分とその他の家族が同じくらい	該当なし・必要なし	無回答
		<今回> ・全体：N=1,091 ・男性：N=438 ・女性：N=640 <前回> ・全体：N=1,273 ・男性：N=515 ・女性：N=745						
全体	今回	49.5%	27.9%	8.8%	6.7%	3.6%	0.5%	3.0%
	前回	52.2%	25.4%	9.6%	6.1%	2.9%	0.9%	3.0%
男性	今回	17.8%	60.7%	10.5%	6.4%	2.1%	0.5%	2.1%
	前回	18.1%	56.9%	11.5%	8.9%	1.2%	0.8%	2.7%
女性	今回	71.7%	5.3%	7.8%	6.9%	4.5%	0.6%	3.1%
	前回	76.0%	3.9%	8.2%	4.2%	4.2%	0.9%	2.7%

家庭の管理と運営に関する分野での「洗濯」の役割分担について、前回調査（平成21年度）との比較では、男性では「配偶者」が3.8ポイント上昇している。一方、女性では「自分」が4.3ポイント低下、「自分と配偶者が同じくらい」が2.7ポイント上昇している。

【図表 3-6 家庭での役割分担「ごみ出し」】



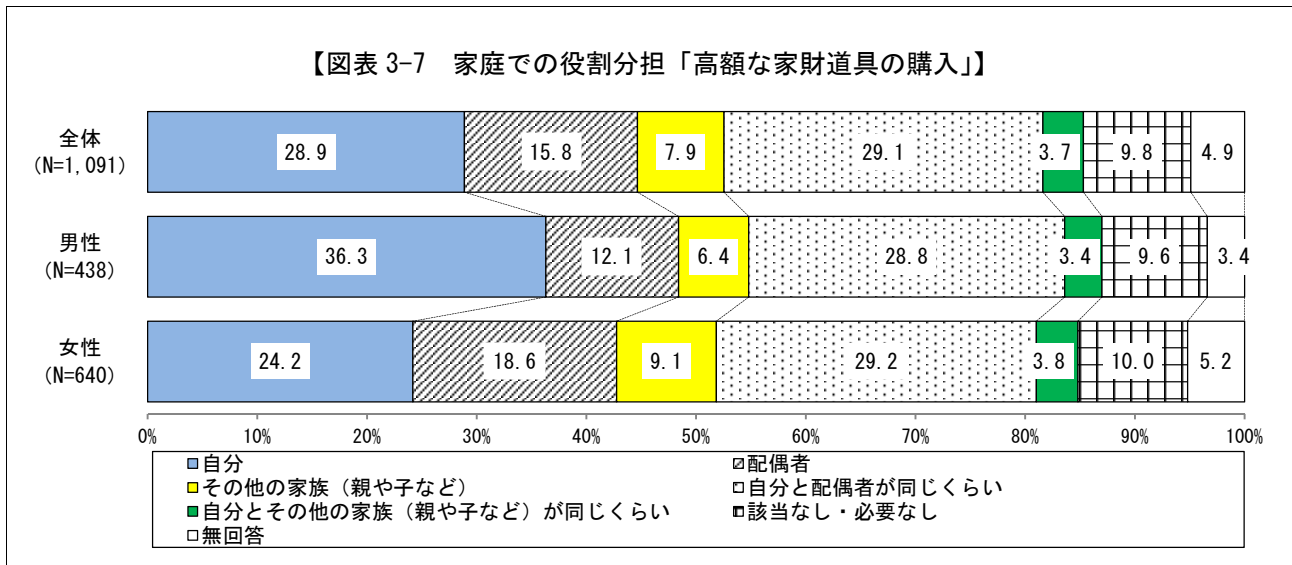
家庭の管理と運営に関する分野での「ごみ出し」の役割分担をみると、男女共に「自分」が最も多いが、男性に比べ女性の方が14.6ポイント上回っている。

【図表 3-6-1 性別・調査年度別 家庭での役割分担「ごみ出し」】

		自分	配偶者	その他の家族	自分と配偶者が同じくらい	自分とその他の家族が同じくらい	該当なし・必要なし	無回答
		<今回> ・全体：N=1,091 ・男性：N=438 ・女性：N=640 <前回> ・全体：N=1,273 ・男性：N=515 ・女性：N=745						
全体	今回	46.2%	24.3%	9.7%	10.9%	4.8%	0.6%	3.5%
	前回	48.2%	21.8%	10.8%	10.3%	4.0%	1.1%	3.7%
男性	今回	37.7%	31.5%	8.7%	15.8%	3.9%	0.2%	2.3%
	前回	36.5%	32.4%	9.9%	13.6%	3.1%	1.0%	3.5%
女性	今回	52.3%	19.7%	10.6%	7.5%	5.2%	0.9%	3.8%
	前回	56.2%	14.8%	11.7%	8.2%	4.7%	1.2%	3.2%

家庭の管理と運営に関する分野での「ごみ出し」の役割分担について、前回調査（平成21年度）との比較では、女性において「自分」が3.9ポイント低下しており、「配偶者」が4.9ポイント上昇している。

【図表 3-7 家庭での役割分担「高額な家財道具の購入」】



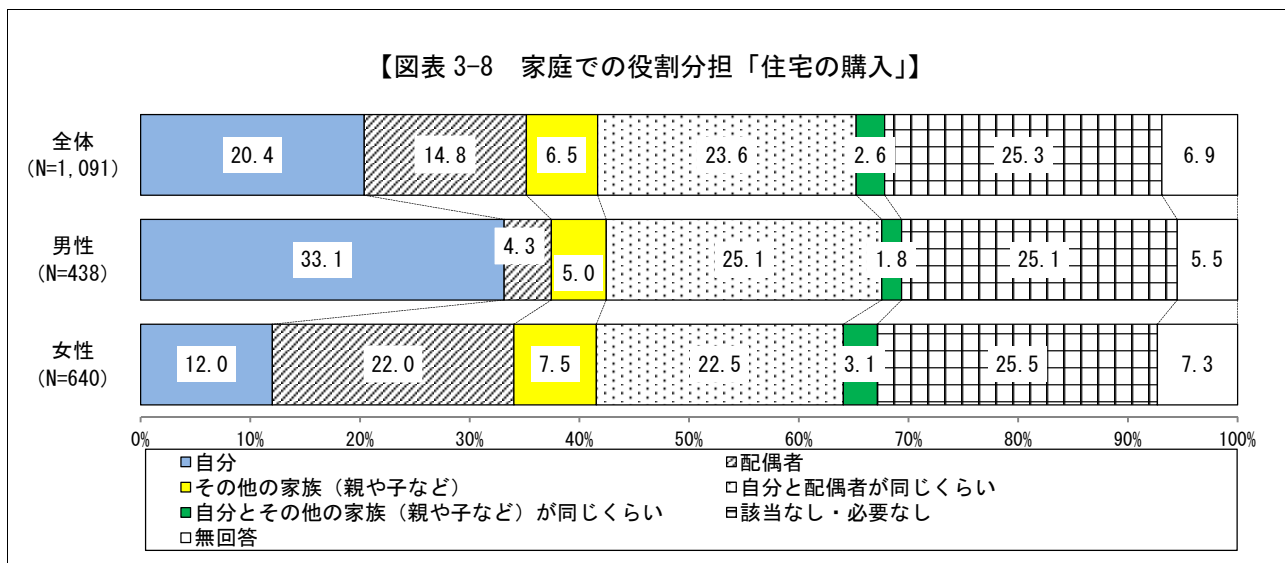
家庭の管理と運営に関する分野での「高額な家財道具の購入」の役割分担をみると、男性では「自分」が36.3%、女性では「自分と配偶者が同じくらい」が29.2%と最も多くなっている。

【図表 3-7-1 性別・調査年度別 家庭での役割分担「高額な家財道具の購入」】

		自分	配偶者	その他の家族	自分と配偶者が同じくらい	自分とその他の家族が同じくらい	該当なし・必要なし	無回答
<今回> ・全体：N=1,091 ・男性：N=438 ・女性：N=640								
<前回> ・全体：N=1,273 ・男性：N=515 ・女性：N=745								
全体	今回	28.9%	15.8%	7.9%	29.1%	3.7%	9.8%	4.9%
	前回	26.0%	14.7%	9.2%	28.0%	4.6%	12.1%	5.4%
男性	今回	36.3%	12.1%	6.4%	28.8%	3.4%	9.6%	3.4%
	前回	32.6%	10.7%	7.6%	29.5%	3.7%	11.5%	4.5%
女性	今回	24.2%	18.6%	9.1%	29.2%	3.8%	10.0%	5.2%
	前回	21.3%	17.6%	10.3%	27.4%	5.2%	12.5%	5.6%

家庭の管理と運営に関する分野での「高額な家財道具の購入」の役割分担について、前回調査（平成21年度）との比較では、「自分」が男性で3.7ポイント、女性で2.9ポイント上昇している。

【図表 3-8 家庭での役割分担「住宅の購入」】



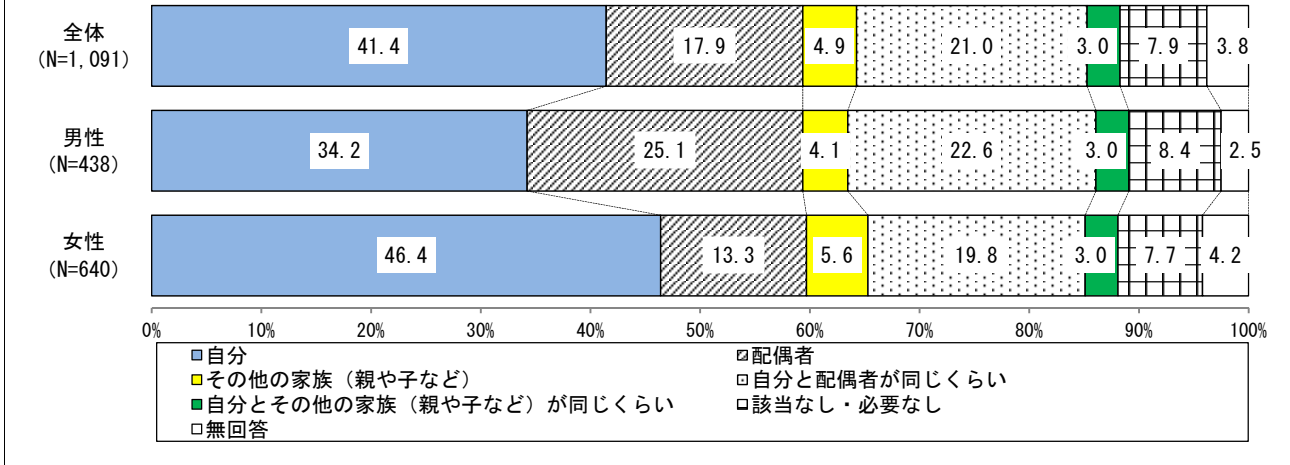
家庭の管理と運営に関する分野での「住宅の購入」の役割分担をみると、男性では「自分」が33.1%と最も多く、女性では「自分と配偶者が同じくらい」(22.5%)、「配偶者」(22.0%)が多い。

【図表 3-8-1 性別・調査年度別 家庭での役割分担「住宅の購入」】

		自分	配偶者	その他の家族	自分と配偶者が同じくらい	自分とその他の家族が同じくらい	該当なし・必要なし	無回答
<今回> ・全体：N=1,091 ・男性：N=438 ・女性：N=640								
<前回> ・全体：N=1,273 ・男性：N=515 ・女性：N=745								
全体	今回	20.4%	14.8%	6.5%	23.6%	2.6%	25.3%	6.9%
	前回	19.8%	14.0%	7.5%	21.2%	2.6%	27.3%	7.5%
男性	今回	33.1%	4.3%	5.0%	25.1%	1.8%	25.1%	5.5%
	前回	33.6%	4.5%	6.6%	22.1%	1.7%	24.5%	7.0%
女性	今回	12.0%	22.0%	7.5%	22.5%	3.1%	25.5%	7.3%
	前回	10.1%	20.8%	8.2%	20.8%	3.2%	29.5%	7.4%

家庭の管理と運営に関する分野での「住宅の購入」の役割分担について、前回調査（平成21年度）との比較では、「自分と配偶者が同じくらい」が男性で3.0ポイント、女性では「自分」が1.9ポイント上昇している。

【図表 3-9 家庭での役割分担「預貯金等の資産の運用」】



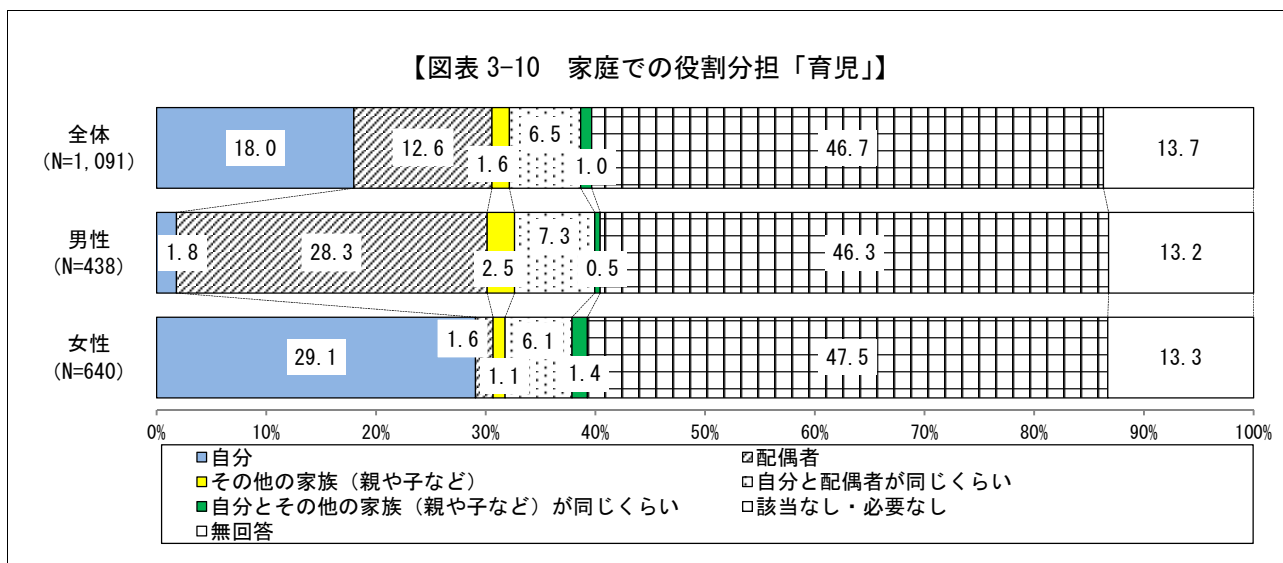
家庭の管理と運営に関する分野での「預貯金等の資産の運用」の役割分担をみると、男女共に「自分」が最も多いが、男性に比べ女性の方が12.2ポイント上回っている。

【図表 3-9-1 性別・調査年度別 家庭での役割分担「預貯金等の資産の運用」】

		自分	配偶者	その他の家族	自分と配偶者が同じくらい	自分とその他の家族が同じくらい	該当なし・必要なし	無回答
<今回> ・全体：N=1,091 ・男性：N=438 ・女性：N=640								
<前回> ・全体：N=1,273 ・男性：N=515 ・女性：N=745								
全体	今回	41.4%	17.9%	4.9%	21.0%	3.0%	7.9%	3.8%
	前回	37.2%	18.2%	5.8%	21.1%	3.0%	10.1%	4.7%
男性	今回	34.2%	25.1%	4.1%	22.6%	3.0%	8.4%	2.5%
	前回	30.5%	24.7%	5.8%	24.3%	2.5%	8.2%	4.1%
女性	今回	46.4%	13.3%	5.6%	19.8%	3.0%	7.7%	4.2%
	前回	41.7%	14.0%	5.8%	19.1%	3.4%	11.4%	4.7%

家庭の管理と運営に関する分野での「預貯金等の資産の運用」の役割分担について、前回調査（平成21年度）との比較では、「自分」が男性で3.7ポイント、女性で4.7ポイント上昇している。

ウ 子どもと介護の必要な高齢者・障害者



- ・ 「子どもと介護の必要な高齢者・障害者」に関する分野では、男性が担当する部分は非常に少ない

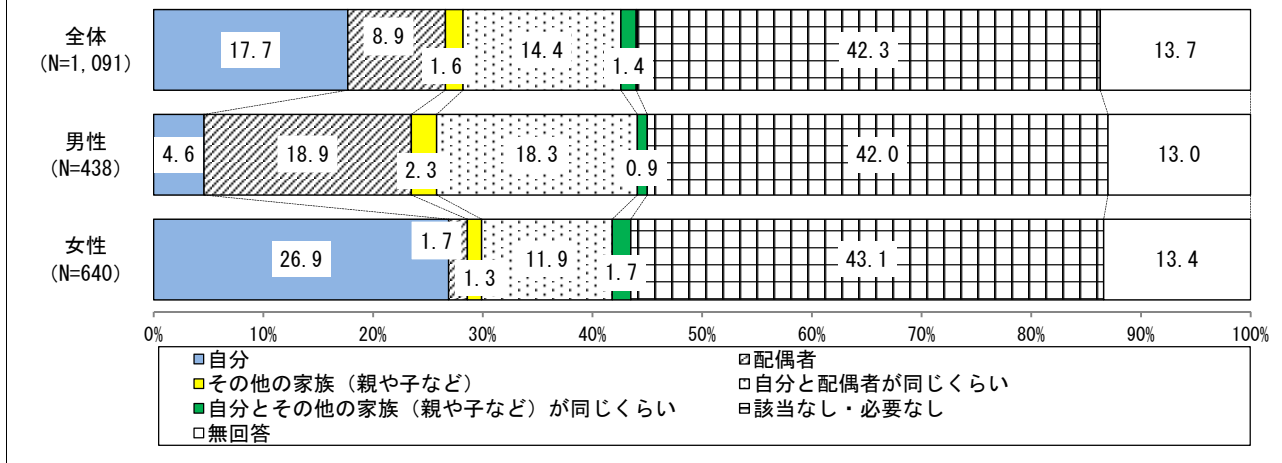
子どもと介護の必要な高齢者・障害者に関する分野での「育児」の役割分担をみると、「該当なし・必要なし」を除くと、男性では「配偶者」が28.3%、女性では「自分」が29.1%と最も多くなっている。

【図表 3-10-1 性別・調査年度別 家庭での役割分担「育児」】

		自分	配偶者	その他の家族	く自分 ら自分 いと 配偶 者が 同じ	が自分 と同じ くそ らの 他の 家族	該 当 な し ・ 必 要 な し	無 回 答
<今回> ・全体：N=1,091 ・男性：N=438 ・女性：N=640								
<前回> ・全体：N=1,273 ・男性：N=515 ・女性：N=745								
全体	今回	18.0%	12.6%	1.6%	6.5%	1.0%	46.7%	13.7%
	前回	18.0%	13.2%	2.4%	6.2%	0.9%	44.9%	14.5%
男性	今回	1.8%	28.3%	2.5%	7.3%	0.5%	46.3%	13.2%
	前回	2.1%	30.3%	2.9%	8.5%	0.6%	41.7%	13.8%
女性	今回	29.1%	1.6%	1.1%	6.1%	1.4%	47.5%	13.3%
	前回	29.1%	1.6%	2.0%	4.7%	1.1%	47.4%	14.1%

子どもと介護の必要な高齢者・障害者に関する分野での「育児」の役割分担について、前回調査（平成21年度）と比較しても、さほど大きな差異はみられない。

【図表 3-11 家庭での役割分担「子どもの日常的なしつけ」】



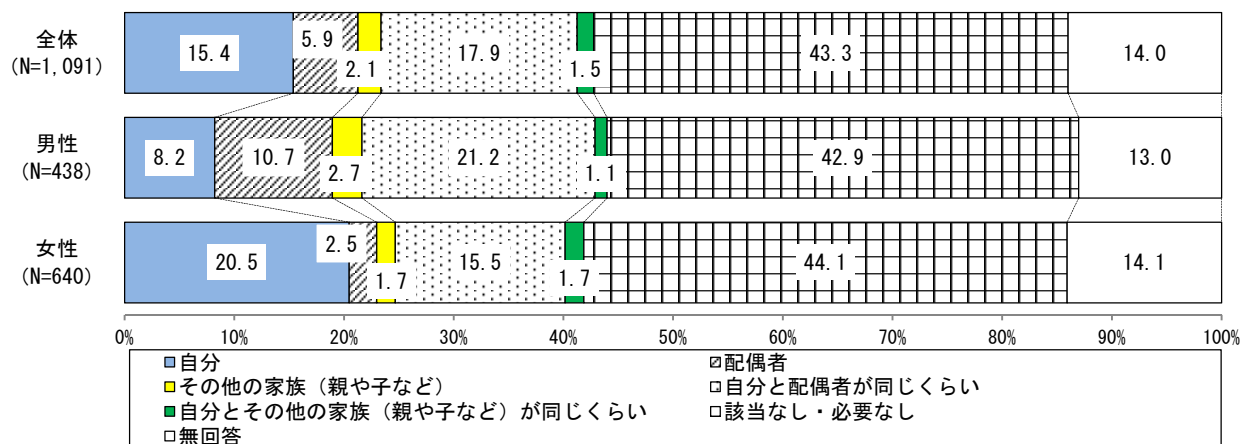
子どもと介護の必要な高齢者・障害者に関する分野での「子どもの日常的なしつけ」の役割分担をみると、「該当なし・必要なし」を除くと、男性では「配偶者」が18.9%、女性では「自分」が26.9%と最も多くなっている。

【図表 3-11-1 性別・調査年度別 家庭での役割分担「子どもの日常的なしつけ」】

		自分	配偶者	その他の家族	く自分 ら自分 いと 配偶 者が 同じ	が自 分 じと くそ らの い 他の 家 族	該 当 な し ・ 必 要 な し	無 回 答
<今回> ・全体：N=1,091 ・男性：N=438 ・女性：N=640 <前回> ・全体：N=1,273 ・男性：N=515 ・女性：N=745								
全体	今回	17.7%	8.9%	1.6%	14.4%	1.4%	42.3%	13.7%
	前回	16.6%	10.1%	2.3%	13.5%	2.4%	40.8%	14.4%
男性	今回	4.6%	18.9%	2.3%	18.3%	0.9%	42.0%	13.0%
	前回	2.9%	22.5%	3.3%	18.3%	2.3%	37.3%	13.4%
女性	今回	26.9%	1.7%	1.3%	11.9%	1.7%	43.1%	13.4%
	前回	26.2%	1.6%	1.6%	10.5%	2.1%	43.6%	14.4%

子どもと介護の必要な高齢者・障害者に関する分野での「子どもの日常的なしつけ」の役割分担について、前回調査（平成21年度）との比較では、男性において「自分」が1.7ポイント上昇し、「配偶者」が3.6ポイント低下している。

【図表 3-12 家庭での役割分担「子どもとの遊び」】



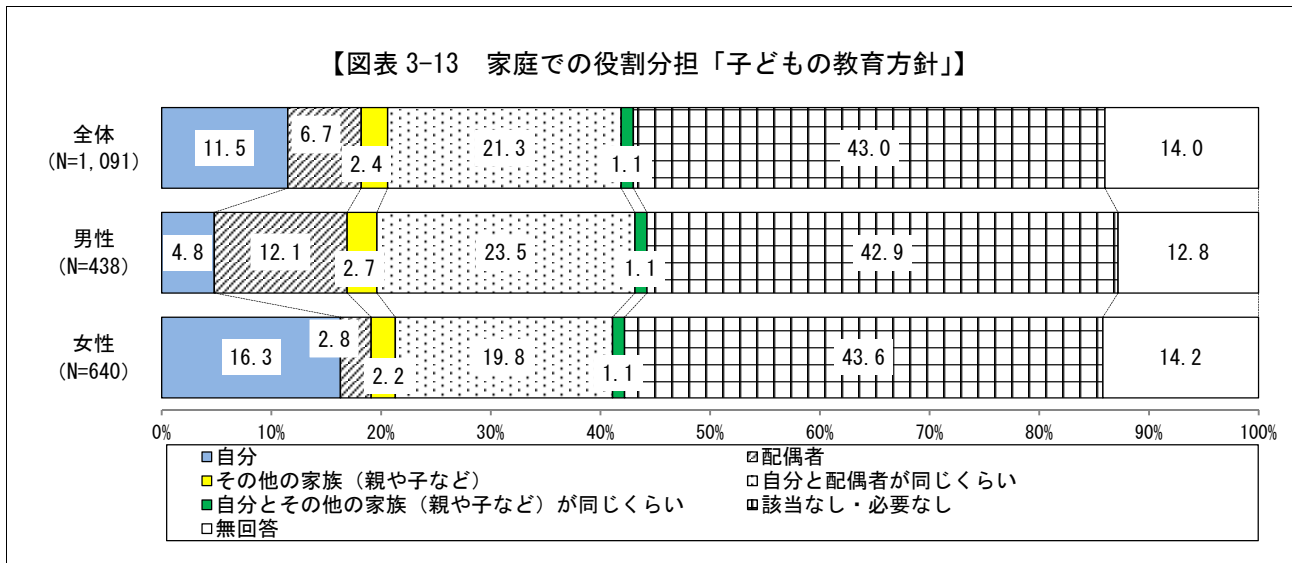
子どもと介護の必要な高齢者・障害者に関する分野での「子どもとの遊び」の役割分担をみると、「該当なし・必要なし」を除くと、男性では「自分と配偶者が同じくらい」が21.2%、女性では「自分」が20.5%と最も多くなっている。

【図表 3-12-1 性別・調査年度別 家庭での役割分担「子どもとの遊び」】

		自分	配偶者	その他の家族	自分と配偶者が同じくらい	自分とその他の家族が同じくらい	該当なし・必要なし	無回答
		<今回> ・全体：N=1,091 ・男性：N=438 ・女性：N=640 <前回> ・全体：N=1,273 ・男性：N=515 ・女性：N=745						
全体	今回	15.4%	5.9%	2.1%	17.9%	1.5%	43.3%	14.0%
	前回	13.5%	7.7%	2.7%	16.7%	2.6%	41.9%	14.9%
男性	今回	8.2%	10.7%	2.7%	21.2%	1.1%	42.9%	13.0%
	前回	5.6%	15.5%	3.3%	20.4%	2.5%	38.6%	14.0%
女性	今回	20.5%	2.5%	1.7%	15.5%	1.7%	44.1%	14.1%
	前回	19.1%	2.4%	2.3%	14.5%	2.4%	44.4%	14.9%

子どもと介護の必要な高齢者・障害者に関する分野での「子どもとの遊び」の役割分担について、前回調査（平成21年度）との比較では、男性において「自分」が2.6ポイント上昇し、「配偶者」が4.8ポイント低下している。

【図表 3-13 家庭での役割分担「子どもの教育方針」】



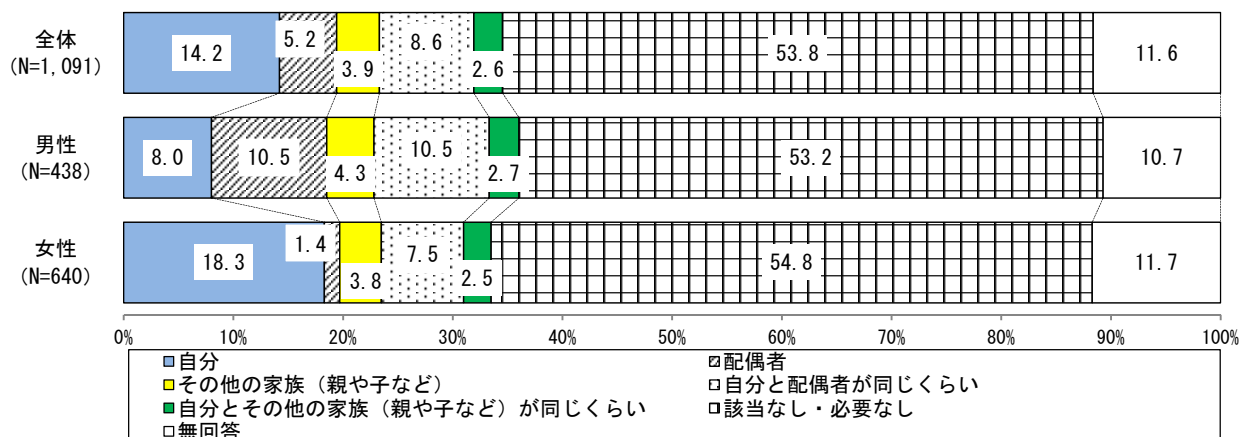
子どもと介護の必要な高齢者・障害者に関する分野での「子どもの教育方針」の役割分担をみると、「該当なし・必要なし」を除くと、男女共に「自分と配偶者が同じくらい」（男性 23.5%、女性 19.8%）が最も多くなっている。

【図表 3-13-1 性別・調査年度別 家庭での役割分担「子どもの教育方針」】

		自分	配偶者	その他の家族	自分と配偶者が同じくらい	配偶者と自分が同じくらい	該当なし・必要なし	無回答
<今回> ・全体：N=1,091 ・男性：N=438 ・女性：N=640								
<前回> ・全体：N=1,273 ・男性：N=515 ・女性：N=745								
全体	今回	11.5%	6.7%	2.4%	21.3%	1.1%	43.0%	14.0%
	前回	10.7%	7.0%	2.7%	22.4%	2.0%	40.7%	14.5%
男性	今回	4.8%	12.1%	2.7%	23.5%	1.1%	42.9%	12.8%
	前回	5.4%	12.0%	3.1%	25.8%	2.1%	37.7%	13.8%
女性	今回	16.3%	2.8%	2.2%	19.8%	1.1%	43.6%	14.2%
	前回	14.5%	3.5%	2.3%	20.3%	2.0%	43.1%	14.4%

子どもと介護の必要な高齢者・障害者に関する分野での「子どもの教育方針」の役割分担について、前回調査（平成 21 年度）と比較しても、さほど大きな差異はみられない。

【図表 3-14 家庭での役割分担「高齢者・障害者の実際の介護」】



子どもと介護の必要な高齢者・障害者に関する分野での「高齢者・障害者の実際の介護」の役割分担をみると、「該当なし・必要なし」を除くと、男性では「配偶者」, 「自分と配偶者が同じくらい」が10.5%, 女性では「自分」が18.3%と最も多くなっている。

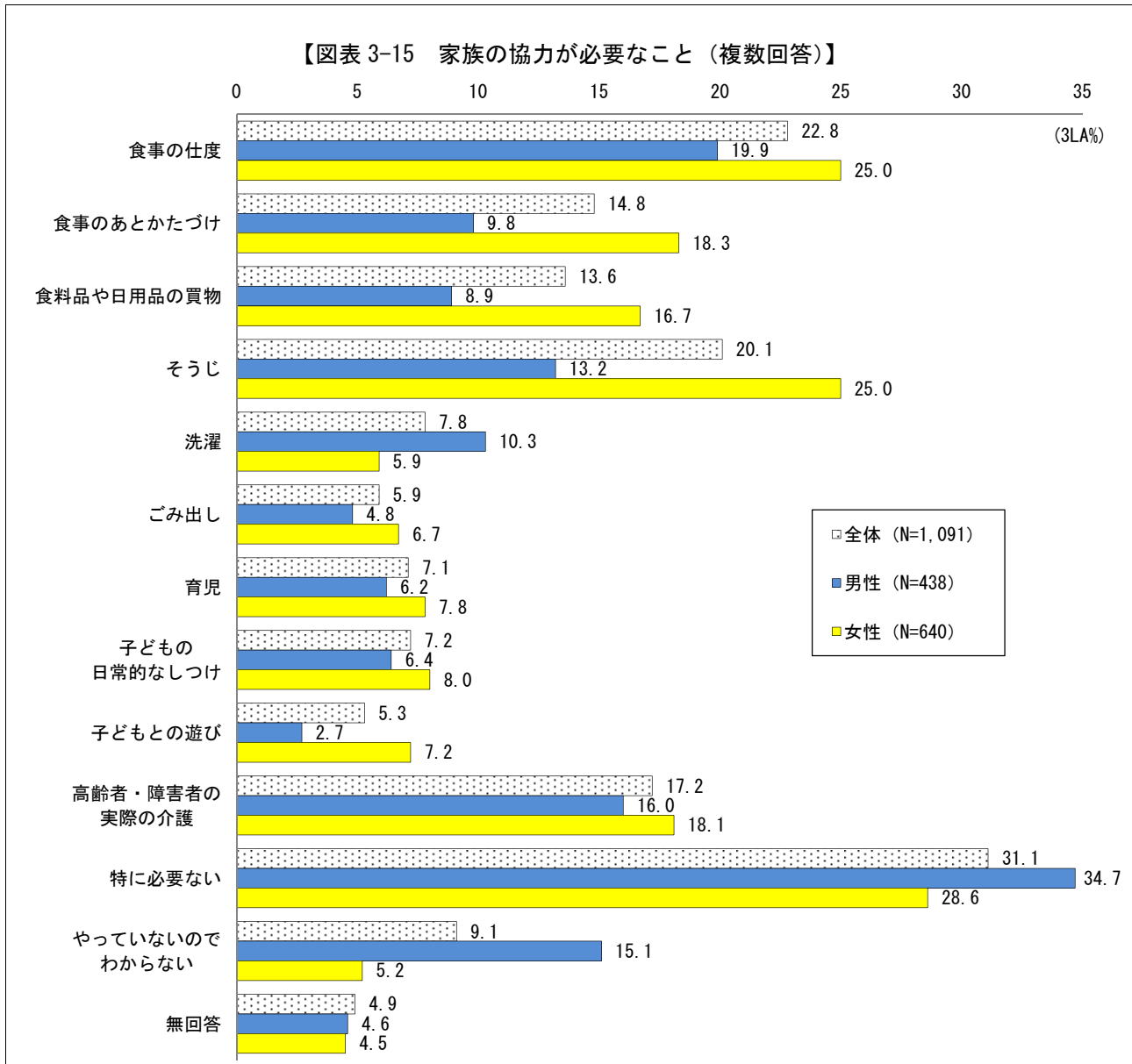
【図表 3-14-1 性別・調査年度別 家庭での役割分担「高齢者・障害者の実際の介護」】

		自分	配偶者	その他の家族	自分と配偶者が同じくらい	自分と配偶者とその他の家族が同じくらい	該当なし・必要なし	無回答
		<今回> ・全体：N=1,091 ・男性：N=438 ・女性：N=640 <前回> ・全体：N=1,273 ・男性：N=515 ・女性：N=745						
全体	今回	14.2%	5.2%	3.9%	8.6%	2.6%	53.8%	11.6%
	前回	12.4%	7.1%	3.4%	8.6%	2.2%	52.5%	13.8%
男性	今回	8.0%	10.5%	4.3%	10.5%	2.7%	53.2%	10.7%
	前回	6.0%	13.6%	3.9%	12.2%	1.7%	49.1%	13.4%
女性	今回	18.3%	1.4%	3.8%	7.5%	2.5%	54.8%	11.7%
	前回	16.6%	2.8%	3.1%	6.2%	2.4%	55.3%	13.6%

子どもと介護の必要な高齢者・障害者に関する分野での「高齢者・障害者の実際の介護」の役割分担について、前回調査（平成 21 年度）との比較では、「自分」が男性で 2.0 ポイント、女性で 1.7 ポイント上昇しており、「配偶者」は男性で 3.1 ポイント、女性で 1.4 ポイント低下している。

(2) 家族の協力が必要なこと

問10 問9でお答えいただいたことがらのうち、特に、あなたにとって負担であり、家族の協力や手助けが必要と感じているものはどれですか。【3つまでに○】

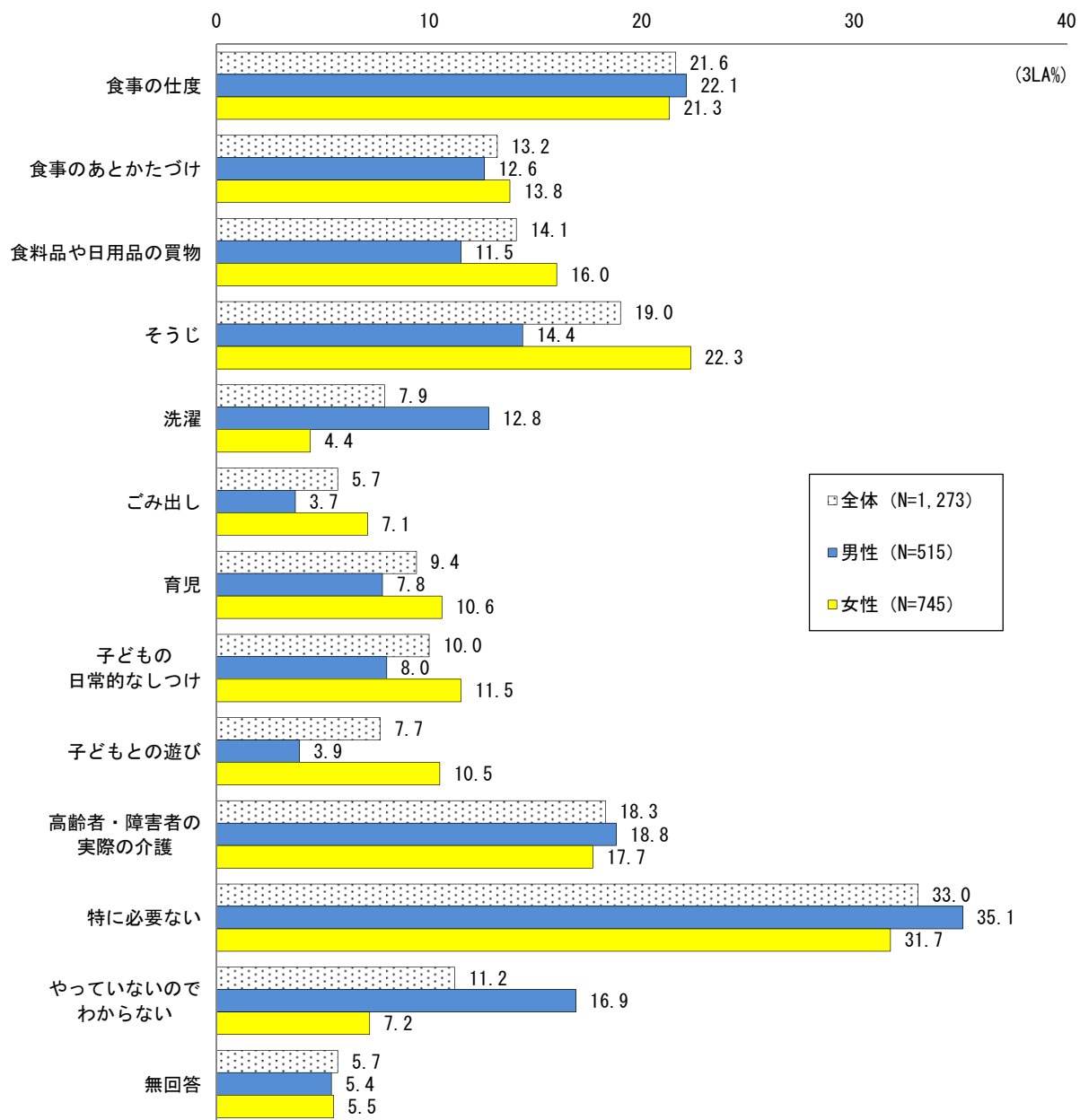


・ 「食事の支度」「そうじ」「高齢者・障害者の実際の介護」が多い

家族の協力や手助けが必要なことをみると、「特にない」が31.1%と最も多く、次いで「食事の支度」(22.8%)、「そうじ」(20.1%)、「高齢者・障害者の実際の介護」(17.2%)となっている。

性別でみると、男女共に「特に必要ない」(男性 34.7%、女性 28.6%)が最も多くなっている。一方、男女の差が大きいものとして、「そうじ」(男性 13.2%、女性 25.0%)、「食事のあとかたづけ」(男性 9.8%、女性 18.3%)、「食料品や日用品の買物」(男性 8.9%、女性 16.7%)において、男性に比べて女性の方が約 10 ポイント高くなっている。また、「やっていないのでわからない」については、男性が女性を 9.9 ポイント上回っている。

【図表 3-15-1 家族の協力が必要なこと<<前回調査結果>>（複数回答）】



家族の協力や手助けが必要なことについて、前回調査（平成 21 年度）との比較では、女性において「食事のあとかたづけ」が 4.5 ポイント、「食事の仕度」が 3.7 ポイント、「そうじ」が 2.7 ポイント上昇している。一方、男性では、概ねいずれの項目においても割合はやや低下傾向にある。

【図表 3-15-2 性別・年齢別 家族の協力が必要なこと（複数回答）】

	食事の仕度	づ 食 け 事 の あ と か た	の 食 買 料 物 品 や 日 用 品	そ う じ	洗 濯	ご み 出 し	育 児	な 子 し ど つ も の 日 常 的
男性全体 (N=438)	19.9%	9.8%	8.9%	13.2%	10.3%	4.8%	6.2%	6.4%
20歳代 (N=30)	26.7%	6.7%	13.3%	16.7%	13.3%	3.3%	3.3%	3.3%
30歳代 (N=51)	25.5%	0.0%	3.9%	9.8%	9.8%	2.0%	15.7%	15.7%
40歳代 (N=62)	11.3%	8.1%	3.2%	9.7%	8.1%	0.0%	4.8%	4.8%
50歳代 (N=70)	14.3%	17.1%	11.4%	17.1%	2.9%	8.6%	8.6%	12.9%
60歳代 (N=94)	13.8%	11.7%	3.2%	9.6%	9.6%	7.4%	6.4%	4.3%
70歳代以上 (N=129)	27.1%	10.1%	15.5%	16.3%	15.5%	4.7%	2.3%	2.3%
女性全体 (N=640)	25.0%	18.3%	16.7%	25.0%	5.9%	6.7%	7.8%	8.0%
20歳代 (N=51)	25.5%	13.7%	9.8%	17.6%	7.8%	0.0%	7.8%	5.9%
30歳代 (N=89)	28.1%	19.1%	16.9%	19.1%	10.1%	3.4%	19.1%	15.7%
40歳代 (N=108)	34.3%	31.5%	10.2%	25.0%	5.6%	4.6%	12.0%	15.7%
50歳代 (N=97)	19.6%	20.6%	19.6%	29.9%	7.2%	9.3%	3.1%	5.2%
60歳代 (N=151)	21.9%	13.2%	14.6%	24.5%	1.3%	6.0%	5.3%	4.6%
70歳代以上 (N=144)	22.9%	13.2%	24.3%	28.5%	6.9%	11.8%	3.5%	3.5%

	子 ど も と の 遊 び	の 高 実 齢 者 の ・ 介 障 害 者	特 に 必 要 な い	で や わ つ か て い な い の	無 回 答
男性全体 (N=438)	2.7%	16.0%	34.7%	15.1%	4.6%
20歳代 (N=30)	0.0%	10.0%	23.3%	30.0%	0.0%
30歳代 (N=51)	3.9%	7.8%	37.3%	19.6%	0.0%
40歳代 (N=62)	4.8%	12.9%	48.4%	14.5%	0.0%
50歳代 (N=70)	2.9%	31.4%	37.1%	4.3%	2.9%
60歳代 (N=94)	3.2%	17.0%	36.2%	20.2%	5.3%
70歳代以上 (N=129)	1.6%	13.2%	27.9%	11.6%	10.1%
女性全体 (N=640)	7.2%	18.1%	28.6%	5.2%	4.5%
20歳代 (N=51)	5.9%	5.9%	27.5%	25.5%	5.9%
30歳代 (N=89)	18.0%	5.6%	23.6%	11.2%	3.4%
40歳代 (N=108)	11.1%	11.1%	23.1%	2.8%	0.9%
50歳代 (N=97)	3.1%	29.9%	26.8%	0.0%	4.1%
60歳代 (N=151)	6.0%	24.5%	39.7%	1.3%	4.6%
70歳代以上 (N=144)	2.1%	20.8%	25.7%	3.5%	7.6%

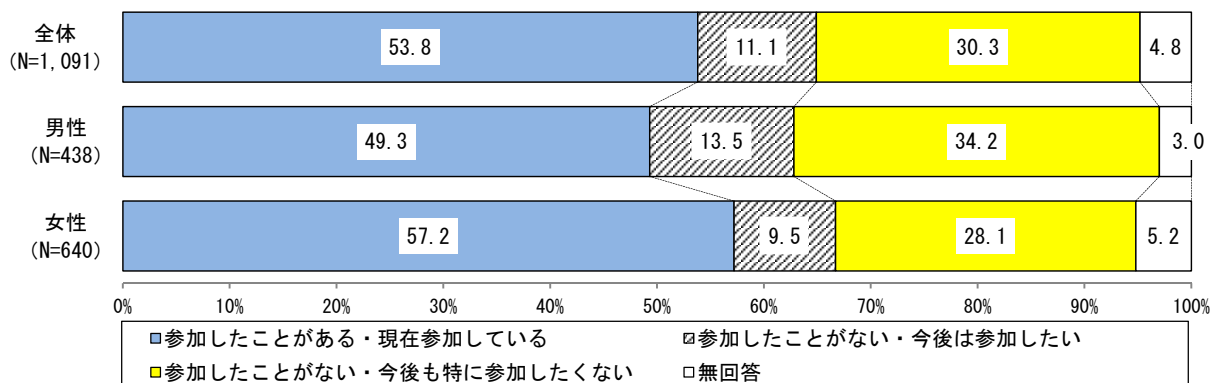
性別・年齢別で家族の協力が必要なことをみると、「食事のあとかたづけ」「そうじ」については、全ての年齢層で女性が男性を上回っている。一方、「やっていないのでわからない」については、全ての年齢層で男性が女性を上回っている。

(3) 地域活動への参加

ア 地域活動への参加

問11 あなたは、ここ5～6年の間に、地域でどのような活動に参加しましたか。また、今後参加してみたい活動は何ですか。【それぞれ1つに○】

【図表 3-16 地域活動への参加「自治会・町内会の活動」】

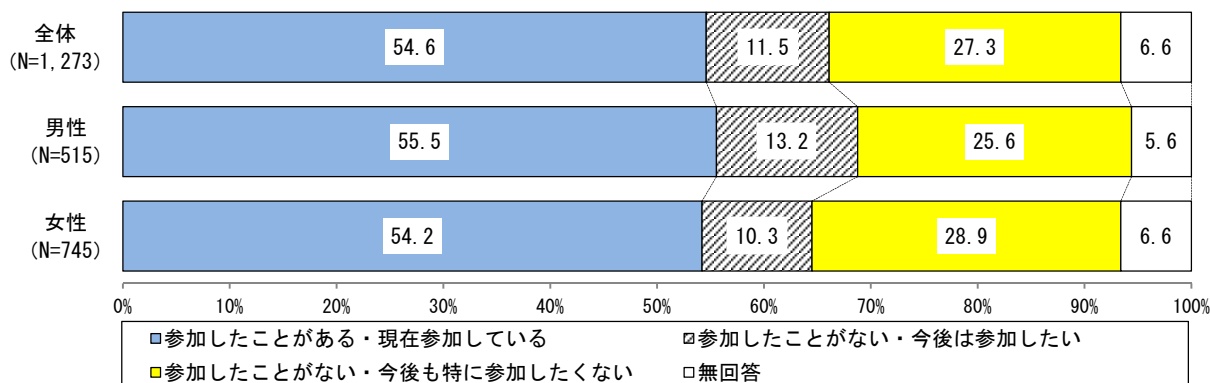


・ 自治会・町内会の活動へは5割以上が参加

地域活動への参加についてみると、自治会・町内会の活動では「参加したことがある・現在参加している」が53.8%と最も多く、次いで「参加したことがない・今後も特に参加したくない」(30.3%)となっている。

性別でみると、男女共に「参加したことがある・現在参加している」(男性49.3%、女性57.2%)が最も多くなっているが、男性に比べ女性の方が7.9ポイント上回っている。

【図表 3-16-1 地域活動への参加「自治会・町内会の活動」《前回調査結果》】



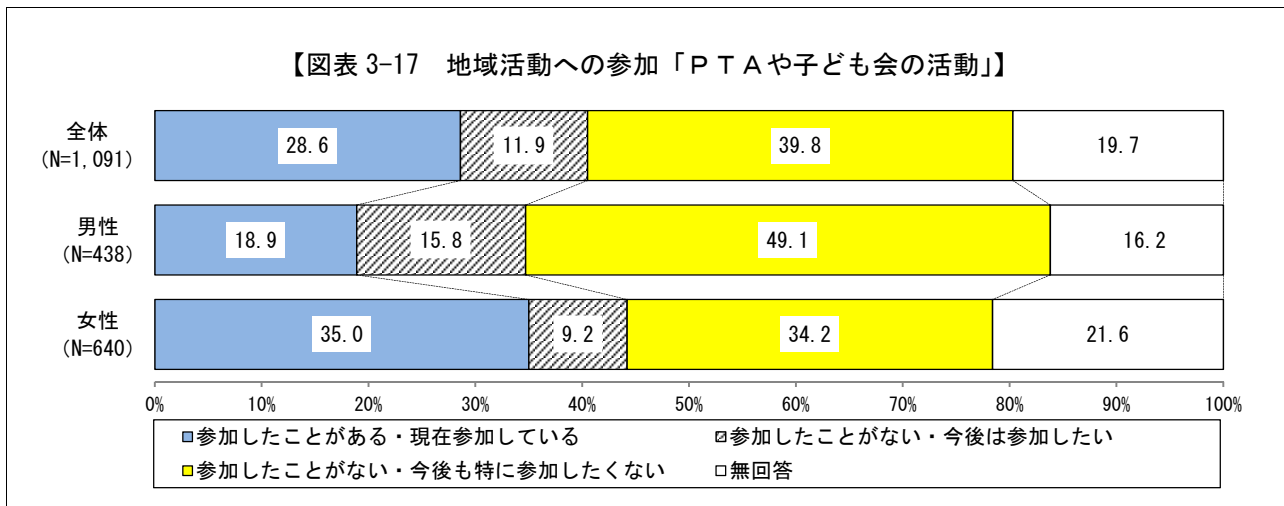
自治会・町内会の活動への参加状況について、前回調査(平成21年度)との比較では、「参加したことがある・現在参加している」が、男性では6.2ポイント低下しているが、女性では3.0ポイント上昇している。

【図表 3-16-2 性別・年齢別 地域活動への参加「自治会・町内会の活動」】

	いる参 る・加 現し 在た 参こ 加と しが てあ	たい参 い・加 今し 後た はこ 参と 加が しな	加い参 し・加 たく今 後たこ ないも い特 にが 参な	無 回 答
男性全体 (N=438)	49.3%	13.5%	34.2%	3.0%
20歳代 (N=30)	23.3%	13.3%	63.3%	0.0%
30歳代 (N=51)	25.5%	25.5%	47.1%	2.0%
40歳代 (N=62)	41.9%	14.5%	41.9%	1.6%
50歳代 (N=70)	57.1%	18.6%	22.9%	1.4%
60歳代 (N=94)	51.1%	16.0%	30.9%	2.1%
70歳代以上 (N=129)	62.0%	3.9%	27.9%	6.2%
女性全体 (N=640)	57.2%	9.5%	28.1%	5.2%
20歳代 (N=51)	11.8%	29.4%	56.9%	2.0%
30歳代 (N=89)	37.1%	15.7%	43.8%	3.4%
40歳代 (N=108)	55.6%	12.0%	30.6%	1.9%
50歳代 (N=97)	73.2%	4.1%	20.6%	2.1%
60歳代 (N=151)	73.5%	3.3%	19.9%	3.3%
70歳代以上 (N=144)	59.0%	6.9%	20.1%	13.9%

性別・年齢別で自治会・町内会の活動への参加をみると、「参加したことがある・現在参加している」が男性の50歳代以上、女性の40歳代以上で半数以上となっているのに対し、20歳代では男女共に「参加したことがない・今後も特に参加したくない」が半数以上となっている。

【図表 3-17 地域活動への参加「PTAや子ども会の活動」】

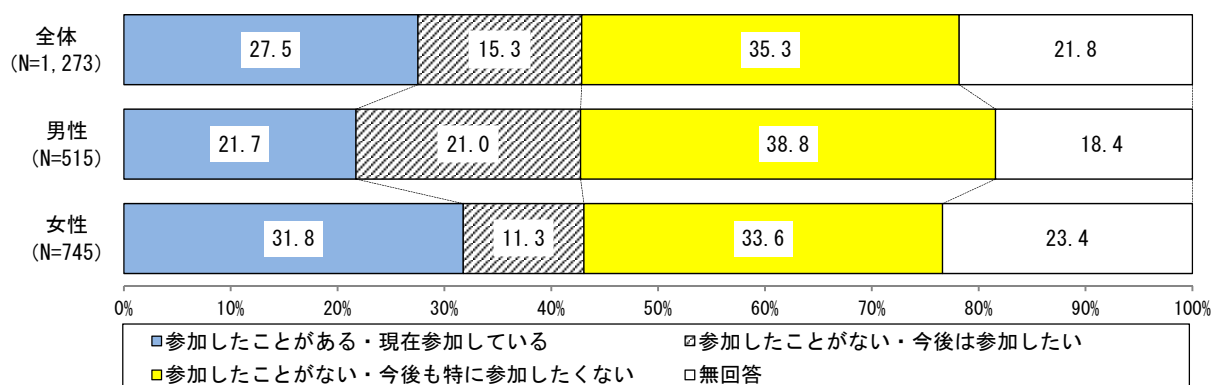


・ P T A や子ども会の活動は女性の参加が多い

P T A や自治会・町内会の活動では「参加したことがない・今後も特に参加したくない」が39.8%と最も多く、次いで「参加したことがある・現在参加している」(28.6%)となっている。

性別でみると、男性では「参加したことがない・今後も特に参加したくない」が49.1%、女性では「参加したことがある・現在参加している」が35.0%と最も多い。

【図表 3-17-1 地域活動への参加「PTAや子ども会の活動」◀前回調査結果▶】



PTAや子ども会の活動への参加状況を前回調査（平成 21 年度）との比較では、「参加したことがある・現在参加している」が、男性では 2.8 ポイント低下しているが、女性では 3.2 ポイント上昇している。また、「参加したことがない・今後も特に参加したくない」については、男性が 10.3 ポイント上昇している。

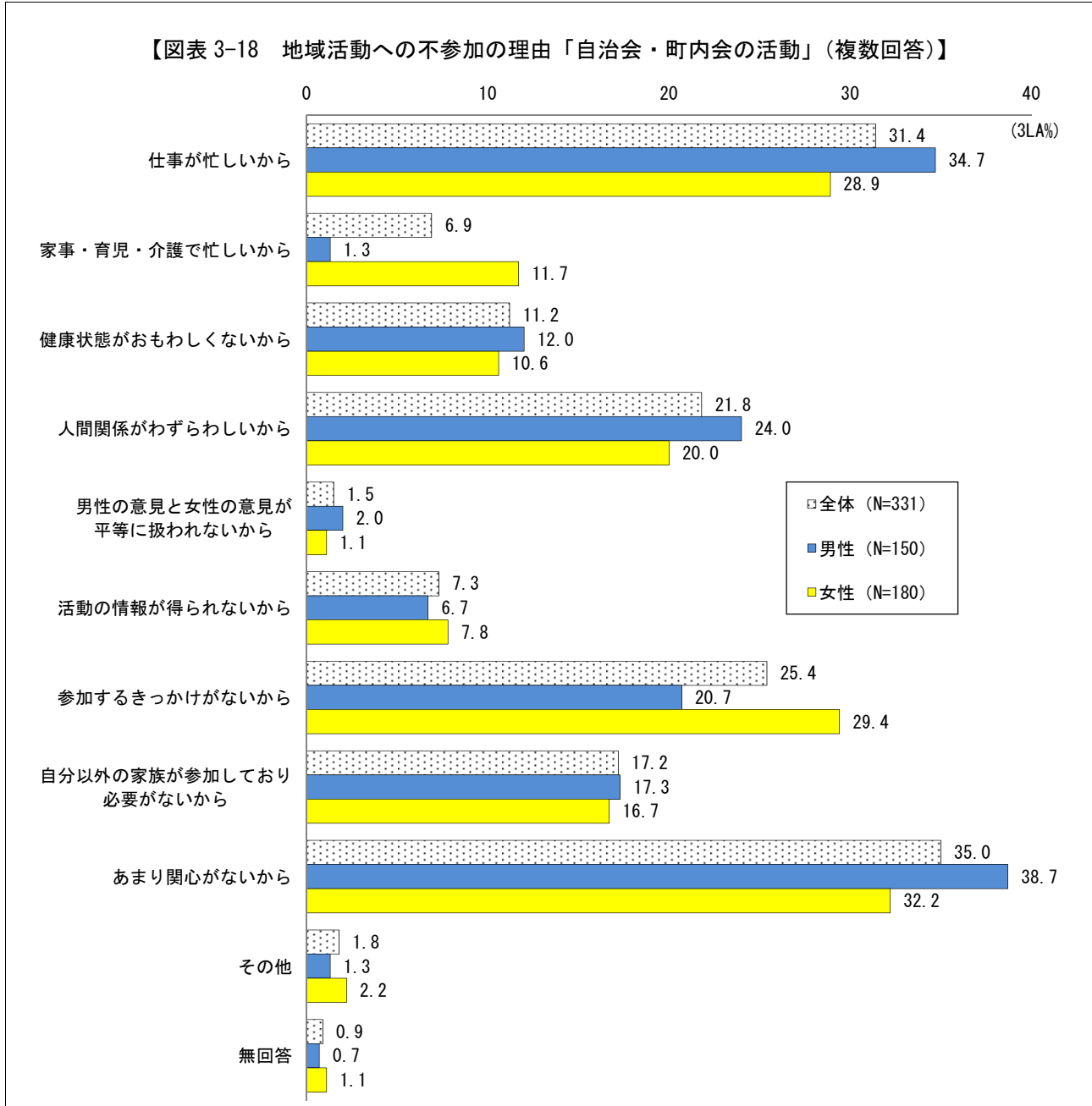
【図表 3-17-2 性別・年齢別 地域活動への参加「PTAや子ども会の活動」】

	いる参 る・加 現し 在た 参こ 加と しが てあ	たい参 い・加 今し 後た はこ 参と 加が しな	加い参 し・加 た今し たく後た ないもこ い特 にが 参な	無 回 答
男性全体 (N=438)	18.9%	15.8%	49.1%	16.2%
20歳代 (N=30)	3.3%	13.3%	83.3%	0.0%
30歳代 (N=51)	17.6%	25.5%	52.9%	3.9%
40歳代 (N=62)	30.6%	16.1%	51.6%	1.6%
50歳代 (N=70)	35.7%	18.6%	41.4%	4.3%
60歳代 (N=94)	12.8%	17.0%	51.1%	19.1%
70歳代以上 (N=129)	12.4%	10.1%	41.9%	35.7%
女性全体 (N=640)	35.0%	9.2%	34.2%	21.6%
20歳代 (N=51)	0.0%	29.4%	60.8%	9.8%
30歳代 (N=89)	31.5%	23.6%	41.6%	3.4%
40歳代 (N=108)	55.6%	4.6%	33.3%	6.5%
50歳代 (N=97)	46.4%	5.2%	33.0%	15.5%
60歳代 (N=151)	38.4%	2.6%	33.1%	25.8%
70歳代以上 (N=144)	22.9%	6.3%	22.9%	47.9%

性別・年齢別でPTAや子ども会の活動への参加状況をみると、「参加したことがない・今後も特に参加したくない」が全ての年齢層で男性が女性を上回っている。一方、20歳代を除く全ての年齢層で「参加したことがある・現在参加している」は女性が男性を上回っている。

イ 地域活動への不参加の理由

参加したことがない・今後も特に参加したくない場合、その理由に近いものは何ですか。
【それぞれについて、3つまでに○】

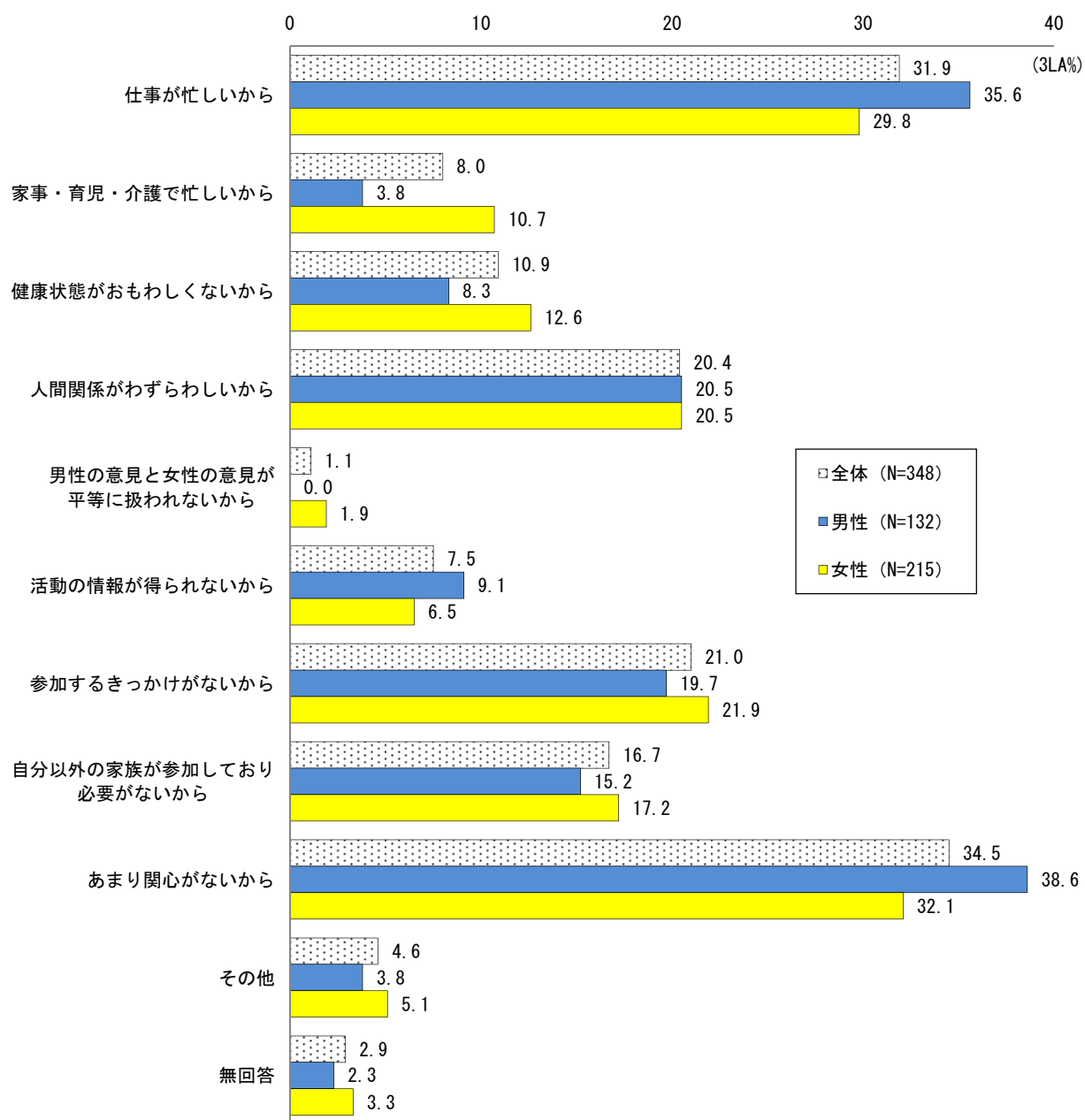


・ 不参加の理由は「あまり関心がないから」が最も多い

自治会・町内会の活動への不参加の理由をみると、「あまり関心がないから」が35.0%と最も多く、次いで「仕事が忙しいから」(31.4%)、「参加するきっかけがないから」(25.4%)となっている。

性別でみると、男女共に「あまり関心がないから」(男性 38.7%、女性 32.2%)が最も多く、次いで男性では「仕事が忙しいから」(34.7%)、女性では「参加するきっかけがないから」(29.4%)となっている。

【図表 3-18-1 地域活動への不参加の理由「自治会・町内会の活動」《前回調査結果》（複数回答）】



自治会・町内会の活動への不参加の理由について、前回調査（平成 21 年度）との比較では、男性では「健康状態がおもわしくないから」が 3.7 ポイント、「人間関係がわずらわしいから」が 3.5 ポイント、女性では「参加するきっかけがないから」が 7.5 ポイント上昇している。

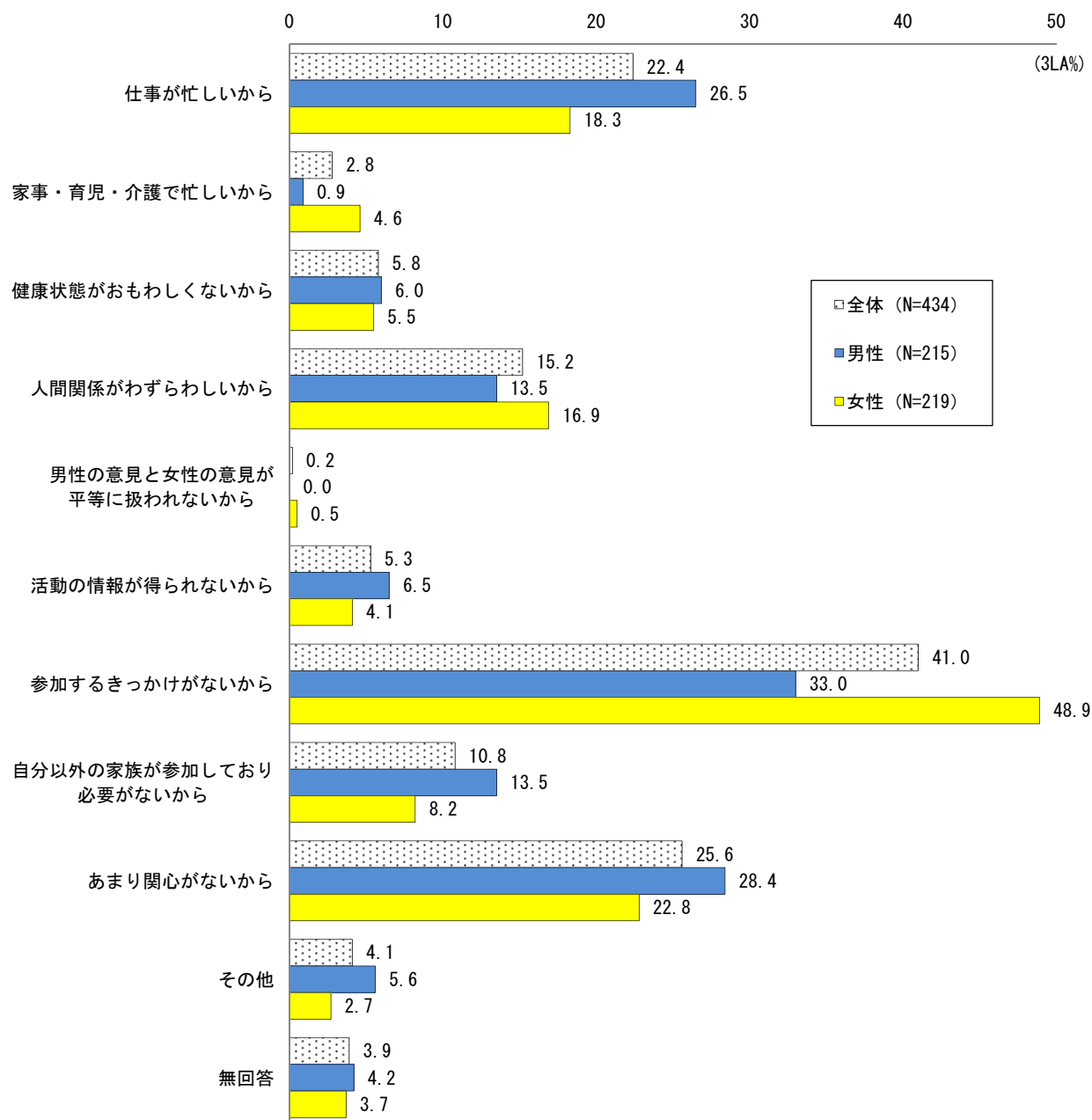
【図表 3-18-2 性別・年齢別 地域活動への不参加の理由「自治会・町内会の活動」（複数回答）】

	仕事 が忙 しい から	で家 忙し し・ い育 児か ら・ 介 護	し健 く康 ない 状 態 か ら お も わ	わ人 し間 い関 係 か ら わ ず ら	わの れ意 性 な見 ない か平 等 と に 女 扱 性	れ活 ない の情 報 か ら 得 ら	が参 加 す る き つ か け	が参 加 し て お り 家 族 が 必 要 が
男性全体 (N=150)	34.7%	1.3%	12.0%	24.0%	2.0%	6.7%	20.7%	17.3%
20歳代 (N=19)	31.6%	0.0%	0.0%	10.5%	0.0%	10.5%	26.3%	15.8%
30歳代 (N=24)	58.3%	8.3%	0.0%	29.2%	4.2%	4.2%	20.8%	4.2%
40歳代 (N=26)	34.6%	0.0%	7.7%	19.2%	0.0%	3.8%	7.7%	19.2%
50歳代 (N=16)	50.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	6.3%	18.8%	0.0%
60歳代 (N=29)	34.5%	0.0%	17.2%	24.1%	6.9%	10.3%	24.1%	31.0%
70歳代以上 (N=36)	13.9%	0.0%	30.6%	30.6%	0.0%	5.6%	25.0%	22.2%
女性全体 (N=180)	28.9%	11.7%	10.6%	20.0%	1.1%	7.8%	29.4%	16.7%
20歳代 (N=29)	34.5%	3.4%	0.0%	3.4%	0.0%	6.9%	48.3%	17.2%
30歳代 (N=39)	43.6%	12.8%	0.0%	28.2%	0.0%	15.4%	48.7%	12.8%
40歳代 (N=33)	30.3%	15.2%	12.1%	24.2%	0.0%	6.1%	24.2%	21.2%
50歳代 (N=20)	45.0%	20.0%	5.0%	5.0%	0.0%	5.0%	20.0%	5.0%
60歳代 (N=30)	20.0%	6.7%	13.3%	40.0%	6.7%	10.0%	13.3%	13.3%
70歳代以上 (N=29)	0.0%	13.8%	34.5%	10.3%	0.0%	0.0%	13.8%	27.6%

	かあ ら ま り 関 心 が な い	そ の 他	無 回 答
男性全体 (N=150)	38.7%	1.3%	0.7%
20歳代 (N=19)	42.1%	5.3%	0.0%
30歳代 (N=24)	54.2%	0.0%	0.0%
40歳代 (N=26)	46.2%	0.0%	3.8%
50歳代 (N=16)	50.0%	6.3%	0.0%
60歳代 (N=29)	17.2%	0.0%	0.0%
70歳代以上 (N=36)	33.3%	0.0%	0.0%
女性全体 (N=180)	32.2%	2.2%	1.1%
20歳代 (N=29)	34.5%	3.4%	3.4%
30歳代 (N=39)	33.3%	0.0%	0.0%
40歳代 (N=33)	18.2%	6.1%	0.0%
50歳代 (N=20)	35.0%	5.0%	0.0%
60歳代 (N=30)	46.7%	0.0%	0.0%
70歳代以上 (N=29)	27.6%	0.0%	3.4%

性別・年齢別で自治会・町内会の活動への不参加の理由をみると、男性では全ての年齢層で「あまり関心がないから」もしくは「仕事が忙しいから」が最も多くなっている。一方、女性においても40～60歳代では「あまり関心がないから」もしくは「仕事が忙しいから」が最も多くなっているものの、20～30歳代では「参加するきっかけがないから」が最も多くなっている。

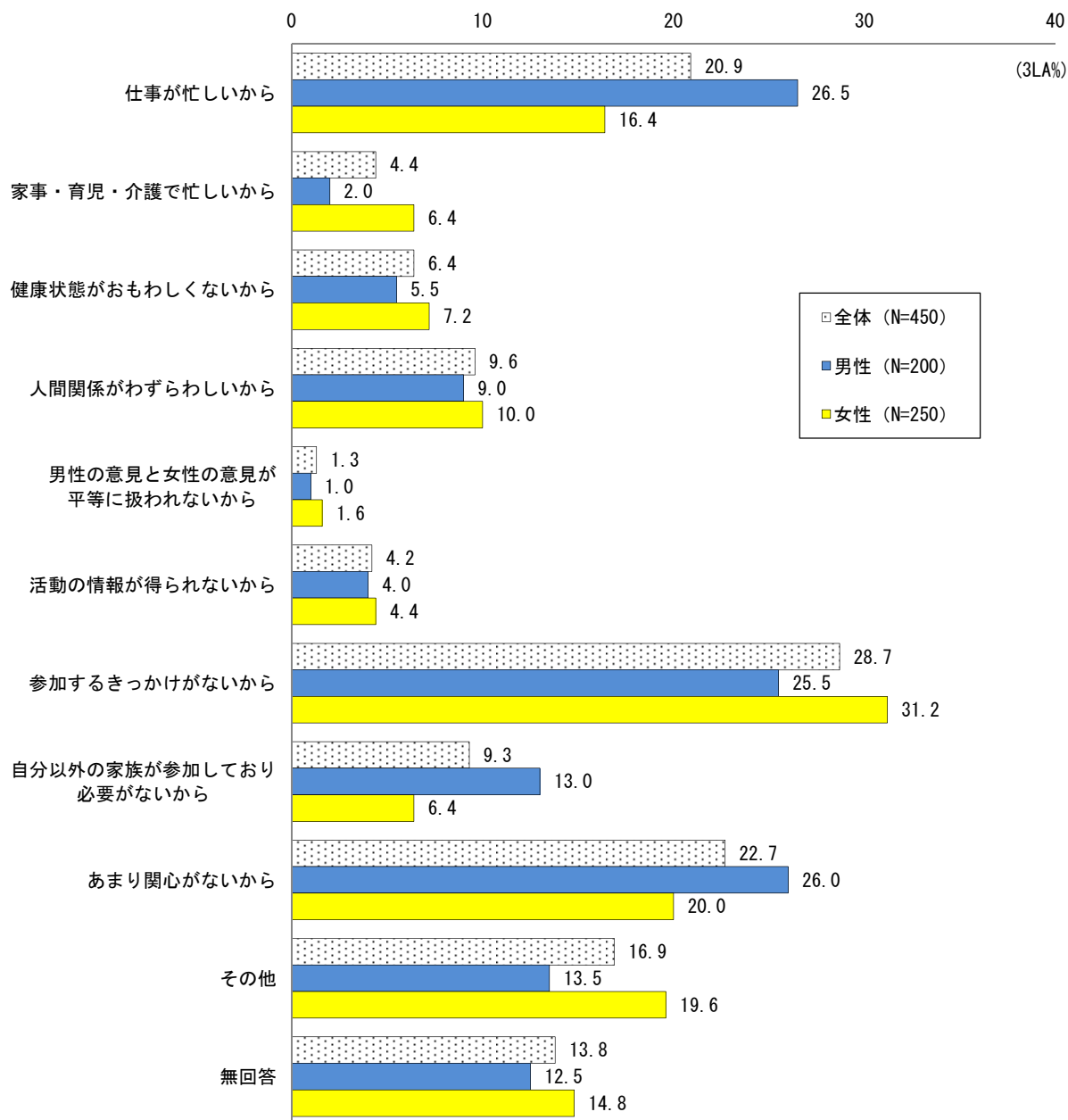
【図表 3-19 地域活動への不参加の理由「PTAや子ども会の活動」(複数回答)】



PTAや子ども会の活動への不参加の理由をみると、「参加するきっかけがないから」が41.0%と最も多く、次いで「あまり関心がないから」(25.6%)、「仕事が忙しいから」(22.4%)となっている。

性別でみると、男女共に「参加するきっかけがないから」(男性 33.0%、女性 48.9%)が最も多くなっているが、男性に比べ女性の方が15.9ポイント高い。次いで、「あまり関心がないから」(男性 28.4%、女性 22.8%)、「仕事が忙しいから」(男性 26.5%、女性 18.3%)となっている。

【図表 3-19-1 地域活動への不参加の理由「PTAや子ども会の活動」《前回調査結果》（複数回答）】



PTAや子ども会の活動への不参加の理由について、前回調査（平成21年度）との比較では、「参加するきっかけがないから」が男性で7.5ポイント、女性で17.7ポイント、「人間関係がわずらわしいから」が男性で4.5ポイント、女性で6.9ポイント、それぞれ上昇している。

【図表 3-19-2 性別・年齢別 地域活動への不参加の理由「PTAや子ども会の活動」(複数回答)】

	仕事 が忙 しい から	家事 ・育 児 ・介 護	健康 状態 が お も わ ない	人間 関係 が わ ざ ら ない	男性 の意 見が 平等 に女 性	活動 の情 報が 得ら ない	参加 する から きつ かけ	自分 以外 の家 族が
男性全体 (N=215)	26.5%	0.9%	6.0%	13.5%	0.0%	6.5%	33.0%	13.5%
20歳代 (N=25)	28.0%	0.0%	0.0%	16.0%	0.0%	16.0%	32.0%	8.0%
30歳代 (N=27)	51.9%	3.7%	0.0%	22.2%	0.0%	3.7%	37.0%	11.1%
40歳代 (N=32)	34.4%	3.1%	0.0%	15.6%	0.0%	3.1%	18.8%	18.8%
50歳代 (N=29)	34.5%	0.0%	0.0%	6.9%	0.0%	10.3%	24.1%	17.2%
60歳代 (N=48)	20.8%	0.0%	6.3%	12.5%	0.0%	4.2%	33.3%	18.8%
70歳代以上 (N=54)	9.3%	0.0%	18.5%	11.1%	0.0%	5.6%	44.4%	7.4%
女性全体 (N=219)	18.3%	4.6%	5.5%	16.9%	0.5%	4.1%	48.9%	8.2%
20歳代 (N=31)	19.4%	3.2%	3.2%	6.5%	0.0%	3.2%	58.1%	9.7%
30歳代 (N=37)	27.0%	5.4%	0.0%	27.0%	0.0%	5.4%	56.8%	8.1%
40歳代 (N=36)	22.2%	11.1%	5.6%	27.8%	0.0%	2.8%	44.4%	2.8%
50歳代 (N=32)	25.0%	3.1%	3.1%	12.5%	0.0%	6.3%	53.1%	0.0%
60歳代 (N=50)	14.0%	2.0%	6.0%	20.0%	2.0%	4.0%	46.0%	14.0%
70歳代以上 (N=33)	3.0%	3.0%	15.2%	3.0%	0.0%	3.0%	36.4%	12.1%

	あ ま り 関 心 が な い	そ の 他	無 回 答
男性全体 (N=215)	28.4%	5.6%	4.2%
20歳代 (N=25)	32.0%	8.0%	0.0%
30歳代 (N=27)	44.4%	0.0%	0.0%
40歳代 (N=32)	34.4%	3.1%	3.1%
50歳代 (N=29)	27.6%	3.4%	3.4%
60歳代 (N=48)	18.8%	12.5%	6.3%
70歳代以上 (N=54)	24.1%	3.7%	7.4%
女性全体 (N=219)	22.8%	2.7%	3.7%
20歳代 (N=31)	25.8%	0.0%	3.2%
30歳代 (N=37)	24.3%	2.7%	0.0%
40歳代 (N=36)	25.0%	8.3%	0.0%
50歳代 (N=32)	18.8%	3.1%	6.3%
60歳代 (N=50)	20.0%	0.0%	6.0%
70歳代以上 (N=33)	24.2%	3.0%	6.1%

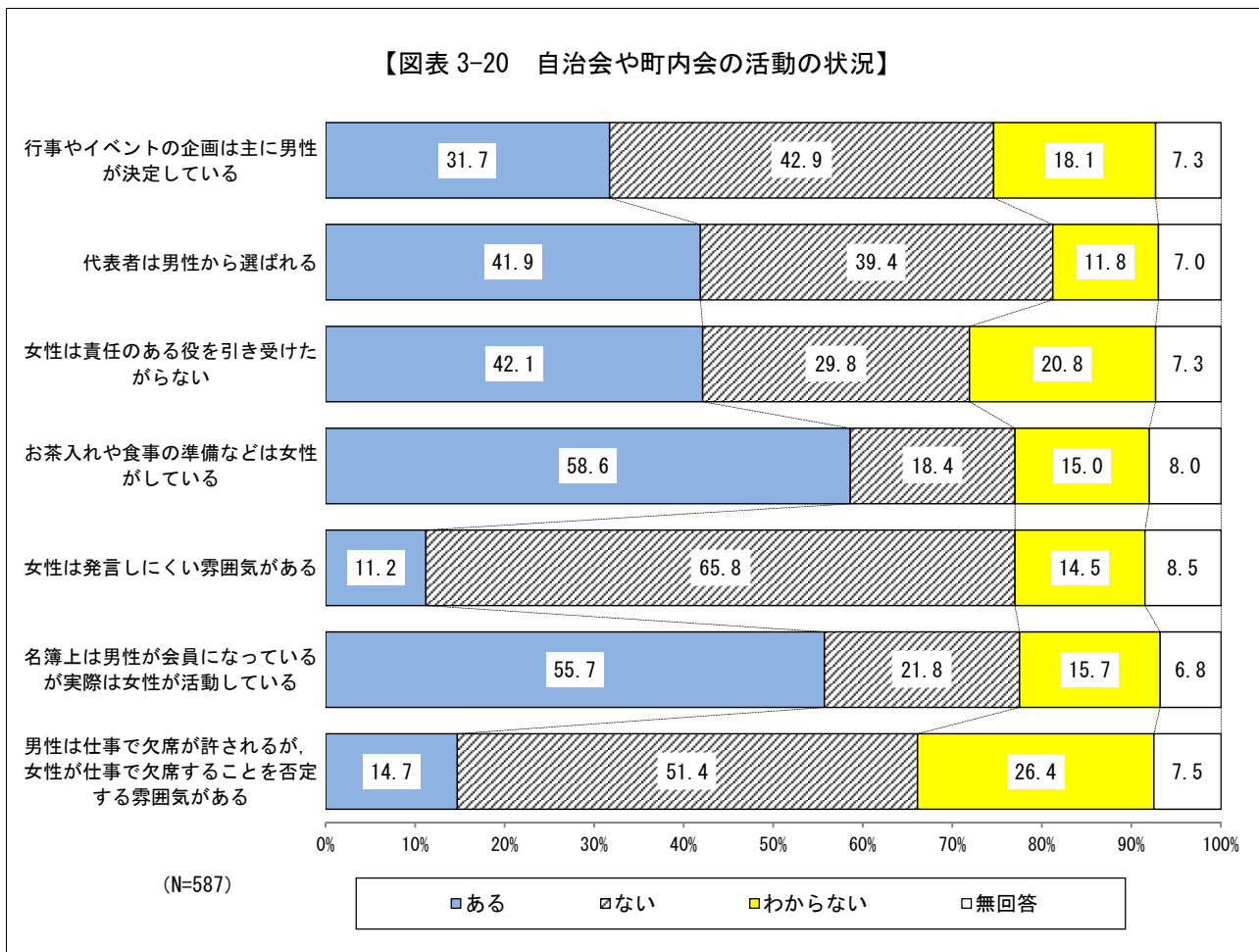
性別・年齢別でPTAや子ども会の活動への不参加の理由をみると、「仕事が忙しいから」では全ての年齢層で男性が女性を上回っている。一方、「家事・育児・介護で忙しいから」では、全ての年齢層で女性が男性を上回っている。

(4) 自治会や町内会の活動の状況

《問11の「自治会・町内会の活動」で「現在参加している・参加したことがある」を選んだ方におうかがいします。その他の方は、問13にお進みください。》

問12 あなたが参加した「自治会や町内会の活動」では、次のようなことがありましたか。

【それぞれ1つに○】



- ・ 「お茶入れや食事の準備などは女性がしている」や「名簿上は男性が会員になっているが実際は女性（配偶者）が活動している」という事例が多い

自治会や町内会の活動の状況をみると、「ある」という回答が「お茶入れや食事の準備などは女性がしている」(58.6%)、「名簿上は男性が会員になっているが実際は女性が活動している」(55.7%)で多くなっている。一方、「ない」については、「女性は発言しにくい雰囲気がある」(65.8%)、「男性は仕事で欠席が許されるが、女性が仕事で欠席することを否定する雰囲気がある」(51.4%)が多くなっている。

【図表 3-20-1 性別・調査年度別

自治会や町内会の活動の状況「行事やイベントの企画は主に男性が決定している」】

<今回> ・全体：N=587 ・男性：N=216 ・女性：N=366 <前回> ・全体：N=695 ・男性：N=286 ・女性：N=404		ある	ない	わからない	無回答
全体	今回	31.7%	42.9%	18.1%	7.3%
	前回	37.4%	36.1%	19.4%	7.1%
男性	今回	34.3%	40.7%	16.7%	8.3%
	前回	40.9%	35.0%	17.5%	6.6%
女性	今回	29.8%	44.3%	19.1%	6.8%
	前回	35.1%	36.9%	20.8%	7.2%

「行事やイベントの企画は主に男性が決定している」が「ある」という割合について、性別でみると、女性（29.8%）に比べて男性（34.3%）の方が4.5ポイント高い。

前回調査（平成21年度）との比較では、「ある」が男性で6.6ポイント、女性で5.3ポイント低下している。

【図表 3-20-2 性別・調査年度別 自治会や町内会の活動の状況「代表者は男性から選ばれる」】

<今回> ・全体：N=587 ・男性：N=216 ・女性：N=366 <前回> ・全体：N=695 ・男性：N=286 ・女性：N=404		ある	ない	わからない	無回答
全体	今回	41.9%	39.4%	11.8%	7.0%
	前回	47.9%	32.9%	11.9%	7.2%
男性	今回	47.2%	35.6%	9.7%	7.4%
	前回	49.7%	31.8%	12.6%	5.9%
女性	今回	38.5%	41.5%	13.1%	6.8%
	前回	46.5%	33.9%	11.6%	7.9%

「代表者は男性から選ばれる」が「ある」という割合について、性別でみると、女性（38.5%）に比べて男性（47.2%）の方が8.7ポイント高い。

前回調査（平成21年度）との比較では、「ある」が男性で2.5ポイント、女性で8.0ポイント低下している。

【図表 3-20-3 性別・調査年度別

自治会や町内会の活動の状況「女性は責任のある役を引き受けたがらない」】

<今回> ・全体：N=587 ・男性：N=216 ・女性：N=366 <前回> ・全体：N=695 ・男性：N=286 ・女性：N=404		ある	ない	わからない	無回答
全体	今回	42.1%	29.8%	20.8%	7.3%
	前回	47.2%	25.6%	19.6%	7.6%
男性	今回	39.4%	31.9%	20.4%	8.3%
	前回	40.2%	27.3%	25.2%	7.3%
女性	今回	43.7%	28.1%	21.3%	6.8%
	前回	52.2%	24.3%	15.8%	7.7%

「女性は責任のある役を引き受けたがらない」が「ある」という割合について、性別で見ると、男性（39.4%）に比べて女性（43.7%）の方が4.3ポイント高い。

前回調査（平成21年度）との比較では、「ある」が男性で0.8ポイント、女性で8.5ポイント低下している。

【図表 3-20-4 性別・調査年度別

自治会や町内会の活動の状況「お茶入れや食事の準備などは女性がしている」】

<今回> ・全体：N=587 ・男性：N=216 ・女性：N=366 <前回> ・全体：N=695 ・男性：N=286 ・女性：N=404		ある	ない	わからない	無回答
全体	今回	58.6%	18.4%	15.0%	8.0%
	前回	64.3%	17.7%	10.5%	7.5%
男性	今回	54.2%	22.2%	13.4%	10.2%
	前回	56.3%	22.7%	13.6%	7.3%
女性	今回	60.7%	16.4%	16.1%	6.8%
	前回	70.0%	14.4%	8.4%	7.2%

「お茶入れや食事の準備などは女性がしている」が「ある」という割合について、性別で見ると、男性（54.2%）に比べて女性（60.7%）の方が6.5ポイント高い。

前回調査（平成21年度）との比較では、「ある」が男性で2.1ポイント、女性で9.3ポイント低下している。

【図表 3-20-5 性別・調査年度別 自治会や町内会の活動の状況「女性は発言しにくい雰囲気がある」】

		ある	ない	わからない	無回答
<今回> ・全体：N=587 ・男性：N=216 ・女性：N=366 <前回> ・全体：N=695 ・男性：N=286 ・女性：N=404					
全体	今回	11.2%	65.8%	14.5%	8.5%
	前回	11.9%	62.7%	16.5%	8.8%
男性	今回	9.7%	67.1%	12.5%	10.6%
	前回	9.1%	64.7%	16.4%	9.8%
女性	今回	12.0%	65.0%	15.6%	7.4%
	前回	13.4%	61.6%	16.8%	8.2%

「女性は発言しにくい雰囲気がある」が「ある」という割合について、性別でみると、男性（9.7%）に比べて女性（12.0%）の方が2.3ポイント高い。

前回調査（平成21年度）との比較では、「ない」が男性で2.4ポイント、女性で3.4ポイント上昇している。

【図表 3-20-6 性別・調査年度別

自治会や町内会の活動の状況「名簿上は男性が会員になっているが実際は女性が活動している】

		ある	ない	わからない	無回答
<今回> ・全体：N=587 ・男性：N=216 ・女性：N=366 <前回> ・全体：N=695 ・男性：N=286 ・女性：N=404					
全体	今回	55.7%	21.8%	15.7%	6.8%
	前回	59.6%	19.0%	15.5%	5.9%
男性	今回	51.9%	24.1%	15.7%	8.3%
	前回	53.1%	22.0%	18.2%	6.6%
女性	今回	57.7%	20.5%	15.8%	6.0%
	前回	64.1%	16.8%	13.9%	5.2%

「名簿上は男性が会員になっているが実際は女性が活動している」が「ある」という割合について、性別でみると、男性（51.9%）に比べて女性（57.7%）の方が5.8ポイント高い。

前回調査（平成21年度）との比較では、「ある」が男性で1.2ポイント、女性で6.4ポイント低下している。

【図表 3-20-7 性別・調査年度別 自治会や町内会の活動の状況

「男性は仕事で欠席が許されるが、女性が仕事で欠席することを否定する雰囲気がある」】

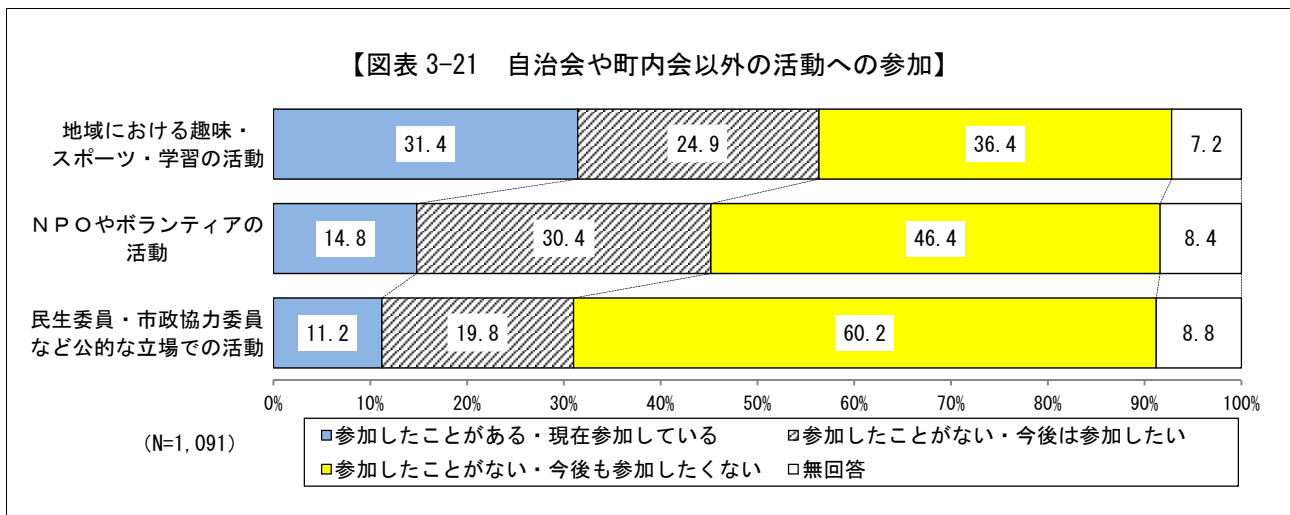
<今回> ・全体：N=587 ・男性：N=216 ・女性：N=366 <前回> ・全体：N=695 ・男性：N=286 ・女性：N=404		あ る	な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体	今 回	14.7%	51.4%	26.4%	7.5%
	前 回	17.3%	52.4%	22.7%	7.6%
男 性	今 回	10.6%	55.1%	25.0%	9.3%
	前 回	13.3%	59.4%	19.6%	7.7%
女 性	今 回	16.7%	49.5%	27.3%	6.6%
	前 回	20.3%	47.0%	25.2%	7.4%

「男性は仕事で欠席が許されるが、女性が仕事で欠席することを否定する雰囲気がある」が「ある」という割合について、性別で見ると、男性（10.6％）に比べて、女性（16.7％）の方が6.1ポイント高い。

前回調査（平成 21 年度）との比較では、「ある」が男性で 2.7 ポイント、女性で 3.6 ポイント低下している。

(5) 自治会や町内会以外の活動への参加

問13 あなたは、自治会や町内会以外でどのような活動に参加したことがありますか。また、今後参加してみたい活動は何ですか。【それぞれ1つに○】



- ・ 参加経験は「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」、参加希望は「NPOやボランティアの活動」が最も多い

自治会や町内会以外の活動への参加状況を見ると、「参加したことがある・現在参加している」が「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」で31.4%と最も多くなっている。一方、「参加したことがない・今後も参加したくない」では「民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動」が60.2%と最も多くなっている。

【図表 3-21-1 性別・調査年度別 自治会や町内会以外の活動への参加「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」】

		現参加したことがある	今後は参加したい	今後は参加したくない	無回答
		<今回> ・全体：N=1,091 ・男性：N=438 ・女性：N=640 <前回> ・全体：N=1,273 ・男性：N=515 ・女性：N=745			
全体	今回	31.4%	24.9%	36.4%	7.2%
	前回	35.4%	24.7%	31.7%	8.2%
男性	今回	31.5%	27.2%	34.5%	6.8%
	前回	37.9%	25.2%	28.9%	8.0%
女性	今回	31.3%	23.6%	38.0%	7.2%
	前回	33.8%	24.6%	34.0%	7.7%

性別で地域における趣味・スポーツ・学習の活動への参加状況を見ると、男女共に「参加したことがない・今後も参加したくない」（男性34.5%、女性38.0%）が最も多くなっている。

前回調査（平成21年度）との比較では、「参加したことがある・現在参加している」が男性で6.4ポイント、女性で2.5ポイント低下している。また、「参加したことがない・今後も参加したくない」が男性で5.6ポイント、女性で4.0ポイント上昇している。

【図表 3-21-2 性別・調査年度別 自治会や町内会以外の活動への参加「NPOやボランティアの活動」】

<今回> ・全体：N=1,091 ・男性：N=438 ・女性：N=640 <前回> ・全体：N=1,273 ・男性：N=515 ・女性：N=745		現 参 在 加 参 加 し こ と が あ る ・	今 参 後 加 は し 参 加 し こ と が あ る ・	今 参 後 加 も し 参 加 し こ と が あ る ・	無 回 答
全 体	今回	14.8%	30.4%	46.4%	8.4%
	前回	17.7%	31.6%	40.9%	9.8%
男性	今回	15.3%	31.3%	45.4%	8.0%
	前回	18.6%	32.2%	40.6%	8.5%
女性	今回	14.2%	30.3%	47.0%	8.4%
	前回	17.2%	31.5%	41.5%	9.8%

性別でNPOやボランティアの活動への参加状況をみると、男女共に「参加したことがない・今後も参加したくない」（男性 45.4%，女性 47.0%）が最も多くなっている。

前回調査（平成 21 年度）との比較では、「参加したことがある・現在参加している」が男性で 3.3 ポイント，女性で 3.0 ポイント低下している。また、「参加したことがない・今後も参加したくない」が男性で 4.8 ポイント，女性で 5.5 ポイント上昇している。

【図表 3-21-3 性別・調査年度別

自治会や町内会以外の活動への参加「民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動」】

<今回> ・全体：N=1,091 ・男性：N=438 ・女性：N=640 <前回> ・全体：N=1,273 ・男性：N=515 ・女性：N=745		現 参 在 加 参 加 し こ と が あ る ・	今 参 後 加 は し 参 加 し こ と が あ る ・	今 参 後 加 も し 参 加 し こ と が あ る ・	無 回 答
全 体	今回	11.2%	19.8%	60.2%	8.8%
	前回	14.4%	18.7%	57.5%	9.4%
男性	今回	12.8%	21.0%	58.7%	7.5%
	前回	18.6%	22.3%	50.9%	8.2%
女性	今回	10.0%	18.8%	61.9%	9.4%
	前回	11.5%	16.4%	62.4%	9.7%

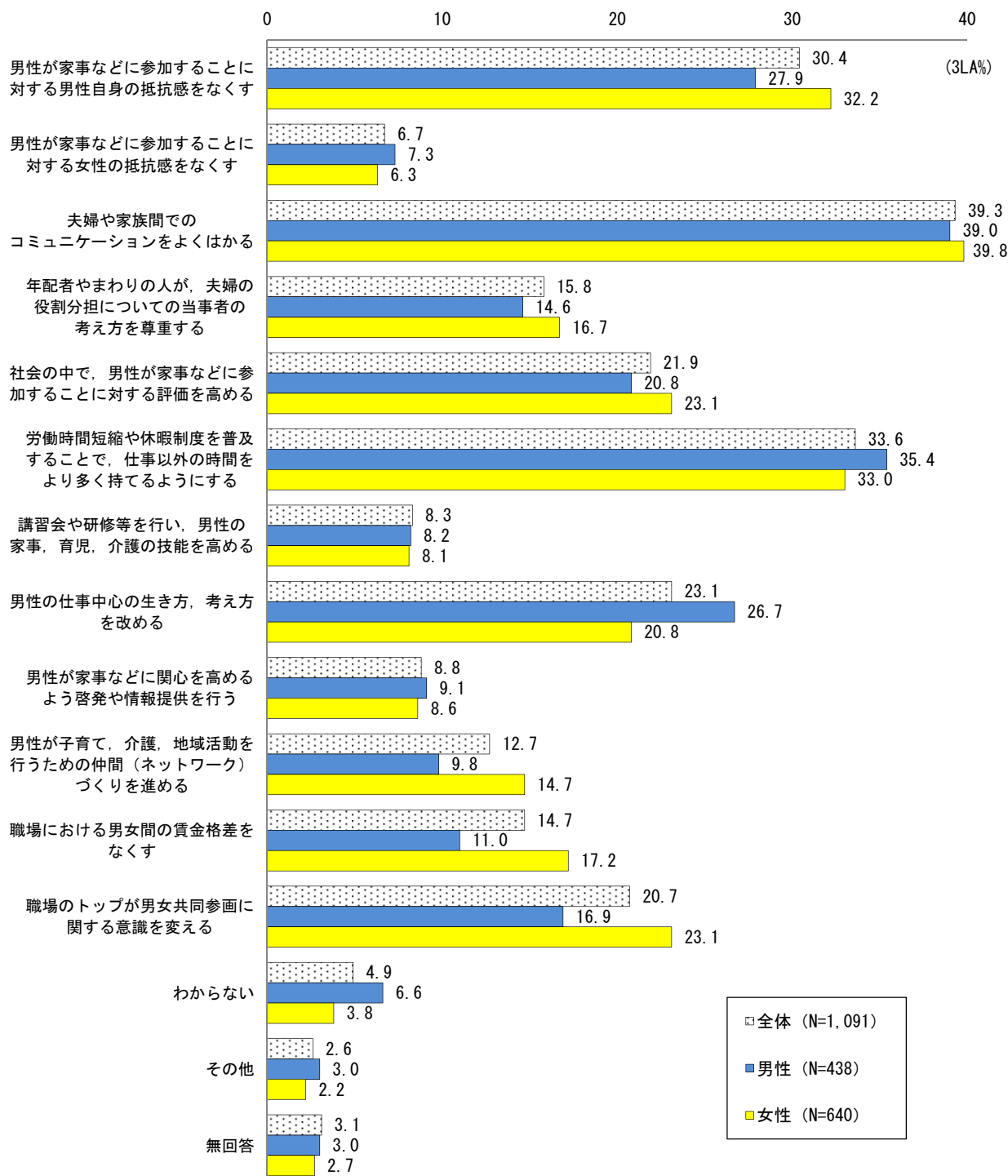
性別で民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動への参加状況をみると、男女共に「参加したことがない・今後も参加したくない」（男性 58.7%，女性 61.9%）が最も多くなっている。

前回調査（平成 21 年度）との比較では、「参加したことがある・現在参加している」が男性で 5.8 ポイント，女性で 1.5 ポイント低下している。また、「参加したことがない・今後も参加したくない」が男性で 7.8 ポイント上昇している。

(6) 男性の家事等への参加に必要なこと

問 14 あなたは、今後、男性が女性とともに家事，子育て，介護，地域活動に積極的に参加していくには、どのようなことが必要だと思いますか。【3つまでに○】

【図表 3-22 男性の家事等への参加に必要なこと（複数回答）】

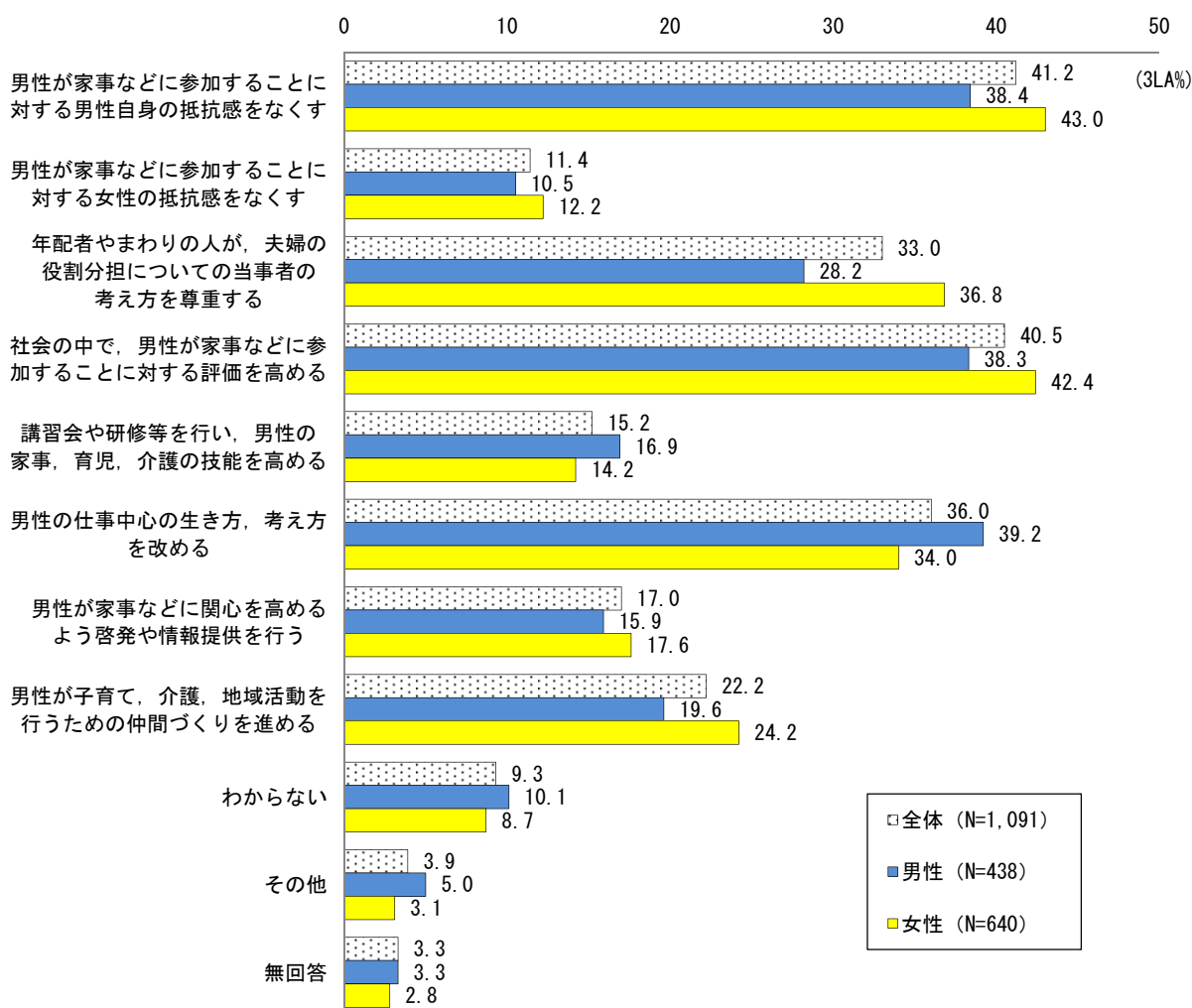


- ・ 「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が最も多く、次いで「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」

男性の家事等への参加に必要なことをみると、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が 39.3%と最も多く、次いで「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」(33.6%)、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」(30.4%)となっている。

性別で男性の家事等への参加に必要なことをみても、男女共に「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」(男性 39.0%，女性 39.8%)が最も多く、次いで「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」(男性 35.4%，女性 33.0%)、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」(男性 27.9%，女性 32.2%)となっている。

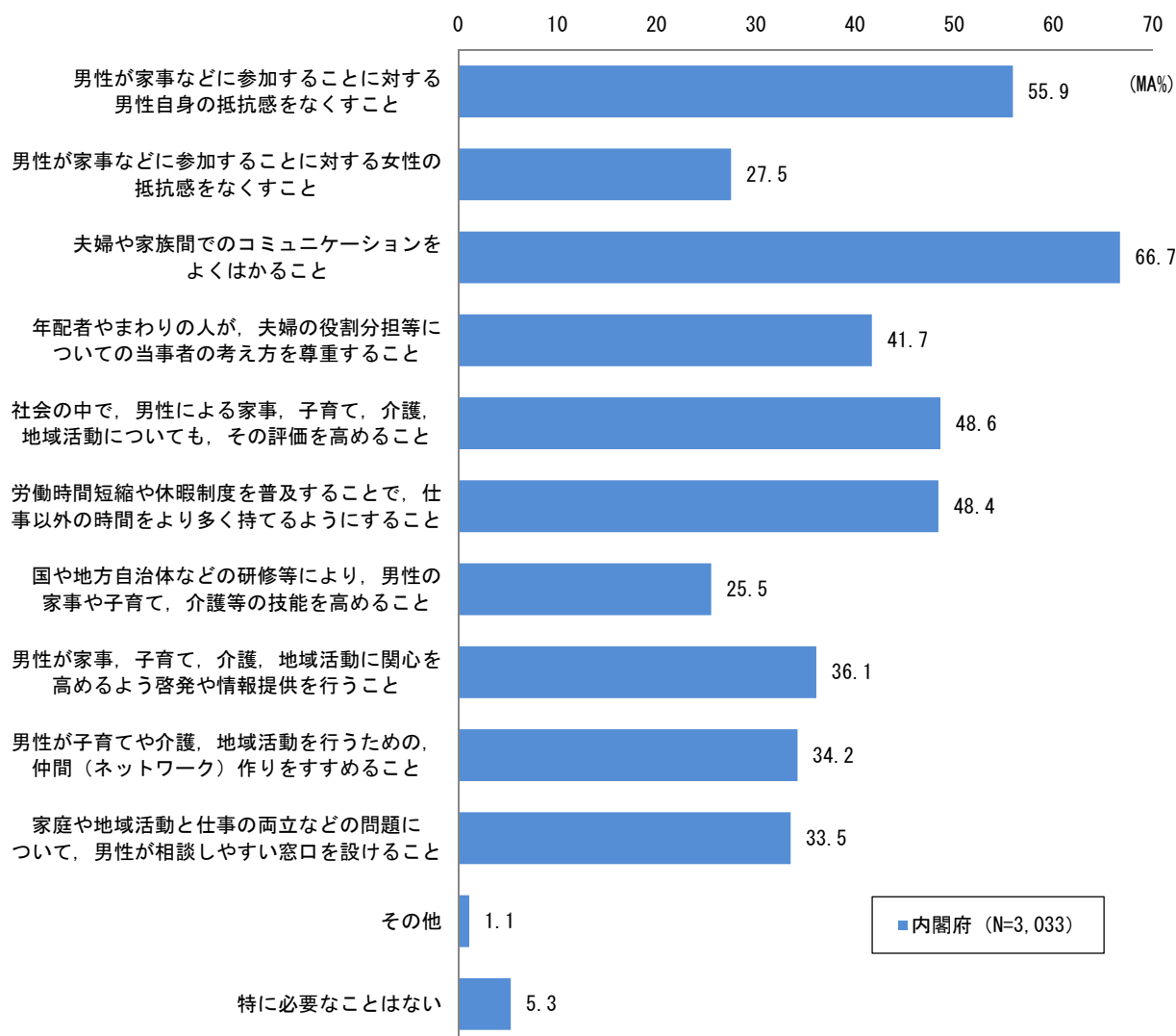
【図表 3-22-1 男性の家事等への参加に必要なこと《前回（平成 21 年度）調査結果》（複数回答）】



※以下の項目は、前回調査では項目設定なし

- ・『夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる』
- ・『労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする』
- ・『職場における男女間の賃金格差をなくす』
- ・『職場のトップが男女共同参画に関する意識を変える』

【図表 3-22-2 男性の家事等への参加に必要なこと《平成 24 年度内閣府調査結果》（複数回答）】

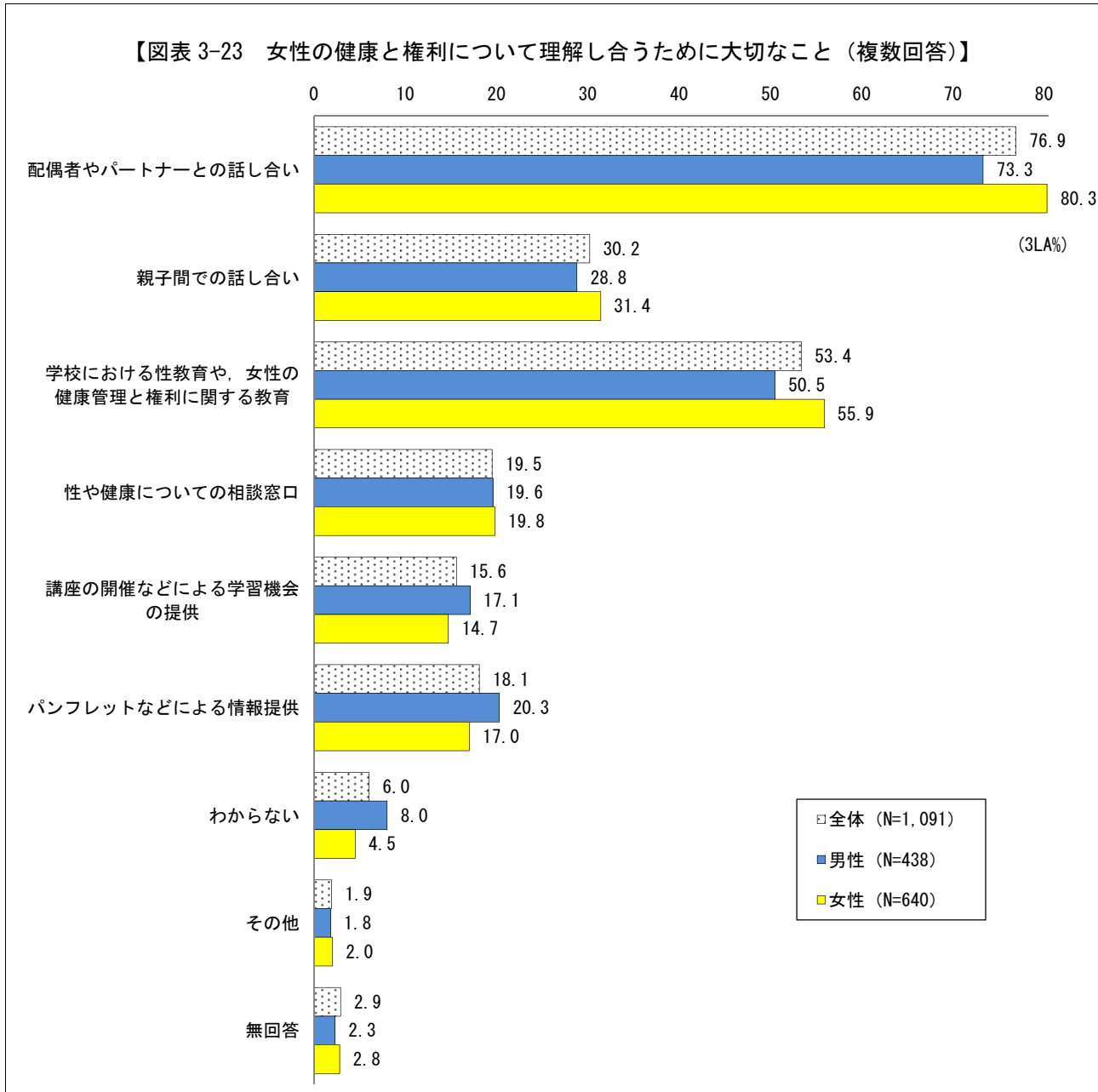


※以下の項目は、内閣府調査では項目設定なし

- ・『男性の仕事中心の生き方・考え方を改める』
- ・『職場における男女間の賃金格差をなくす』
- ・『職場のトップが男女共同参画に関する意識を変える』
- ・『わからない』

(7) 女性の健康と権利について理解し合うために大切なこと

問15 あなたは妊娠や出産、不妊、避妊、更年期、性感染症など女性の健康と権利について、男女が理解し合うためには、どのようなことが大切だと思いますか。【3つまでに○】

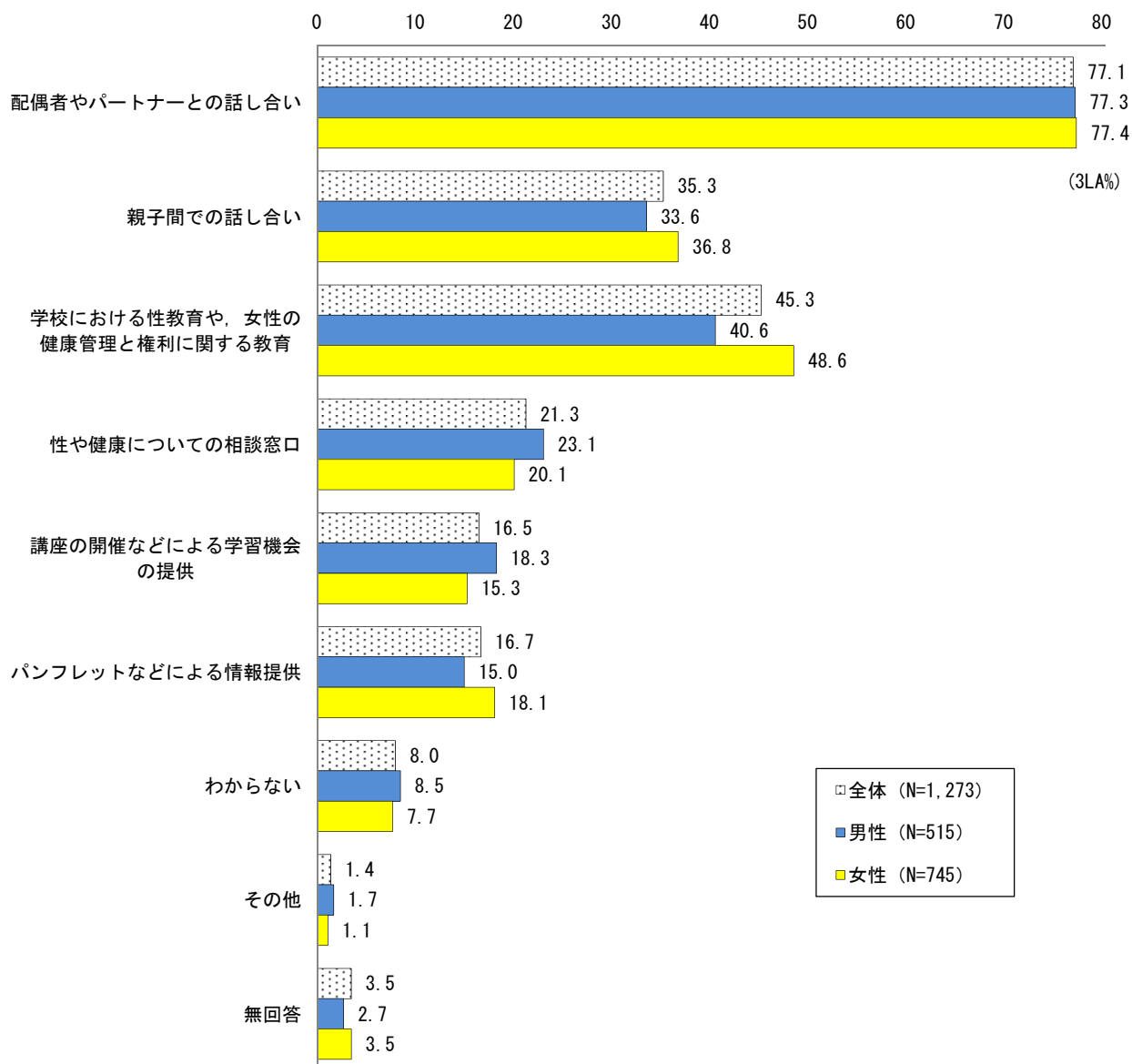


・ 「配偶者やパートナーとの話し合い」が最も多い

女性の健康と権利について男女が理解し合うために大切なことをみると、「配偶者やパートナーとの話し合い」が76.9%と最も多く、次いで「学校における性教育や、女性の健康管理と権利に関する教育」(53.4%)、「親子間での話し合い」(30.2%)となっている。

性別でみても、男女共に「配偶者やパートナーとの話し合い」(男性73.3%、女性80.3%)が最も多く、次いで「学校における性教育や、女性の健康管理と権利に関する教育」(男性50.5%、女性55.9%)、「親子間での話し合い」(男性28.8%、女性31.4%)となっている。

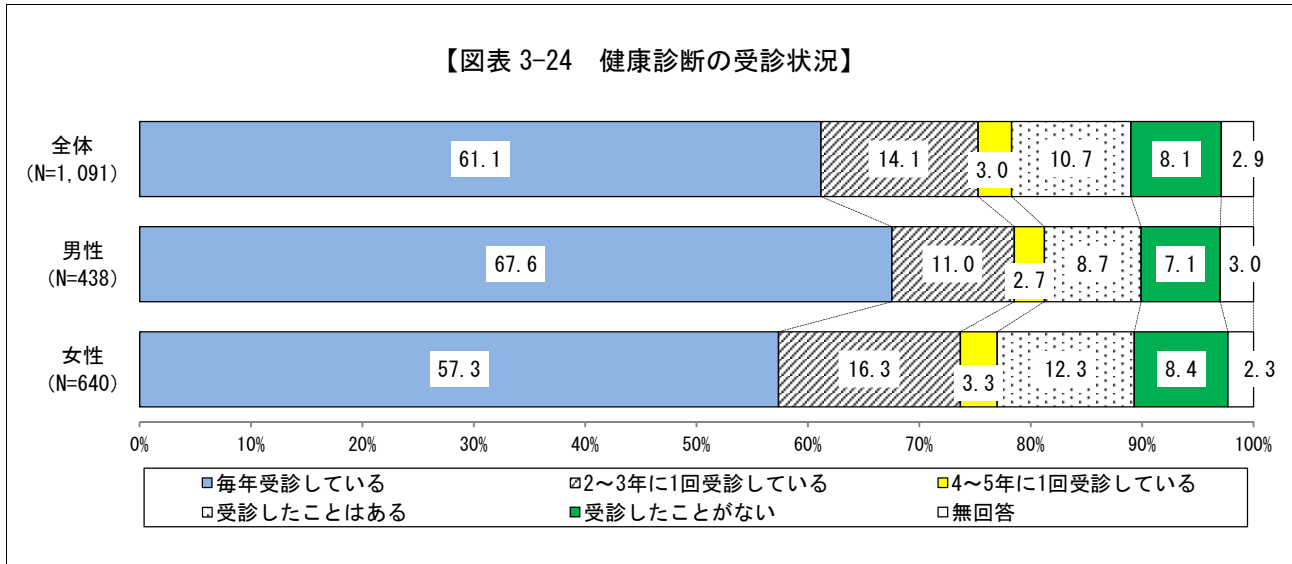
【図表 3-23-1 女性の健康と権利について理解し合うために大切なこと《前回調査結果》（複数回答）】



女性の健康と権利について男女が理解し合うために大切なことについて、前回調査（平成21年度）との比較では、「学校における性教育や、女性の健康管理と権利に関する教育」が男性で9.9ポイント、女性で7.3ポイント上昇している。

(8) 健康診断の受診状況

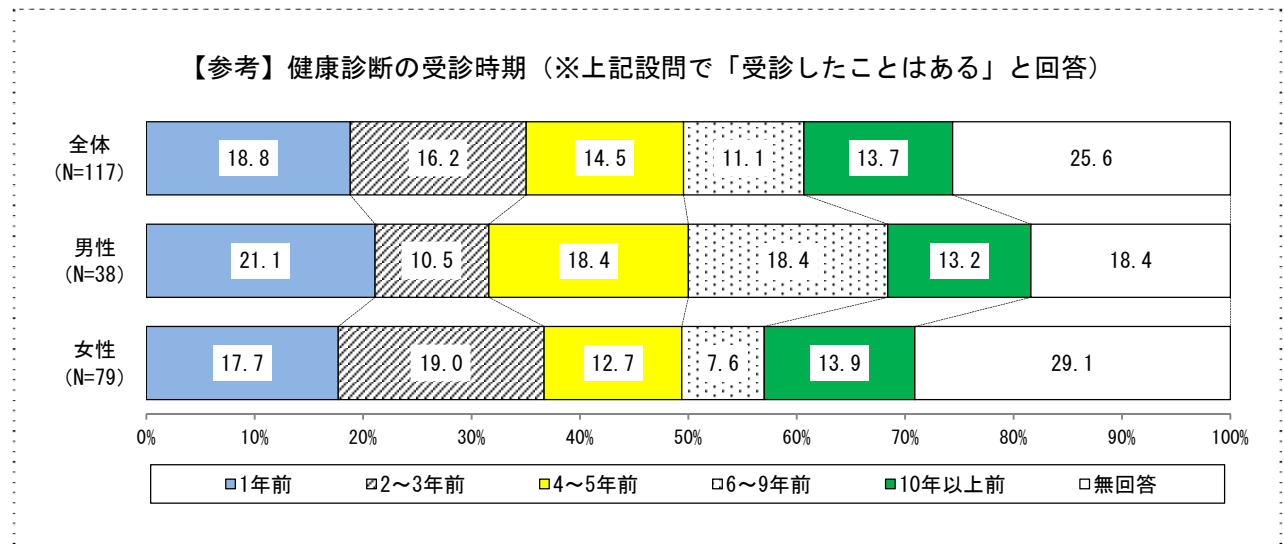
問16 健康で豊かな生活を送るためには、一人一人が自分の健康を管理していくことが重要です。あなたは、健康診断を定期的に受診されていますか。【1つに〇】



- ・ 「毎年受診している」が約6割

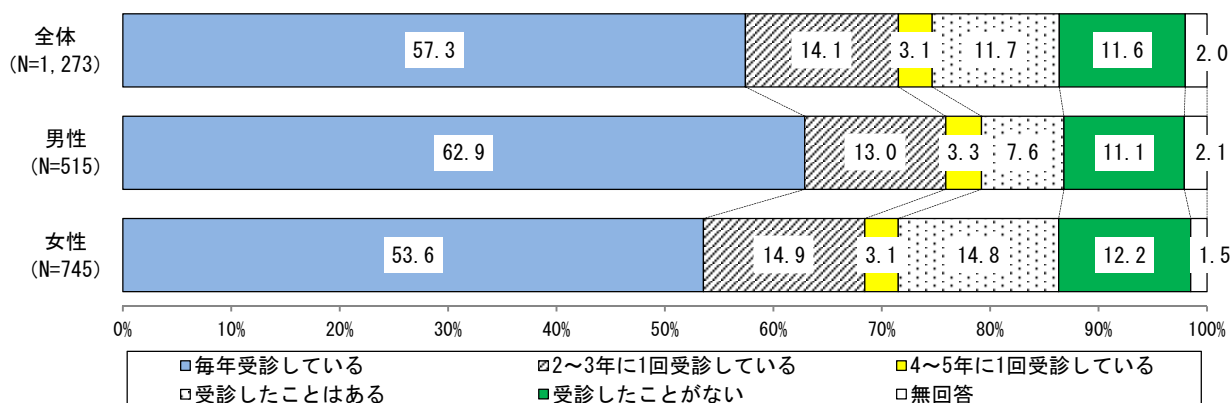
健康診断の受診状況を見ると、「毎年受診している」が61.1%と最も多くなっている。

性別で見ると、「毎年受診している」が女性（57.3%）に比べて男性（67.6%）の方が10.3ポイント高くなっている。



健康診断について（定期的ではないが）、「受診したことはある人」と回答した人の受診時期を見ると、「無回答」を除き、「1年前」が18.8%と最も多く、性別で見ても、男性で21.1%と最も多い。一方、女性では「2～3年前」が19.0%と最も多くなっている。

【図表 3-24-1 健康診断の受診状況<<前回調査結果>>】



健康診断の受診状況について、前回調査（平成 21 年度）との比較では、「毎年受診している」が、男性で 4.7 ポイント、女性で 3.7 ポイント上昇している。

【図表 3-24-2 性別・年齢別 健康診断の受診状況】

	毎年受診している	2～3年に1回受診している	4～5年に1回受診している	受診したことはある	受診したことはない	無回答
男性全体 (N=438)	67.6%	11.0%	2.7%	8.7%	7.1%	3.0%
20歳代 (N=30)	60.0%	13.3%	3.3%	10.0%	13.3%	0.0%
30歳代 (N=51)	78.4%	3.9%	0.0%	11.8%	5.9%	0.0%
40歳代 (N=62)	71.0%	6.5%	4.8%	8.1%	6.5%	3.2%
50歳代 (N=70)	78.6%	10.0%	2.9%	5.7%	1.4%	1.4%
60歳代 (N=94)	60.6%	17.0%	3.2%	9.6%	7.4%	2.1%
70歳代以上 (N=129)	62.8%	11.6%	2.3%	8.5%	9.3%	5.4%
女性全体 (N=640)	57.3%	16.3%	3.3%	12.3%	8.4%	2.3%
20歳代 (N=51)	58.8%	13.7%	0.0%	13.7%	11.8%	2.0%
30歳代 (N=89)	53.9%	16.9%	4.5%	12.4%	12.4%	0.0%
40歳代 (N=108)	57.4%	14.8%	4.6%	13.0%	8.3%	1.9%
50歳代 (N=97)	63.9%	14.4%	2.1%	8.2%	11.3%	0.0%
60歳代 (N=151)	55.0%	14.6%	4.0%	15.2%	7.9%	3.3%
70歳代以上 (N=144)	56.9%	20.8%	2.8%	11.1%	3.5%	4.9%

性別・年齢別で健康診断の受診状況を見ると、男女共に全ての年齢層で「毎年受診している」が半数以上となっており、特に男性の 30～50 歳代では 7 割以上となっている。

【図表 3-24-3 性別・職業別 健康診断の受診状況】

	毎年受診している	2～3年に1回受診	4～5年に1回受診	受診したことはある	受診したことがない	無回答
男性全体 (N=438)	67.6%	11.0%	2.7%	8.7%	7.1%	3.0%
自営・自由業 (N=70)	52.9%	20.0%	4.3%	10.0%	12.9%	0.0%
家族従事者 (N=0)	—	—	—	—	—	—
正規従業員 (N=166)	84.9%	6.0%	1.8%	2.4%	3.0%	1.8%
非正規従業員 (N=54)	72.2%	11.1%	0.0%	9.3%	3.7%	3.7%
その他有職 (N=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無職・学生 (N=129)	54.3%	11.6%	4.7%	15.5%	10.1%	3.9%
女性全体 (N=640)	57.3%	16.3%	3.3%	12.3%	8.4%	2.3%
自営・自由業 (N=31)	41.9%	32.3%	9.7%	3.2%	3.2%	9.7%
家族従事者 (N=31)	67.7%	9.7%	0.0%	16.1%	6.5%	0.0%
正規従業員 (N=108)	86.1%	4.6%	1.9%	5.6%	1.9%	0.0%
非正規従業員 (N=159)	55.3%	13.8%	4.4%	13.8%	10.7%	1.9%
その他有職 (N=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無職・学生 (N=279)	50.9%	20.4%	3.2%	14.3%	9.7%	1.4%

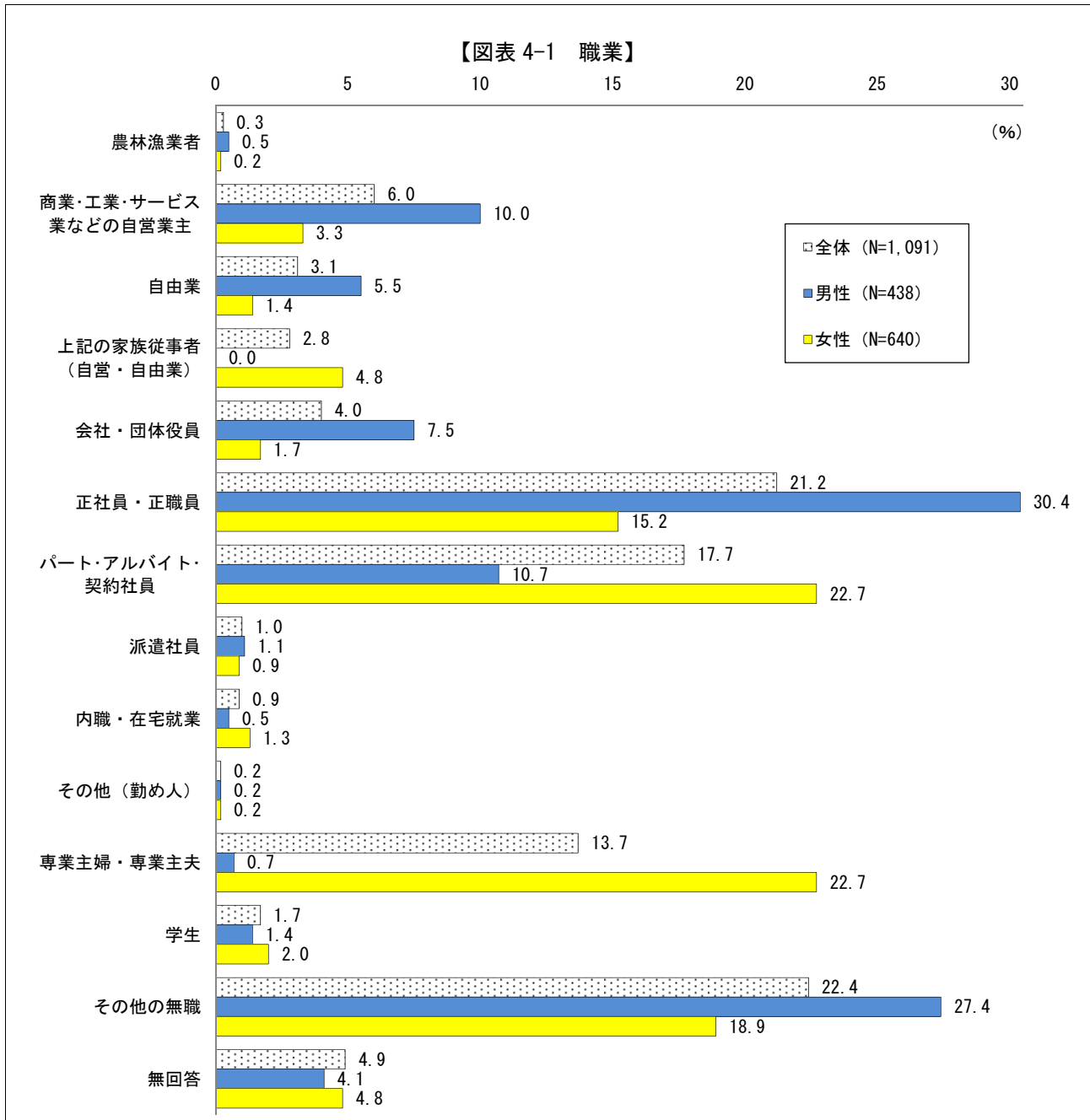
性別・職業別で健康診断の受診状況をみると、男女共に「毎年受診している」が「正規従業員」（男性 84.9%，女性 86.1%）で 8 割以上となっている。また、「非正規従業員」では、男性が 72.2%，女性が 55.3%と男性が 16.9 ポイント上回っている。

4 職場環境について

(1) 職業

ア 職業・就労状況

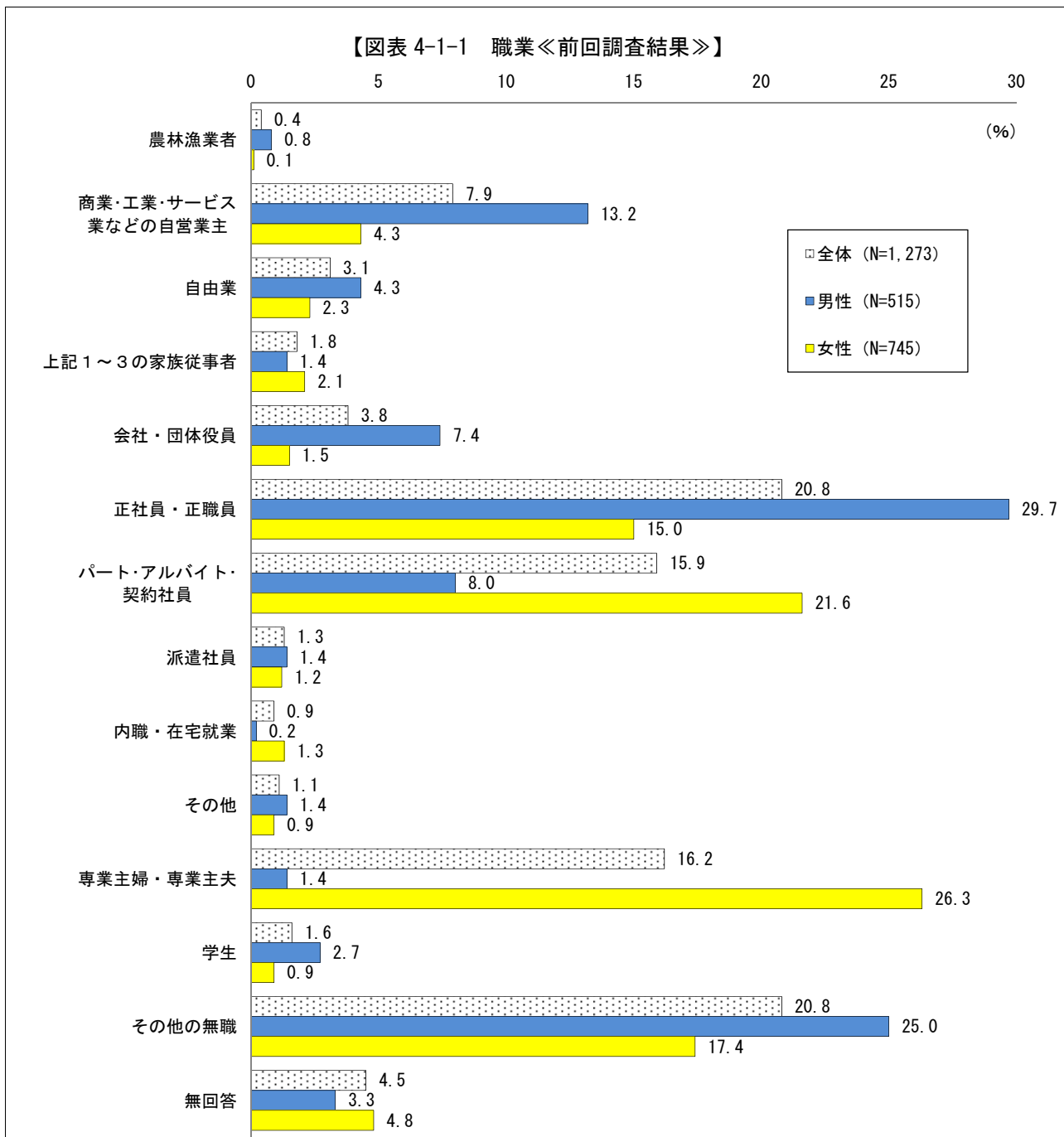
問 17(1) 現在のあなたの職業・就労状況はどれにあたりますか。【1つに○】



- ・ 男性では「正社員・正職員」が最も多い
- ・ 女性では「パート・アルバイト・契約社員」「専業主婦・専業主夫」が最も多い

現在の職業をみると、「その他の無職」が 22.4%と最も多く、次いで「正社員・正職員」(21.2%)、「パート・アルバイト・契約社員」(17.7%)となっている。

性別で職業をみると、男女差が大きいものとしては、「正社員・正職員」(15.2ポイント差)、「その他無職」(8.5ポイント差)では男性が女性を上回っており、「専業主婦・専業主夫」(22.0ポイント差)、「パート・アルバイト・契約社員」(12.0ポイント差)では女性が男性を上回っている。



現在の職業について、前回調査（平成21年度）との比較では、男性では「商業・工業・サービス業などの自営業主」が3.2ポイント低下し、「パート・アルバイト・契約社員」が2.7ポイント、「その他の無職」が2.4ポイント上昇している。一方、女性では「専業主婦・専業主夫」が3.6ポイント低下し、「上記の家族従事者（自営・自由業）」が2.7ポイント上昇している。

【図表 4-1-2 性別・年齢別 職業】

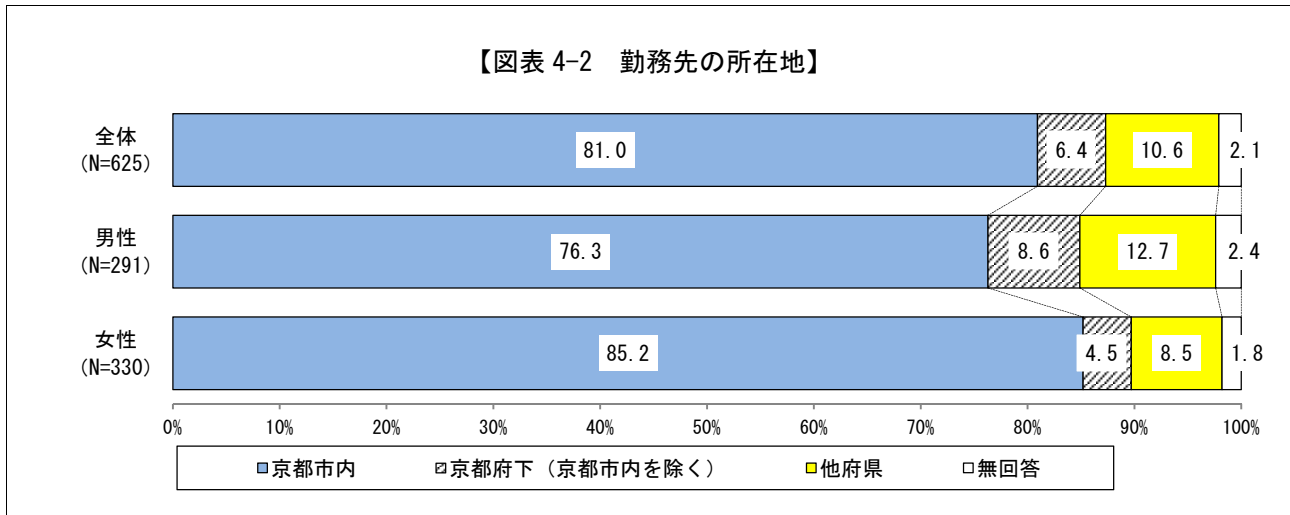
	農林漁業者	商業・工業などの自営業者	自由業	(上記の家族従事者) （自営・自由業）	会社・団体役員	正社員・正職員	パート・アルバイト・契約社員	派遣社員	内職・在宅就業	その他（勤め人）
男性全体 (N=438)	0.5%	10.0%	5.5%	0.0%	7.5%	30.4%	10.7%	1.1%	0.5%	0.2%
20歳代 (N=30)	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	3.3%	50.0%	6.7%	6.7%	0.0%	0.0%
30歳代 (N=51)	0.0%	3.9%	3.9%	0.0%	11.8%	56.9%	13.7%	0.0%	0.0%	0.0%
40歳代 (N=62)	0.0%	4.8%	6.5%	0.0%	11.3%	53.2%	8.1%	0.0%	0.0%	0.0%
50歳代 (N=70)	0.0%	11.4%	2.9%	0.0%	17.1%	57.1%	5.7%	0.0%	0.0%	0.0%
60歳代 (N=94)	0.0%	20.2%	7.4%	0.0%	3.2%	16.0%	24.5%	2.1%	1.1%	0.0%
70歳代以上 (N=129)	1.6%	8.5%	6.2%	0.0%	3.1%	0.8%	4.7%	0.8%	0.8%	0.8%
女性全体 (N=640)	0.2%	3.3%	1.4%	4.8%	1.7%	15.2%	22.7%	0.9%	1.3%	0.2%
20歳代 (N=51)	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	2.0%	37.3%	31.4%	0.0%	0.0%	0.0%
30歳代 (N=89)	0.0%	1.1%	1.1%	1.1%	2.2%	37.1%	24.7%	0.0%	0.0%	0.0%
40歳代 (N=108)	0.0%	2.8%	1.9%	5.6%	5.6%	16.7%	31.5%	3.7%	0.9%	0.0%
50歳代 (N=97)	0.0%	2.1%	3.1%	9.3%	1.0%	16.5%	38.1%	1.0%	5.2%	0.0%
60歳代 (N=151)	0.0%	5.3%	1.3%	6.6%	0.7%	6.6%	20.5%	0.7%	1.3%	0.7%
70歳代以上 (N=144)	0.7%	4.9%	0.7%	2.8%	0.0%	0.7%	3.5%	0.0%	0.0%	0.0%

	専業主婦・専業主夫	学生	その他の無職	無回答
男性全体 (N=438)	0.7%	1.4%	27.4%	4.1%
20歳代 (N=30)	0.0%	16.7%	13.3%	0.0%
30歳代 (N=51)	0.0%	2.0%	7.8%	0.0%
40歳代 (N=62)	0.0%	0.0%	16.1%	0.0%
50歳代 (N=70)	0.0%	0.0%	4.3%	1.4%
60歳代 (N=94)	0.0%	0.0%	22.3%	3.2%
70歳代以上 (N=129)	2.3%	0.0%	59.7%	10.9%
女性全体 (N=640)	22.7%	2.0%	18.9%	4.8%
20歳代 (N=51)	7.8%	15.7%	3.9%	0.0%
30歳代 (N=89)	28.1%	0.0%	2.2%	2.2%
40歳代 (N=108)	22.2%	0.9%	1.9%	6.5%
50歳代 (N=97)	19.6%	0.0%	4.1%	0.0%
60歳代 (N=151)	21.2%	2.6%	29.1%	3.3%
70歳代以上 (N=144)	28.5%	0.0%	46.5%	11.8%

性別・年齢別で職業をみると、男性では「会社・団体役員」「正社員・正職員」の全ての年齢層で女性を上回っている。一方、女性では「パート・アルバイト・契約社員」「専業主婦・専業主夫」の概ね全ての年齢層で男性を上回っている。また、女性では「正社員・正職員」は年齢層が上がるにつれて比率が低下している。

イ 勤務先の所在地

(※「自営・自由業の方」または「お勤めの方」)
 問 17(2) あなたのお勤めの所在地はどこですか。【1つに〇】



・ 「京都市内」が8割以上

現在仕事をしている人の勤務先の所在地をみると、「京都市内」が81.0%と最も多くなっている。性別でみると、男性（76.3%）に比べて女性（85.2%）の方が8.9ポイント高い。

【図表 4-2-1 性別・年齢別 勤務先の所在地】

	京都市内	京都府下 (京都市内を除く)	他府県	無回答
男性全体 (N=291)	76.3%	8.6%	12.7%	2.4%
20歳代 (N=21)	57.1%	28.6%	14.3%	0.0%
30歳代 (N=46)	76.1%	6.5%	17.4%	0.0%
40歳代 (N=52)	76.9%	0.0%	19.2%	3.8%
50歳代 (N=66)	74.2%	12.1%	13.6%	0.0%
60歳代 (N=70)	81.4%	8.6%	8.6%	1.4%
70歳代以上 (N=35)	80.0%	5.7%	2.9%	11.4%
女性全体 (N=330)	85.2%	4.5%	8.5%	1.8%
20歳代 (N=37)	75.7%	8.1%	16.2%	0.0%
30歳代 (N=60)	78.3%	6.7%	13.3%	1.7%
40歳代 (N=74)	89.2%	1.4%	9.5%	0.0%
50歳代 (N=74)	89.2%	4.1%	4.1%	2.7%
60歳代 (N=66)	84.8%	4.5%	6.1%	4.5%
70歳代以上 (N=19)	94.7%	5.3%	0.0%	0.0%

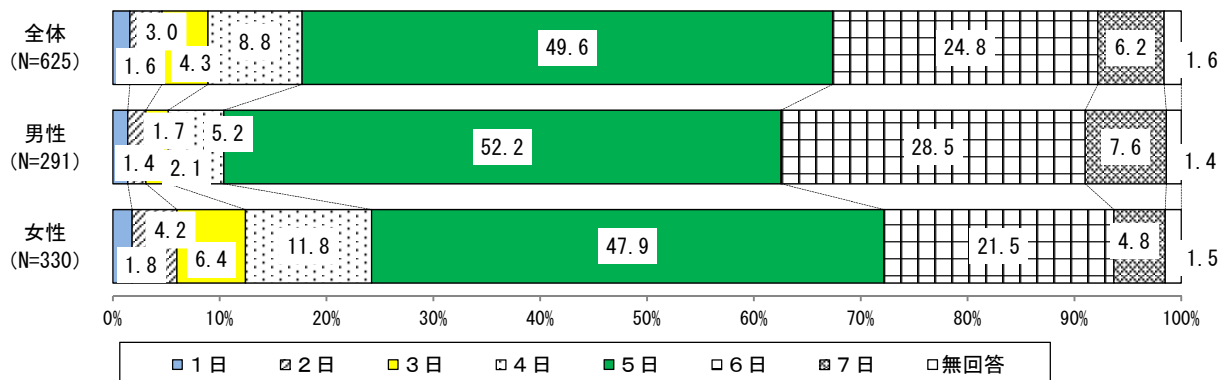
(2) 労働状況

ア 平均労働日数（週あたり）

《問17(1)で「1 農林漁業者」～「10 その他」を選ばれた方におうかがいします。》

問18(1) あなたは平均すると、週に何日働いていますか。（1日1時間でも働いていれば、1日と数えてお答えください。）【1つに〇】

【図表 4-3 平均労働日数】

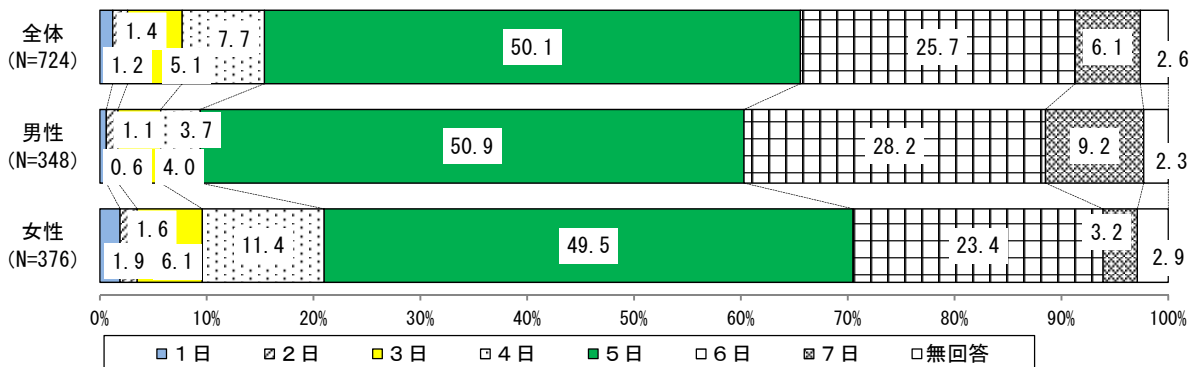


- ・ 「5日」が最も多く、次いで「6日」となっている
- ・ 男性の約3分の1、女性の約4分の1が週6日以上働いている
- ・ 女性の約4分の1は週4日以下となっている

週あたりの平均労働日数をみると、「5日」が49.6%と最も多く、次いで「6日」(24.8%)、「4日」(8.8%)となっている。

性別でみると、6日以上の割合が、女性(26.3%)に比べて男性(36.1%)の方が9.8ポイント高い。一方、4日以下の割合は、男性(10.4%)に比べて女性(24.2%)の方が13.8ポイント高い。

【図表 4-3-1 平均労働日数《前回調査結果》】



週あたりの平均労働日数について、前回調査（平成21年度）と比較しても、さほど大きな差異はみられない。

【図表 4-3-2 性別・年齢別 平均労働日数】

	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	無回答
男性全体 (N=291)	1.4%	1.7%	2.1%	5.2%	52.2%	28.5%	7.6%	1.4%
20歳代 (N=21)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	81.0%	14.3%	4.8%	0.0%
30歳代 (N=46)	0.0%	0.0%	2.2%	0.0%	58.7%	37.0%	2.2%	0.0%
40歳代 (N=52)	1.9%	0.0%	0.0%	1.9%	59.6%	30.8%	3.8%	1.9%
50歳代 (N=66)	0.0%	1.5%	0.0%	1.5%	62.1%	27.3%	6.1%	1.5%
60歳代 (N=70)	2.9%	4.3%	4.3%	8.6%	41.4%	25.7%	12.9%	0.0%
70歳代以上 (N=35)	2.9%	2.9%	5.7%	20.0%	17.1%	31.4%	14.3%	5.7%
女性全体 (N=330)	1.8%	4.2%	6.4%	11.8%	47.9%	21.5%	4.8%	1.5%
20歳代 (N=37)	0.0%	5.4%	8.1%	10.8%	56.8%	18.9%	0.0%	0.0%
30歳代 (N=60)	0.0%	3.3%	5.0%	6.7%	60.0%	20.0%	5.0%	0.0%
40歳代 (N=74)	1.4%	2.7%	5.4%	12.2%	58.1%	12.2%	5.4%	2.7%
50歳代 (N=74)	2.7%	2.7%	6.8%	14.9%	47.3%	20.3%	4.1%	1.4%
60歳代 (N=66)	1.5%	7.6%	6.1%	15.2%	31.8%	28.8%	6.1%	3.0%
70歳代以上 (N=19)	10.5%	5.3%	10.5%	5.3%	10.5%	47.4%	10.5%	0.0%

性別・年齢別で週あたりの平均労働日数をみると、6日以上の割合について、男性では20歳代を除いていずれの年齢層も3～4割台となっている。一方、女性では20～50歳代において2割前後となっている。また、4日以下の割合は、50歳代以下では男性に比べ、女性の方が高くなっている。

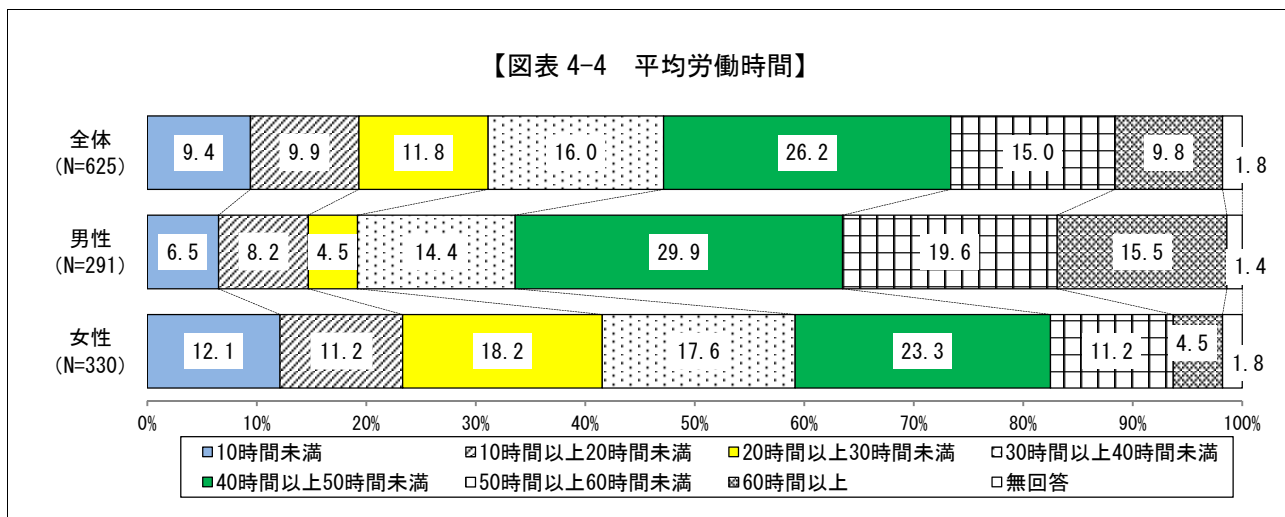
【図表 4-3-3 性別・職業別 平均労働日数】

	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	無回答
男性全体 (N=291)	1.4%	1.7%	2.1%	5.2%	52.2%	28.5%	7.6%	1.4%
自営・自由業 (N=70)	4.3%	4.3%	2.9%	4.3%	21.4%	38.6%	21.4%	2.9%
家族従事者 (N=0)	—	—	—	—	—	—	—	—
正規従業員 (N=166)	0.6%	1.2%	0.0%	1.8%	64.5%	28.3%	2.4%	1.2%
非正規従業員 (N=54)	0.0%	0.0%	7.4%	16.7%	55.6%	14.8%	5.6%	0.0%
その他有職 (N=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
女性全体 (N=330)	1.8%	4.2%	6.4%	11.8%	47.9%	21.5%	4.8%	1.5%
自営・自由業 (N=31)	6.5%	3.2%	6.5%	3.2%	16.1%	35.5%	25.8%	3.2%
家族従事者 (N=31)	9.7%	6.5%	9.7%	3.2%	19.4%	25.8%	16.1%	9.7%
正規従業員 (N=108)	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	74.1%	22.2%	1.9%	0.9%
非正規従業員 (N=159)	0.6%	6.9%	10.1%	22.6%	42.1%	17.0%	0.6%	0.0%
その他有職 (N=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%

性別・職業別で週あたりの平均労働日数をみると、男女共に「正規従業員」では「5日」（男性64.5%、女性74.1%）が最も多くなっている。一方、「自営・自由業」では6日以上の割合（男性60.0%、女性61.3%）が6割以上になっている。また、「非正規従業員」では4日以下の割合は、男性24.1%、女性40.2%となっている。

イ 平均労働時間（週あたり）

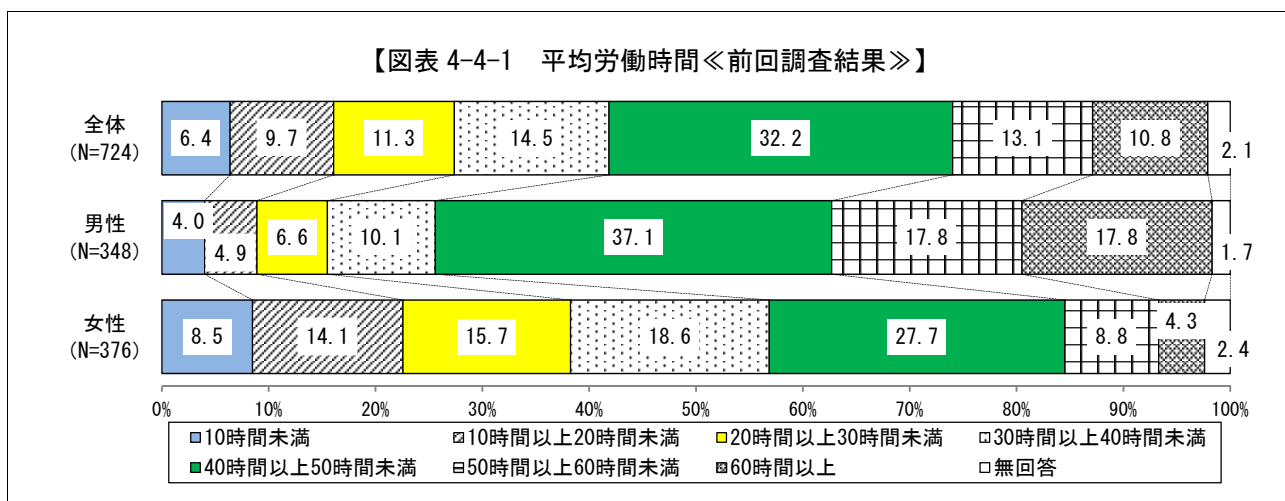
(2) あなたは平均すると、週に何時間ぐらい働いていますか。（残業時間は含みますが、休憩時間は除きます。）【1つに〇】



- ・ 男女共に「40 時間以上 50 時間未満」が最も多い
- ・ 次いで男性では「50 時間以上 60 時間未満」が多く、女性では「20 時間以上 30 時間未満」が多い

週あたりの平均労働時間をみると、「40 時間以上 50 時間未満」が 26.2%と最も多く、次いで「30 時間以上 40 時間未満」(16.0%)、「50 時間以上 60 時間未満」(15.0%)となっている。

性別でみると男女共に「40 時間以上 50 時間未満」(男性 29.9%、女性 23.3%)が最も多く、次いで男性では「50 時間以上 60 時間未満」(19.6%)、「60 時間以上」(15.5%)、女性では「20 時間以上 30 時間未満」(18.2%)、「30 時間以上 40 時間未満」(17.6%)となっている。



週あたりの平均労働時間について、前回調査（平成 21 年度）との比較では、「40 時間以上 50 時間未満」の割合が、男性では 7.2 ポイント、女性では 4.4 ポイント低下している。一方、「50 時間以上 60 時間未満」の割合は男性で 1.8 ポイント、女性で 2.4 ポイント上昇している。

【図表 4-4-2 性別・年齢別 平均労働時間】

	10 時間 未 満	21 00 時 間 未 以 満 上	32 00 時 間 未 以 満 上	43 00 時 間 未 以 満 上	54 00 時 間 未 以 満 上	65 00 時 間 未 以 満 上	6 0 時 間 以 上	無 回 答
男性全体 (N=291)	6.5%	8.2%	4.5%	14.4%	29.9%	19.6%	15.5%	1.4%
20歳代 (N=21)	4.8%	0.0%	0.0%	4.8%	38.1%	28.6%	23.8%	0.0%
30歳代 (N=46)	2.2%	6.5%	0.0%	10.9%	30.4%	30.4%	19.6%	0.0%
40歳代 (N=52)	7.7%	0.0%	5.8%	11.5%	34.6%	17.3%	23.1%	0.0%
50歳代 (N=66)	4.5%	4.5%	4.5%	9.1%	37.9%	27.3%	10.6%	1.5%
60歳代 (N=70)	10.0%	14.3%	4.3%	24.3%	21.4%	10.0%	14.3%	1.4%
70歳代以上 (N=35)	8.6%	22.9%	11.4%	17.1%	20.0%	8.6%	5.7%	5.7%
女性全体 (N=330)	12.1%	11.2%	18.2%	17.6%	23.3%	11.2%	4.5%	1.8%
20歳代 (N=37)	16.2%	10.8%	5.4%	13.5%	32.4%	13.5%	8.1%	0.0%
30歳代 (N=60)	13.3%	11.7%	13.3%	16.7%	25.0%	10.0%	10.0%	0.0%
40歳代 (N=74)	6.8%	6.8%	21.6%	20.3%	21.6%	17.6%	2.7%	2.7%
50歳代 (N=74)	9.5%	16.2%	20.3%	24.3%	18.9%	9.5%	0.0%	1.4%
60歳代 (N=66)	10.6%	12.1%	25.8%	9.1%	24.2%	7.6%	6.1%	4.5%
70歳代以上 (N=19)	36.8%	5.3%	10.5%	21.1%	21.1%	5.3%	0.0%	0.0%

性別・年齢別で週あたりの平均労働時間をみると、概ね全ての年齢層で、40 時間以上では男性が女性を上回っており、40 時間未満では女性が男性を上回っている。

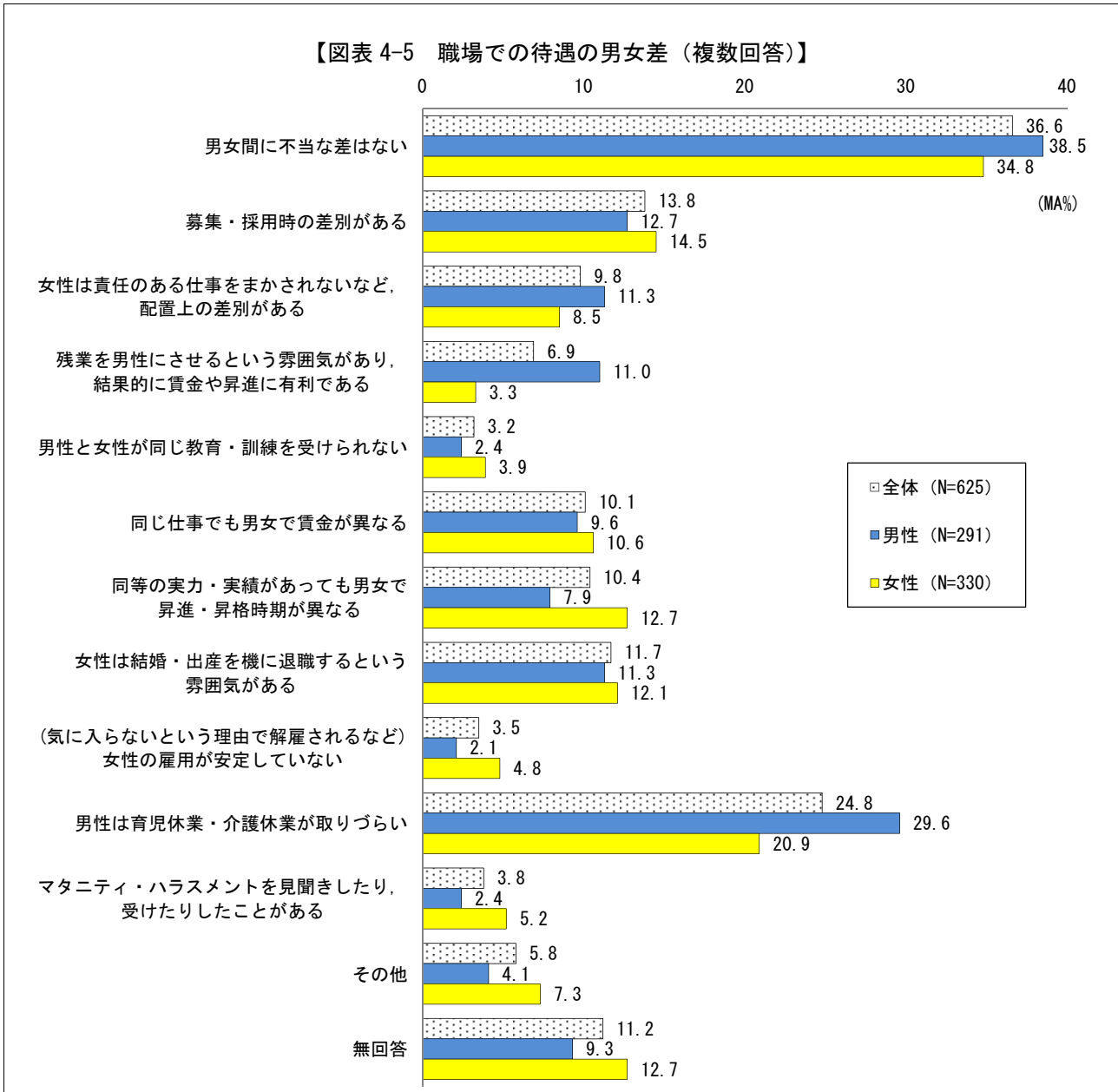
【図表 4-4-3 性別・職業別 平均労働時間】

	10 時間 未 満	21 00 時 間 未 以 満 上	32 00 時 間 未 以 満 上	43 00 時 間 未 以 満 上	54 00 時 間 未 以 満 上	65 00 時 間 未 以 満 上	6 0 時 間 以 上	無 回 答
男性全体 (N=291)	6.5%	8.2%	4.5%	14.4%	29.9%	19.6%	15.5%	1.4%
自営・自由業 (N=70)	12.9%	15.7%	4.3%	12.9%	24.3%	11.4%	14.3%	4.3%
家族従事者 (N=0)	—	—	—	—	—	—	—	—
正規従業員 (N=166)	3.6%	4.2%	0.6%	9.0%	38.0%	25.9%	18.1%	0.6%
非正規従業員 (N=54)	7.4%	9.3%	16.7%	33.3%	13.0%	11.1%	9.3%	0.0%
その他有職 (N=1)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体 (N=330)	12.1%	11.2%	18.2%	17.6%	23.3%	11.2%	4.5%	1.8%
自営・自由業 (N=31)	12.9%	6.5%	22.6%	9.7%	25.8%	9.7%	9.7%	3.2%
家族従事者 (N=31)	22.6%	12.9%	19.4%	9.7%	6.5%	9.7%	3.2%	16.1%
正規従業員 (N=108)	6.5%	2.8%	5.6%	14.8%	41.7%	20.4%	8.3%	0.0%
非正規従業員 (N=159)	13.8%	17.6%	25.8%	22.6%	13.2%	5.7%	1.3%	0.0%
その他有職 (N=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

性別・職業別で週あたりの平均労働時間をみると、男女共に「自営・自由業」「正規従業員」では「40 時間以上 50 時間未満」が最も多く、「非正規従業員」では 40 時間未満と回答した割合が半数以上になっている。

(3) 職場での待遇の男女差

問 19 あなたの職場では、賃金や昇進制度といった待遇に男女間の不当な差があると感じますか。
【あてはまるものすべてに○】

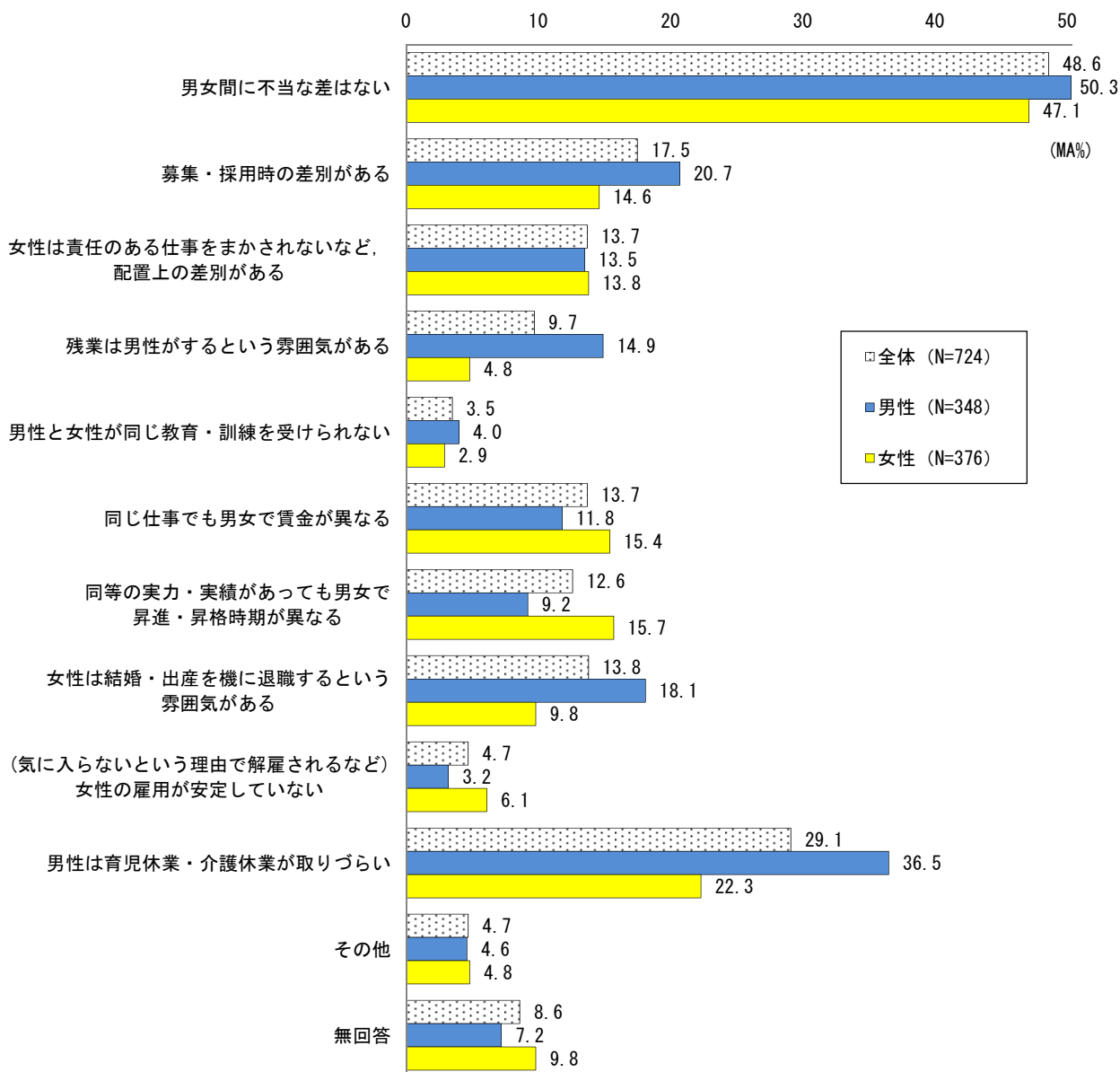


- ・ 「男女間に不当な差はない」が最も多く、次いで「男性は育児休業・介護休業が取りづらい」が多い

職場での待遇の男女差をみると、「男女間に不当な差はない」が36.6%と最も多く、次いで「男性は育児休業・介護休業が取りづらい」(24.8%)、「募集・採用時の差別がある」(13.8%)、「女性は結婚・出産を機に退職するという雰囲気がある」(11.7%)となっている。

性別でみても、男女共に「男女間に不当な差はない」(男性 38.5%、女性 34.8%)が最も多く、次いで「男性は育児休業・介護休業が取りづらい」(男性 29.6%、女性 20.9%)、「募集・採用時の差別がある」(男性 12.7%、女性 14.5%)となっている。

【図表 4-5-1 職場での待遇の男女差≪前回調査結果≫（複数回答）】



※前回調査では『マタニティ・ハラスメントを見聞きしたり、受けたりしたことがある』の項目設定なし

職場での待遇の男女差について、前回調査（平成 21 年度）との比較では、「男女間に不当な差はない」が男性で 11.8 ポイント、女性で 12.3 ポイント低下している。また、男性では「募集・採用時の差別がある」が 8.0 ポイント、「男性は育児休業・介護休業が取りづらい」が 6.9 ポイント、「女性は結婚・出産を機に退職するという雰囲気がある」が 6.8 ポイント低下し、女性では「女性は責任のある仕事をまかされないなど、配置上の差別がある」が 5.3 ポイント、「同じ仕事でも男女で賃金が異なる」が 4.8 ポイント低下している。

【図表 4-5-2 性別・職業別 職場での待遇の男女差（複数回答）】

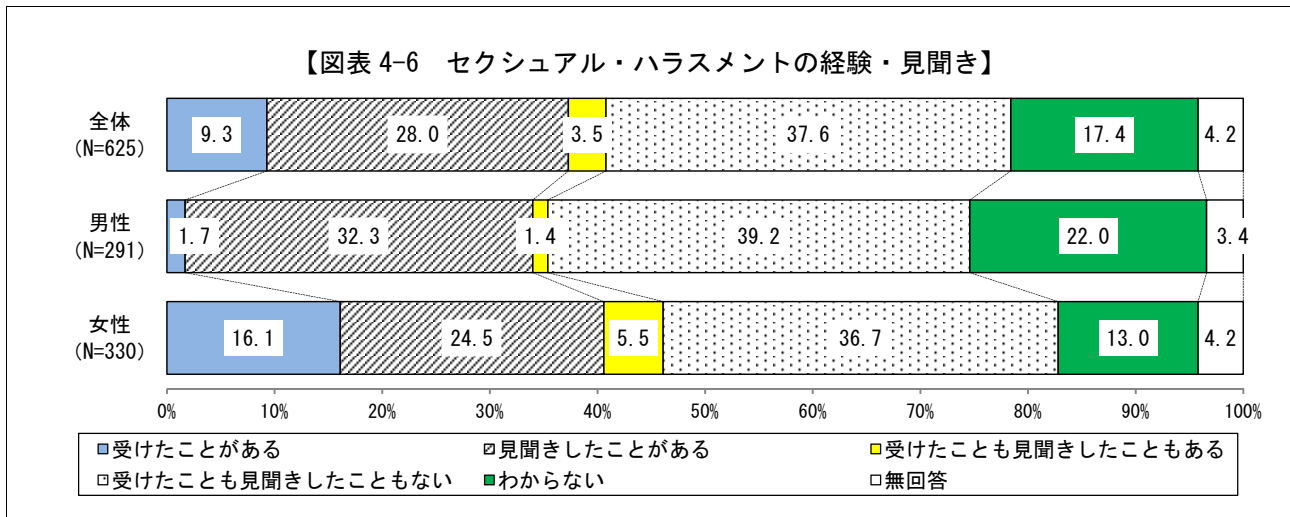
	い男女間に不当な差はない	あ募集・採用時の差別がある	配置を女性が責任のある仕事に任される	利果的である賃金や昇進に有利である	い育男・性訓練を受けられ教養が豊富である	金同じ仕事でも男女で賃金が異なる	昇格時期が異なる	あ同等的な実力・実績が異なる	気が退職する・出産を機に結婚する
男性全体 (N=291)	38.5%	12.7%	11.3%	11.0%	2.4%	9.6%	7.9%	11.3%	
自営・自由業 (N=70)	28.6%	14.3%	12.9%	8.6%	1.4%	15.7%	10.0%	12.9%	
家族従事者 (N=0)	—	—	—	—	—	—	—	—	
正規従業員 (N=166)	41.6%	9.6%	12.0%	12.7%	1.8%	6.6%	8.4%	12.0%	
非正規従業員 (N=54)	40.7%	20.4%	7.4%	9.3%	5.6%	11.1%	3.7%	7.4%	
その他有職 (N=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
女性全体 (N=330)	34.8%	14.5%	8.5%	3.3%	3.9%	10.6%	12.7%	12.1%	
自営・自由業 (N=31)	45.2%	6.5%	3.2%	0.0%	3.2%	6.5%	6.5%	12.9%	
家族従事者 (N=31)	19.4%	6.5%	9.7%	9.7%	9.7%	6.5%	12.9%	12.9%	
正規従業員 (N=108)	28.7%	15.7%	10.2%	2.8%	4.6%	13.9%	17.6%	14.8%	
非正規従業員 (N=159)	40.3%	17.0%	8.2%	3.1%	2.5%	10.1%	10.7%	10.1%	
その他有職 (N=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

	しど理（理由）で女性解雇されるなど不安定	休男業性が取育りづらいう	る受ンマけたタニティ・ハラメントありあ	その他	無回答
男性全体 (N=291)	2.1%	29.6%	2.4%	4.1%	9.3%
自営・自由業 (N=70)	2.9%	15.7%	0.0%	11.4%	25.7%
家族従事者 (N=0)	—	—	—	—	—
正規従業員 (N=166)	2.4%	38.0%	4.2%	1.8%	1.8%
非正規従業員 (N=54)	0.0%	22.2%	0.0%	1.9%	11.1%
その他有職 (N=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体 (N=330)	4.8%	20.9%	5.2%	7.3%	12.7%
自営・自由業 (N=31)	3.2%	16.1%	0.0%	9.7%	16.1%
家族従事者 (N=31)	0.0%	22.6%	3.2%	16.1%	29.0%
正規従業員 (N=108)	4.6%	36.1%	11.1%	2.8%	7.4%
非正規従業員 (N=159)	6.3%	11.3%	2.5%	8.2%	11.9%
その他有職 (N=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

性別・職業別で職場での待遇の男女差をみると、「残業を男性にさせるという雰囲気があり、結果的に賃金や昇進に有利である」では、「家族従事者」を除いて、男性の方が女性に比べて多くなっている。一方、「女性は結婚・出産を機に退職するという雰囲気がある」「(気に入らないという理由で解雇されるなど) 女性の雇用が安定していない」「マタニティ・ハラメントを見聞きしたり、受けたりしたことがある」では、女性の方が男性に比べて多くなっている。

(4) セクシュアル・ハラスメントの経験・見聞き

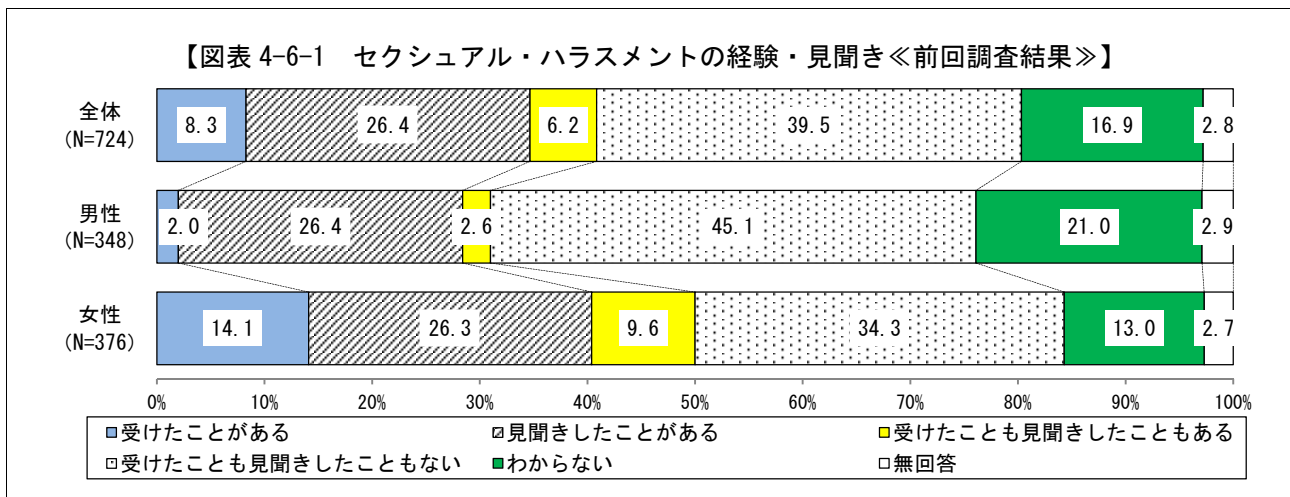
問 20(1) あなたは、セクシュアル・ハラスメントを受けたことや見聞きしたことがありますか。
【1つに〇】



・ セクシュアル・ハラスメントの経験・見聞きをしているのは約4割

セクシュアル・ハラスメントの経験・見聞きをみると、「受けたことも見聞きしたこともない」が37.6%と最も多く、次いで「見聞きしたことがある」(28.0%)となっている。また、「受けたことがある」「見聞きしたことがある」「受けたことも見聞きしたこともある」の合計は40.8%で、約4割がセクシャル・ハラスメントの経験・見聞きをしている。

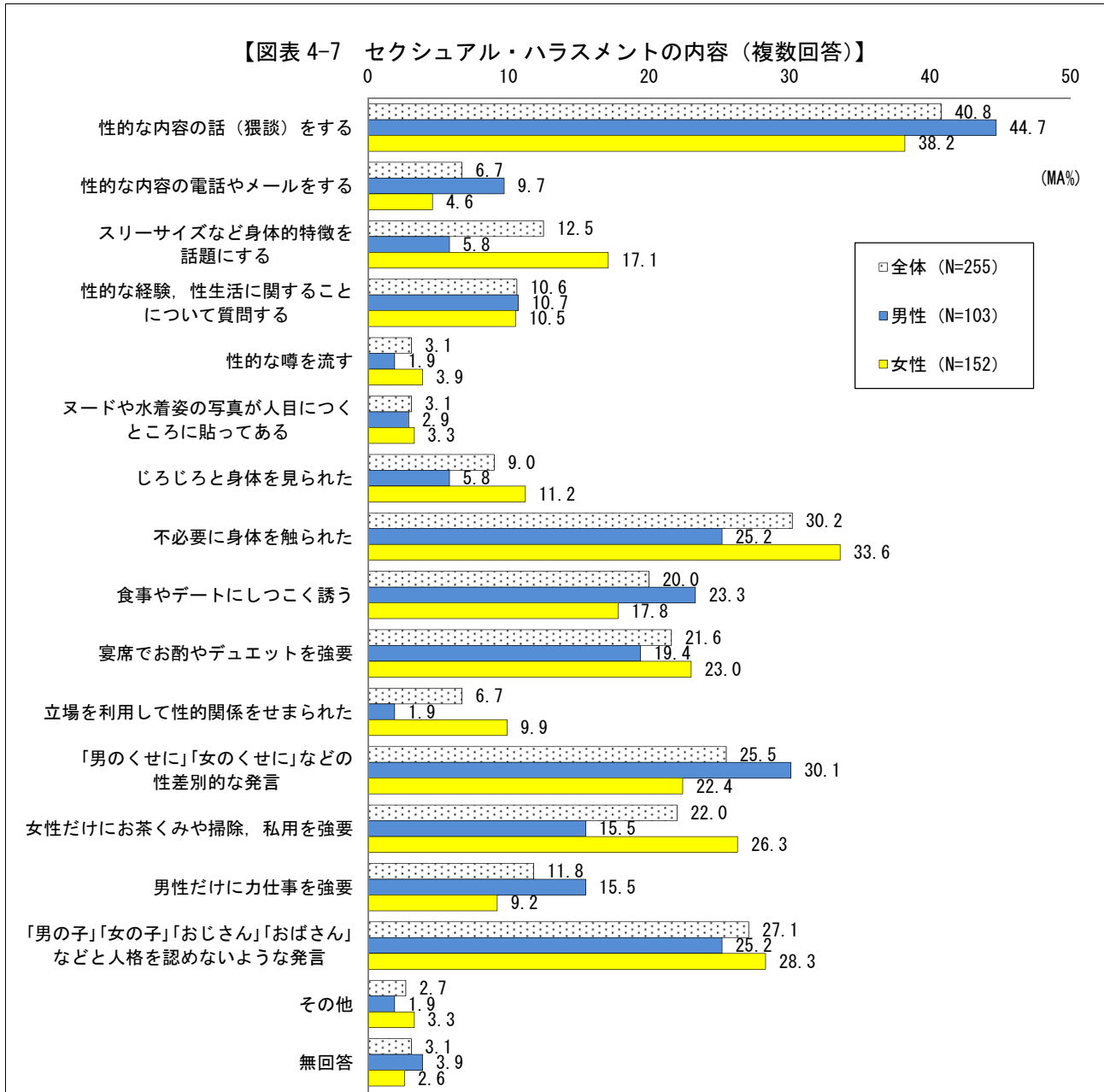
性別でみると、男女共に「受けたことも見聞きしたこともない」(男性39.2%, 女性36.7%)が最も多くなっている。一方、「受けたことがある」と「受けたことも見聞きしたこともある」の合計が男性(3.1%)に比べて女性(21.6%)の方が18.5ポイント高い。



セクシュアル・ハラスメントの経験・見聞きについて、前回調査(平成21年度)との比較では、男性では「見聞きしたことがある」が5.9ポイント上昇し、「受けたことも見聞きしたこともない」は5.9ポイント低下している。女性では「受けたことも見聞きしたこともある」が4.1ポイント低下している。

(5) セクシュアル・ハラスメントの内容

(2) あなたが受けたり見聞きしたりしたことは、どのような内容ですか。
【あてはまるものすべてに○】

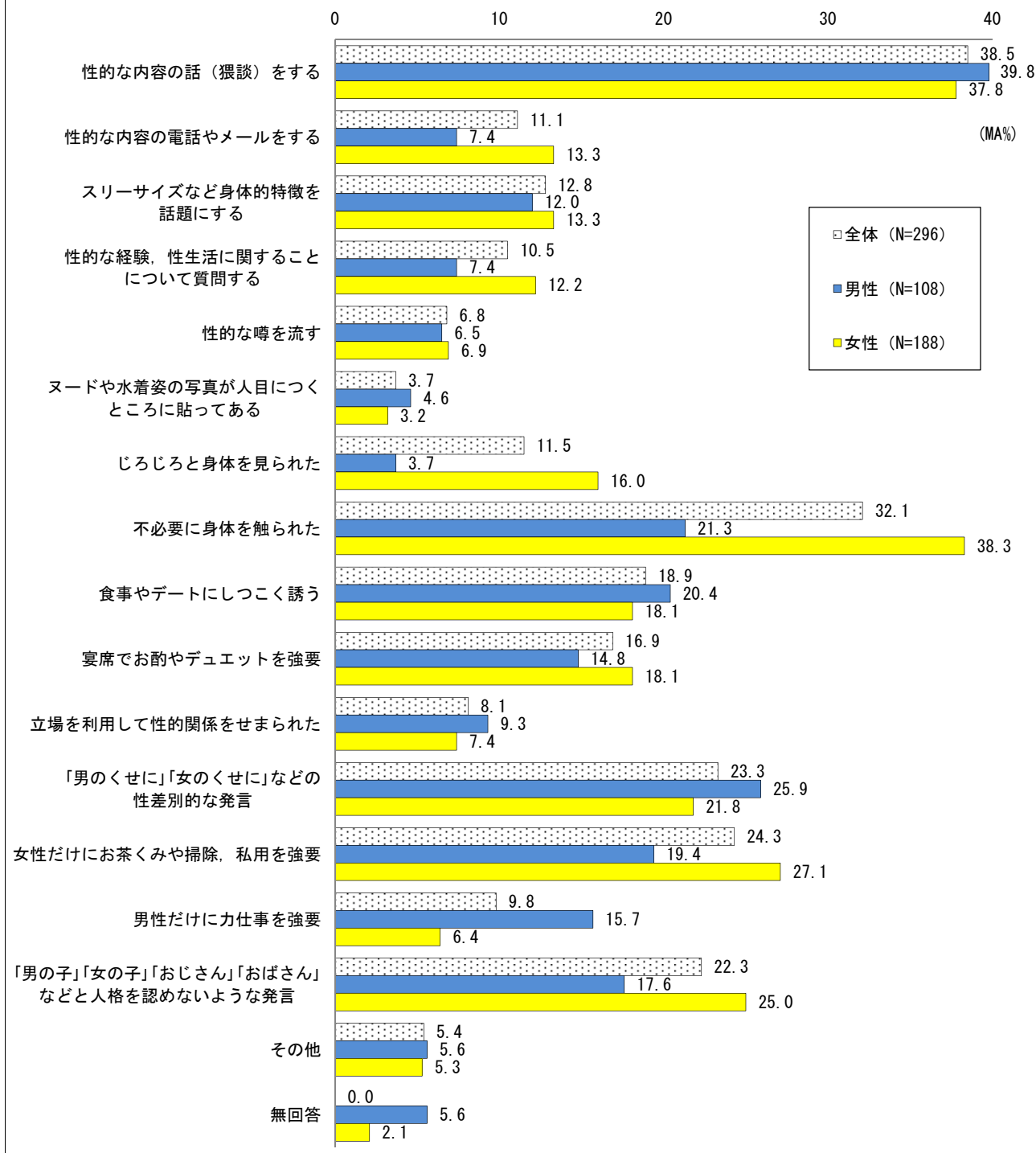


・ 「性的な内容の話（猥談）をする」が最も多く、次いで「不必要に身体を触られた」となっている

受けたり見聞きしたセクシュアル・ハラスメントの内容をみると、「性的な内容の話（猥談）をする」が40.8%と最も多く、次いで「不必要に身体を触られた」（30.2%）となっている。

性別でみると、男女共に「性的な内容の話（猥談）をする」（男性44.7%、女性38.2%）が最も多く、次いで男性では『男のくせに』『女のくせに』などの性差別的な発言（30.1%）、女性では「不必要に身体を触られた」（33.6%）となっている。

【図表 4-7-1 セクシュアル・ハラスメントの内容《前回調査結果》（複数回答）】



受けたり見聞きしたセクシュアル・ハラスメントの内容について、前回調査（平成 21 年度）との比較では、男性では「立場を利用して性的関係をせまられた」が 7.4 ポイント、「スリーサイズなど身体的特徴を話題にする」が 6.2 ポイント低下し、「『男の子』『女の子』『おじさん』『おばさん』などと人格を認めないような発言」が 7.6 ポイント上昇している。一方、女性では「性的な内容の電話やメールをする」が 8.7 ポイント低下し、「宴席でお酌やデュエットを強要」が 4.9 ポイント上昇している。

【図表 4-7-2 セクシュアル・ハラスメントの経験・見聞き別 セクシュアル・ハラスメントの内容（複数回答）】

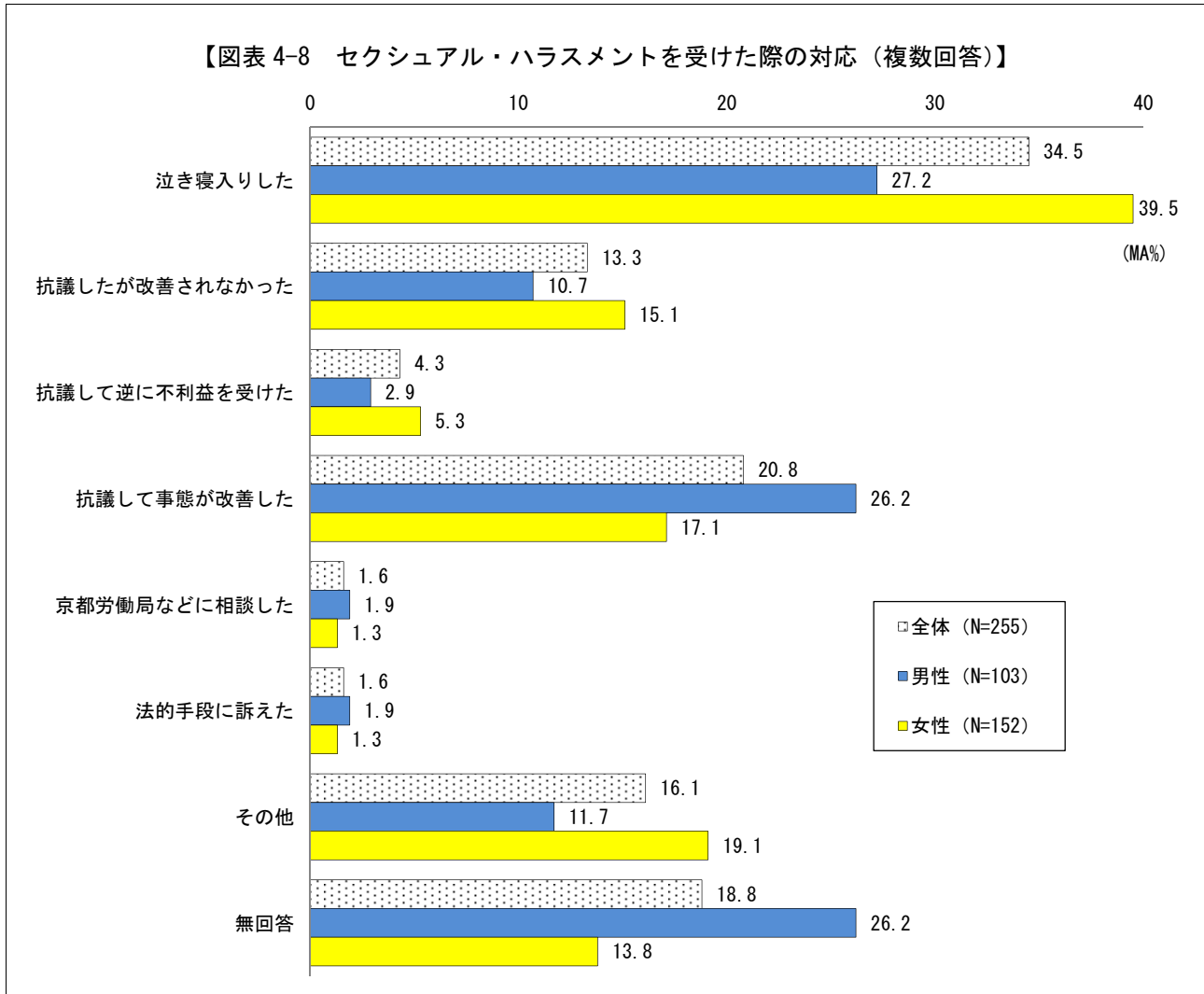
	性的な内容の話（猥談）をする	性的な内容の電話やメールをする	スリーサイズなど身体的特徴を話題にする	性的な経験に、性的生活に関与すること	性的な噂を流す	貼つてある写真	ヌードや水着姿の写りが人目につくところ	じろじろと身体を見られた	不必要に身体を触られた	食事やデートに誘う
男性全体 (N=103)	44.7%	9.7%	5.8%	10.7%	1.9%	2.9%	5.8%	25.2%	23.3%	
受けたことがある (N=5)	60.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	
見聞きしたことがある (N=94)	42.6%	7.4%	6.4%	9.6%	2.1%	2.1%	5.3%	25.5%	25.5%	
受けたことも見聞きしたこともある (N=4)	75.0%	75.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	
女性全体 (N=152)	38.2%	4.6%	17.1%	10.5%	3.9%	3.3%	11.2%	33.6%	17.8%	
受けたことがある (N=53)	39.6%	3.8%	30.2%	11.3%	3.8%	5.7%	13.2%	43.4%	22.6%	
見聞きしたことがある (N=81)	34.6%	4.9%	8.6%	7.4%	3.7%	1.2%	7.4%	30.9%	12.3%	
受けたことも見聞きしたこともある (N=18)	50.0%	5.6%	16.7%	22.2%	5.6%	5.6%	22.2%	16.7%	27.8%	

	ト宴席で必要をお酌やデュエツ	係立場をせま利用した性的関係	的く「男のくせに」「女の性差別の発言」	掃除性、私用をお強茶くみや	要男性だけに力仕事を強	ない「おじさん」「おばさん」などの人格を認めないような発言	「男の子」「女の子」	その他	無回答
男性全体 (N=103)	19.4%	1.9%	30.1%	15.5%	15.5%	25.2%	1.9%	3.9%	
受けたことがある (N=5)	20.0%	0.0%	60.0%	20.0%	60.0%	40.0%	20.0%	0.0%	
見聞きしたことがある (N=94)	19.1%	1.1%	27.7%	13.8%	11.7%	22.3%	1.1%	4.3%	
受けたことも見聞きしたこともある (N=4)	25.0%	25.0%	50.0%	50.0%	50.0%	75.0%	0.0%	0.0%	
女性全体 (N=152)	23.0%	9.9%	22.4%	26.3%	9.2%	28.3%	3.3%	2.6%	
受けたことがある (N=53)	28.3%	9.4%	15.1%	26.4%	7.5%	32.1%	5.7%	1.9%	
見聞きしたことがある (N=81)	19.8%	9.9%	21.0%	23.5%	6.2%	25.9%	0.0%	2.5%	
受けたことも見聞きしたこともある (N=18)	22.2%	11.1%	50.0%	38.9%	27.8%	27.8%	11.1%	5.6%	

セクシュアル・ハラスメントの経験・見聞き別でセクシュアル・ハラスメントの内容をみると、受けたことがある女性では「不必要に身体を触られた」が43.4%と最も多く、次いで「性的な内容の話（猥談）をする」（39.6%）、「『男の子』『女の子』『おじさん』『おばさん』などと人格を認めないような発言」（32.1%）、「スリーサイズなど身体的特徴を話題にする」（30.2%）となっている。

(6) セクシュアル・ハラスメントを受けた際の対応

問 21 問 20 のセクシュアル・ハラスメントを受けた時、あなたはどうしましたか。(見聞きした場合は、受けた当事者がどうされたかをお答えください。)【あてはまるものすべてに○】

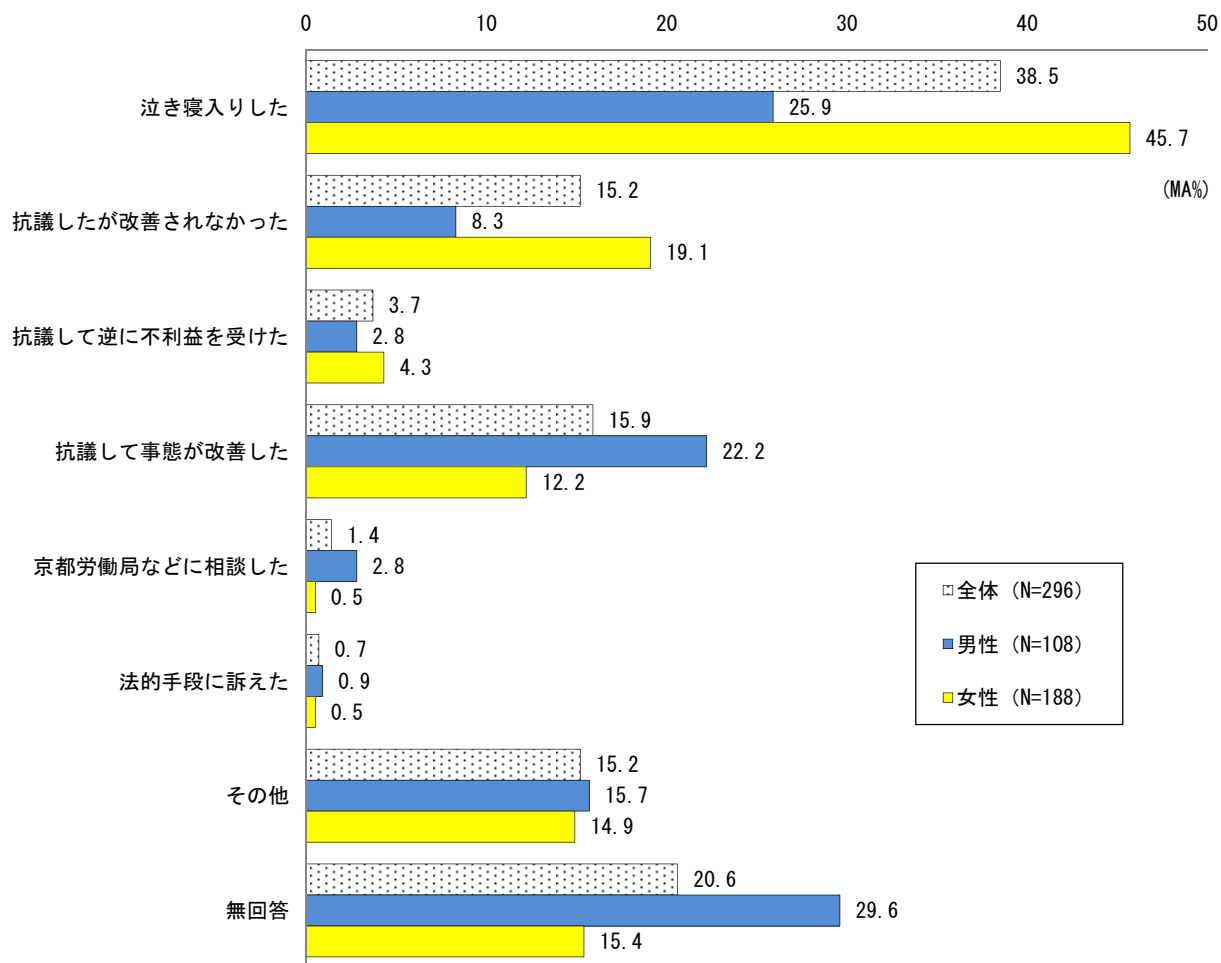


・ 「泣き寝入りした」が最も多い

セクシュアル・ハラスメントを受けた際の対応をみると、「無回答」「その他」以外では、「泣き寝入りした」が34.5%と最も多く、次いで「抗議して事態が改善した」(20.8%)、「抗議したが改善されなかった」(13.3%)となっている。

性別でも、男女共に「泣き寝入りした」(男性 27.2%、女性 39.5%)が最も多く、次いで「抗議して事態が改善した」(男性 26.2%、女性 17.1%)、「抗議したが改善されなかった」(男性 10.7%、女性 15.1%)となっている。

【図表 4-8-1 セクシュアル・ハラスメントを受けた際の対応<<前回調査結果>> (複数回答)】



セクシュアル・ハラスメントを受けた際の対応について、前回調査（平成 21 年度）との比較では、「抗議して事態が改善した」が男性で 4.0 ポイント、女性で 4.9 ポイント上昇している。また、女性では「泣き寝入りした」が 6.2 ポイント、「抗議したが改善されなかった」が 4.0 ポイント低下している。

【図表 4-8-2 セクシュアル・ハラスメントの経験・見聞き別

セクシュアル・ハラスメントを受けた際の対応（複数回答）】

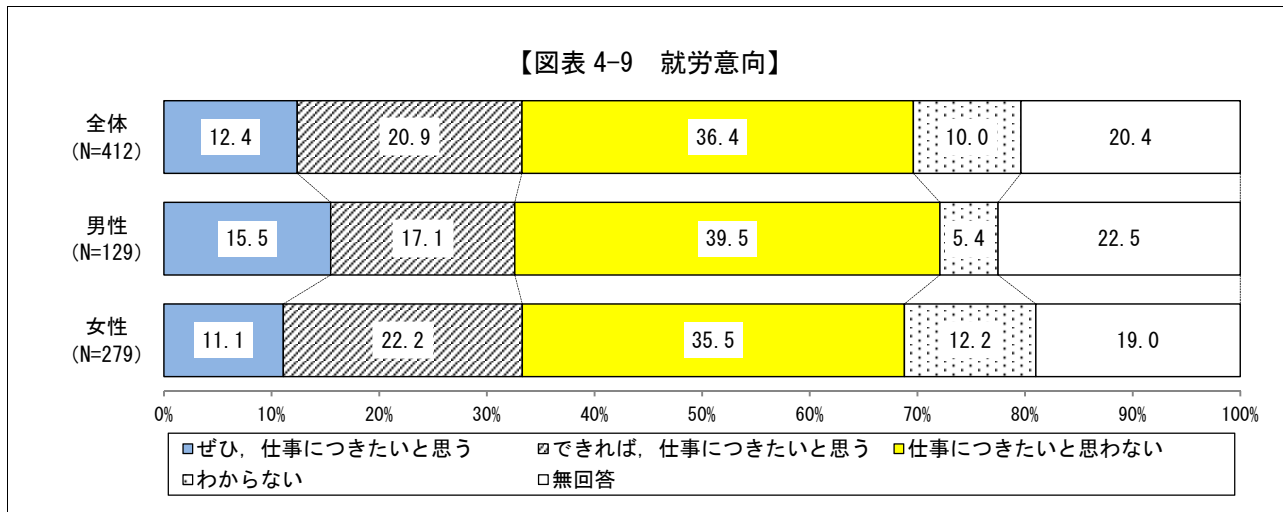
	泣き寝入りした	抗議したが改善されなかった	抗議して逆に不利益を受けた	抗議して事態が改善した	京都労働局などに相談した	法的手段に訴えた	その他	無回答
男性全体 (N=103)	27.2%	10.7%	2.9%	26.2%	1.9%	1.9%	11.7%	26.2%
受けたことがある (N=5)	40.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%
見聞きしたことがある (N=94)	26.6%	9.6%	1.1%	28.7%	2.1%	2.1%	10.6%	26.6%
受けたことも見聞きしたこともある (N=4)	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%
女性全体 (N=152)	39.5%	15.1%	5.3%	17.1%	1.3%	1.3%	19.1%	13.8%
受けたことがある (N=53)	32.1%	22.6%	7.5%	15.1%	0.0%	1.9%	26.4%	5.7%
見聞きしたことがある (N=81)	44.4%	11.1%	2.5%	19.8%	1.2%	1.2%	12.3%	17.3%
受けたことも見聞きしたこともある (N=18)	38.9%	11.1%	11.1%	11.1%	5.6%	0.0%	27.8%	22.2%

セクシュアル・ハラスメントの経験・見聞き別にセクシュアル・ハラスメントを受けた際の対応をみると、受けたことがある女性では「泣き寝入りした」が32.1%と最も多く、「その他」以外では、次いで「抗議したが改善されなかった」(22.6%)となっている。

(7) 就労意向

《問17で「11 専業主婦・専業主夫」～「13 その他無職」を選ばれた方におうかがいします。》

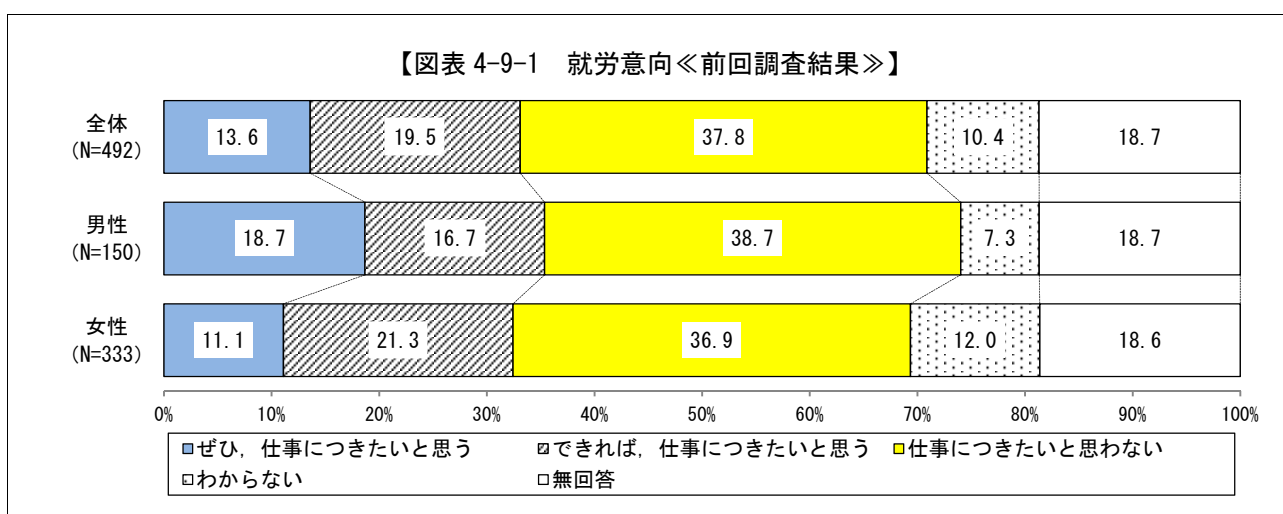
問22 あなたは、今後、収入を得る仕事につきたいと思いますか。【1つに〇】



・ 就労していない人のうち、就労を希望する人は約3割

現在働いていない人の就労意向をみると、「仕事につきたいと思わない」が36.4%と最も多く、「ぜひ、仕事につきたいと思う」(12.4%)と「できれば、仕事につきたいと思う」(20.9%)の合計(33.3%)を上回っている。

性別でみると、男女共に「仕事につきたいと思わない」(男性 39.5%、女性 35.5%)が最も多く、次いで「できれば、仕事につきたいと思う」(男性 17.1%、女性 22.2%)となっている。



就労意向について、前回調査(平成21年度)との比較では、「ぜひ、仕事につきたいと思う」が男性で3.2ポイント低下している。

【図表 4-9-2 性別・年齢別 就労意向】

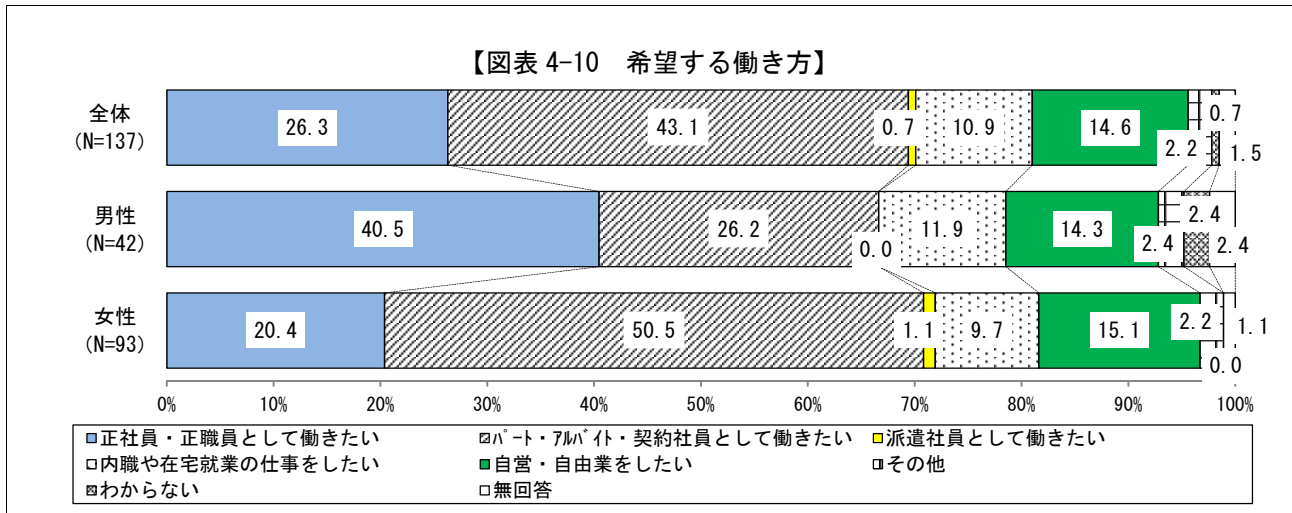
	た ぜ い ひ と、 思 う 仕 事 に つ き	つ で き た れ ば と、 思 う 仕 事 に	思 仕 わ 事 な い つ き た い と	わ か ら な い	無 回 答
男性全体 (N=129)	15.5	17.1	39.5	5.4	22.5
20歳代 (N=9)	88.9	11.1	0.0	0.0	0.0
30歳代 (N=5)	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0
40歳代 (N=10)	40.0	30.0	0.0	20.0	10.0
50歳代 (N=3)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
60歳代 (N=21)	4.8	42.9	38.1	9.5	4.8
70歳代以上 (N=80)	1.3	8.8	53.8	3.8	32.5
女性全体 (N=279)	11.1	22.2	35.5	12.2	19.0
20歳代 (N=14)	57.1	35.7	7.1	0.0	0.0
30歳代 (N=27)	33.3	44.4	7.4	7.4	7.4
40歳代 (N=27)	25.9	48.1	11.1	7.4	7.4
50歳代 (N=23)	8.7	30.4	30.4	13.0	17.4
60歳代 (N=80)	6.3	21.3	42.5	16.3	13.8
70歳代以上 (N=108)	0.0	7.4	48.1	13.0	31.5

性別・年齢別で就労意向をみると、男女共に「ぜひ、仕事につきたいと思う」と回答した人の割合は、概ね年齢層が下がるにつれて高くなっている。

(8) 希望する働き方

《問22で「1 ぜひ、仕事につきたいと思う」「2 できれば、仕事につきたいと思う」を選ばれた方におうかがいします。》

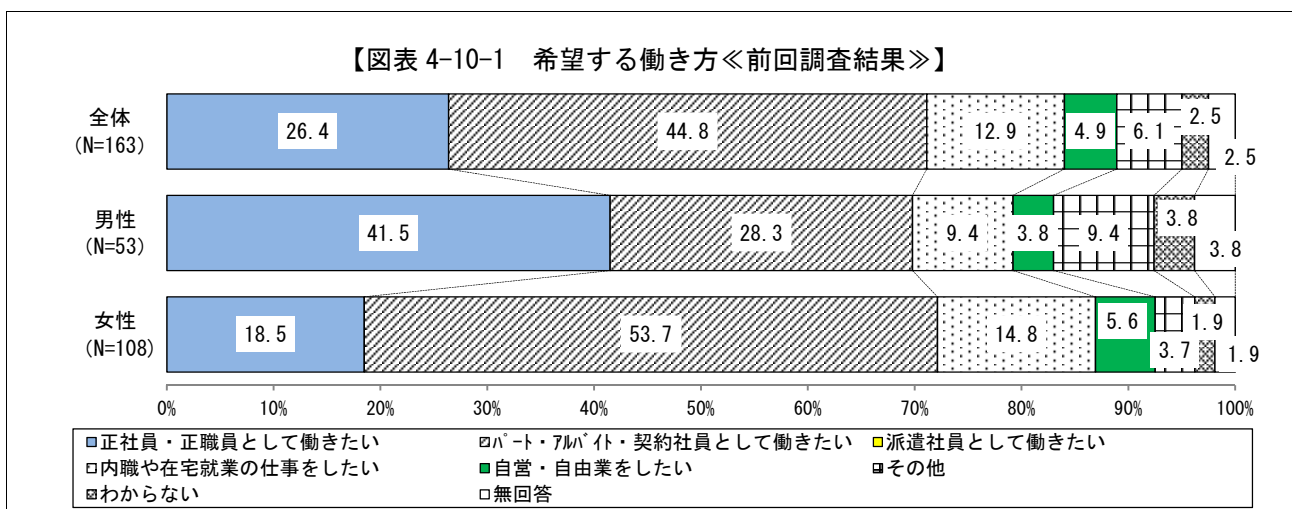
問23(1) あなたは、今後、仕事につくとしたら、どのような働き方を希望しますか。【1つに○】



- ・ 男性では「正社員・正職員として働きたい」、女性では「パート・アルバイト・契約社員として働きたい」が最も多い

今後仕事につきたいと考えている人の希望する働き方をみると、「パート・アルバイト・契約社員として働きたい」が43.1%と最も多く、次いで「正社員・正職員として働きたい」(26.3%)、「自営・自由業をしたい」(14.6%)となっている。

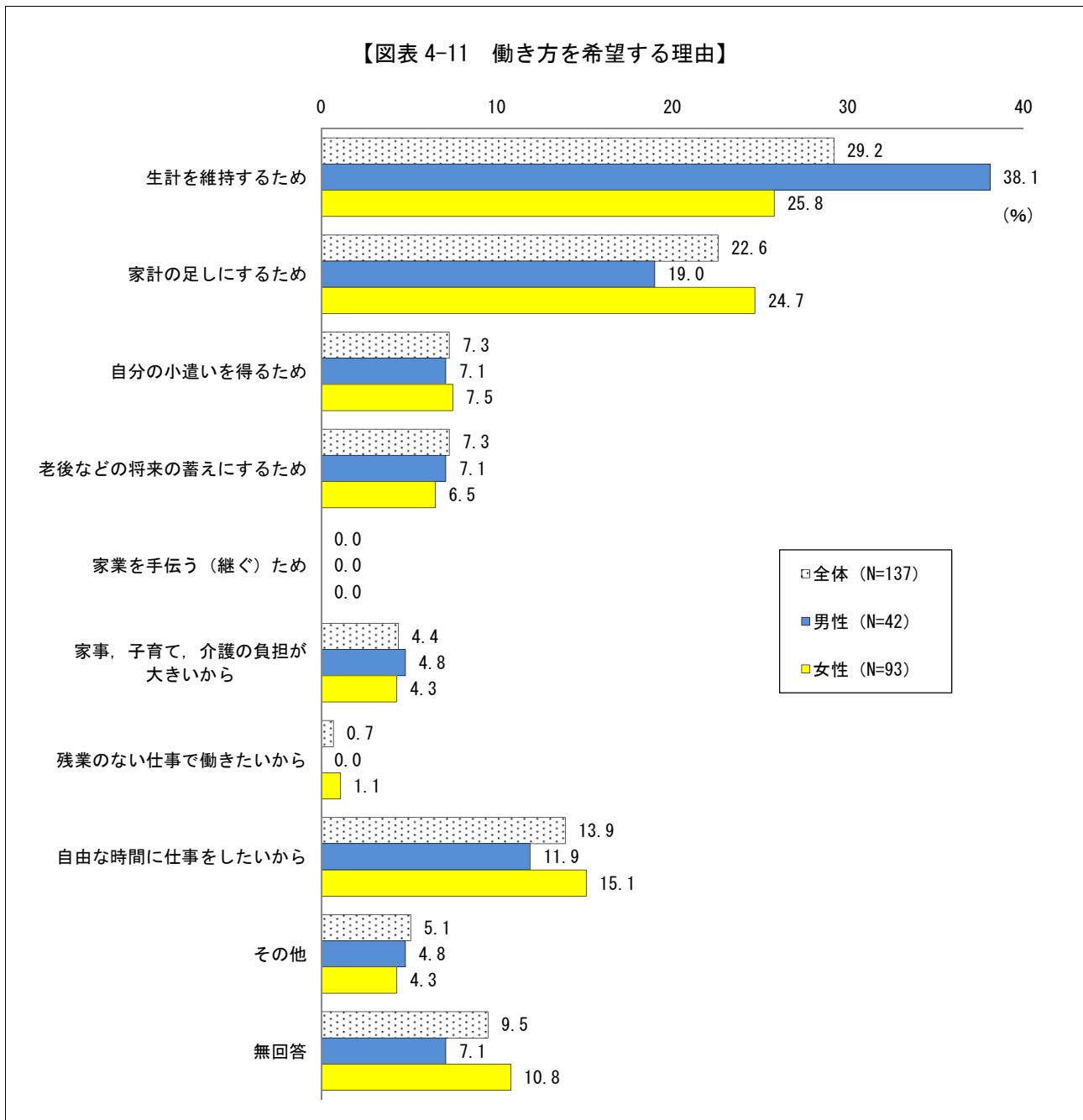
性別でみると、男性では「正社員・正職員として働きたい」(40.5%)、女性では「パート・アルバイト・契約社員として働きたい」(50.5%)が最も多くなっている。



希望する働き方について、前回調査(平成21年度)との比較では、女性において「正社員・正職員として働きたい」が1.9ポイント上昇し、「パート・アルバイト・契約社員として働きたい」が3.2ポイント低下している。

(9) 働き方を希望する理由

(2) (1)で選択した働き方を希望する理由は何ですか。【1つに〇】

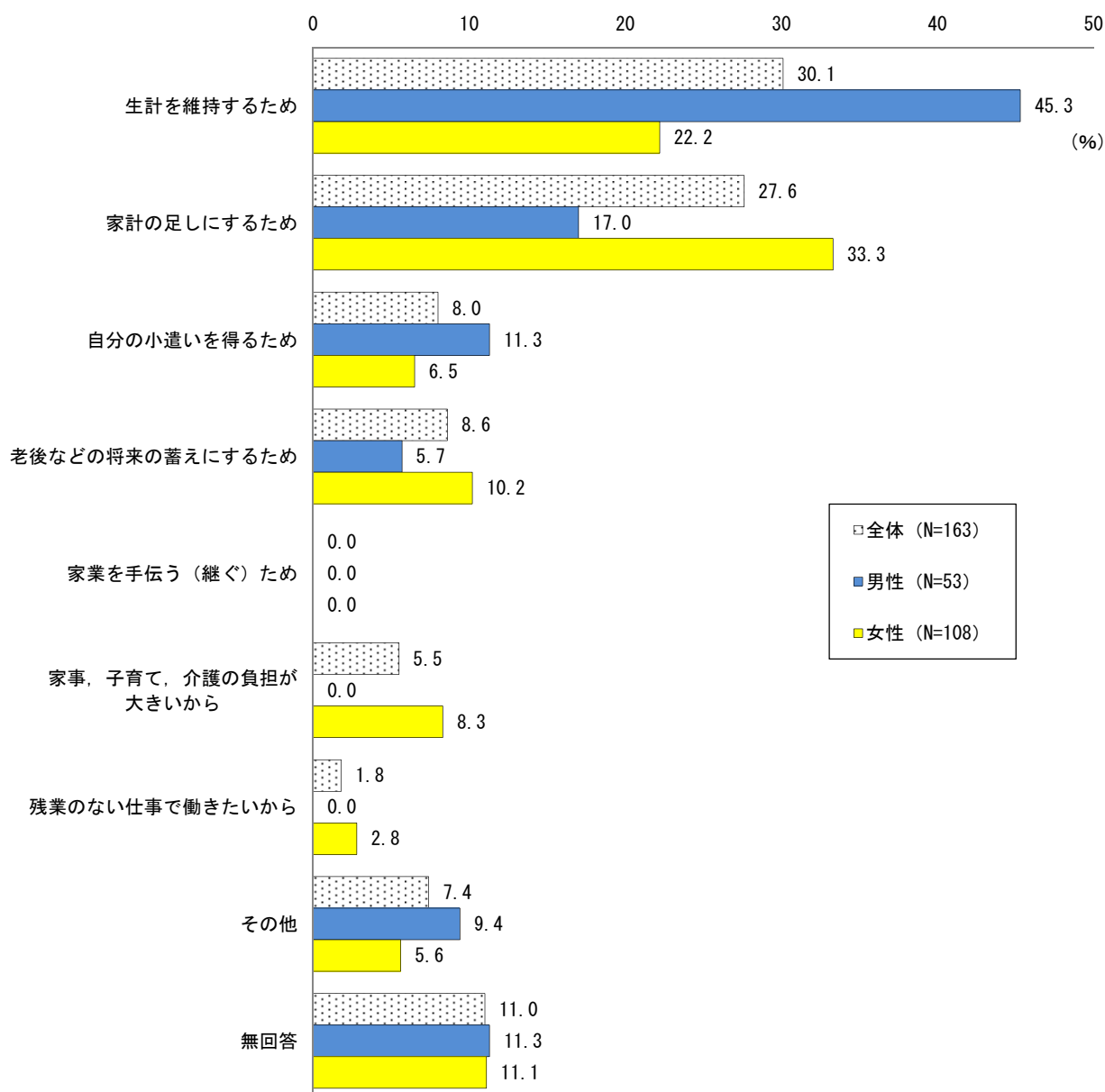


・ 男女共に「生計を維持するため」が最も多く、次いで「家計の足しにするため」

働き方を希望する理由としては、「生計を維持するため」が29.2%と最も多く、次いで「家計の足しにするため」(22.6%)、「自由な時間に仕事をしたいから」(13.9%)となっている。

性別でも、男女共に「生計を維持するため」(男性38.1%、女性25.8%)が最も多く、次いで「家計の足しにするため」(男性19.0%、女性24.7%)、「自由な時間に仕事をしたいから」(男性11.9%、女性15.1%)となっている。

【図表 4-11-1 働き方を希望する理由《前回調査結果》】

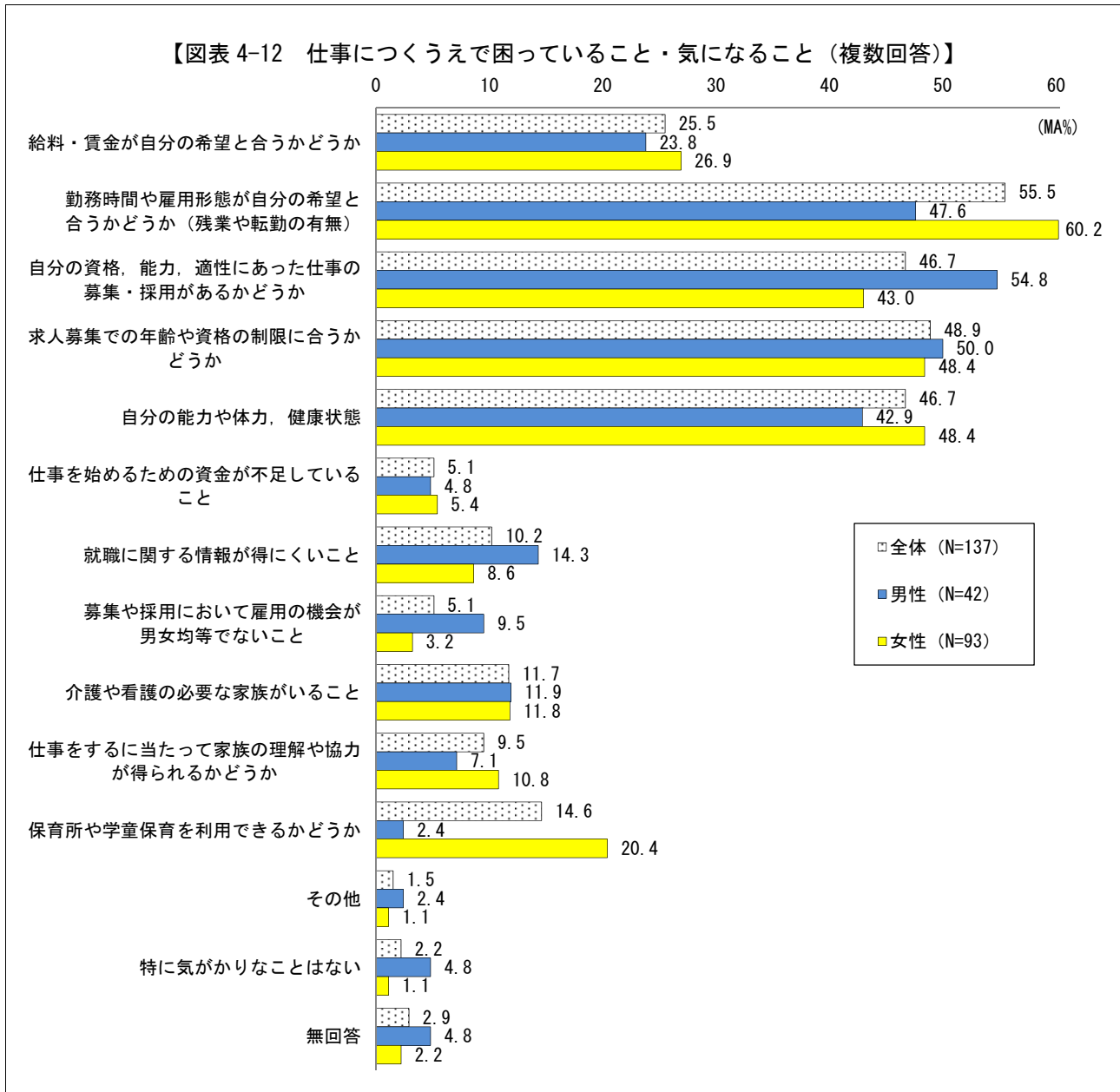


※前回調査では『自由な時間に仕事をしたいから』の項目設定なし

希望する働き方の理由について、前回調査（平成 21 年度）との比較では、「生計を維持するため」が男性で 7.2 ポイント低下し、女性で 3.6 ポイント上昇しているのに対し、「家計の足しにするため」では男性で 2.0 ポイント上昇し、女性で 8.6 ポイント低下している。また、「家事、子育て、介護の負担が大きいから」が男性で 4.8 ポイント上昇し、女性で 4.0 ポイント低下している。

(10) 仕事につくうえで困っていること・気になること

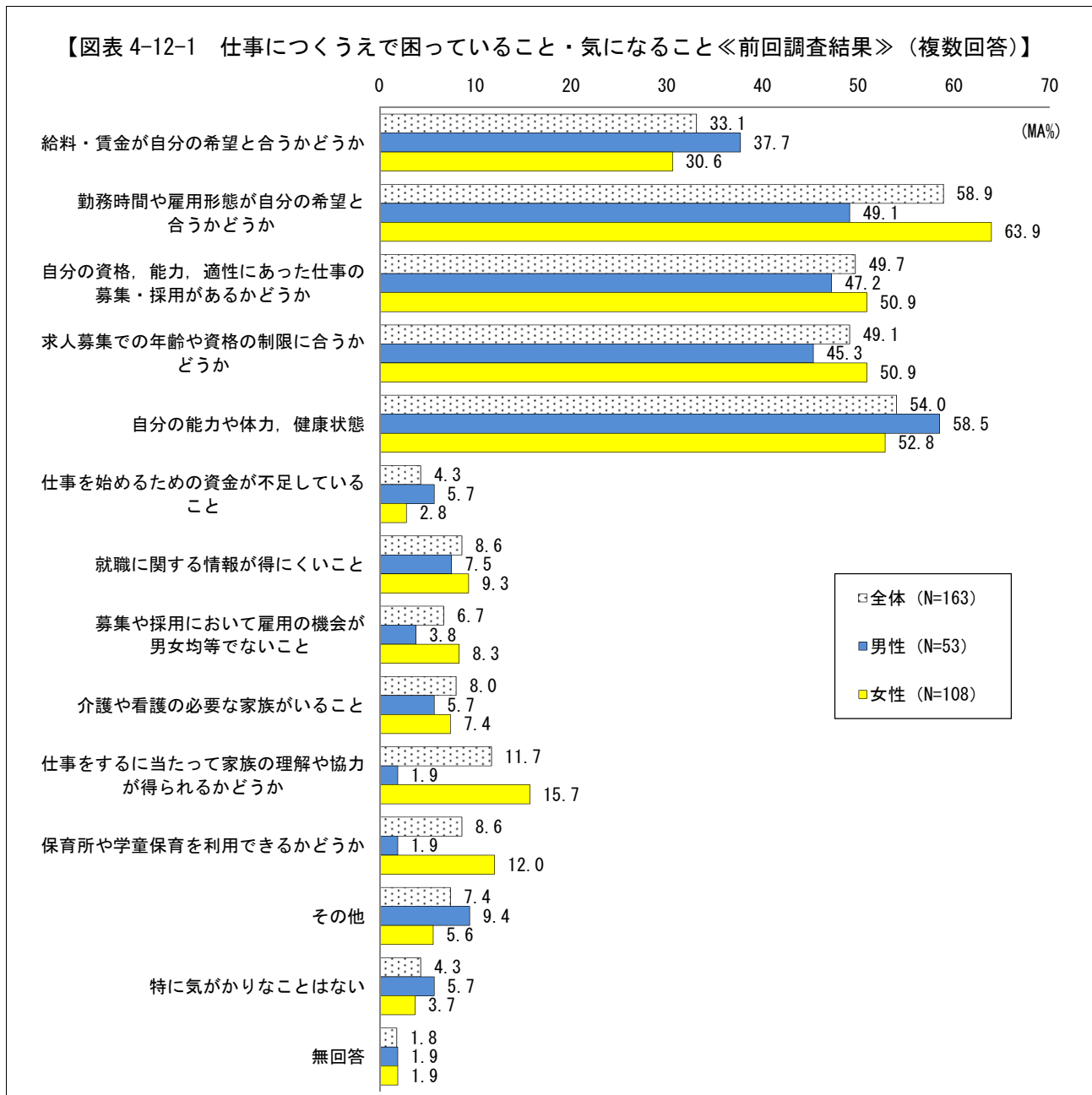
問 24 あなたは、仕事につくうえでお困りのこと、又は、今後働きたいと思ったときに気になることはありますか。【あてはまるものすべてに○】



- ・ 「勤務時間や雇用形態が自分の希望と合うかどうか（残業や転勤の有無）」が最も多く、次いで「求人募集での年齢や資格の制限に合うかどうか」となっている
- ・ 前回調査と比較し、「介護や看護の必要な家族がいること」が3.7ポイント、「保育所や学童保育を利用できるかどうか」が6.0ポイント上昇している

仕事につくうえで困っていること・気になることをみると、「勤務時間や雇用形態が自分の希望と合うかどうか（残業や転勤の有無）」が55.5%と最も多く、次いで「求人募集での年齢や資格の制限に合うかどうか」（48.9%）、「自分の資格、能力、適性にあった仕事の募集・採用があるかどうか」「自分の能力や体力、健康状態」（いずれも46.7%）となっている。

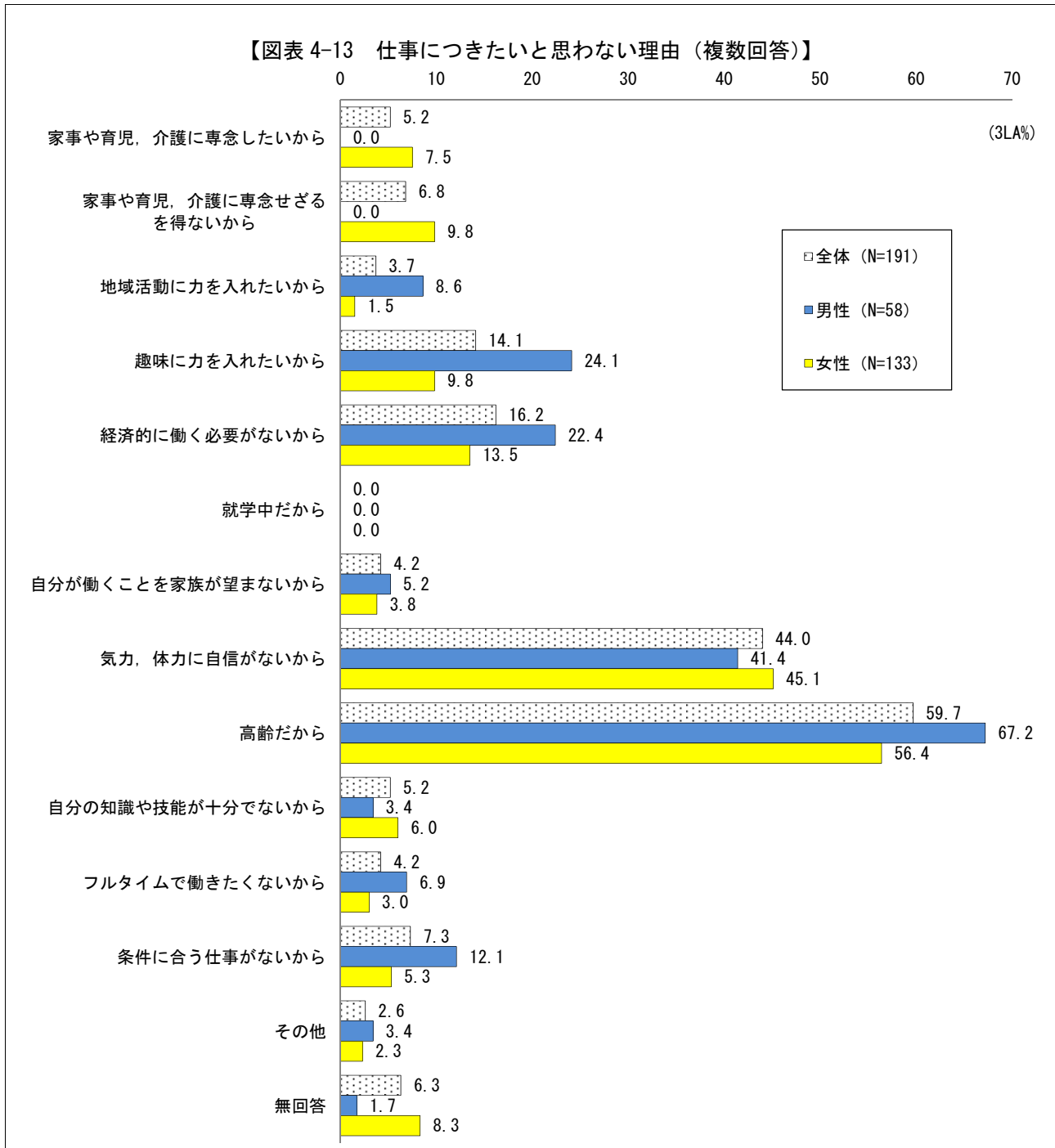
性別で仕事につくうえで困っていること・気になることをみると、男性では「自分の資格、能力、適性にあった仕事の募集・採用があるかどうか」(54.8%)、女性では「勤務時間や雇用形態が自分の希望と合うかどうか(残業や転勤の有無)」(60.2%)が最も多くなっている。



仕事につくうえで困っていること・気になることについて、前回調査(平成21年度)との比較では、男性では「自分の能力や体力、健康状態」が15.6ポイント、「給料・賃金が自分の希望と合うかどうか」が13.9ポイント低下し、「自分の資格、能力、適性にあった仕事の募集・採用があるかどうか」が7.6ポイント、「就職に関する情報が得にくいこと」が6.8ポイント上昇している。一方、女性では「自分の資格、能力、適性にあった仕事の募集・採用があるかどうか」が7.9ポイント低下し、「保育所や学童保育を利用できるかどうか」が8.4ポイント上昇している。

(11) 仕事につきたいと思わない理由

《問22で「3 仕事につきたいと思わない」「4 わからない」を選ばれた方におうかがいします。》
 問25 あなたが、仕事につきたいと思わない理由は何ですか。【3つまでに○】

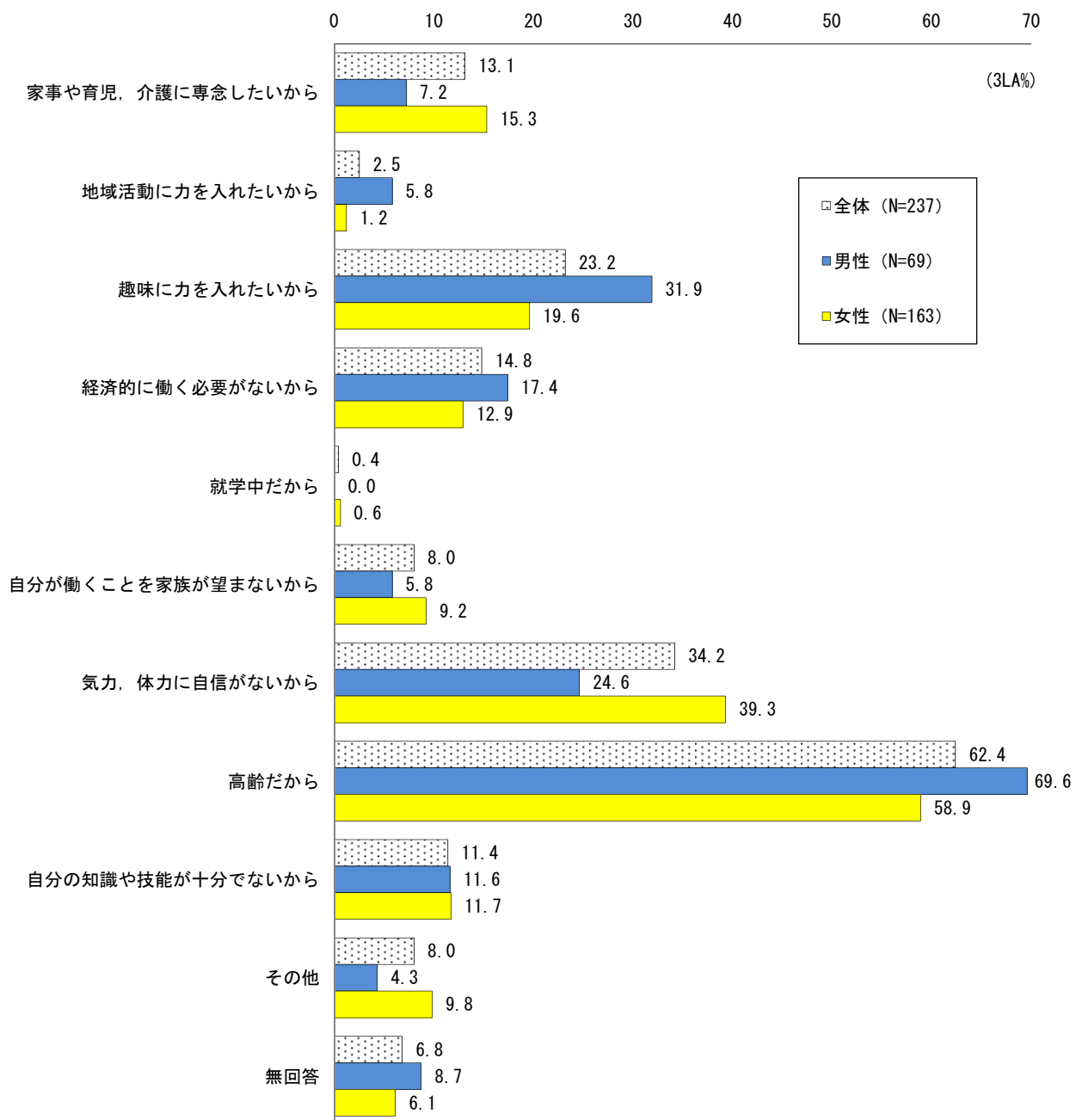


- ・ 「高齢だから」が最も多く、次いで「気力、体力に自信がないから」となっている

現在働いておらず、今後も仕事につきたいと思わない人の理由としては、「高齢だから」が59.7%と最も多く、次いで「気力、体力に自信がないから」(44.0%)となっている。

性別でも、男女共に「高齢だから」(男性 67.2%、女性 56.4%)が最も多く、次いで「気力、体力に自信がないから」(男性 41.4%、女性 45.1%)となっている。

【図表 4-13-1 仕事につきたいと思わない理由≪前回調査結果≫（複数回答）】



※前回調査では、以下の項目設定なし

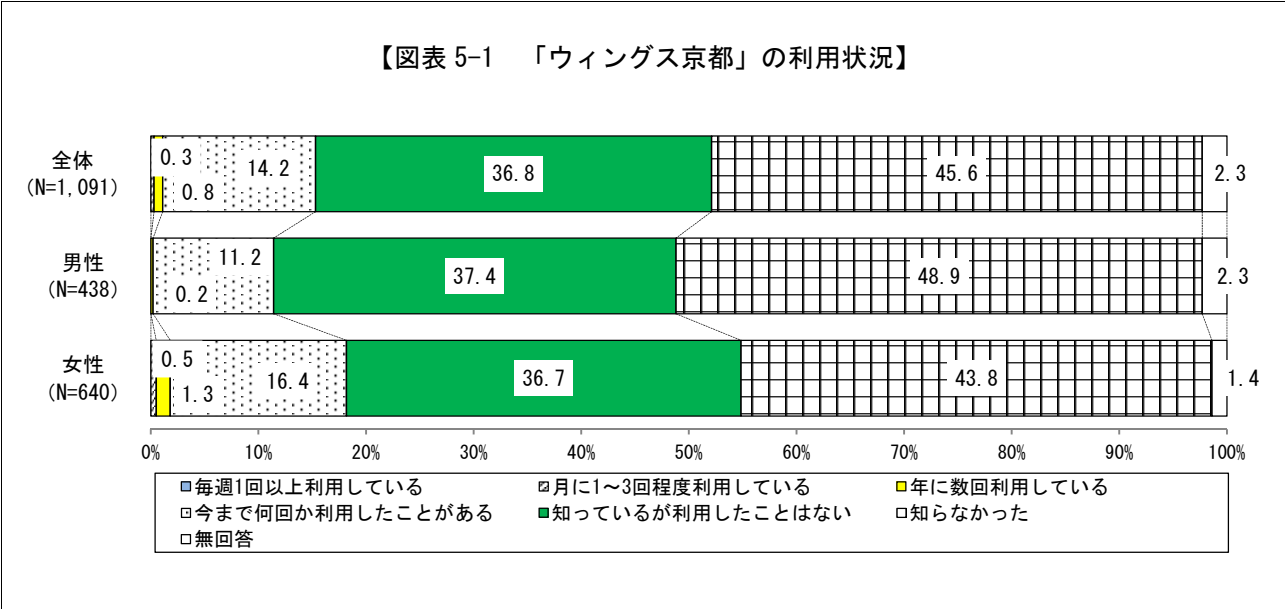
- ・『家事や育児、介護に専念せざるを得ないから』
- ・『フルタイムで働きたくないから』
- ・『条件に合う仕事がないから』

仕事につきたいと思わない理由について、前回調査（平成21年度）との比較では、「気力、体力に自信がないから」が男性で16.8ポイント、女性で5.8ポイント上昇している。

5 京都市の取組について

(1) 「ウイングス京都」の利用状況

問 26 京都市では、男女共同参画を推進していく中核施設として、男女共同参画センター「ウイングス京都」（中京区東洞院六角下る）を運営しています。
 あなたは、これまで「ウイングス京都」を利用したことがありますか。【1つに○】

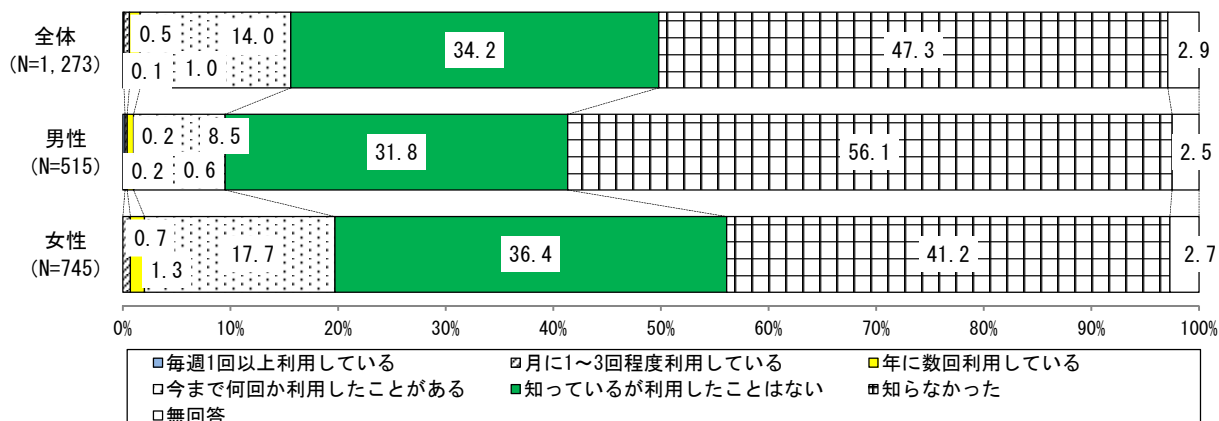


・ 「ウイングス京都」の利用状況は横ばいとなっている

「ウイングス京都」の利用状況をみると、「知らなかった」が45.6%と最も多く、次いで「知っているが利用したことはない」(36.8%)となっている。一方、利用経験のある人(「毎週1回以上利用している」「月に1～3回程度利用している」「年に数回利用している」「今まで何回か利用したことがある」の合計)は15.3%となっている。

性別でみると、男女共に「知らなかった」(男性48.9%、女性43.8%)が最も多く、次いで「知っているが利用したことはない」(男性37.4%、女性36.7%)となっている。また、利用経験のある人は男性(11.4%)に比べて女性(18.2%)の方が6.8ポイント高くなっている。

【図表 5-1-1 「ウイングス京都」の利用状況≪前回調査結果≫】



「ウイングス京都」の利用状況について、前回調査（平成21年度）との比較では、男性において「知らなかった」が7.2ポイント低下し、「知っているが利用したことはない」が5.6ポイント、「今まで何回か利用したことがある」が2.7ポイント上昇している。

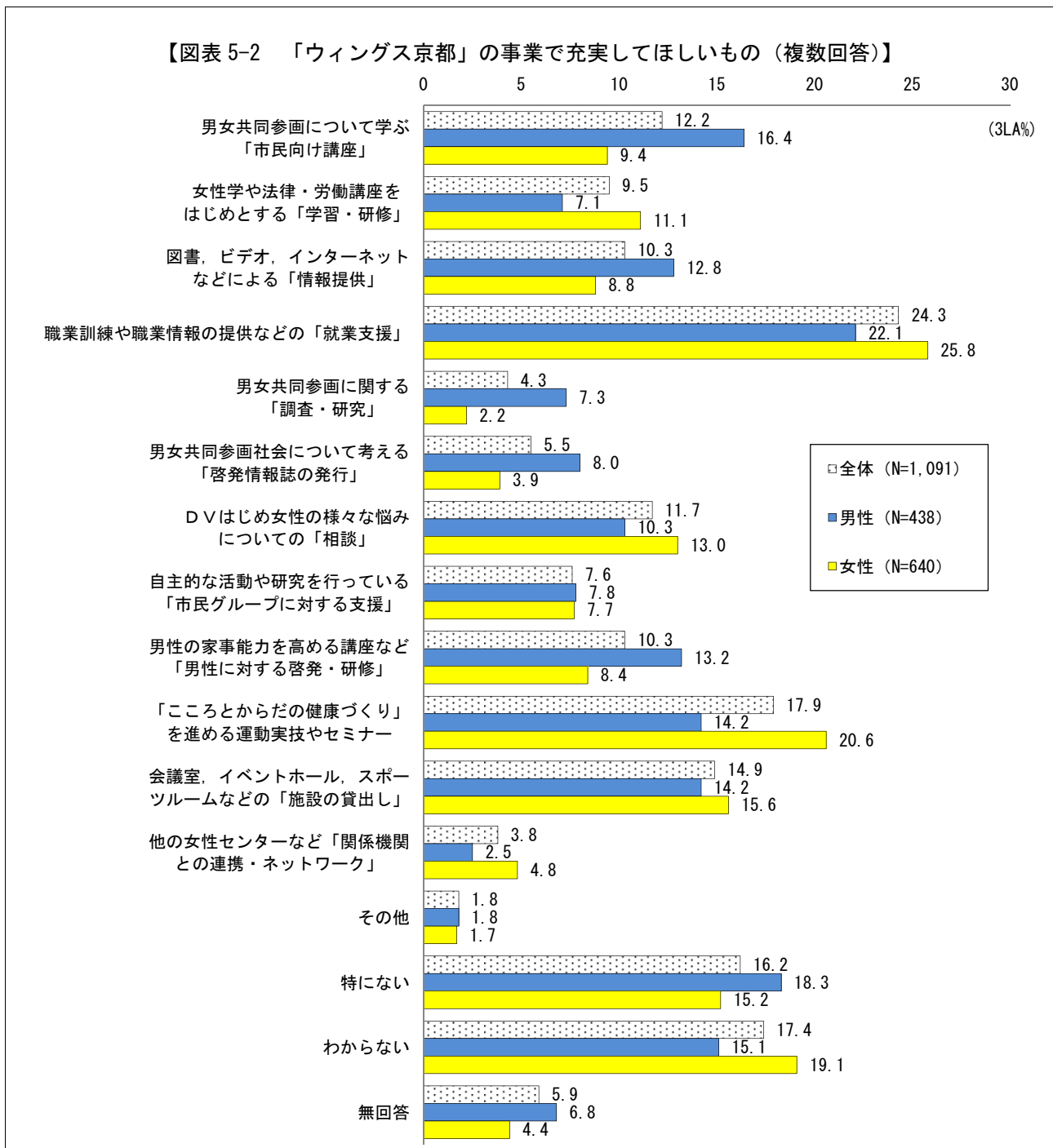
【図表 5-1-2 性別・年齢別 「ウイングス京都」の利用状況】

	毎週1回以上利用している	月に1～3回程度利用している	年に数回利用している	今まで何回か利用したことがある	知っているが利用したことはない	知らなかった	無回答
男性全体 (N=438)	0.0%	0.0%	0.2%	11.2%	37.4%	48.9%	2.3%
20歳代 (N=30)	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	33.3%	60.0%	0.0%
30歳代 (N=51)	0.0%	0.0%	0.0%	19.6%	29.4%	51.0%	0.0%
40歳代 (N=62)	0.0%	0.0%	0.0%	11.3%	45.2%	43.5%	0.0%
50歳代 (N=70)	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	42.9%	47.1%	0.0%
60歳代 (N=94)	0.0%	0.0%	1.1%	12.8%	34.0%	51.1%	1.1%
70歳代以上 (N=129)	0.0%	0.0%	0.0%	8.5%	37.2%	47.3%	7.0%
女性全体 (N=640)	0.0%	0.5%	1.3%	16.4%	36.7%	43.8%	1.4%
20歳代 (N=51)	0.0%	2.0%	2.0%	13.7%	19.6%	62.7%	0.0%
30歳代 (N=89)	0.0%	0.0%	0.0%	19.1%	44.9%	34.8%	1.1%
40歳代 (N=108)	0.0%	0.0%	0.9%	22.2%	50.0%	26.9%	0.0%
50歳代 (N=97)	0.0%	0.0%	0.0%	23.7%	32.0%	44.3%	0.0%
60歳代 (N=151)	0.0%	0.7%	2.6%	10.6%	35.8%	49.0%	1.3%
70歳代以上 (N=144)	0.0%	0.7%	1.4%	12.5%	31.9%	49.3%	4.2%

性別・年齢別で「ウイングス京都」の利用状況をみると、男性では40歳代を除く全ての年齢層で「知らなかった」が最も多く、女性においても30～40歳代を除いて同様の回答をした人が最も多い。一方、利用経験のある人は30歳代、60歳代を除く各年齢層で男性に比べて女性の方が高くなっている。

(2) 「ウイングス京都」の事業で充実してほしいもの

問27 「ウイングス京都」では、次のような事業を行っています。このうち、あなたが今後充実してほしいと思うものはどれですか。【3つまでに○】

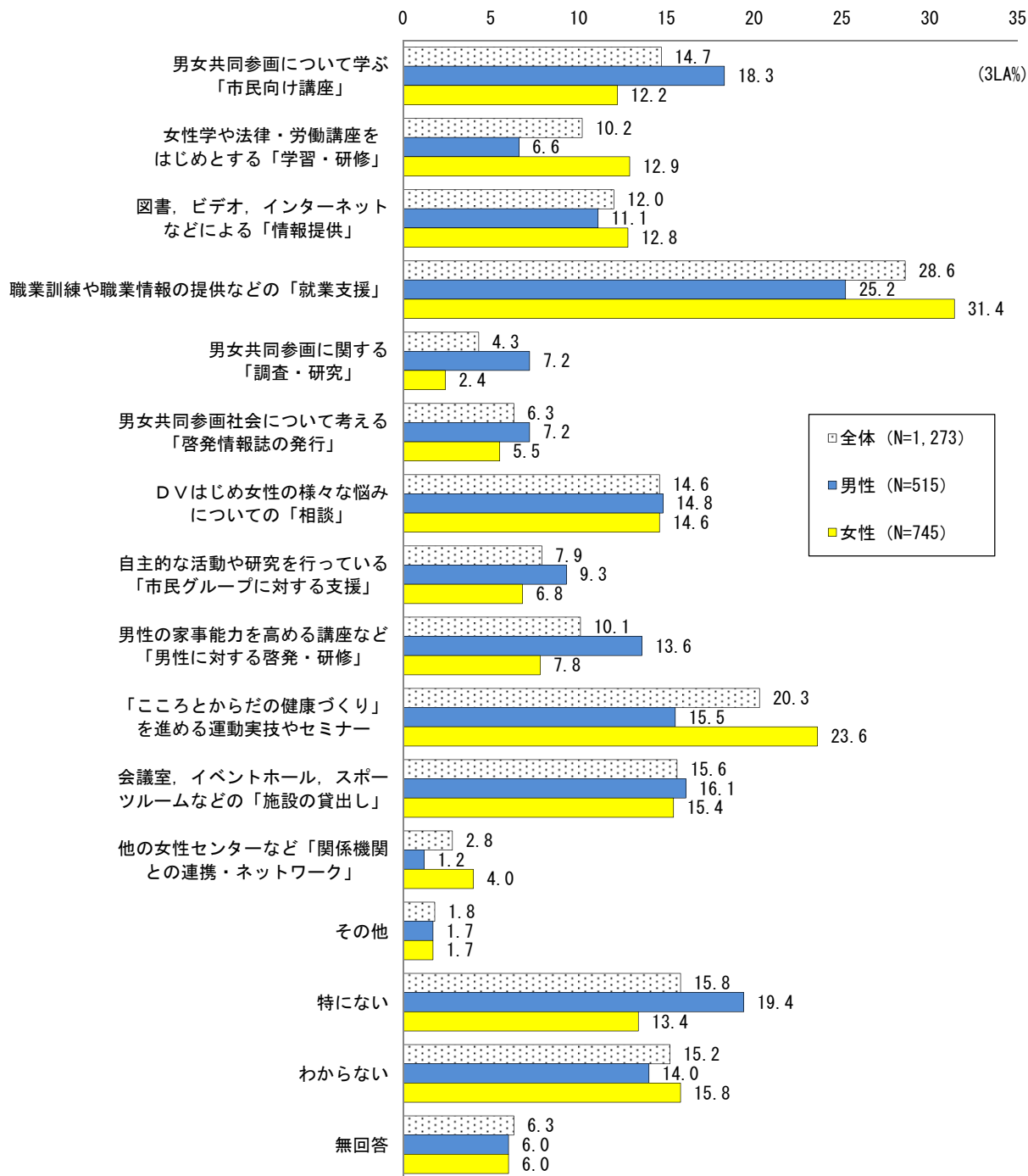


- ・ 「職業訓練や職業情報の提供などの『就業支援』」が最も多く、次いで「『こころとからだの健康づくり』を進める運動実技やセミナー」となっている

「ウイングス京都」の事業で充実してほしいものをみると、「職業訓練や職業情報の提供などの『就業支援』」が24.3%と最も多く、次いで「『こころとからだの健康づくり』を進める運動実技やセミナー」(17.9%)となっている。

性別でみると、男女共に「職業訓練や職業情報の提供などの『就業支援』」（男性 22.1%，女性 25.8%）が最も多く、次いで、男性では「特にない」を除き、「男女共同参画について学ぶ『市民向け講座』」（16.4%），女性では「『こころとからだの健康づくり』を進める運動実技やセミナー」（20.6%）となっている。

【図表 5-2-1 「ウイングス京都」の事業で充実してほしいもの《前回調査結果》（複数回答）】



「ウイングス京都」の事業で充実してほしいものについて、前回調査（平成 21 年度）との比較では、「職業訓練や職業情報の提供などの『就業支援』」が男性で 3.1 ポイント、女性で 5.6 ポイント低下している。

【図表 5-2-2 性別・年齢別 「ウイングス京都」の事業で充実してほしいもの（複数回答）】

	学男 ぶ女 「共 同参 画に つ いて 講 座」	習座女 ・性を 研は学 修はじめ とす ・律 「働 学講	「タ図 情書 報ネ、 提ツ、 供ビデオ など、 にイン よる	援提職 「業 訓練 の 「職 業情 報の	「男 女共 同参 画に 関 する	誌い男 の女 発考共 行え同 「参 画社 会に 報つ	談なD 「悩V みは じ つめ い女 性の の 「様 相々	ル行自 「主 的 な 活 動 や 研 究 を	する男 講性 「座 の 家 事 能 力 を 高 め
男性全体 (N=438)	16.4%	7.1%	12.8%	22.1%	7.3%	8.0%	10.3%	7.8%	13.2%
20歳代 (N=30)	6.7%	0.0%	6.7%	30.0%	6.7%	3.3%	10.0%	6.7%	6.7%
30歳代 (N=51)	15.7%	7.8%	17.6%	19.6%	13.7%	5.9%	21.6%	2.0%	19.6%
40歳代 (N=62)	11.3%	22.6%	9.7%	29.0%	8.1%	6.5%	16.1%	8.1%	8.1%
50歳代 (N=70)	22.9%	7.1%	21.4%	28.6%	7.1%	11.4%	15.7%	12.9%	12.9%
60歳代 (N=94)	23.4%	5.3%	11.7%	28.7%	5.3%	9.6%	8.5%	8.5%	14.9%
70歳代以上 (N=129)	12.4%	2.3%	10.1%	10.1%	6.2%	7.8%	1.6%	7.0%	14.0%
女性全体 (N=640)	9.4%	11.1%	8.8%	25.8%	2.2%	3.9%	13.0%	7.7%	8.4%
20歳代 (N=51)	7.8%	15.7%	19.6%	31.4%	2.0%	0.0%	15.7%	7.8%	11.8%
30歳代 (N=89)	3.4%	6.7%	7.9%	37.1%	2.2%	4.5%	13.5%	3.4%	14.6%
40歳代 (N=108)	9.3%	15.7%	11.1%	35.2%	2.8%	3.7%	19.4%	5.6%	8.3%
50歳代 (N=97)	14.4%	23.7%	11.3%	28.9%	5.2%	3.1%	17.5%	5.2%	6.2%
60歳代 (N=151)	7.9%	7.3%	6.6%	25.8%	2.0%	4.6%	11.3%	9.3%	6.6%
70歳代以上 (N=144)	11.8%	4.2%	4.2%	7.6%	0.0%	4.9%	5.6%	11.8%	6.9%

	動康「 実づこ 技くろ やセ」 ミを ナ進 「め だ る の 運健	どル会 「の、議 ス室 施ポ、 設イ のツ の貸 出ト しム しホ な	ネ「他 「の 「女 「性 「機 「関 「セ 「ン 「タ 「の 「連 「携 「など	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
男性全体 (N=438)	14.2%	14.2%	2.5%	1.8%	18.3%	15.1%	6.8%
20歳代 (N=30)	10.0%	23.3%	3.3%	6.7%	26.7%	16.7%	0.0%
30歳代 (N=51)	21.6%	27.5%	3.9%	5.9%	9.8%	11.8%	2.0%
40歳代 (N=62)	9.7%	16.1%	3.2%	3.2%	14.5%	16.1%	1.6%
50歳代 (N=70)	5.7%	18.6%	4.3%	0.0%	15.7%	12.9%	0.0%
60歳代 (N=94)	18.1%	12.8%	3.2%	1.1%	12.8%	14.9%	8.5%
70歳代以上 (N=129)	14.7%	4.7%	0.0%	0.0%	27.1%	17.1%	15.5%
女性全体 (N=640)	20.6%	15.6%	4.8%	1.7%	15.2%	19.1%	4.4%
20歳代 (N=51)	13.7%	19.6%	3.9%	0.0%	21.6%	13.7%	0.0%
30歳代 (N=89)	16.9%	24.7%	3.4%	4.5%	12.4%	13.5%	2.2%
40歳代 (N=108)	15.7%	16.7%	11.1%	2.8%	14.8%	10.2%	0.9%
50歳代 (N=97)	27.8%	11.3%	3.1%	0.0%	18.6%	12.4%	2.1%
60歳代 (N=151)	23.2%	15.2%	2.6%	2.6%	15.9%	21.9%	6.0%
70歳代以上 (N=144)	21.5%	11.1%	4.9%	0.0%	11.8%	32.6%	9.7%

性別・年齢別で「ウイングス京都」の事業で充実してほしいものをみると、男性では30歳代及び70歳代を除く各年齢層において「職業訓練や職業情報の提供などの『就業支援』」が最も多く、女性でも70歳代以上を除く全ての年齢層において同様の回答が最も多くなっている。

【図表 5-2-3 性別・職業別 「ウイングス京都」の事業で充実してほしいもの（複数回答）】

	学男 ぶ女 ー共 市同 民参 画に けっ 講座 いて	習座女 ・は性 研は学 修じや め法 と律 す・ 一 働 学 講	一タ図 情一書 報ネ, 提ツト 供な にオ よに るイン	援提職 供業 な訓 の練 一職 就業 支情 報の	一男女 調女共 査女同 ・参 研画 究に 関 する	誌 の 発 行	男 女 共 同 参 画 社 会 に 関 する	談 な 悩 み は じ め い 女 性 の 一 様 相 々	ル行自 ーっ主 プて的 にいな 対る活 する動 支市や 援民研 グ究 を	する男 講性 座の 発な ・事 研能 修力 一を 性高 にめ
男性全体 (N=438)	16.4%	7.1%	12.8%	22.1%	7.3%	8.0%	10.3%	7.8%	13.2%	
 自営・自由業 (N=70)	12.9%	4.3%	8.6%	21.4%	8.6%	5.7%	8.6%	5.7%	5.7%	
 家族従事者 (N=0)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
 正規従業員 (N=166)	18.1%	10.8%	18.7%	26.5%	9.6%	9.6%	17.5%	6.0%	15.7%	
 非正規従業員 (N=54)	20.4%	1.9%	9.3%	24.1%	5.6%	3.7%	5.6%	11.1%	13.0%	
 その他有職 (N=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
 無職・学生 (N=129)	14.7%	7.0%	10.9%	17.1%	3.9%	10.1%	4.7%	8.5%	14.7%	
女性全体 (N=640)	9.4%	11.1%	8.8%	25.8%	2.2%	3.9%	13.0%	7.7%	8.4%	
 自営・自由業 (N=31)	9.7%	12.9%	6.5%	29.0%	6.5%	0.0%	22.6%	16.1%	12.9%	
 家族従事者 (N=31)	9.7%	22.6%	9.7%	22.6%	3.2%	0.0%	16.1%	3.2%	3.2%	
 正規従業員 (N=108)	6.5%	14.8%	9.3%	28.7%	2.8%	2.8%	19.4%	7.4%	9.3%	
 非正規従業員 (N=159)	8.8%	15.1%	12.6%	32.7%	1.3%	6.9%	13.2%	5.7%	10.1%	
 その他有職 (N=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	
 無職・学生 (N=279)	9.0%	6.5%	5.7%	20.8%	1.8%	3.6%	10.0%	8.2%	7.9%	

	動康 実づ 技こ く やろ セ」 を か ナ 進 ら め だ る の 運健	どル会 の、議 一ス室 施ボ、 設一イ のツベ の貸ル 出ト しム し」な	ネ一他 一ス関 ワ係 ワ機 ク」関 のセ のタ 連一 携な ・ど	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
男性全体 (N=438)	14.2%	14.2%	2.5%	1.8%	18.3%	15.1%	6.8%
 自営・自由業 (N=70)	11.4%	11.4%	0.0%	2.9%	24.3%	12.9%	12.9%
 家族従事者 (N=0)	—	—	—	—	—	—	—
 正規従業員 (N=166)	13.3%	22.3%	3.6%	1.8%	12.7%	13.3%	0.6%
 非正規従業員 (N=54)	16.7%	18.5%	5.6%	1.9%	14.8%	20.4%	7.4%
 その他有職 (N=1)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
 無職・学生 (N=129)	14.7%	3.9%	1.6%	1.6%	22.5%	16.3%	10.9%
女性全体 (N=640)	20.6%	15.6%	4.8%	1.7%	15.2%	19.1%	4.4%
 自営・自由業 (N=31)	32.3%	32.3%	9.7%	0.0%	3.2%	9.7%	6.5%
 家族従事者 (N=31)	22.6%	12.9%	3.2%	0.0%	22.6%	16.1%	6.5%
 正規従業員 (N=108)	24.1%	27.8%	5.6%	0.9%	16.7%	10.2%	0.0%
 非正規従業員 (N=159)	17.6%	14.5%	5.0%	2.5%	16.4%	13.8%	2.5%
 その他有職 (N=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
 無職・学生 (N=279)	20.8%	10.0%	3.9%	2.2%	16.1%	25.8%	5.7%

性別・職業別で「ウイングス京都」の事業で充実してほしいものをみると、男女共に「正規従業員」「非正規従業員」において「職業訓練や職業情報の提供などの『就業支援』」が最も多くなっている。

【図表 5-2-4 「ウイングス京都」の利用状況別 「ウイングス京都」の事業で充実してほしいもの（複数回答）】

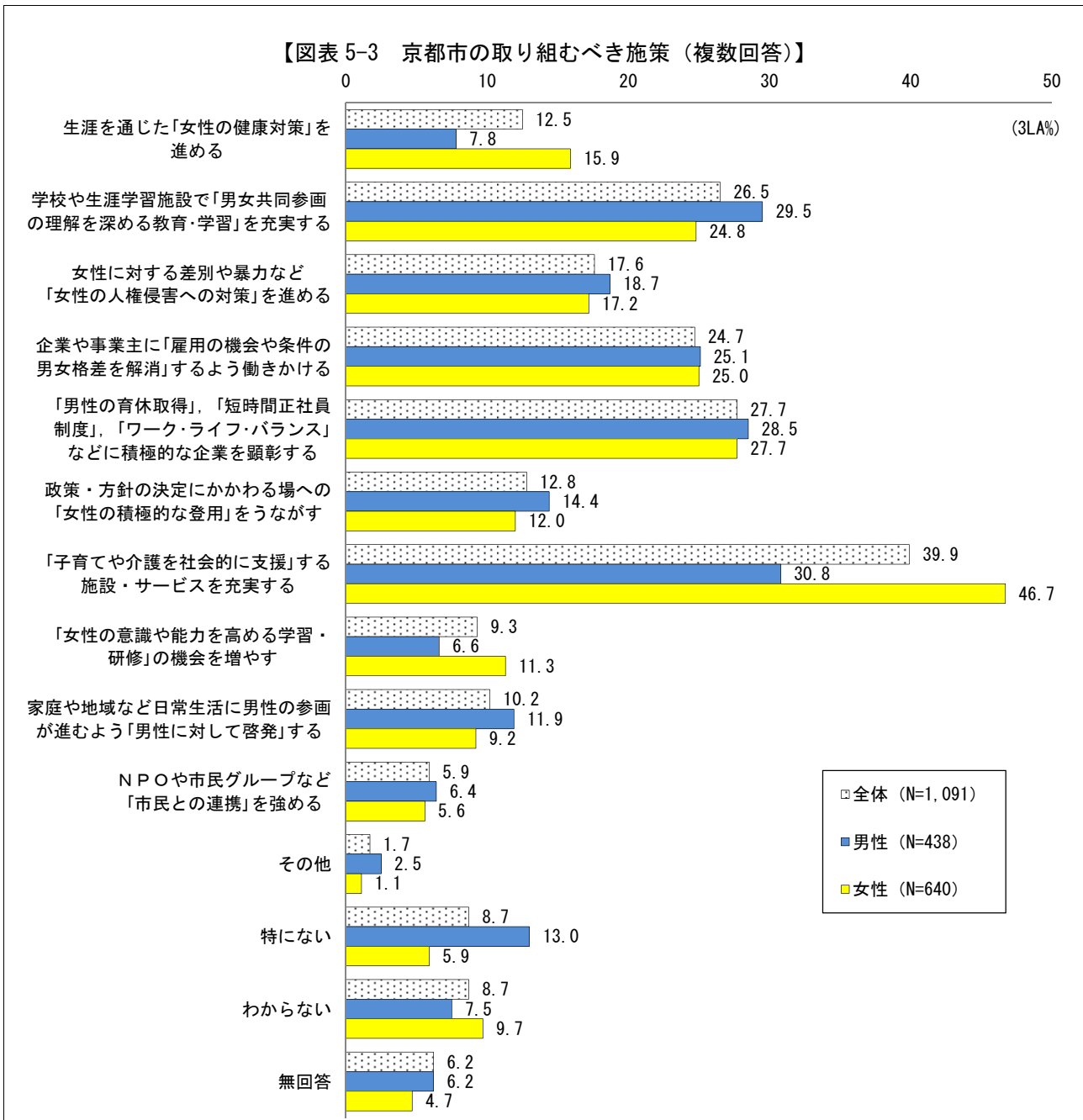
	学男 ぶ女 「共 同参 画に つ いて 講 座」	習座 ・研 修 「 女性 学や 法律 とす ・労 働学 講 座」	「タ ー 情報 提供 」 「書 ネ, ビ デオ など, イン による 」	援提 「職 業訓 練や 「職 業情 報の 提供 」	「男 女共 同参 画に 関 する 調 査・ 研 究」	誌の 発行 「 男女 共同 参 画社 会に 報 つ て考 える 」	談な 「悩 みは じめ つめ い女 性の 「様 相々 」	ル行 「主 動的 な活 動や 研究 を 支 援」	する 「講 座な ど研 修」 男性 の家 事能 力を 高め るに 対
毎週 1 回以上利用している (N=0)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
月に 1～3 回程度利用している (N=3)	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%
年に数回利用している (N=9)	11.1%	0.0%	0.0%	22.2%	0.0%	0.0%	11.1%	22.2%	0.0%
今まで何回か利用したことがある (N=155)	13.5%	18.1%	14.8%	23.2%	4.5%	3.2%	21.9%	13.5%	11.6%
知っているが利用したことはない (N=402)	12.2%	9.7%	12.2%	30.3%	6.0%	6.5%	12.9%	7.7%	11.4%
知らなかった (N=497)	12.5%	7.4%	7.6%	20.9%	3.2%	5.6%	8.2%	5.6%	9.5%

	動康 「実 技 や セ ミ ナ ー を 進 め る 運 健 」	ど の 「 議 室 、 イ ベ ン ト ホ ール 」	ネ 「 他 の 女 性 セ ン タ ー な ど の 機 関 と の 連 携 」	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
毎週 1 回以上利用している (N=0)	—	—	—	—	—	—	—
月に 1～3 回程度利用している (N=3)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年に数回利用している (N=9)	22.2%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
今まで何回か利用したことがある (N=155)	31.0%	32.3%	5.8%	3.9%	9.0%	6.5%	1.9%
知っているが利用したことはない (N=402)	16.2%	15.2%	4.2%	2.0%	16.9%	13.7%	3.7%
知らなかった (N=497)	16.1%	8.7%	3.2%	1.2%	18.7%	24.9%	5.0%

「ウイングス京都」の利用状況別に「ウイングス京都」の事業で充実してほしいものをみると、「知っているが利用したことはない人」と「知らなかった人」では「職業訓練や職業情報の提供などの『就業支援』」が最も多くなっているのに対し、「今まで何回か利用したことがある人」では「会議室、イベントホール、スポーツルームなどの『施設の貸出し』」及び「『ここからだの健康づくり』を進める運動実技やセミナー」が多い。

(3) 京都市の取り組むべき施策

問 28 あなたは、「男女共同参画社会」の実現に向けて、京都市は今後どのようなことに力をいれて取り組むべきだと思いますか。【3つまでに○】

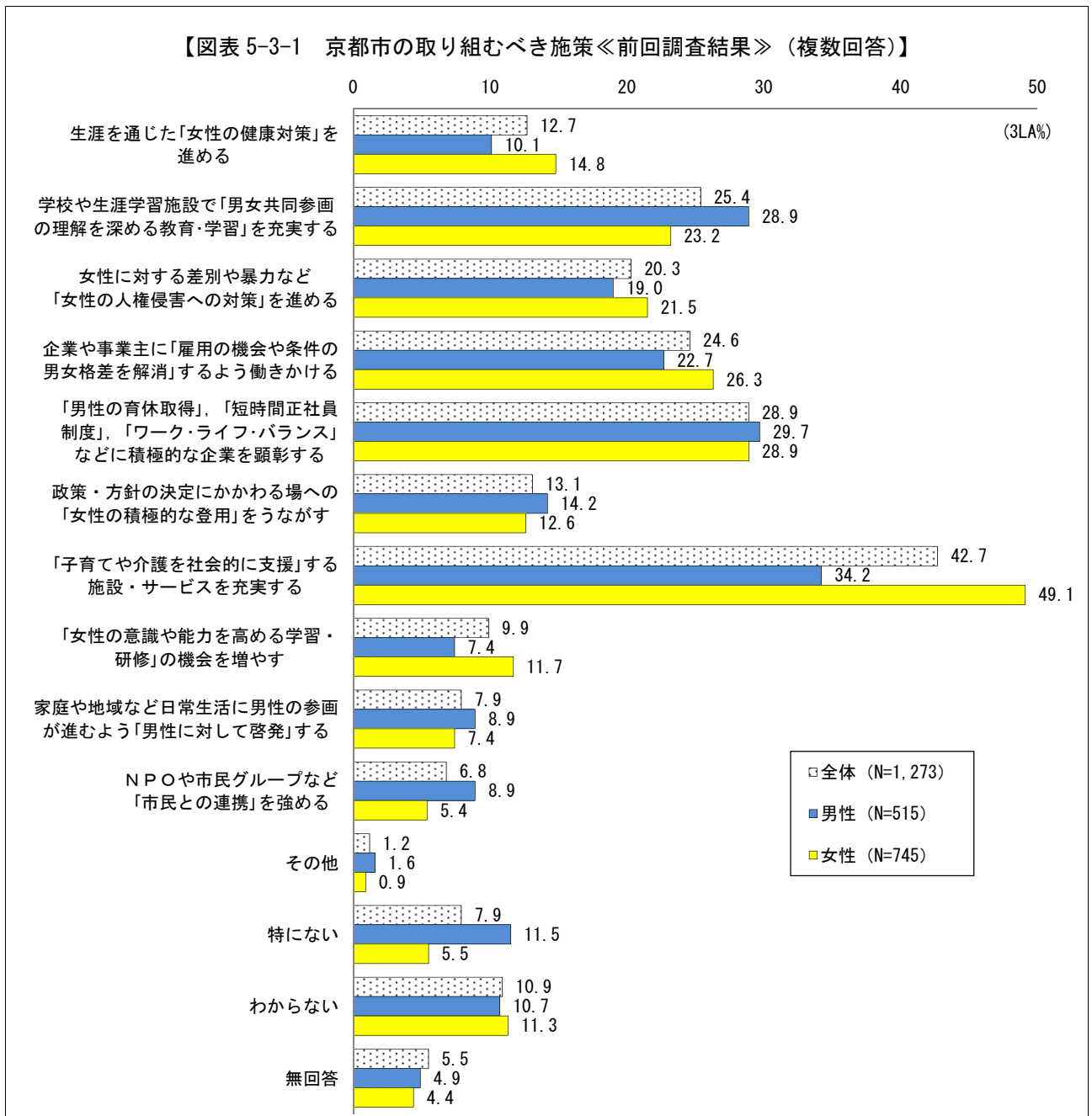


- ・ 「『子育てや介護を社会的に支援』する施設・サービスを充実する」が最も多く、次いで「『男性の育休取得』、『短時間正社員制度』、『ワーク・ライフ・バランス』などに積極的な企業を顕彰する」となっている

京都市の取り組むべき施策をみると、「『子育てや介護を社会的に支援』する施設・サービスを充実する」が39.9%と最も多く、次いで「『男性の育休取得』、『短時間正社員制度』、『ワーク・ライフ・バランス』などに積極的な企業を顕彰する」(27.7%)となっている。

性別でみると、男女共に『子育てや介護を社会的に支援』する施設・サービスを充実する」（男性 30.8%，女性 46.7%）が最も多く、次いで、男性では「学校や生涯学習施設で『男女共同参画の理解を深める教育・学習』を充実する」（29.5%），女性では『男性の育休取得』、『短時間正社員制度』、『ワーク・ライフ・バランス』などに積極的な企業を顕彰する」（27.7%）となっている。

【図表 5-3-1 京都市の取り組むべき施策<<前回調査結果>>（複数回答）】



京都市の取り組むべき施策について、前回調査（平成 21 年度）との比較では、『子育てや介護を社会的に支援』する施設・サービスを充実する」が男性で 3.4 ポイント、女性で 2.4 ポイント低下している。また、「家庭や地域など日常生活に男性の参画が進むよう『男性に対して啓発』する」が男性で 3.0 ポイント上昇し、「女性に対する差別や暴力など『女性の人権侵害への対策』を進める」が女性で 4.3 ポイント低下している。

【図表 5-3-2 性別・年齢別 京都市の取り組むべき施策（複数回答）】

	生涯を通じた「女性の健康」を進め	学校や生涯学習の充実を深める	女性に対する権利侵害への対策を進める	女性に対する差別や暴力など女性に対する権利侵害への対策を進める	消費や労働の働きかけ	企業や事業主による雇用の機会	「ワーク・ライフ・バランス」など積極的な企業を顕彰する	「男性の育休取得」、「短時間正社員制度」、「ワーク・ライフ・バランス」などに積極的な企業を顕彰する	「登用」をうながす	政策・方針の決定にかかわる場への女性の積極的な参加	「子育てや介護を社会的に支援」する施設・サービスを充実する	「女性の意識や能力を高めやす」る学習・研修の機会を増やす
男性全体 (N=438)	7.8%	29.5%	18.7%	25.1%	28.5%	14.4%	30.8%	6.6%				
20歳代 (N=30)	3.3%	30.0%	6.7%	20.0%	50.0%	6.7%	23.3%	10.0%				
30歳代 (N=51)	3.9%	19.6%	27.5%	25.5%	52.9%	9.8%	45.1%	5.9%				
40歳代 (N=62)	6.5%	24.2%	11.3%	19.4%	40.3%	9.7%	33.9%	8.1%				
50歳代 (N=70)	7.1%	34.3%	28.6%	18.6%	37.1%	22.9%	38.6%	5.7%				
60歳代 (N=94)	8.5%	31.9%	19.1%	27.7%	21.3%	16.0%	33.0%	7.4%				
70歳代以上 (N=129)	10.9%	30.2%	15.5%	30.2%	9.3%	14.7%	19.4%	5.4%				
女性全体 (N=640)	15.9%	24.8%	17.2%	25.0%	27.7%	12.0%	46.7%	11.3%				
20歳代 (N=51)	3.9%	19.6%	19.6%	33.3%	60.8%	17.6%	45.1%	5.9%				
30歳代 (N=89)	11.2%	22.5%	15.7%	27.0%	50.6%	10.1%	50.6%	10.1%				
40歳代 (N=108)	13.0%	29.6%	17.6%	27.8%	28.7%	9.3%	45.4%	8.3%				
50歳代 (N=97)	19.6%	22.7%	15.5%	28.9%	22.7%	12.4%	46.4%	18.6%				
60歳代 (N=151)	18.5%	24.5%	18.5%	26.5%	23.2%	12.6%	51.7%	9.9%				
70歳代以上 (N=144)	20.1%	26.4%	16.7%	14.6%	9.0%	12.5%	41.0%	12.5%				

	男性に対する啓発	家庭や地域など日常生活に	とやNの市P民O（民間）を強める（団体）	その他	特にな	わから	無回
男性全体 (N=438)	11.9%	6.4%	2.5%	13.0%	7.5%	6.2%	
20歳代 (N=30)	3.3%	0.0%	6.7%	23.3%	3.3%	0.0%	
30歳代 (N=51)	11.8%	13.7%	3.9%	7.8%	2.0%	2.0%	
40歳代 (N=62)	12.9%	8.1%	1.6%	8.1%	11.3%	1.6%	
50歳代 (N=70)	14.3%	0.0%	4.3%	7.1%	7.1%	1.4%	
60歳代 (N=94)	16.0%	11.7%	2.1%	13.8%	7.4%	4.3%	
70歳代以上 (N=129)	9.3%	3.9%	0.8%	17.8%	9.3%	15.5%	
女性全体 (N=640)	9.2%	5.6%	1.1%	5.9%	9.7%	4.7%	
20歳代 (N=51)	13.7%	9.8%	0.0%	3.9%	9.8%	2.0%	
30歳代 (N=89)	6.7%	3.4%	3.4%	2.2%	6.7%	0.0%	
40歳代 (N=108)	7.4%	2.8%	0.9%	6.5%	8.3%	2.8%	
50歳代 (N=97)	12.4%	3.1%	0.0%	8.2%	6.2%	2.1%	
60歳代 (N=151)	7.9%	4.6%	2.0%	3.3%	11.3%	6.0%	
70歳代以上 (N=144)	9.7%	10.4%	0.0%	9.7%	13.2%	10.4%	

性別・年齢別で京都市の取り組むべき施策をみると、男性の20～40歳代、女性の20～30歳代では「『男性の育休取得』、『短時間正社員制度』、『ワーク・ライフ・バランス』などに積極的な企業を顕彰する」が最も多く、男性の50～60歳代、女性の20歳代を除く全ての年齢層では「『子育てや介護を社会的に支援』する施設・サービスを充実する」が最も多くなっている。

【図表 5-3-3 性別・職業別 京都市の取り組むべき施策（複数回答）】

	生涯を通じた「女性の健康」を進める	教育・共同学習の充実を深める	学校や生涯学習施設で「男女共同参画の理解を深める」	女性に対する権利侵害への対応	女性に対する差別や暴力など	企業や事業主への働きかけ	企業や事業主への働きかけ	「男性の育休取得」、「短時間正社員制度」、「ワーク・ライフ・バランス」などに積極的に企業を顕彰する	「育休取得」、「短時間正社員制度」、「ワーク・ライフ・バランス」などに積極的に企業を顕彰する	「育休取得」、「短時間正社員制度」、「ワーク・ライフ・バランス」などに積極的に企業を顕彰する	「育休取得」、「短時間正社員制度」、「ワーク・ライフ・バランス」などに積極的に企業を顕彰する	「育休取得」、「短時間正社員制度」、「ワーク・ライフ・バランス」などに積極的に企業を顕彰する	「育休取得」、「短時間正社員制度」、「ワーク・ライフ・バランス」などに積極的に企業を顕彰する	「育休取得」、「短時間正社員制度」、「ワーク・ライフ・バランス」などに積極的に企業を顕彰する
男性全体 (N=438)	7.8%	29.5%	18.7%	25.1%	28.5%	14.4%	30.8%	6.6%						
自営・自由業 (N=70)	12.9%	28.6%	27.1%	24.3%	11.4%	11.4%	22.9%	4.3%						
家族従事者 (N=0)	—	—	—	—	—	—	—	—						
正規従業員 (N=166)	5.4%	30.1%	18.7%	21.7%	44.0%	13.3%	39.8%	8.4%						
非正規従業員 (N=54)	5.6%	27.8%	18.5%	29.6%	35.2%	16.7%	33.3%	5.6%						
その他有職 (N=1)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%						
無職・学生 (N=129)	7.8%	31.0%	14.7%	28.7%	17.1%	17.8%	24.0%	6.2%						
女性全体 (N=640)	15.9%	24.8%	17.2%	25.0%	27.7%	12.0%	46.7%	11.3%						
自営・自由業 (N=31)	32.3%	32.3%	25.8%	22.6%	12.9%	22.6%	51.6%	9.7%						
家族従事者 (N=31)	19.4%	22.6%	12.9%	29.0%	22.6%	12.9%	48.4%	9.7%						
正規従業員 (N=108)	14.8%	22.2%	11.1%	27.8%	41.7%	13.9%	50.0%	12.0%						
非正規従業員 (N=159)	14.5%	27.7%	17.0%	28.9%	29.6%	11.3%	42.1%	11.3%						
その他有職 (N=1)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%						
無職・学生 (N=279)	15.1%	22.9%	19.7%	24.0%	24.7%	10.4%	49.1%	10.8%						

	男性性対の啓発	家庭や地域など日常生活に	とやNの市P連携（民間団体）	その他	特にな	わから	無回答
男性全体 (N=438)	11.9%	6.4%	2.5%	13.0%	7.5%	6.2%	
自営・自由業 (N=70)	8.6%	4.3%	2.9%	18.6%	7.1%	10.0%	
家族従事者 (N=0)	—	—	—	—	—	—	
正規従業員 (N=166)	12.0%	6.0%	4.2%	8.4%	6.6%	1.8%	
非正規従業員 (N=54)	9.3%	13.0%	1.9%	9.3%	5.6%	5.6%	
その他有職 (N=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
無職・学生 (N=129)	15.5%	5.4%	0.0%	17.8%	8.5%	8.5%	
女性全体 (N=640)	9.2%	5.6%	1.1%	5.9%	9.7%	4.7%	
自営・自由業 (N=31)	12.9%	16.1%	3.2%	0.0%	0.0%	6.5%	
家族従事者 (N=31)	12.9%	0.0%	3.2%	6.5%	6.5%	6.5%	
正規従業員 (N=108)	16.7%	4.6%	1.9%	2.8%	3.7%	2.8%	
非正規従業員 (N=159)	8.2%	5.7%	0.6%	7.5%	9.4%	2.5%	
その他有職 (N=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
無職・学生 (N=279)	6.8%	5.0%	0.7%	7.5%	13.3%	3.6%	

性別・職業別で京都市が取り組むべき施策をみると、男性の「正規従業員」「非正規従業員」では『男性の育休取得』、『短時間正社員制度』、『ワーク・ライフ・バランス』などに積極的な企業を顕彰する、「自営・自由業」「無職・学生」では「学校や生涯学習施設で『男女共同参画の理解を深める教育・学習』を充実する」が最も多くなっている。一方、女性では概ねいずれの職業においても「『子育てや介護を社会的に支援』する施設・サービスを充実する」が最も多い。

6 自由記載意見

※ 回答者から寄せられた意見・要望のうち「男女平等」や「男女共同参画」に関する部分を抜粋又は要約したものを掲載しています。

『1 男女平等・男女共同参画について』	
<p>■ 「男女共同参画」については特に女性について、無理に社会進出を進めるのではなく、男女共に希望する道に進めるような環境を作ってもらいたい。女性の中にも、社会進出し男性以上に活躍したいと考える人もいれば、男性を支えるために家庭に入りたいと考える人など様々である。全ての女性を無理に労働の場へ送り込むようなことは避けるべきだと思う。</p>	<p><男性, 40歳代, 正社員・正職員></p>
<p>■ 女性の一番大切な仕事は、家庭を守り、子どもを産み育てることだと思う。女性が社会に出ることのみが男女平等ではない。男性はちゃんと収入を得て妻子を養うべき。</p>	<p><女性, 40歳代, 専業主婦・主夫></p>
<p>■ 男性は男性の良い所があり、女性は女性の良い所がある。適材適所で良いのではないか。どうしてもやりたい事があるのにできない人への助けは必要と思うが、そこに男女の問題があるのか。</p>	<p><男性, 20歳代, 商業・工業・サービス業などの自営業主></p>
<p>■ 私自身、女に生まれて損と感じた事が一度もない。今の時代は女性の方が選択肢も多く、仕事も育児も両立できて、かえって得しているのではないかとさえ思う。</p>	<p><女性, 60歳代, パート・アルバイト・契約社員></p>
<p>■ 男女平等なので、女性に対して過保護になるのもいけないように感じる。</p>	<p><男性, 30歳代, 正社員・正職員></p>
<p>■ 家の事や育児等に関して、社会制度的に、労働時間の短縮や休みの取り易さ、休み中の賃金保障・職場復帰等をどうにかしない限り、男女平等や共同参画は無理だと思う。</p>	<p><女性, 20歳代, 専業主婦・主夫></p>
<p>■ 優遇も差別。現代は男尊女卑と女尊男卑が入り混じっているのだから、女性だけでなく男性にも手助けが必要。</p>	<p><男性, 30歳代, パート・アルバイト・契約社員></p>
<p>■ 男女平等は必要な考えだと思うが、全てに適用しようとするれば必ず無理が出る。(業種などを考えるとどうしても向き不向きはある。)</p>	<p><男性, 40歳代, 正社員・正職員></p>
<p>■ 女性の雇用や男女共同・平等と掲げているが、現実はそのように簡単ではないと思われる。もっと女性の働きやすい社会作り、男性をはじめとする社会の変化がないと進まないと思われる。</p>	<p><女性, 40歳代, 正社員・正職員></p>
<p>■ 男女平等と言いながら最近「女尊男卑」と言えるところがあるのではないかと考える。</p>	<p><女性, 50歳代, 自営・自由業の家族従業者></p>
<p>■ 男女平等と言いすぎてバランスが悪くなっていると感じる。女性が社会的前面に出過ぎであり、何につけ、セクハラなどの言葉で女性が有利に思う。今の時代は女性が強すぎる。</p>	<p><女性, 40歳代, パート・アルバイト・契約社員></p>
<p>■ 男女平等は結構だが、あまりにも「女性は弱者」という意識が強いためか、女性の側に立った主張ばかりが用いられている気がする。男女平等ではなく女性優位の逆差別になっていないか、不安がある。男女差別と区別を一緒にしない事を望む。</p>	<p><男性, 40歳代, その他無職></p>

『2 学校等での教育について』	
■ 「男女平等」については、当たり前であるということを教育の中で植え付けていただきたい。	<男性, 40歳代, 正社員・正職員>
■ 「男は仕事, 女は家事と子育て」の考え方は今の子ども達にはなく, イクメンなどの言葉も定着している。今後も子どもの頃から教育を受けていけば, 男女平等の考えは浸透していくと思う。	<女性, 40歳代, 専業主婦・主夫>
■ 若い世代は「男が」とか「女が」とかあまり気にしていない。その点は学校教育が成功していると感じる。	<男性, 20歳代, 正社員・正職員>
■ 男性は外で仕事に励み, 育児・介護に従事するのは女性という役割分担の意識がまだまだ強い社会であると思う。男性が育児・介護を含めた家事労働を夫婦共に責任を持つべきことと考えるようになるためには, 子どもの頃から教えていく必要があると思う。	<女性, 40歳代, 正社員・正職員>

『3 結婚・子育て・少子化対策について』	
■ 女性はまだまだ結婚しなければ一人前としてみなされない世の中だと考える。また, 男性でも女性でも結婚しなければ何となく自然ではない日本の社会の目がある。	<男性, 40歳代, パート・アルバイト・契約社員>
■ 現在の平等施策はますます女性の出産機会を減らしていく様な印象を受ける。	<女性, 40歳代, 正社員・正職員>
■ 女性が男性と同じように働き, 子どもの世話・教育他をこなしていかなければいけないことは本当にしんどい。夫, 職場だけでなく社会全体でのサポートが必要だと思う。	<女性, 50歳代, 正社員・正職員>
■ 子育ては母親(女性)にしかできない事があり, 父親(男性)には無理な事がある。子育て中は, 夫婦の理解, 社会の理解がもっと必要だと思う。	<女性, 40歳代, 商業・工業・サービス業などの自営業主>
■ 女性の社会進出が進めば進むほど晩婚化も進んでしまう。バランスを考えた政策が必要と思う。	<男性, 20歳代, 正社員・正職員>
■ 少子化問題をなんとかする(子どもを多くする)には, 夫婦どちらかが仕事に専念し, 家庭には1人必ず育児や家事に頑張るのが好ましいかと思う。	<男性, 40歳代, その他の無職>
■ 少子化対策として子育て支援は不可欠。子どもを安心して産める仕組みを作ることが重要であり, 女性が働きやすい環境を作ることが第一歩ではないか。先ずその受け皿が確保されないと, 働きながら子育てをする自信が持てない。	<女性, 60歳代, 専業主婦・主夫>
■ 今や女性も働かなければ生計を保てない時代。一人で育児も家事も両立するのは難しく, 男性も自ら進んで育児, 家事に参加すべき。未だ女性がするものという考えが残っているのはおかしい。	<女性, 30歳代, 正社員・正職員>
■ 働きながら家の事を全部している女性が多いように思う。結婚してしんどい思いをしている人(母親)を見ている女性が結婚する気になれないのは無理からぬ事である。	<女性, 60歳代, パート・アルバイト・契約社員>
■ 男性が育児のために定時で帰ったり, 休みの取りやすい環境や, 女性が子どもの体調不良で早退したりすること等で周りから良く思われない環境などが改善されていけば, 子どもの数もだんだんと増えていくと思う。	<女性, 40歳代, 専業主婦・主夫>

『4 介護・高齢化対策について』

- 両親の介護（遠方）を10年したが、専業主婦だからできたことである。
<女性, 60歳代, 専業主婦・主夫>
- 今後高齢者が多くなる社会に、男女雇用共同参画が進む社会になるように。
<男性, 60歳代, 正社員・正職員>

『5 情報提供・PRについて』

- 国として、男性が育児に専念できる休暇などの法整備、及び、ジェンダーのない新しい認知を広めていかなければならないと思う。
<男性, 20歳代, 正社員・正職員>
- 男女共同参画の理解を深めるためにも、回覧等での情報提供などをお願いしたい。
<女性, 70歳代以上, 専業主婦・主夫>
- 若い年齢の人には聞きなれない言葉であり、内容等を簡潔にした映像等で若い人達が興味をもち、少しでも理解してもらえるような機会をネットやTVなどで増やした方が良いと思う。
<女性, 20歳代, パート・アルバイト・契約社員>
- 京都市の取組の露出度が低い。新聞、折込み、メディアを上手く使ってほしい。特に今まで興味をもっていなかった人の目をそちらの方に向ける努力をしてほしい。
<男性, 60歳代, パート・アルバイト・契約社員>
- 男女共同参画に積極的に取り組んでいる企業には顕彰を。
<男性, 60歳代, その他の無職>
- 各種法令をもっと分かりやすく具体的にかみくだいてパンフレット等で配布する。
<男性, 60歳代, 正社員・正職員>
- 単にポスターや冊子での啓発だけでは物足りないばかりか、これで良しという雰囲気だけが定着して結果何も進展しないことになる。やるなら徹底してPRし、かつ実際的な活動をするべき。
<男性, 60歳代, その他の無職>

『6 社会全般について』

- 母子家庭は優遇されているが父子家庭は、大した優遇がない。男女平等というならそこも平等にするべき。
<女性, 30歳代, パート・アルバイト・契約社員>
- 社会全体が子持ちや介護に対しておもしろい目を持てる制度を作るべき。
<女性, 30歳代, 専業主婦・主夫>
- レディースデーだけでなく、メンズデーや男性専用車両など、女性が優遇されているサービスの男性版が増えればと思う。
<女性, 20歳代, 正社員・正職員>
- 啓発というものは、ほとんど効果は無いと思うので、具体的な制度や仕組みにしていく必要があると考える。
<男性, 50歳代, 正社員・正職員>
- 男女共に安定した雇用形態、そして結婚や子どもをもうけるなど未来に向かって考えられる賃金や教育・医療などの充実した社会保障があること。
<女性, 60歳代, 専業主婦・主夫>

『7 仕事・職場全般について』	
<p>■ 育休について、個人に任せていたら取得してもその人は白い目で見られる。法的に取らなければならないようにしないと無理。大企業は問題ないとしてもそれ以外は難しいと思う。</p>	<p>＜女性，40歳代，パート・アルバイト・契約社員＞</p>
<p>■ 男女ではどうしても体力的な面では圧倒的に男性に力があるので，男性と同じ残業，力のいる仕事を女性がするのは無理だと思う。</p>	<p>＜女性，20歳代，正社員・正職員＞</p>
<p>■ 出産すれば残業はできず，人並みの業務はできないという考えが強く根付いており，30歳前後の女性で未婚となると，企業としては戦力として計算しにくいという状況が現実として存在する。形だけ育児勤務制度が整っていても，実態としては他の人がカバーしているだけである。</p>	<p>＜女性，20歳代，正社員・正職員＞</p>
<p>■ 核家族化している現代は，子どもを預ける場がなければ働くことも難しい。</p>	<p>＜女性，40歳代，専業主婦・主夫＞</p>
<p>■ 男性がもっと子育てや地域の活動等に参加できるように企業や事業主に働きかけてほしい。</p>	<p>＜男性，60歳代，正社員・正職員＞</p>
<p>■ 男性の育児休暇を取得しやすい環境作りをしてほしい。</p>	<p>＜女性，40歳代，専業主婦・主夫＞</p>
<p>■ お互いに男女必ず同じ仕事をこなしていく必要はないと思う。男，女の区分けでなく，個々の能力で仕事等ができる様にすべきだと思う。</p>	<p>＜男性，60歳代，その他無職＞</p>
<p>■ 企業での長時間労働が一般的になっており，子育てをしながら共働きできる環境にない。労働基準法が守られていない。経営者に刑事罰を与えるレベルの厳しい指導が必要である。</p>	<p>＜男性，30歳代，正社員・正職員＞</p>
<p>■ 男女平等には問題ないが，逆にまだまだ女性には甘い。平等ならばつらい仕事や残業，力仕事などもやらなければいけない。</p>	<p>＜男性，50歳代，正社員・正職員＞</p>
<p>■ 女性の研修，就職の機会を提供することが必要。女性が子どもを産んだら辞めさせられるかもしれないのはとてもひどいことだと思う。</p>	<p>＜女性，20歳代，学生＞</p>
<p>■ 中小企業や零細企業に勤めていて，産休や男性の育児休業などの権利を主張することは，現実問題として難しいと思う。</p>	<p>＜女性，50歳代，パート・アルバイト・契約社員＞</p>
<p>■ 様々な法律が施行されても職場で取得できていなければ意味がないと思う。</p>	<p>＜女性，50歳代，専業主婦・主夫＞</p>

『8 地域との関わりについて』	
<p>■ 地域の取組に参加でき，趣味も楽しむことができ，ゆとりを持って子どもに接することができる。家族や地域の絆が強まる。</p>	<p>＜女性，60歳代，専業主婦・主夫＞</p>
<p>■ 町家を地域活動の場として利用していくことをより増やしていただきたい。</p>	<p>＜女性，40歳代，パート・アルバイト・契約社員＞</p>
<p>■ 自治会役員等は昔から住んでいる人と決まっており，新しく移り住んだ人は入れられない。</p>	<p>＜男性，60歳代，パート・アルバイト・契約社員＞</p>

資料編

男女共同参画に関するアンケート

2014年（平成26年）5月

御記入に当たってのお願い

- 1 あて名の御本人が回答してください。
- 2 記入が終わりましたら、この調査票を同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、**6月16日(月)までに**投函してください。
- 3 この調査票は無記名方式で、回答の結果はコンピュータで集計処理しますので、個人が特定されることはいっさいありません。また、御回答いただいた内容をこの調査以外で使用することはありません。
- 4 年齢など御本人に関する回答は、この調査票の記入日現在の状況でお書きください。
- 5 問1から順に、各質問ごとに用意してある答え（選択肢）の中から、該当する番号に○をつけてください。○をつける数は、「1つ」、「3つまで」、「あてはまるものすべて」など質問によって異なりますので、その質問の指示にしたがってください。
- 6 質問によっては回答していただく方が限られている場合があります。その場合は、指定された次の質問に進んでください。
- 7 この調査についてのお問合せは、男女共同参画推進課までお願いします。

京都市 文化市民局 共同参画社会推進部 男女共同参画推進課

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地

TEL 222-3091（直通）

FAX 222-3223

京 都 市

I 男女共同参画に関わる社会の動きについて、おうかがいします

問1 あなたは、男女共同参画※1を推進していくことに賛成ですか、反対ですか。

【1つに〇】

- | | | |
|--------------|--------------|---------|
| 1 賛成 | 3 どちらかといえば反対 | 5 わからない |
| 2 どちらかといえば賛成 | 4 反対 | |

※1 男女共同参画社会……男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を負うべき社会のことで、京都市ではその実現に向けて取り組んでいます。

問2 あなたは、次のそれぞれの分野について、男女は平等になっていると思いますか。

【それぞれ1つに〇】

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
(1) 学校教育では	1	2	3	4	5	6
(2) 雇用の機会（募集・採用）では	1	2	3	4	5	6
(3) 賃金や昇進では	1	2	3	4	5	6
(4) 家庭生活では	1	2	3	4	5	6
(5) 地域活動では	1	2	3	4	5	6
(6) 社会の慣習やしきたりでは	1	2	3	4	5	6
(7) 法律や制度のうえでは	1	2	3	4	5	6
(8) 政治・経済活動への参加では	1	2	3	4	5	6

問3 あなたは、「男は仕事、女は家事・育児」という考え方についてどう思いますか。【1つに〇】

- | | | |
|--------------|--------------|---------|
| 1 賛成 | 3 どちらかといえば反対 | 5 わからない |
| 2 どちらかといえば賛成 | 4 反対 | |

問4 あなたは、子どもにどのような能力を身につけさせたいと思いますか。「男子」、「女子」それぞれの場合について、あてはまる番号に○をつけてください。子どもがいない方も、一般的な考えをお答えください。【それぞれ3つまでに○】

(*ここでいう「子ども」は、18歳未満を対象としています。)

	礼儀作法	家事能力	職業能力	リーダーシップ	協調性	実行力	たくましさ	やさしさ	国際感覚	おもいやり	自立心	忍耐力	男女平等意識	その他	わからない
男子	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
女子	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15

問5 次のうち、あなたが「女性の人権が尊重されていない」ことだと思うものはどれですか。【あてはまるものすべてに○】

- 1 買春・売春，援助交際
- 2 風俗産業
- 3 ストーカー（つきまとい）行為
- 4 痴漢行為や強制わいせつ等の性犯罪
- 5 夫婦や恋人等のパートナー間での暴力（ドメスティック・バイオレンス）
- 6 職場におけるセクシュアル・ハラスメント
- 7 職場におけるマタニティ・ハラスメント※2
- 8 募集・採用や昇進・昇給における性別による差別的な取扱い
- 9 女性のヌードや水着姿の写真を掲載又は使用した雑誌や広告
- 10 インターネット上のアダルト向けホームページ
- 11 女性の容ぼうを競うミス・コンテスト
- 12 「女流○○」，「○○女史」のように女性にだけ用いられる言葉
- 13 伝統行事や文化の中で女性を受け入れないものがあること
- 14 その他（具体的に： _____)
- 15 特にない

※2 マタニティ・ハラスメント……働く女性が妊娠・出産に関連し、職場において受ける精神的・肉体的いやがらせのことであり、略して「マタハラ」と呼ばれています。妊娠中や産休後に会社等で受ける「心無い言葉・行動」「解雇や契約打ち切り，自主退職への誘導」が主な行為であり，非正規雇用の増加等により近年急増していると言われています。

問6 議員や審議会委員などに占める女性の割合は、全国的に、依然として低いのが現状です。あなたは、今後、こうした政策・方針を決定する場に男女が平等に参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。【3つまでに○】

- 1 男女の意見を等しく政策・方針に反映していくことの大切さを広く啓発する
- 2 審議会などの女性委員の目標比率を設定し、それを達成する
- 3 家庭・地域・職場など日常的な場での男性優位の意識や実態を解消する
- 4 家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かちあう
- 5 女性の学習・研修・能力開発の機会を充実させる
- 6 男性が男女共同参画について学ぶ講座等の学習機会を充実させる
- 7 女性の活動を支援するネットワークづくりを促進する
- 8 女性自らが政策・方針を決定する場に参画することに関心や積極性を持つ
- 9 組織のトップから男女共同参画に関する意識を変える
- 10 その他（具体的に： _____）
- 11 特別な取組は必要ない
- 12 わからない

問7 あなたは、次の名称や言葉について御存知ですか。【それぞれ1つに○】

	内容をよく知っている	少しは内容を知っている	名称を聞いたことがある	知らない
(1) 男女共同参画社会基本法※3（1999年）	1	2	3	4
(2) 京都市男女共同参画推進条例※4（2003年）	1	2	3	4
(3) 男女雇用機会均等法※5（2007年改正）	1	2	3	4
(4) 労働基準法※6（2010年改正）	1	2	3	4
(5) 育児・介護休業法※7（2010年改正）	1	2	3	4
(6) 真のワーク・ライフ・バランス※8	1	2	3	4

※3～8の用語解説は、最後のページに掲載しています。

問8 あなたが「男女共同参画社会」に期待することは何ですか。【3つまでに○】

- 1 家庭生活において男女がともに家事や子育てに参加できる
- 2 男女がともに参加することで地域活動が活発になる
- 3 男女が支え合うことで高齢期を安心して過ごせる
- 4 自分の希望や能力に合った仕事をする事ができる
- 5 職場において賃金や待遇面での男女格差がなくなる
- 6 地域のお祭りや伝統文化、宗教上の儀式などに、男女の区別なく参加できる
- 7 性別にとらわれず子どもが個性豊かに育つ
- 8 男女がそれぞれの役割を果たし合う
- 9 何も希望することはない
- 10 わからない
- 11 その他（具体的に： _____)

Ⅱ あなたの家庭生活や地域活動について、おうかがいします

問9 あなたのご家庭では、次のことからは主にどなたが担当・決定されていますか。
【それぞれ1つに○】

※ 配偶者について あなたの夫または妻、あるいはそれに相当する人を含めるものとします。	自	配	その	自分	自分	該当
※ ひとり暮らしの場合 ひとり暮らしをしていて、自分ですべて行っている場合は「自分」としてください。	分	偶	他の	と	と	なし
※ 食事はすべて外食という場合、賃貸の住宅に住んでいる場合、現在子ども、要介護者がいない場合など「該当なし・必要なし」としてください。		者	家族	配	その	し
			(親	偶	他の	・
			や	者	家族	必要
			子		(親	なし
			など)	同	や	し
				じ	子	が
				く	な	
				ら	ど	
				い	の	
				ら	た	
				い	だ	
				く	い	
				ら	が	
				い		
▼食事						
(1) 食事の仕度 (料理)	1	2	3	4	5	6
(2) 食事のあとかたづけ (食器洗い)	1	2	3	4	5	6
▼家庭の管理と運営						
(1) 食料品や日用品の買い物	1	2	3	4	5	6
(2) そうじ	1	2	3	4	5	6
(3) 洗濯	1	2	3	4	5	6
(4) ごみ出し	1	2	3	4	5	6
(5) 高額な家財道具の購入	1	2	3	4	5	6
(6) 住宅の購入	1	2	3	4	5	6
(7) 預貯金等の資産の運用	1	2	3	4	5	6
▼子どもと介護の必要な高齢者・障害者						
(1) 育児 (乳幼児の世話)	1	2	3	4	5	6
(2) 子どもの日常的なしつけ	1	2	3	4	5	6
(3) 子どもとの遊び	1	2	3	4	5	6
(4) 子どもの教育方針 (進学など)	1	2	3	4	5	6
(5) 高齢者・障害者の実際の介護	1	2	3	4	5	6

問10 問9でお答えいただいたことがらのうち、特に、あなたにとって負担であり、家族の協力や手助けが必要と感じているものはどれですか。【3つまでに○】

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1 食事の仕度（料理） | 7 育児（乳幼児の世話） |
| 2 食事のあとかたづけ（食器洗い） | 8 子どもの日常的なしつけ |
| 3 食料品や日用品の買物 | 9 子どもとの遊び |
| 4 そうじ | 10 高齢者・障害者の実際の介護 |
| 5 洗濯 | 11 特に必要ない |
| 6 ごみ出し | 12 やっていないのでわからない |

問11 あなたは、ここ5～6年の間に、地域でどのような活動に参加しましたか。また、今後参加してみたい活動は何ですか。【それぞれ1つに○】

参加したことがない・今後も特に参加したくない場合、その理由に近いものは何ですか。【それぞれについて、3つまでに○】

	参加の有無			不参加の理由									
	参加したことがある・現在参加している	参加したことがない・今後は参加したい	参加したことがない・今後も特に参加したくない	仕事が忙しいから	家事・育児・介護で忙しいから	健康状態がおもわしくないから	人間関係がわずらわしいから	男性の意見と女性の意見が平等に扱われないから	活動の情報が得られないから	参加するきっかけがないから	自分以外の家族が参加しており必要がないから	あまり関心がないから	その他（具体的に）
(1) 自治会・町内会の活動	1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
(2) PTAや子ども会の活動	1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

《問11の「(1)自治会・町内会の活動」で「1 現在参加している・参加したことがある」を選んだ方におうかがいします。その他の方は、問13にお進みください。》

問12 あなたが参加した「自治会や町内会の活動」では、次のようなことがありましたか。
【それぞれ1つに○】

	あ る	な い	わ か ら な い
(1) 行事やイベントの企画は主に男性が決定している	1	2	3
(2) 代表者は男性から選ばれる	1	2	3
(3) 女性は責任のある役を引き受けたがらない	1	2	3
(4) お茶入れや食事の準備などは女性がしている	1	2	3
(5) 女性は発言しにくい雰囲気がある	1	2	3
(6) 名簿上は男性が会員になっているが実際は女性（配偶者）が活動している	1	2	3
(7) 男性は仕事で欠席が許されるが、女性が仕事で欠席することを否定する雰囲気がある	1	2	3

《すべての方におうかがいします。》

問13 あなたは、自治会や町内会以外でどのような活動に参加したことがありますか。また、今後参加してみたい活動は何ですか。【それぞれ1つに○】

	参 加 し た こ と が あ る ・ 現 在 参 加 し て い る	参 加 し た こ と が な い ・ 今 後 は 参 加 し た い	参 加 し た こ と が な い ・ 今 後 も 参 加 し た く な い
(1) 地域における趣味・スポーツ・学習の活動	1	2	3
(2) NPO（非営利団体）やボランティアの活動	1	2	3
(3) 民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動	1	2	3

問14 あなたは、今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくには、どのようなことが必要だと思いますか。【3つまでに○】

- 1 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす
- 2 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす
- 3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる
- 4 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担についての当事者の考え方を尊重する
- 5 社会の中で、男性が家事などに参加することに対する評価を高める
- 6 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする
- 7 講習会や研修等を行い、男性の家事、育児、介護の技能を高める
- 8 男性の仕事中心の生き方、考え方を改める
- 9 男性が家事などに関心が高めるよう啓発や情報提供を行う
- 10 男性が子育て、介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりを進める
- 11 職場における男女間の賃金格差をなくす
- 12 職場のトップが男女共同参画に関する意識を変える
- 13 わからない
- 14 その他（具体的に： _____）

問15 あなたは妊娠や出産、不妊、避妊、更年期、性感染症など女性の健康と権利について、男女が理解し合うためには、どのようなことが大切だと思いますか。【3つまでに○】

- 1 配偶者やパートナーとの話し合い
- 2 親子間での話し合い
- 3 学校における性教育や、女性の健康管理と権利に関する教育
- 4 性や健康についての相談窓口
- 5 講座の開催などによる学習機会の提供
- 6 パンフレットなどによる情報提供
- 7 わからない
- 8 その他（具体的に： _____）

問16 健康で豊かな生活を送るためには、一人一人が自分の健康を管理していくことが重要です。あなたは、健康診断を定期的に受診されていますか。【1つに○】

- 1 毎年受診している
- 2 2～3年に1回受診している
- 3 4～5年に1回受診している
- 4 受診したことはある（約 _____ 年前）
- 5 受診したことがない

Ⅲ あなたの職場環境について、おうかがいします

問 1 7 (1) 現在のあなたの職業・就労状況はどれにあたりますか。【1つに○】

自営・自由業の方	お勤めの方	無職・学生の方
1 農林漁業者	5 会社・団体役員	11 専業主婦・専業主夫（収入を得る仕事をしていない方）
2 商業・工業・サービス業などの自営業主	6 正社員・正職員	12 学生（専門学校生，大学生など）
3 自由業（開業医，芸術家，宗教家，弁護士など）	7 パート・アルバイト・契約社員	13 その他の無職（年金生活者，失業中の方など）
4 上記1～3の家族従事者	8 派遣社員	
	9 内職・在宅就業	
	10 その他 (具体的に：)	

問 1 7 (2) へ

問 2 2 へ

問 1 7 (2) あなたのお勤めの所在地はどこですか。【1つに○】

1 京都市内	2 京都府下（京都市内を除く）	3 他府県
--------	-----------------	-------

《問 1 7 (1) で1～10を選ばれた方におうかがいします。》

問 1 8 (1) あなたは平均すると、週に何日働いていますか。（1日1時間でも働いていれば、1日と数えてお答えください。）【1つに○】

1 1日	4 4日	7 7日
2 2日	5 5日	
3 3日	6 6日	

(2) あなたは平均すると、週に何時間ぐらい働いていますか。（残業時間は含みますが、休憩時間は除きます。）【1つに○】

1 10時間未満	5 40時間以上50時間未満
2 10時間以上20時間未満	6 50時間以上60時間未満
3 20時間以上30時間未満	7 60時間以上
4 30時間以上40時間未満	

**問19 あなたの職場では、賃金や昇進制度といった待遇に男女間の不当な差があると感じますか。
【あてはまるものすべてに○】**

- 1 男女間に不当な差はない
- 2 募集・採用時の差別がある
- 3 女性は責任のある仕事をまかされないなど、配置上の差別がある
- 4 残業を男性にさせるといった雰囲気があり、結果的に賃金や昇進に有利である
- 5 男性と女性が同じ教育・訓練を受けられない
- 6 同じ仕事でも男女で賃金が異なる
- 7 同等の実力・実績があっても男女で昇進・昇格時期が異なる
- 8 女性は結婚・出産を機に退職するという雰囲気がある
- 9 (気に入らないという理由で解雇されるなど) 女性の雇用が安定していない
- 10 男性は育児休業・介護休業が取りづらい
- 11 マタニティ・ハラスメントを見聞きしたり、受けたりしたことがある
- 12 その他(具体的に:)

**問20(1) あなたは、セクシュアル・ハラスメントを受けたことを見聞きしたことがありますか。
【1つに○】**

- | | | |
|---|---|--------------------------|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 受けたことがある 2 見聞きしたことがある 3 受けたことも見聞きしたこともある 4 受けたことも見聞きしたこともない 5 わからない | } | <p>(2) へ</p> <p>問26へ</p> |
|---|---|--------------------------|

**(2) あなたが受けたり見聞きしたりしたことは、どのような内容ですか。
【あてはまるものすべてに○】**

- 1 性的な内容の話（猥談）をする
- 2 性的な内容の電話やメールをする
- 3 スリーサイズなど身体的特徴を話題にする
- 4 性的な経験、性生活に関することについて質問する
- 5 性的な噂を流す
- 6 ヌードや水着姿の写真が人目につくところに貼ってある
- 7 じろじろと身体を見られた
- 8 不必要に身体を触られた
- 9 食事やデートにしつこく誘う
- 10 宴席でお酌やデュエットを強要
- 11 立場を利用して性的関係をせまられた
- 12 「男のくせに」「女のくせに」などの性差別的な発言
- 13 女性だけにお茶くみや掃除、私用を強要
- 14 男性だけに力仕事を強要
- 15 「男の子」「女の子」「おじさん」「おばさん」などと人格を認めないような発言
- 16 その他（具体的に： _____）

問21 問20のセクシュアル・ハラスメントを受けた時、あなたはどうしましたか。（見聞きした場合は、受けた当事者がどうされたかをお答えください。）【あてはまるものすべてに○】

- 1 泣き寝入りした
- 2 抗議したが改善されなかった
- 3 抗議して逆に不利益を受けた
- 4 抗議して事態が改善した
- 5 京都労働局などに相談した
- 6 法的手段に訴えた
- 7 その他（具体的に： _____）

次は、問26へお進みください。

《問17で 11～13を選ばれた方におうかがいします。》

問22 あなたは、今後、収入を得る仕事につきたいと思いますか。【1つに○】

- | | | |
|-------------------|---|------|
| 1 ぜひ、仕事につきたいと思う | } | 問23へ |
| 2 できれば、仕事につきたいと思う | | |
| 3 仕事につきたいと思わない | } | 問25へ |
| 4 わからない | | |

《問22で1～2を選ばれた方におうかがいします。》

問23(1) あなたは、今後、仕事につくとしたら、どのような働き方を希望しますか。【1つに○】

- 1 正社員・正職員として働きたい
- 2 パート・アルバイト・契約社員として働きたい
- 3 派遣社員として働きたい
- 4 内職や在宅就業の仕事をしたい
- 5 自営・自由業をしたい
- 6 その他（具体的に： _____)
- 7 わからない

(2) (1) で選択した働き方を希望する理由は何ですか。【1つに○】

- 1 生計を維持するため
- 2 家計の足しにするため
- 3 自分の小遣いを得るため
- 4 老後などの将来の蓄えにするため
- 5 家業を手伝う（継ぐ）ため
- 6 家事、子育て、介護の負担が大きいから
- 7 残業のない仕事で働きたいから
- 8 自由な時間に仕事をしたいから
- 9 その他（具体的に： _____)

問24 あなたは、仕事につくうえでお困りのこと、又は、今後働きたいと思ったときに気になることはありますか。【あてはまるものすべてに○】

- 1 給料・賃金が自分の希望と合うかどうか
- 2 勤務時間や雇用形態が自分の希望と合うかどうか（残業や転勤の有無）
- 3 自分の資格、能力、適性にあった仕事の募集・採用があるかどうか
- 4 求人募集での年齢や資格の制限に合うかどうか
- 5 自分の能力や体力、健康状態
- 6 仕事を始めるための資金が不足していること
- 7 就職に関する情報が得にくいこと
- 8 募集や採用において雇用の機会が男女均等でないこと
- 9 介護や看護の必要な家族がいること
- 10 仕事をするに当たって家族の理解や協力が得られるかどうか
- 11 保育所や学童保育を利用できるかどうか
- 12 その他（具体的に： _____）
- 13 特に気がかりなことはない

次は、問26へお進みください。

《問22で3～4を選ばれた方におうかがいします。》

問25 あなたが、仕事につきたいと思わない理由は何ですか。【3つまでに○】

- 1 家事や育児、介護に専念したいから
- 2 家事や育児、介護に専念せざるを得ないから
- 3 地域活動に力を入れたいから
- 4 趣味に力を入れたいから
- 5 経済的に働く必要がないから
- 6 就学中だから
- 7 自分が働くことを家族が望まないから
- 8 気力、体力に自信がないから
- 9 高齢だから
- 10 自分の知識や技能が十分でないから
- 11 フルタイムで働きたくないから
- 12 条件に合う仕事がないから
- 13 その他（具体的に： _____）

Ⅳ 京都市の取組について、おうかがいします

問26 京都市では、男女共同参画を推進していく中核施設として、男女共同参画センター「ウイングス京都」（中京区東洞院六角下る）を運営しています。

あなたは、これまで「ウイングス京都」を利用したことがありますか。【1つに○】

- 1 毎週1回以上利用している
- 2 月に1～3回程度利用している
- 3 年に数回利用している
- 4 今まで何回か利用したことがある
- 5 知っているが利用したことはない
- 6 知らなかった

問27 「ウイングス京都」では、次のような事業を行っています。このうち、あなたが今後充実してほしいと思うものはどれですか。【3つまでに○】

- 1 男女共同参画について学ぶ「市民向け講座」
- 2 女性学や法律・労働講座をはじめとする「学習・研修」
- 3 図書、ビデオ、インターネットなどによる「情報提供」
- 4 職業訓練や職業情報の提供などの「就業支援」
- 5 男女共同参画に関する「調査・研究」
- 6 男女共同参画社会について考える「啓発情報誌の発行」
- 7 DV（ドメスティック・バイオレンス）はじめ女性の様々な悩みについての「相談」
- 8 自主的な活動や研究を行っている「市民グループに対する支援」
- 9 男性の家事能力を高める講座など「男性に対する啓発・研修」
- 10 「こころとからだの健康づくり」を進める運動実技やセミナー
- 11 会議室、イベントホール、スポーツルームなどの「施設の貸出し」
- 12 他の女性センターなど「関係機関との連携・ネットワーク」
- 13 その他（具体的に： _____)
- 14 特にない
- 15 わからない

問28 あなたは、「男女共同参画社会」の実現に向けて、京都市は今後どのようなことに力をいれて取り組むべきだと思いますか。【3つまでに○】

- 1 生涯を通じた「女性の健康対策」を進める
- 2 学校や生涯学習施設で「男女共同参画の理解を深める教育・学習」を充実する
- 3 女性に対する差別や暴力など「女性の人権侵害への対策」を進める
- 4 企業や事業主に「雇用の機会や条件の男女格差を解消」するよう働きかける
- 5 「男性の育休取得」、「短時間正社員制度」、「ワーク・ライフ・バランス」などに積極的な企業を顕彰する
- 6 政策・方針の決定にかかわる場への「女性の積極的な登用」をうながす
- 7 「子育てや介護を社会的に支援」する施設・サービスを充実する
- 8 「女性の意識や能力を高める学習・研修」の機会を増やす
- 9 家庭や地域など日常生活に男性の参画が進むよう「男性に対して啓発」する
- 10 NPO（民間非営利団体）や市民グループなど「市民との連携」を強める
- 11 その他（具体的に： _____)
- 12 特にない
- 13 わからない

V 最後に、あなた自身やご家族のことについて、おうかがいします。

A あなたの性別はどちらですか。

- 1 男性 2 女性

B あなたの年齢（満年齢）はいくつですか。【1つに○】

- | | | |
|--------|--------|----------|
| 1 20歳代 | 3 40歳代 | 5 60歳代 |
| 2 30歳代 | 4 50歳代 | 6 70歳代以上 |

C あなたのお住まいの地域（行政区）はどちらですか。【1つに○】

- | | | |
|-------|-------|--------|
| 1 北区 | 5 東山区 | 9 右京区 |
| 2 上京区 | 6 山科区 | 10 西京区 |
| 3 左京区 | 7 下京区 | 11 伏見区 |
| 4 中京区 | 8 南区 | |

D あなたの世帯構成は、次のうちどれにあたりますか。【1つに○】

- 1 自分一人だけの世帯（単身世帯）
 2 夫婦（事実婚を含む）のみの世帯
 3 親と子の世帯
 4 親と子夫婦の世帯（2世代世帯）
 5 親と子夫婦と孫の世帯（3世代世帯）
 6 その他（具体的に：)

E あなたの昨年1年間の収入（税込み）は、おおよそいくらでしたか。【1つに○】

- | | |
|-----------------------------|-----------------|
| 1 働いていなかったため収入はない | 6 300～400万円未満 |
| 2 (家族名義になっているので) 自分名義の収入はない | 7 400～500万円未満 |
| 3 103万円未満 | 8 500～700万円未満 |
| 4 103～200万円未満 | 9 700～1,000万円未満 |
| 5 200～300万円未満 | 10 1,000万円以上 |

F あなたの配偶者（夫または妻，あるいはそれに相当する人を含む。）は，収入を得る仕事についていますか。【1つに○】

- 1 仕事についている（自営・自由業，正社員・正職員またはそれに近い就業）
- 2 仕事についている（家業手伝い・内職，パート・アルバイトまたはそれに近い就業）
- 3 収入を得る仕事についていない
- 4 配偶者はいない

G あなたが生計を共にしている世帯の昨年1年間の総収入（税込み）は，おおよそいくらでしたか。【1つに○】

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1 200万円未満 | 6 700～1,000万円未満 |
| 2 200～300万円未満 | 7 1,000～1,500万円未満 |
| 3 300～400万円未満 | 8 1,500万円以上 |
| 4 400～500万円未満 | 9 わからない |
| 5 500～700万円未満 | |

H あなたには，お子さん（同居していないお子さんを含む。）がいますか。

- | | |
|----------|-----------|
| 1 子どもがいる | 2 子どもはいない |
|----------|-----------|

《次のIは，お子さんがいる方（Hで1と回答した方）におたずねします。》

I あなたの一番下のお子さん（同居していないお子さんを含む。）は，現在，おいくつですか。【1つに○】

- | | |
|-------------|--------------|
| 1 3歳未満 | 4 13歳以上19歳未満 |
| 2 3歳以上6歳未満 | 5 19歳以上 |
| 3 6歳以上13歳未満 | |

最後に、京都市に対して、「男女平等」や「男女共同参画」に関するご意見・ご要望がございましたら、自由にお書きください。(社会全般のこと、結婚、子育て・少子化対策のこと、情報提供のことなど)

御協力いただきまして誠にありがとうございました。
念のため、記入もれがないかどうか、もう一度お確かめください。

～ 用語解説 ～

※3 「男女共同参画社会基本法」(1999年(平成11年)6月施行)

男女共同参画社会を実現していくために、「男女の人権の尊重」など5つの基本理念を掲げ、国・地方公共団体・国民のそれぞれの役割を定めています。

※4 「京都市男女共同参画推進条例」(2003年(平成15年)12月施行)

長い歴史と伝統に育まれた京都の特性を生かし、市民や事業者の方と力を合わせて男女共同参画を総合的かつ計画的に推進するため、京都市が国の「男女共同参画社会基本法」を踏まえ制定したものです。「個人の尊重」、「安心して継続できる職業生活」、「家庭生活における活動と他の活動の両立」、「性の理解・尊重」、「政策等の立案や決定への共同参画」、「国際的協調」の6つの基本理念を定めています。

※5 「男女雇用機会均等法」

【1986年(昭和61年)4月施行】

職場での男女平等を確保し、女性が差別を受けずに、家庭と仕事が両立できるように制定された法律です。採用・昇進等での男女の機会均等については、事業主の努力義務とされました。

【1999年(平成11年)4月施行】(改正)

募集・採用、配置・昇進・教育訓練、定年・退職・解雇について女性に対する差別を禁止するとともに、ポジティブ・アクション*に対する国の援助、セクシュアル・ハラスメントの防止に関する事業主の配慮義務が盛り込まれました。

* ポジティブ・アクション(積極的改善措置)

例えば、会社の中で男性しか配置されていない部門に、女性の進出をうながす計画をつくったり、女性の優先枠を設けるなど、男女の実質的な機会均等を進めていくために一時的に行う措置をいいます。

【2007年(平成19年)4月施行】(改正)

募集・採用、配置・昇進・教育訓練、定年・退職・解雇について男女双方に対する差別を禁止するとともに、間接差別の禁止、セクシュアル・ハラスメントの防止に関して男女労働者に対する事業主の措置義務が盛り込まれました。

※6 「労働基準法」

【1947年(昭和22年)4月施行】

労働条件の原則は「人たるに値する生活」を保障するものであり、労働条件の決定は労働者と使用者が対等の対場で決定すべきであるとしたうえで、週48時間労働、年次有給休暇、女子・年少者の深夜就業禁止、労災補償など労働条件の最低基準が定められました。

【1988年(昭和63年)4月施行】(改正)

1週間につき労働時間を40時間までとする週40時間制や、時期による仕事の量の変動や仕事の特殊性に柔軟に対応することができる変動労働時間制、個人の能力によった労働時間、仕事量にできる裁量労働制、仕事をする時間帯を柔軟にすることができるフレックスタイム制などが導入されました。

【1999年(平成11年)4月施行】(改正)

雇用の分野における男女の均等取扱いと女性の職域の拡大を図る観点から、男女雇用機会均等法の改正と併せて、女性労働者に対する時間外労働、休日労働、深夜業の規制が撤廃されました。

【2010年(平成22年)4月施行】(改正)

長時間労働を抑制し、労働者の健康確保や仕事と生活の調和を図るため、時間外労働の割増賃金率の引き上げや年次有給休暇の時間単位取得ができるようになりました。

※7 「育児・介護休業法」**【1995年（平成7年）4月施行】**

労働者が事業主に申し出ることにより、対象家族一人につき、常時介護を必要とする状態に至るごとに1回、通算して93日まで介護休業することができる介護休業制度が努力義務として盛り込まれました。

【1999年（平成11年）4月施行】（改正）

これまで努力義務であった介護休業制度が義務化されました。また、小学校入学までの子を養育し、または常時介護を必要とする状態にある対象家族の介護を行う労働者が請求した場合は、深夜において労働させてはならないという深夜業の制限が創設されました。

【2002年（平成14年）4月施行】（改正）

小学校入学までの子を養育し、または介護を行う労働者が請求した場合、1か月24時間、1年150時間を超える時間外労働が制限されることになりました。また、3歳に達するまでの子を養育する労働者または常時介護を必要とする状態にある対象家族の介護を行う労働者に対し、短時間勤務制度、フレックスタイム制、始業・終業時刻の繰上げ・繰下げなどの勤務時間短縮等措置が事業主に義務付けられたほか、育児または介護を行う労働者に対する転勤配慮などが盛り込まれました。

【2005年（平成17年）4月施行】（改正）

子どもが1歳になるまで認められていた育児休業期間は、(保育所が見つからないといった事情がある場合は)半年間の延長が可能になるとともに、契約社員など有期雇用者も1年以上の勤務実績等の条件を満たせば休業取得ができるようになりました。また、就学前の子どもを育てる親などには年間5日の看護休暇も新たに認められました。

【2010年（平成22年）6月施行】（改正）

3歳までの子を養育する労働者について、短時間勤務制度（1日6時間）を設けることが事業主の義務となったほか、就学前の子が2人以上であれば年間10日の休暇が取得できるなど、子の看護休暇制度が拡充されました。また、要介護状態の対象家族が1人であれば年5日、2人以上であれば年10日の休暇が取得できる介護のための短期休暇制度が創設されました。

※8 「真のワーク・ライフ・バランス」

京都市が提唱する独自のワーク・ライフ・バランスの考え方で、「仕事」「家庭」「地域・社会」との「つながり」を大切にし、そこで求められる役割や責任を果たすことで、心豊かな人生を送るという視点を取り入れた新しい取組です。

男女共同参画に関するアンケート 報告書

発行年月 平成27年2月

京都市文化市民局 共同参画社会推進部 男女共同参画推進課

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地

TEL (075) 222-3091 / FAX (075) 222-3223

京都市印刷物 第263166号